

平成26年度

専任教員の教育・研究業績

神戸薬科大学

目次(専任教員の教育・研究業績)

	頁		頁		頁
北河 修治	1	太田 光熙	92	八巻 耕也	171
岡野登志夫	5	韓 秀妃	100	西村 克己	174
岩川 精吾	15	渡 雅克	102	灘中 里美	176
吉野 伸	18	松家 次朗	105	安岡 由美	180
棚橋 孝雄	22	山野由美子	107	田中 将史	184
小林 典裕	25	竹内 敦子	110	辰見 明俊	187
和田 昭盛	29	赤井 朋子	113	猪野 彩	189
中山 尋量	34	寺岡 麗子	116	西山 由美	190
北川 裕之	38	津川 尚子	120	都出 千里	192
水野 成人	45	波多江 崇	126	沖津 貴志	195
杉山 正敏	49	中川 公恵	129	藤波 綾	199
宮田 興子	52	玉巻 欣子	134	萩森 政頼	203
江本 憲昭	57	棚橋 俊仁	137	土生 康司	207
内田 吉昭	62	上田 昌史	143	前田 秀子	209
畑 公也	63	水谷 暢明	147	森脇 健介	211
瀨口 常男	65	土反 伸和	151	林 亜紀	215
沼田千賀子	68	池田 宏二	154	細川 美香	217
田内 義彦	71	児玉 典子	157	大山 浩之	219
向 高弘	73	多河 典子	160	増田 有紀	221
加藤 郁夫	77	竹仲由希子	162	河内 正二	223
小西 守周	81	八木 敬子	164	堀部 紗世	225
小山 淳子	85	上田久美子	167	竹下 治範	227
田中 研治	88	三上 雅久	168	武田 紀彦	229
中江 裕子	90				

専任教員の教育・研究業績

所属 製剤学研究室	職名 学長・教授	氏名 北河 修治	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月～2013年12月	6年制3年次の「創薬物理薬剤学」、4年次の「機能的製剤学」を単独で(2011, 2012年度は濱口教授と分担) 担当するとともに、4年次の「実務実習事前教育」を分担した。薬剤学系の科目は学生の苦手な分野の一つであり、授業で補助プリントを使用し、また重要ポイントを黒板に明示し、内容の理解を図っている。また各授業の最後では、授業内容に関連した練習問題を行い、学生の理解を深める努力をしている。	
	2011年4月～2013年12月	6年制5,6年次選択科目の「化粧品学」を分担するとともに、取りまとめ役も担った。	
	2012年4月～2013年12月	6年制1年次の「薬学入門」を分担した。	
	2012年9月～2013年12月	6年2年次の「創薬物理薬剤学」を単独で担当した。科目が2年次に降りたことから、毎回、重要箇所の確認のため、小テスト(点数は最終評価に反映させない)を行った。	
	2006年4月～2011年3月	大学院「薬剤設計学」の講義を担当した。	
	2011年4月～2012年3月	大学院「製剤学特論」、「論文作成特論」の講義を分担した。	
	2012年4月～2013年3月	大学院「薬剤学特論」の講義を分担した。	
	2013年4月～2013年12月	大学院「臨床薬剤学特論」の講義を分担した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年1月～2013年12月	「NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学第2版」(廣川書店、2011年)を共編集、「パートナー薬剤学改訂第2版」(南江堂、2011年)、「製剤への物理化学第2版」(廣川書店、2011年)を分担執筆した。また「ベーシック薬学教科書シリーズ20、薬剤学第2版」(化学同人、2012年)を編集した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2011年2月	文部科学省大学における医療人養成推進等委託事業～薬学教育における現状と課題に関する調査研究～に実行委員として参加し、2月開催のフォーラムで発表した。	
	2012年4月～2013年3月	教務部長	
	2013年4月～2013年12月	学長	

II 研究活動		
氏名	種別	内容
北河 修治	著書	『NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学第2版（金尾義治、北河修治編集）第5章「界面化学」』（廣川書店, 2011）.161-184.
北河 修治	著書	『パートナー薬剤学改訂第2版（寺田勝英、伊藤智夫編集）第2章4.「レオロジー」、第3章3.「半固形製剤」』（南江堂, 2011）.46-50、81-92.
北河 修治	著書	『製剤への物理化学（斎藤博幸、田中秀治編集）、13.10.「ドラッグデリバリーシステム」』（廣川書店, 2011）.278-285.
北河 修治	著書	『ベーシック薬学教科書シリーズ20薬剤学第2版（北河修治編集）1章「物質の溶解」、2章「分散系」、3章3・1「流動と変形」』（化学同人, 2012）.1-55.
Kitagawa S., Tanaka Y., Tanaka M., Endo K., Yoshii A.	論文	J. Pharm. Pharmacol. 2009, 61(7), . "Enhanced skin delivery of quercetin by microemulsion"
Teraoka R., Matsushima Y., Sugimoto I., Inoue K., Morita S., Kitagawa S.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(12), 1343-1347. "Effect of pharmaceutical excipients on the stability of trichlormethiazide tablets under humid conditions"
Morita S., Ueda K., Kitagawa S.	論文	J. Lipid Res. 2009, 50(9), 1945-4952. "Enzymatic measurement of phosphatidic acid in cultured cells"
寺岡 麗子, 横山 郁子, 杉本 功, 牛尾 真奈美, 北河 修治	論文	医療薬学 2009, 35(6), 395-402. "フロセミド錠の光安定性に及ぼす着色PTP包装材料の影響"
Morita S., Takeuchi A., Kitagawa S.	論文	Biochem. J. 2010, 432(2), 387-398. "Functional analysis of two isoforms of phosphatidylethanolamine N-methyltransferase"

Kitagawa S., Inoue K., Teraoka R., Morita S.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2010, 58(3), 398-401. "Enhanced Skin Delivery of Genistein and Other Two Isoflavones by Microemulsion and Prevention against UV"
Kitagawa S., Yoshii K., Morita S.-y., Teraoka R.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59(6), 793-796. "Efficient topical delivery of chlorogenic acid by an oil-in-water microemulsion to protect skin against UV-Induced damage"
Morita S.-y., Ikeda N., Horikami M., Soda K., Ishihara K., Teraoka R., Terada T., Kitagawa, S.	論文	FEBS Journal. 2011, 278(24), 4768-4781. "Effects of phosphatidylethanolamine N-methyltransferase on phospholipid composition, microvillus formation and bile salt resistance in LLC-PK1 cells"
Morita S.-y., Sakurai A., Nakano M., Kitagawa S., Handa T.	論文	Lipids 2011, 46(4), 323-332. "Presence of apolipoprotein C-III attenuates apolipoprotein E-Mediated cellular uptake of cholesterol-containing lipid particles by HepG2 Cells"
沼田 千賀子, 寺岡 麗子, 八木 敬子, 江本 憲昭, 平井 みどり, 北河 修治	論文	日本緩和医療薬学雑誌, 2011, 4, 117-124. "フェンタニル経皮吸収型製剤による皮膚症状に対するテガダーム®の軽減効果に関する調査"
Morita S.-y., Shirakawa S., Kobayashi Y., Nakamura K., Teraoka R., Kitagawa S., Terada T.	論文	J. Lipid Res, 2012, 53(2), 325-330. "Enzymatic measurement of phosphatidylserine in cultured cells"
Morita S.-y., Soda K., Teraoka R., Kitagawa S., Terada T.	論文	Chem. Phys. Lipids, 2012, 165(5), 571-576. "Specific and sensitive enzymatic measurement of sphingomyelin in cultured cells"
Yutani R., Morita S.-y., Teraoka R., Kitagawa S.	論文	Chem. Pharm. Bull., 2012, 60(8), 989-994. "Distribution of Polyphenols and a Surfactant Component in Skin during Aerosol OT Microemulsion-Enhanced Intradermal Delivery"
矢倉裕輝, 柴田麻由, 赤崎晶子, 金子恵子, 吉野宗宏, 榎田宏幸, 山内一恭, 本田芳久, 小森勝也, 上平朝子, 白阪琢磨, 寺岡麗子, 栗原健, 北河修治	論文	医療薬学 38(8), 2012, 634-641. "抗HIV薬の懸濁時における安定性に関する検討"
駒橋 美妃, 大野 靖子, 湯谷 玲子, 森田 真也, 寺岡 麗子, 北河 修治	論文	医療薬学, 2013, 39(2), 98-103. "ドライシロップ剤を添加したシロップ剤の秤取精度の評価"

Morita S. Y., Tsuda T., Horikami M., Teraoka R., Kitagawa S., Terada T.	論文	J. Lipid Res. 2013, 54(5), 1221-1230. "Bile salt-stimulated phospholipid efflux mediated by ABCB4 localized in nonraft membranes"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1976年1月～現在に至る	日本薬学会会員	
1998年1月～現在に至る	日本薬物動態学会評議員	
2001年3月～現在に至る	日本薬剤学会評議員	
2001年6月～現在に至る	日本化粧品学会評議員	
2009年4月～現在に至る	製剤技術研究会委員(2011年9月製剤技術学会への改組に伴い評議員)	
2009年4月～2012年3月	日本薬学会Chem. Pharm. Bull. 編集委員	
2011年4月～現在に至る	日本医療薬学会会員	
2012年4月～2012年12月	日本薬学会奨励賞審査委員	
2012年4月～2012年12月	日本学術振興会科学研究費補助金審査員	
2013年2月～現在に至る	日本薬学会代議員	
2013年6月～2013年12月	全国薬科大学長・薬学部長会議理事	

専任教員の教育・研究業績

所属 衛生化学研究室	職名 教授	氏名 岡野 登志夫	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 学部 衛生薬学系講義・実習		1976年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に衛生薬学Ⅰ、衛生薬学Ⅱ、衛生薬学Ⅲ、衛生薬学Ⅳ、環境衛生学、臨床栄養学、薬学総合講座の講義と衛生薬学系Ⅰ実習および衛生薬学系Ⅱ実習の指導を行っている。上記のうち、薬学総合講座を除く講義の授業評価を実施し、概ね良好な評価を受けた。衛生化学研究室ゼミの指導を行っている。担当教科及び実習内容に理解の不十分な学生に対して、随時質問に答えるようにしている。留年生を対象に補講を行っている。
大学院 薬学研究科特論講義・実習		1976年4月～現在に至る	神戸薬科大学大学院薬学研究科修士課程学生に対する特論講義と研究指導を行っている。また、博士後期課程学生に対する特論講義と研究指導を行っている。
2 他の研究科の大学院生への教育		2000年 2000年 2001年, 2005年 2004年 2005年 2007年	東京工業大学大学院工学研究科の学生に対して講義を行った。 金沢大学大学院自然科学研究科の学生に対して講義を行った。 大阪大学大学院医学研究科の学生に対して講義を行った。 新潟大学大学院医歯学総合研究科の学生に対して講義を行った。 熊本大学大学院薬学研究科の学生に対して講義を行った。 大阪薬科大学大学院薬学研究科の学生に対して講義を行った。
3 作成した教科書、教材、参考書			
(1) 生物系薬学(Ⅱ.生命をミクロに理解する)(初版)		2005年	ビタミンについて記載し、衛生薬学講義用教材として用いている。(東京化学同人、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)
生物系薬学(Ⅱ.生命をミクロに理解する)(第2版)		2010年	
(2) 健康と環境(初版)		2006年	栄養と健康・栄養素について記載し、衛生薬学系講義用教材として用いている。(東京化学同人、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)
健康と環境(第2版)		2012年	
(3) 衛生薬学サプノート		2009年	衛生薬学について記載し、衛生薬学講義用教材として用いている。(廣川書店、編集:岡野登志夫、他、分担執筆:岡野登志夫、他)
(4) 公衆栄養学		2010年	日本人の食事摂取基準(2005年版)について記載し、衛生薬学系講義用教材として用いている。(南江堂、編集:田中平三、伊藤ちぐさ、佐々木敏、分担執筆:岡野登志夫、他)
(5) 衛生試験法・注解2010		2010年	ビタミンについて記載および編集し、衛生薬学系講義用教材として用いている。(金原出版、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)

(6) New衛生薬学(初版) New衛生薬学(第2版) New衛生薬学(第3版) (7) 生物系薬学 IV 演習編	2009年 2010年 2011年 2011年	衛生薬学について記載し、衛生薬学講義用教材として用いている。(廣川書店、編集:岡野登志夫、他、分担執筆:岡野登志夫、他) ビタミンについて記載し、生物系薬学講義用教材として用いている。(東京化学同人、編集:日本薬学会、分担執筆:岡野登志夫、他)
4 その他教育活動上特記すべき事項	2004年4月～2006年3月 2008年4月～2010年3月 2005年5月～2009年3月 2010年4月～2012年3月	就職部長 薬剤師国家試験対策委員長 入試部長
II 研究活動		
氏名	種別	内容
岡野 登志夫	翻訳	『骨の健康と栄養科学大事典』(西村書店, 2009), 219-241.
岡野 登志夫	著書	『日本人の食事摂取基準[2010年版]』(第一出版, 2009), 16-17.
岡野 登志夫	著書	『衛生試験法・注解 2010 日本薬学会編』(金原出版, 2010), 227-239.
岡野 登志夫	著書	『骨粗鬆症のトータルマネジメント』(中山書店, 2010), 105-112.
岡野 登志夫、津川 尚子	著書	『骨代謝マーカー』(医薬ジャーナル社, 2010), 215-219.
岡野 登志夫	著書	『ビタミンDと腎』(医薬ジャーナル社, 2010), 12-13.
岡野 登志夫	著書	『ビタミンDと腎』(医薬ジャーナル社, 2010), 14-25.

岡野

岡野 登志夫	著書	『ビタミンDと腎』（医薬ジャーナル社，2010），26-37.
岡野 登志夫	著書	『ビタミンDと腎』（医薬ジャーナル社，2010），65-70.
岡野 登志夫	著書	『ビタミン総合事典』（医薬ジャーナル社，2010），44-46.
岡野 登志夫	著書	『ビタミン総合事典』（医薬ジャーナル社，2010），65-71.
岡野 登志夫	著書	『ビタミン総合事典』（朝倉書店，2010），122-128.
岡野 登志夫	著書	『ビタミン・ミネラルの科学』（朝倉書店，2011），80-86.
岡野 登志夫	著書	『薬学用語辞典』（日本薬学会編 東京化学同人，2012）， 52, 69, 81, 87, 307, 310, 337, 339, 345, 346, 388, 392, 423, 427, 448
岡野 登志夫、津川 尚子	著書	『ビタミンの新栄養学』（講談社サイエンティフィック，2012），31, 50- 51, 67-69, 149-150, 162-163, 212-217
岡野 登志夫	著書	『副甲状腺・骨代謝疾患診療マニュアル』（診断と治療社，2013），13-15
岡野 登志夫	著書	『CKD-MBDハンドブック2ndEdition』（日本メディカルセンター，2013）， 46-52
Nakamura K., Saito T., Yoshihara A., Ishikawa M., Tsuchiya Y., Oshiki R., Kobayashi R., Maruyama K., Hyodo K., Nashimoto M., Tsugawa N., Okano T., Oyama M., Yamamoto M.	論文	Public Health Nutr 2009, 12(12), 2366-2370. "Low calcium intake is associated with increased bone resorption in postmenopausal Japanese women, Yokogoshi Study."

Kuwabara A., Tanaka K., Tsugawa N., Nakase H., Tsuji H., Shide K., Kamao M., Chiba T., Inagaki N., Okano T., Kido S.	論文	Osteoporos Int 2009, 20(6), 935-942. "High prevalence of vitamin K and D deficiency and decreased BMD in inflammatory bowel disease."
Himeno M., Tsugawa N., Kuwabara A., Fujii M., Kawai N., Kato Y., Kihara N., Toyoda T., Kishimoto M., Ogawa Y., Kido S., Noike T., Okano T., Tanaka K.	論文	J Bone Miner Metab 2009, 27(6), 733-737. "Effect of vitamin D supplementation in the institutionalized elderly."
Ohta H., Kuroda T., Onoe Y., Orito S., Ohara M., Kume M., Harada A., Tsugawa N., Okano T., Sasaki S.	論文	J Bone Miner Metab 2009, 27(6), 682-688. "The impact of lifestyle factors on serum 25-hydroxyvitamin D levels, a cross-sectional study in Japanese women aged 19-25 years."
Kuwabara A., Tsugawa N., Tanaka K., Fujii M., Kawai N., Mukae S., Kato Y., Kojima Y., Takahashi K., Omura K., Kagawa R., Inoue A., Noike T., Kido S., Okano T.	論文	J Nutr Sci Vitaminol 2009, 55(6), 453-458. "Improvement of vitamin D status in Japanese institutionalized elderly by supplementation with 800 IU of vitamin D3."
T Okano , K Nakagawa , M Kamao .	論文	Clin Calcium 2009, 19(12), 1779-1787. "In vivo metabolism of vitamin K, in relation to the conversion of vitamin K1 to MK-4."
A Adachi , T Komura , A Andoh , T Okano	論文	J Health Science 2009, 55(1), 143-146. "Effect of spherosomes on control of Aphis gossypii Glover in cucumbers using imidacloprid"
Y Suhara ,A Wada , T Okano.	論文	Bioorg Med Chem Lett 2009, 19(4), 1054-1057. "Elucidation of the mechanism producing menaquinone-4 in osteoblastic cells."
岡野登志夫	総説	Kidney Metab Bone Dis 2009, 22(4), 271-272. 「ニュートリゲノミクスが拓く栄養学のニューパラダイム」
岡野登志夫	総説	臨床栄養 2009, 114(5), 477-482. 「特集, 骨粗鬆症—栄養からどのように支えるか、各種ビタミンと骨粗鬆症」
岡野登志夫	総説	臨床栄養 2009, 115(5), 518-527. 「特集, 日本人の食事摂取基準2010年版[2]、脂溶性ビタミン」
岡野登志夫	総説	ビタミン 2009, 83(1), 1-8. 「ビタミンDの代謝および生理活性発現機構の解明と栄養疫学研究」

岡野登志夫	総説	臨床科学 2009, 38(2), 140-151. 「血清25ヒドロキシビタミンDの標準化に関する日本臨床化学会栄養専門委員会の見解」
岡野登志夫	総説	Medical Technology 2009, 37(3), 222-223. 「血中ビタミンD、K測定 の骨粗鬆症予防における活用」
岡野登志夫、津川尚子	総説	ビタミン 2009, 83(12), 651-658. 「特集、ビタミンと高齢者、ビタミン Dと骨粗鬆症」
岡野登志夫	資料	ファルマシア 2009, 11, 1152-1155. 「日本人の食事摂取基準(2010年版) の概要」
津川尚子、高瀬友貴、峯上卓也、土井綾子、小池さやか、鎌尾ま や、上西一弘、石田裕美、岡野登志夫	論文	Osteoporosis Japan 2010, 18, 27-32. 「思春期のビタミンK栄養評価一曲 率解析法を応用した新規評価法の開発」
Okitsu T., Nakazawa D., Nakagawa K., Okano T. Wada A.	論文	Chem Pharm Bull 2010, 58(3), 418-422. "Synthesis and biological evaluation of 9Z-retinoic acid analogs having 2-substituted benzo[b]furan"
Kuwabara A., Himeno M., Tsugawa N., Kamao M., Fujii M., Kawai N., Fukuda M., Ogawa Y., Kido S., Okano T., Tanaka K.	論文	Asia Pac J Clin Nutr 2010, 19, 49-56. "Hypovitaminosis D and K are highly prevalent and independent of overall malnutrition in the institutionalized elderly. "
Shiraki M, Yamazaki Y., Shiraki Y., Hosoi T., Tsugawa N., Okano T.	論文	J Bone Miner Metab 2010, 28, 578-584. "High level of serum undercarboxylated osteocalcin in patients with incident fractures during bisphosphonate treatment."
Wada A., Wang F., Suhara Y., Yamano Y., Okitsu T., Nakagawa K., Okano T.	論文	Bioorg Med Chem 2010, 18(16), 5795-5806. "Efficient synthesis and biological evaluation of demethyl geranylgeranoic acid derivatives"
Nakagawa K., Hirota Y., Sawada N., Yuge N., Watanabe M., Uchino Y., Okuda N., Shimomura Y., Suhara Y., Okano T.	論文	Nature 2010, 468, 117-121. "Identification of UBIAD1 as a novel human menaquinone-4 biosynthetic enzyme."
Kawamori Y., Katayama Y., Asada N., Minagawa K., Sato M., Okamura A., Shimoyama M., Nakagawa K., Okano T., Tanimoto M., Kato S., Matsui T.	論文	Blood 2010, 116, 5528-5535. "Role for vitamin D receptor in the neuronal control of the hematopoietic stem cell niche. "

岡野

Suhara Y., Wada A., Tachibana Y., Watanabe M., Nakamura K., Nakagawa K., Okano T.	論文	Bioorg Med Chem 2010, 18, 3116-3124. "Structure-activity relationships in the conversion of vitamin K analogues into menaquinone-4. Substrates essential to the synthesis of menaquinone-4 in cultured human cell lines. "
Komaba H., Goto S., Fujii H., Hamada Y., Kobayashi A., Shibuya K., Tominaga Y., Otsuki N., Nibu K., Nakagawa K., Tsugawa N., Okano T., Kitazawa R., Fukagawa M.	論文	Kidney Int 2010, 77, 232-238. "Depressed expression of Klotho and FGF receptor 1 in hyperplastic parathyroid glands from uremic patients. "
Kawaura A., Tanida N., Kamitani M., Akiyama J., Mizutani M., Tsugawa N., Okano T., Takeda E.	論文	Acta Med Okayama 2010, 64, 143-147. "The effect of leg hyperthermia using far infrared rays in bedridden subjects with type 2 diabetes mellitus. "
津川尚子、白木正孝、鎌尾まや、須原義智、岡野登志夫	論文	Osteoporosis Japan 2010, 18, 48-50. 「臨床骨折予測因子としての血清中低カルボキシ化オステオカルシンの有用性の評価」
岡野 登志夫	総説	総合臨床 2010, 59(4), 581-588. 「活性型ビタミンD3」
岡野 登志夫	総説	静脈経腸栄養 2010, 25(3), 789-795. 「脂溶性ビタミン」
岡野 登志夫	総説	ビタミン 2010, 84(5・6), 221-227. 「日本人の脂溶性ビタミンの食事摂取基準(2010)」
津川尚子、岡野登志夫	総説	CLINICAL CALCIUM 2010, 20(9), 1334-1335. 「ビタミンKと骨折」
Okazaki R, Sugimoto T, Kaji H, Fujii Y, Shiraki M, Inoue D, Endo I, Okano T, Hirota T, Kurahashi I, Matsumoto T.	論文	J Bone Miner Metab 2011, 29(1), 103-110. "Vitamin D insufficiency defined by serum 25-hydroxyvitamin D and parathyroid hormone before and after oral vitamin D3 load in Japanese subjects. "
Okitsu T, Sato K, Iwatsuka K, Sawada N, Nakagawa K, Okano T, Yamada S, Kakuta H, Wada A.	論文	Bioorg Med Chem 2011, 19(9), 2939-2949. "Replacement of the hydrophobic part of 9-cis-retinoic acid with cyclic terpenoid moiety results in RXR-selective agonistic activity."
Kawaura A, Tanida N, Akiyama J, Nonaka K, Mizutani M, Sawada K, Nakagawa K, Tsugawa N, Izumi K, Ii K, Okano T, Takeda E.	論文	Acta Med Okayama 2011, 65(3), 193-197. "Inhibitory effect of 1 α -hydroxyvitamin D3 on N-nitrosobis(2-oxopropyl)amine-induced cholangiocarcinogenesis in syrian hamsters."

岡野

Suhara Y, Watanabe M, Motoyoshi S, Nakagawa K, Wada A, Takeda K, Takahashi K, Tokiwa H, Okano T.	論文	J Med Chem 2011, 54(13), 4918-4922. "Synthesis of new vitamin K analogues as steroid and xenobiotic receptor (SXR) agonists, insights into the biological role of the side chain part of vitamin K."
Suhara Y, Watanabe M, Nakagawa K, Wada A, Ito Y, Takeda K, Takahashi K, Okano T.	論文	J Med Chem 2011, 54(12), 4269-4273. "Synthesis of novel vitamin K2 analogues with modification at the ω -terminal position and their biological evaluation as potent steroid and xenobiotic receptor (SXR) agonists."
Nakano T, Tsugawa N, Kuwabara A, Kamao M, Tanaka K, Okano T.	論文	Asia Pac J Clin Nutr 2011, 20(1), 56-61. "High prevalence of hypovitaminosis D and K in patients with hip fracture."
岡野 登志夫	総説	骨粗鬆症治療 2011, 10(1), 1-4. 「ビタミンKの骨作用」
岡野 登志夫	総説	Functional Food 2011, 第13号4 (3), 242-248. 「ビタミンKと骨粗鬆症」
岡野 登志夫	総説	化学と生物 2011, 49(6), 372-374. 「ビタミンKの代謝的活性化と骨作用の分子機構 骨形成を助けるビタミンK2変換酵素の発見」
中川 公恵、鎌尾 まや、津川 尚子、岡野 登志夫	総説	ビタミン 2011, 85(5・6), 271-279. 「化学的アプローチによるビタミンKの生理作用の解析と生理活性物質への応用」
岡野 登志夫	総説	臨床栄養 2011, 119(2), 161-164. 「妊娠中に重要な栄養素としてのビタミンDの意義」
岡野 登志夫	総説	THE BONE 2011, 25(3), 141-152. 「ビタミンD-基礎と臨床-VI」
岡野 登志夫	総説	臨床検査 2011, 55(10), 957-965. 「ビタミンD代謝の基礎と臨床」
岡野 登志夫	総説	小児科臨床 2011, 64(11), 2321-2333. 「増加するビタミンD不足例とその対応」－多様なビタミンDの生物学的作用を考慮したライフスタイル指導－」

Tsugawa N, Uenishi K, Ishida H, Minekami T, Doi A, Koike S, Takase T, Kamao M, Mimura Y, Okano T.	論文	Clin Nutr 2012, 31(2), 255-260. "A novel method based on curvature analysis for estimating the dietary vitamin K requirement in adolescents."
Suhara Y, Hanada N, Okitsu T, Sakai M, Watanabe M, Nakagawa K, Wada A, Takeda K, Takahashi K, Tokiwa H, Okano T.	論文	J Med Chem 2012, 55(4), 1553-1558. "Structure-activity relationship of novel menaquinone-4 analogues: modification of the side chain affects their biological activities."
須原義智、元吉沙也加、廣田佳久、澤田夏美、中川公恵、常盤広明、岡野登志夫	論文	薬学雑誌 2012, 132(8), 881-886. 「核内受容体SXR(Steroid and Xenobiotic Receptor)のアゴニスト活性を持つ新規ビタミンK誘導体の合成と構造活性相関の検討」
津川尚子、金森健吾、澤田夏美、井上玲香、金月真央、鎌尾まや、岡野登志夫	論文	Osteoporosis Japan 2012, 20(4), 19(639)-22(642). 「低カルボキシル化Matrix gla protein (ucMGP) の血中濃度定量法の開発—脂溶性ビタミンと動脈石灰化に関する基礎および栄養疫学研究への応用—」
岡野 登志夫	総説	腎と骨代謝 2012, 25(3), 179-190. 「栄養素としてのビタミンD」
須原義智、渡辺雅人、中川公恵、和田昭盛、武田収功、高橋和彦、岡野登志夫	総説	ビタミン 2012, 86(9), 493-498. 「側鎖末端部を修飾した新規ビタミンK誘導体の合成と核内受容体SXRを介した転写活性の検討」
岡野 登志夫	総説	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2012, 19(3), 33(225)-38(230). 「ビタミンと骨代謝」
岡野 登志夫	総説	イルシー 2012, 110, 109-117. 「高齢者のADLと栄養素の関わりに関するホットトピックス」
岡野登志夫、津川尚子	総説	骨粗鬆症治療 2012, 11(4), 15(251)-22(258). 「血中ビタミンD測定とその臨床応用」
Nickerson ML, Bosley AD, Weiss JS, Kostihina BN, Hirota Y, Brandt W, Esposito D, Kinoshita S, Wessjohann L, Morham SG, Andresson T, Kruth HS, Okano T, Dean M.	論文	Hum Mutat, 2013, 34(2), 317-329. "The UBIAD1 prenyltransferase links menaquinone-4 synthesis to cholesterol metabolic enzymes."
Tanaka K, Terao J, Shidoji Y, Tamai H, Imai E, Okano T.	論文	J Nutr Sci Vitaminol, 2013, 59, S57-S66. "Dietary Reference Intakes for Japanese 2010: fat-soluble vitamins."

Haraikawa M, Tsugawa N, Sogabe N, Tanabe R, Kawamura Y, Okano T, Hosoi T, Goseki-Sone M.	論文	Asia Pac J Clin Nutr, 2013, 22(4), 646-654. "Effects of gamma-glutamyl carboxylase gene polymorphism (R325Q) on the association between dietary vitamin K intake and gamma-carboxylation of osteocalcin in young adults."
Hirota Y, Tsugawa N, Nakagawa K, Suhara Y, Tanaka K, Uchino Y, Takeuchi A, Sawada N, Kamao M, Wada A, Okitsu T, Okano T.	論文	J Biol Chem, 2013, 288(46), 33071-33080. "Menadione (vitamin K3) is a catabolic product of oral phylloquinone (vitamin K1) in the intestine and a circulating precursor of tissue menaquinone-4 (vitamin K2) in rats. "
Edson KZ, Prasad B, Unadkat JD, Suhara Y, Okano T, Guengerich FP, Rettie AE.	論文	Biochemistry, 2013, 52(46), 8276-8285. "Cytochrome P450-Dependent Catabolism of vitamin K: ω -hydroxylation catalyzed by human CYP4F2 and CYP4F11. "
津川 尚子、岡野 登志夫	総説	Osteoporosis Japan, 2013, 21(2), 39-42. 「第14回日本骨粗鬆症学会シンポジウム8 骨折危険因子：ビタミンDをめぐる知見」「ビタミンD代謝からみたビタミンD不足」
岡野 登志夫	総説	CLINICAL CALCIUM, 2013, 23(3), 377-384. 「血清25OHDの臨床応用」

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

1976年～現在	日本薬学会会員
1976年～現在	日本栄養・食糧学会会員
1976年～現在	日本生化学会会員
2003年～現在	日本骨代謝学会評議員
2003年～現在	関西カルシウム懇話会世話人
2003年～現在	日本ビタミン標準化検討協議会理事
2003年～現在	国際骨代謝学会 (IBMS) 会員
2003年～現在	米国骨代謝学会 (ASBMR) 会員
2003年～現在	日本癌学会会員
2006年～現在	脂溶性ビタミン総合研究委員会副委員長

岡野

2006年～現在	ビタミンK&Aging研究会プログラム委員
2007年～現在	日本ビタミン学会理事
2007年～現在	日本骨粗鬆症学会評議員
2010年～現在	神戸薬科大学理事

専任教員の教育・研究業績

所属 薬剤学研究室	職名 副学長・教授	氏名 岩川 精吾	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
実務実習事前教育実習テキストの毎年の改訂	2009年～2013年	4年次学生の実務実習事前教育の実習テキストを毎年改訂	
大学院特論プリントの毎年の改訂	2006年～2013年	最新の学術知見を盛り込んで講義用プリントを毎年更新	
2 作成した教科書、教材、参考書			
『医療薬学第5版』 (廣川書店, 2009)	2009年3月	医療薬学の新規事項を追加改訂	
『臨床への薬物動態学』 (廣川書店, 2009)	2009年4月	薬物治療モニタリングの概要を執筆し、編集にも参画	
『わかりやすい調剤学第6版』 (廣川書店, 2010)	2010年3月	薬学教育コアカリキュラムでの調剤学での重要事項を踏まえた改訂と編集	
『生物薬剤学 - 薬の生体内運命』 (朝倉書店, 2011)	2011年2月	薬物相互作用について執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
日本薬学会第131年会シンポジウム「新しい大学教育と大学連携」で発表	2011年3月	「医薬共同による創薬・育薬を担う医療人の育成を通じた私立・国立大学間の連携」について発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
神戸薬科大学教務部長	2006年4月～2010年3月		
神戸薬科大学大学院薬学研究科主幹	2010年4月～2013年3月		
神戸薬科大学副学長	2013年4月～2013年12月		
兵庫県立大学看護学部で臨床薬理学を講義	2006年～2013年	看護学専攻学生に薬物治療について安全性面を含めて講義	
米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校での薬剤師レジデント教育の現地調査と担当教員との意見交換	2010年3月	米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校での薬剤師レジデント教育を見学し、神戸大学との連携による薬剤師レジデント教育プログラムの参考とした	
米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校での薬剤師レジデント教育の現地調査と担当教員との意見交換	2011年8月	米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校を訪問し、米国の薬剤師レジデント教育と、神戸大学との連携による薬剤師レジデント教育について意見交換を行った	

II 研究活動		
氏名	種別	内容
猪爪信夫、岩川精吾、上野和行、加藤美紀、黒沢菜穂子、斎藤嘉津彦、菅原和信、戸田貴大、豊口禎子、灘井雅行、新岡丈典、長谷川高明、平田純生、福島昭二、和田育男、渡邊真知子、渡辺善照	著書	『臨床への薬物動態学』（廣川書店、2009）
青木正忠、石橋弘行、井出速雄、岩川精吾、金尾義治、河島進、小平いく子、坂本正徳、佐藤光利、重信弘毅、菅原和信、杉本功、杉山正敏、田代真一、玉利一也、辻彰、長友孝文、長嶺幸子、堀坂和敬、他	著書	『2009年版薬剤師のため常用医薬品情報集』（廣川書店、2009）
石塚良子、乾賢一、岩川精吾、奥村勝彦、尾崎淳子、桂敏也、木下淳、駒田富佐夫、杉山正敏、高山明、谷川原祐介、寺田智祐、西口工司、橋口正行、望月眞弓、安原眞人、矢野育子、矢野義孝、若杉博子	著書	『医療薬学第5版』（廣川書店、2009）
岩川精吾、他	著書	『わかりやすい調剤学第6版』（廣川書店、2010）
岩川精吾、他	著書	『生物薬剤学一薬の生体内運命』（朝倉書店、2011）
Tode C., Takeuchi A., Iwakawa S., Tatsumi A., Sugiura M.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57, 653-656. "Hydrogen-Deuterium (H-D) Exchange Reaction of Warfarin in D2O Solution"
Tatsumi A., Ikegami Y., Morii R., Sugiyama M., Kadobayashi M., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2009, 32(3), 517-519. "Effect of ethanol on S-warfarin and diclofenac metabolism by recombinant human CYP2C9.1"
Igarashi T., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2009, 32(2), 304-307. "Effect of gender on theophylline clearance in the asthmatic acute phase in Japanese pediatric patients"
川寄英二、森本由美、鎌倉 彩、國廣俊臣、弘岡貴子、岩川精吾	論文	日本病院薬剤師会雑誌 2009, 45(12), 1595-1598. 「外来化学療法実施乳がん患者における悪心・嘔吐対策変更による有害事象発現への影響」

新籾正人、小野田裕子、占部彌昌、田中久美子、中島香奈子、岩川精吾	論文	医療薬学 2009, 35(9), 655-661. 「ランク付け評価法による服薬指導の効果検討(第5報) ランク付け評価法と分散構造分析を用いた解析」
上田宏、出水睦子、大澤万智子、千原里美、中西裕子、前田千秋、矢野啓子、木村文彦、岩川精吾	論文	癌と化学療法 2009, 36(6), 789-793. 「大腸がんのmFOLFOX療法時における好中球減少に対する5-FU急速静脈内投与中止の影響：減量法との比較」
Igarashi T., Iwakawa S.	論文	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. 2010, 36(7), 517-522. "Effect of asthmatic acute phase on theophylline clearance in Japanese pediatric patients during constant aminophylline infusion"
Ikehata M, Ueda K, Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 35 (3), 301-307 (2012) "Different involvement of DNA methylation and histone deacetylation in the expression of solute-carrier transporters in 4 colon cancer cell lines"
Masumoto N, Takao Y, Harada K, Iwakawa S	論文	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. 2012, 38(8), 491-498. "Effect of non-steroidal anti-inflammatory drugs on methotrexate dosage, Corticosteroid Dosage, Rheumatoid Arthritis Activity and laboratory data in patients with rheumatoid arthritis"
岩川精吾	総説	薬学雑誌、132(1) 3-5 (2012) 「医薬共同による創薬・育薬を担う医療人の育成を通じた私立・国立大学間の連携」
橋田 亨、厚田幸一郎、岩川精吾、木村健、末丸克矢、鷺山厚司	解説	日病薬誌、48(8) 934-937 (2012) 「卒後臨床研修としての病院薬剤師レジデント制度に関する調査・研究」
橋田 亨、厚田幸一郎、岩川精吾、木村健、鷺山厚司	解説	日病薬誌、49(8) 806-809 (2013) 「平成24年度学術委員会学術第6小委員会報告 卒後臨床研修としての病院薬剤師レジデント制度に関する調査・研究(最終報告)」
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2000年4月～2013年12月	日本薬学会近畿支部委員	
2005年4月～2013年4月	日本医療薬学会評議員	
2005年4月～2013年12月	日本医療薬学会委嘱指導薬剤師	
2007年4月～2013年12月	日本高等教育評価機構評価員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬理学研究室	職名 教授	氏名 吉野 伸	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
本学薬学部生に対する教育		2000年4月ー現在	薬理学III講義、医薬品毒性学、総合薬学講座、薬理学実習を担当している。 病態薬理学生化学特論、演習、研究指導を行っている。 薬理学講義を行っている。
本学大学院薬学研究科学生に対する教育		2000年4月ー現在	
甲南女子大学看護学部生に対する教育		2010年9月ー現在	
2 作成した教科書、教材、参考書			
医薬品トキシコロジー (第4版)		2010年11月	南江堂
最新薬理学 (第1版)		2012年1月	廣川書店
薬系免疫学 (第2版)		2012年9月	南江堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
(1) CBT対策委員会委員長		2008年4月ー2010年3月	CBT対策を行った。
(2) 動物実験施設運営委員会委員長		2008年4月ー現在	動物実験施設運営委員会において活動している。
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Mizutani N., Aoki Y., Nabe T., Ishiwara M., Yoshino S., Takagaki H., Kohno S.		論文	Eur J Pharmacol 2009, 602, 138-42. "Effect of TA-270, a novel quinolinone derivative, on antigen-induced nasal blockage in a guinea pig model of allergic rhinitis"

Mizutani N., Fuchikami J., Nabe T., Yoshino S., Kohno S.	論文	Biol Pharm Bull 2009, 32, 1559-1564. "Development of cigarette smoke solution and LPS-induced emphysema in guinea pigs"
Mizutani N., Nabe T., Yoshino S.	論文	J Immunol. 2009, 183, 4039-4046. "Complement C3a regulates late asthmatic response and airway hyperresponsiveness in mice"
Yamaki K., Yoshino S.	論文	J Pharm Pharmacol 2009, 61, 1243-1248. "Inhibition of IgE-induced mast cell activation by ethyl tertiary-butyl ether, a bioethanol-derived fuel oxygenate"
Hutamekalin P., Saito T., Yamaki K., Mizutani N., Brand D.D., Waritani T., Terato K., Yoshino S.	論文	J Immunol Methods 2009, 343, 49-55. "Collagen antibody-induced arthritis in mice: development of a new arthritogenic 5-clone cocktail of monoclonal anti-type II collagen antibodies"
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Biometals 2009, 22, 1031-1040. "Comparison of inhibitory activities of zinc oxide ultrafine and fine particulates on IgE-induced mast cell activation"
Matsumura M, Nagata M, Nakamura K, Kawai M, Baba T, Yamaki K, Yoshino S.	論文	Immunopharmacol Immunotoxicol. 2010, 32, 56-62. "Adjuvant effect of zinc oxide on Th2 but not Th1 immune responses in mice."
Yoshino S, Sasahara M, Hutamekalin P, Yamaki K, Mizutani N, Kuramoto H.	論文	Br J Pharmacol. 2010, 161, 1351-1360. "Suppression of antibody-mediated arthritis in mice by Fab fragments of the mediating antibodies."
Mizutani N, Inui S, Yoshino S, Nabe T.	論文	Biol Pharm Bull. 2010, 33, 949-952. "Intratracheal sensitization/challenge-induced biphasic asthmatic response and airway hyperresponsiveness in Guinea pigs."
Hutamekalin P, Takeda K, Tani M, Tsuga Y, Ogawa N, Mizutani N, Yoshino S.	論文	J Pharmacol Sci. 2010, 112, 56-63. "Effect of the C3a-receptor antagonist SB 290157 on anti-OVA polyclonal antibody-induced arthritis."
Koobkokkrud T, Kadotani T, Hutamekalin P, Mizutani N, Yoshino S.	論文	J Inflamm. 2011, 8, 31-37. "Arthrogenicity of type II collagen monoclonal antibodies associated with complement activation and antigen affinity."

Yamaki K, Yoshino S.	論文	Scand J Immunol. 2011, 74, 445-453. "Aspergillus oryzae lectin induces anaphylactoid edema and mast cell activation through its interaction with fucose of mast cell-bound non-specific IeE."
Nabe T, Morishita T, Matsuya K, Ikedo A, Fujii M, Mizutani N, Yoshino S.	論文	J Pharmacol Sci. 2011, 116,373-387. "Complete dependence on CD4+ cells in late asthmatic response, but limited contribution of the cells to airway redelling in sensitized mice."
Nabe T, Hosokawa F, Matsuya K, Morishita T, Ikedo A, Fujii M, Mizutani N, Yoshino S, Chaplin DD.	論文	Life Sci. 2011, 88, 1127-1135. "Important role of neutrophils in the late asthmatic response in mice."
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Allergy. 2012 67, 114-122. "Tyrosine kinase inhibitor sunitinib relieves systemic and oral antigen-induced anaphylaxes in mice."
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Allergy. 2012 67,1259-1270. "Preventive and therapeutic effects of rapamycin, a mammalian target of rapamycin inhibitor, on food allergy in mice."
Mizutani N., Nabe T., Shimazu M., Yoshino S., Kohno S.	論文	Phytother Res. 2012 26, 325-332. "Effect of Ganoderma lucidum on pollen-induced biphasic nasal blockage in a guinea pig model of allergic rhinitis."
Nabe T., Ikedo A., Hosokawa F., Kishima M., Fujii M., Mizutani N., Yoshino S., Ishihara K., Akiba S., Chaplin DD.	論文	Eur J Pharmacol. 2012 677, 154-162. "Regulatory role of antigen-induced interleukin-10, produced by CD4(+) T cells, in airway neutrophilia in a murine model for asthma."
Mizutani N., Nabe T., Yoshino S.	論文	Biol Pharm Bull. 2012 35, 2133-2140. "Exposure to multiwalled carbon nanotubes and allergen promotes early- and late-phase increases in airway resistance in mice."
Mizutani N., Goshima H., Nabe T., Yoshino S.	論文	J Immunol. 2012 188, 5694-5705. "Complement C3a-induced IL-17 plays a critical role in an IgE-mediated late-phase asthmatic response and airway hyperresponsiveness via neutrophilic inflammation in mice."
Nabe T., Matsuya K., Akamizu K., Fujita M., Nakagawa T., Shioe M., Kida H., Takiguchi A., Wakamori H., Fujii M., Ishihara K., Akiba S., Mizutani N., Yoshino S., Chaplin DD.	論文	Br J Pharmacol. 2013 169, 462-476. "Roles of basophils and mast cells infiltrating the lung by multiple antigen challenges in asthmatic responses of mice."

Mizutani N., Nabe T., Yoshino S.	論文	Immunology. 2013 139, 205-218. "Interleukin-33 and alveolar macrophages contribute to the mechanisms underlying the exacerbation of IgE-mediated airway inflammation and remodelling in mice."
Koobkokkruad T., Kadotani T., Mizutani N., Yoshino S.	論文	Biol Pharm Bull. 2013 36, 1299-1304. "Efficient induction of arthritis in mice by an arthritogenic 4-clone cocktail of anti-type II collagen monoclonal antibodies recognizing different epitopes of the antigen."
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2002年1月 ～ 現在	日本免疫毒性学会評議員	
2002年4月 ～ 現在	日本薬理学会評議員	
2002年4月 ～ 現在	日本トキシコロジー学会評議員	
2005年4月 ～ 現在	日本免疫毒性学会理事	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬化学研究室	職名	教授	氏名	棚橋 孝雄	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
有機化学の講義		1984年4月～現在に至る		理解を助けるために補助プリントを作成、また視覚教材を利用している。			
薬学入門の講義		2007年4月～2013年3月		視覚教材を利用している。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
卒後研修講座で講演		2007年4月～2013年3月		神戸薬科大学同窓会の各地区支部が主催する公開卒後研修講座で、6年制薬学教育に関する講演を行った。			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
教務部長		2002年4月～2006年3月		教務部長として、教育内容と教育システムの改善と新カリキュラムの編成を行った。			
薬学教育者・薬剤師へのFD活動		2002年4月～2013年3月		タスクフォースやチーフタスクフォースとして、薬剤師のためのワークショップin近畿に協力。			
副学長		2005年10月～2007年3月		副学長として学長を補佐し、大学の運営に協力。			
学長		2007年4月～2013年3月		学長として、教育全般を統括し、他大学や各種機関との教育連携を推進。			
II 研究活動							
氏名		種別		内容			
Nishimura K., Takenaka Y., Kishi M., Tanahashi T., Yoshida H., Okuda C., Mizushina Y.		論文		Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(5), 476-480. "Synthesis and DNA Polymerase α and β Inhibitory Activity of Alkyl p-coumarates and Related Compounds"			

Tanahashi T., Takenaka Y., Okazaki N., Koge M., Nagakura N., Nishi T.	論文	Phytochemistry 2009, 70(17-18), 2072-2077. "Secoiridoid glucosides and unusual recyclized secoiridoid aglycones <i>Ligstrum vulgare</i> ."
Mizushina Y. Nishimura K., Takenaka Y., Takeuchi T., Sugawara F., Yoshida H., Tanahashi T.	論文	Int. J. Oncol. 2010, 37, 993-1000. "Inhibitory effects of docosyl p-coumarate on DNA topoisomerase activity and human cancer cell growth"
Takenaka Y, Hamada N., Tanahashi T.	論文	Z. Naturforsch. 2010, 65c, 637-641. "Structure and biosynthesis of lecanopyrone, a naphtho[1,8-cd]pyran-3-one derivative from cultured lichen mycobionts of <i>Lecanora leprosa</i> "
Sugimoto Y., Furutani S., Nishimura K., Itoh A., Tanahashi T., Nakajima H., Ohshiro H., Sun S, Yamada J.	論文	Eur. J. Pharmacol. 2010, 634, 62-67. "Antidepressant-like effects of neferine in the forced swimming test involve the serotonin _{1A} (5-HT _{1A}) receptor in mice"
Takenaka Y, Nagakura N., Hamada N., Tanahashi T.	論文	Heterocycles 2010, 88(8), 1931-1935. "Naphtopyrone from cultured lichen mycobionts of <i>Pyrenula</i> sp. "
Huynh B. L. C., Duong T.H., Tanahashi T, Nguyen K. P. P.	論文	Tap Chi Hoa Hoc 2010, 48 (4B), 332-337. "Contribution to the Study on Chemical Constituents of the Lichen <i>Parmotrema praesorediosum</i> (Nyl) Hale, Parmeliaceae"
Takenaka Y., Morimoto N., Hamada N., Tanahashi T.	論文	Phytochemistry 2011, 72(11-12), 1431-1435. "Phenolic compounds from the cultured mycobionts of <i>Graphis proserpens</i> "
Takenaka Y., Hamada N., Tanahashi T.	論文	Heterocycles 2011, 83(9), 2157-2164. "Aromatic compounds from cultured lichen mycobionts of three <i>Graphis</i> species "
Itoh A., Saitoh T., Tani K., Uchigaki M., Sugimoto Y., Yamada J., Nakajima H., Ohshiro H., Sun S., Tanahashi T.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59(8), 947-951. "Bisbenzylisoquinoline alkaloids from <i>Nelumbo nucifera</i> "
Nishimura K., Horii S., Tanahashi T., Sugimoto Y., Yamada J.	論文	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 2013, 61(1), 59-68. "Synthesis and pharmacological activity of alkaloids from embryo of lotus, <i>Nelumbo nucifera</i> "

Le Hoang Duy, Takenaka Y., Hamada N., Miyayaki H., Tanahashi T.	論文	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 2013, 61(3), 358-362. "A 14-Membered Macrolide and Isocoumarin Derivatives from Cultured Lichen Mycobionts of <i>Graphis vestitoides</i> "
Takenaka Y., Naito Y., Le Hoang Duy, Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Heterocycles</i> , 2013, 87(9), 1897-1902. "Naphthoquinones and phenalenone derivatives from the cultured lichen mycobionts of <i>Trypethelium</i> sp. "
Le Hoang Duy, Takenaka Y., Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Phytochemistry</i> , 2013, 91, 242-248. "Ermophilane-type sesquiterpenes from cultured lichen mycobionts of <i>Sarcographa tricosia</i> "
Takenaka Y., Taguchi S., Le Hoang Duy, Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Heterocycles</i> , 2013, 87(12), 2651-2657. "3,4-Dihydro-2 <i>H</i> ,5 <i>H</i> -pyrano[3,2- <i>c</i>]chromene and benzophenone derivatives from cultured lichen mycobionts of Vietnamese <i>Graphis</i> sp. "
III 学会等および社会における主な活動		
2001年4月～現在に至る	日本薬学会近畿支部委員	
2002年2月～2005年12月	日本地衣学会評議員	
2002年2月～2013年12月	日本地衣学会誌編集委員	
2007年6月～2013年5月	兵庫県公衆衛生協会理事	
2007年10月～2013年3月	日本私立大学協会本部理事	
2008年6月～2010年5月、2010年11月～2013年3月	日本私立薬科大学協会理事	
2012年6月～2013年3月	全国薬科大学長・薬学部長会議常任理事	
2012年6月～現在に至る	一般社団法人薬学教育協議会理事	

専任教員の教育・研究業績

所属	生命分析化学研究室	職名	教授	氏名	小林 典裕	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				2002. 4. 1～2013. 12. 31		<p>調査対象の期間にわたって、『分析化学I』(1単位, 化学平衡), 『分析化学II』(1単位, 化学物質の検出と定量), 『臨床検査学II』(1単位 (50%を分担), 分析技術の臨床応用), 『分析化学系実習』(1単位, 化学物質の検出と定量)を担当してきた。授業は, 指定の教科書(次項参照)に加え, 必要に応じてプリントを配付して併用した。隔年で行われる授業アンケートを参考に授業の改善を図っている。前年度は, 学生の出席率と授業への集中力を高める目的で, 平常点(出席と授業終了前的小テスト)の加算を初めて行った。板書を多用する授業スタイルなので, 早くから蛍光色のチョークを採用し, できるだけ大きく鮮明に書くように心がけている。実習では, 意欲と態度を重視している。実験開始前の講義では, 標準的な実験法を教卓で自ら実演し, こまめに実験室を巡回して実技指導に努めている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書				2008. 1. 1～2013. 12. 31		<p>下記の教科書の執筆に関わった。 『NEW薬品分析化学』(廣川書店, 編著), 『NEW薬学機器分析』(廣川書店, 分担), 『コアカリ対応 分析化学』(丸善, 分担), 『ベーシック薬学教科書シリーズ2. 分析科学』(化学同人, 分担), 『パートナー分析化学II』(南江堂, 分担), 『スタンダード薬学シリーズ2. 物理系薬学 IV. 演習編』(東京化学同人, 分担), 『薬学分析科学の最前線』(じほう, 分担)。 詳細については, 研究活動の欄を参照のこと。このほか, 学生実習用テキスト(『分析化学系実習』), 授業用テキスト(『臨床検査学II』)を作成し, 活用した。</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項						特になし	

II 研究活動		
氏名	種別	内容
小林 典裕	著書	『薬学分析科学の最前線』（じほう，2009）.150-151.
小林 典裕	著書	『スタンダード薬学シリーズ2 物理系薬学 II. 化学物質の分析』（東京化学同人，2011）.188-199.
小林 典裕	著書	『スタンダード薬学シリーズ2・物理系薬学II，化学物質の分析（第3版）』（東京化学同人，2012）.
小林 典裕	著書	『NEW薬品分析化学（第2版）.』（廣川書店，2012）.150-151.
小林 典裕	著書	『薬学用語辞典』日本薬学会編（東京化学同人，2012）.188-199.
Koyama J., Takeuchi A., Tode C., Shimizu M., Morita I., Nobukawa M., Nobukawa M., Kobayashi N.	論文	J. Chromatogr. B 2009, 877, 207-212. "Development of an LC-ESI-MS/MS method for the determination of histamine: Application to the quantitative measurement of histamine degranulation by KU812 cells."
Kobayashi N., Oyama H., Nakano M., Kanda T., Banzono E., Kato Y., Karibe T., Nishio T., Goto J.	論文	Anal. Biochem. 2009, 387, 257-266. "'Cleavable' hapten-biotin conjugates: Preparation and use for the generation of anti-steroid single-domain antibody fragments."
Koyama J., Takeuchi A., Morita I., Nishino Y., Shimizu M., Inoue M., Kobayashi N.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2009, 17, 7493-7499. "Characterization of emodin metabolites in Raji cells by LC-APCI-MS/MS."

Niwa T., Kobayashi T., Sun P., Goto J., Oyama H., Kobayashi N.	論文	Anal. Chim. Acta 2009, 638, 94-100. "An enzyme-linked immunometric assay for cortisol based on idiotype-anti-idiotype reactions."
Ihara M., Suzuki T., Kobayashi N., Goto J., Ueda H.	論文	Anal. Chem. 2009, 81, 8298-8304. "Open-sandwich enzyme immunoassay for one-step noncompetitive detection of corticosteroid 11-deoxycortisol."
Kobayashi N., Oyama H., Kato Y., Goto J., Soderlind E., Borrebaeck C. A. K.	論文	Anal. Chem. 2010, 82, 1027-1038. "Two-step in vitro antibody affinity maturation enables estradiol-17 β assays with more than 10-fold higher sensitivity"
Hosogi J., Tanaka H., Fujita K., Kuwabara T., Ikegawa S., Kobayashi N., Mano N., Goto J.	論文	J. Chromatogr. B, 2010, 878, 222-227. "LC-MS/MS coupled with immunoaffinity extraction for determination of estrone, 17 β -estradiol and estrone 3-sulfate in human plasma."
Kobayashi N., Oyama H., Suzuki I., Kato Y., Umemura T., Goto J.	論文	Anal. Chem. 2010, 82, 4333-4336. "Oligosaccharide-assisted direct immunosensing of small molecules"
Kobayashi N., Odaka K., Uehara T., Imanaka-Yoshida K., Kato Y., Oyama H., Tadokoro H., Akizawa H., Tanada S., Hiroe M., Fukumura T., Komuro I., Arano Y., Yoshida T., and Irie T.	論文	Anal. Chem., 2011, 83(23), 9123-9130. "Toward in vivo imaging of heart disease using a radiolabeled single-chain Fv fragment targeting Tenascin-C."
Kobayashi N., Banzono E., Shimoda Y., Oyama H., Kunihiro T., Morita I., Ohta M.	論文	Anal. Methods, 2011, 3(9), 1995-2002. "2. A monoclonal antibody-based enzyme-linked immunosorbent assay for human urinary cotinine to monitor tobacco smoke exposure."
Oyama H., Yamaguchi S., Nakata S., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2013, 85(10), 4930-4937. "'Breeding' Diagnostic Antibodies for Higher Assay Performance: A 250-fold Affinity-matured Antibody Mutant Targeting a Small Biomarker"
Oyama H., Tanaka E., Kawanaka T., Morita I., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2013, 85(23), 11553-11559. "Anti-Idiotype scFv-Enzyme Fusion Proteins: A Clonable Analyte-Mimicking Probe for Standardized Immunoassays Targeting Small Biomarkers"

Kobayashi N., Oyama H.	総説	Analyst, 2011, 136(4), 642-651. "Antibody engineering toward high-sensitivity high-throughput immunosensing of small molecules."
小林典裕	総説	臨床化学, 2012, 41, 268-269. 理想のアッセイ原理を可能にする免疫センサー Quenchbody.
小林典裕	トピックス	臨床化学, 2009, 38, 457-458. 抗体工学が創造する "新世代" 診断試薬.
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2006年4月～2013年12月	日本分析化学会 近畿支部常任幹事	
2006年4月～2013年12月	日本臨床化学会 集会委員, 編集委員	
2008年12月～2013年12月	日本臨床化学会 近畿支部評議員	
2007年4月～2013年12月	生物化学測定研究会 副会長	

専任教員の教育・研究業績

所属 生命有機化学研究室	職名 教授	氏名 和田 昭盛	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2004年4月～2006年7月 2004年4月～2007年9月 2006年9月～現在に至る 2007年4月～2010年7月 2007年10月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年10月～現在に至る 2009年4月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2013年4月～現在に至る	神戸薬科大学の学部学生に有機化学IVの講義を行った。 神戸薬科大学の学部学生に有機化学系IIの実習指導を行った。 神戸薬科大学の学部学生に有機化学IIの講義を行っている。 神戸薬科大学の学部学生に化学系基礎演習Iの講義を行った。 神戸薬科大学の学部学生に生物有機化学の講義を行っている。 神戸薬科大学の学部学生に有機化学Vの講義を行っている。 神戸薬科大学の学部学生に有機化学系IIIの実習指導を行っている。 神戸薬科大学の学部学生に有機化学VIIの講義を行っている。 神戸薬科大学の学部学生に精密有機合成の講義を行っている。 神戸薬科大学の学部学生に医薬品開発IIの講義を行っている。 神戸薬科大学の学部学生に構造解析学の講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2006年4月 2012年2月	薬学部生を対象にMS, NMR, IRなどスペクトル解析から構造決定を行うための初歩的なプリントを作成し、毎年更新している。 構造解析法の教科書を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2006年10月27日	高校生を対象とした薬学の講義と実習を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2004年4月～2006年3月 2006年4月～2010年3月 2010年4月～現在に至る 2014年4月～現在に至る	大学学生寮舎監 薬用植物園園長 CBT対策委員会委員長 入試部長

II 研究活動		
著書		
氏名	種別	内容
和田 昭盛, 他	著書	『ビタミン総合事典（日本ビタミン学会編）』（朝倉書店, 2010）. 10-13.
和田 昭盛, 上西 潤一	著書	『パザパ薬学演習シリーズ4「有機化学演習」』（京都廣川書店, 2010）.
和田 昭盛	著書	『基礎から学ぶスペクトル解析』（廣川書店, 2012）.
和田 昭盛、他	翻訳	『最新栄養学』（建帛社, 2014）.
論文		
氏名	種別	内容
Suhara Y., Wada A., Okano T.	論文	Bioorg. Med. Chem. Lett. 2009, 19, 1054-1057. "Elucidation of the Mechanism Producing Menaquinone-4 in Osteoblastic Cells"
Wada A., Wang F., Suhara Y., Yamano Y., Okitsu T., Nakagawa K., Okano T.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2010, 18(16), 5795-5806. "Efficient synthesis and biological evaluation of demethyl geranylgeranoic acid derivatives"
Okitsu T., Sato K., Wada A.	論文	Org. Lett. 2010, 12(15), 3506-3509. "Reagent-controlled oxidative aromatization in iodocyclization: Switchable access to dihydropyrazoles and pyrazoles"
Okitsu T., Nakazawa D., Nakagawa K., Okano T. Wada A.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2010, 58(3), 418-422. "Synthesis and biological evaluation of 9Z-retinoic acid analogs having 2-substituted benzo[b]furan"

Suhara Y., Wada A., Tachibana Y., Watanabe M., Nakamura K., Nakagawa K., Okano T.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2010, 18, 3116-3124. "Structure-activity relationships in the conversion of vitamin K analogues into menaquinone-4. Substrates essential to the synthesis of menaquinone-4 in cultured human cell lines. "
Yamano Y., Chary M. V., Wada A.	論文	Chem. Pharm. Bull. 58(10), 1362-1365 (2010). " Carotenoids and Related Polyenes, Part 12; First Total Synthesis and Absolute Configuration of 3'-Deoxycapsanthin and 3,4-Didehydroxy-3'-deoxycapsanthin"
Okitsu T., Nakazawa D., Kobayashi A., Mizohata Y., In Y., Ishida T., Wada A.	論文	Synlett, 2010 (2), 203-206. "ipso-Iodocyclization of Ethoxyethyl Ethers to Alkynes at the ortho-position: An Efficient Synthesis of Functionalized Spiro Compounds"
Okitsu T., Sato K., Iwatsuka K., Sawada N., Nakagawa K., Okano T., Yamada S., Kakuta H., Wada A.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2011, 19 (9), 2939-2949. " Replacement of the hydrophobic part of 9-cis-retinoic acid with cyclic terpenoid moiety results in RXR-selective agonistic activity"
Suhara Y., Watanabe M., Nakagawa K., Wada A., Ito Y., Takeda K., Takahashi K., Okano T.	論文	J. Med. Chem. 2011, 54(12), 4269-4273. "Synthesis of Novel Vitamin K2 Analogues with Modification at the γ -Terminal Position and their Biological Evaluation as Potent Steroid and Xenobiotic Receptor (SXR) Agonists"
Okitsu T., Sato K., Potewar T. M., Wada A.	論文	J. Org. Chem. 2011, 76(8), 3438-3449. "Iodocyclization of Hydroxylamine Derivatives Based on the Control of Oxidative Aromatization Leading to 2,5-Dihydroisoxazoles and Isoxazoles"
須原 義智、和田 昭盛、中川 公恵、鎌尾 まや、津川 尚子、岡野 登志夫	論文	ビタミン、2011, 85(5,6), 271-279. "化学的アプローチによるビタミンKの生理作用の解析と生理活性物質への応用"
Suhara Y., Watanabe M., Motoyoshi S., Nakagawa K., Wada A., Takeda K., Takahashi K., Tokiwa H., Okano T.	論文	J. Med. Chem. 54(13), 4918-4922 (2011). "Synthesis of New Vitamin K Analogues as Steroid and Xenobiotic Receptor (SXR) Agonists: Insight into the Biological Role of the Side Chain Part of Vitamin K"
Kojima D., Mori S., Torii M., Wada A., Morishita R., Fukad Y.	論文	PLoS One, 6, e26388 (2011). (on-line journal). "UV-Sensitive Photoreceptor Protein OPN5 in Humans and Mice"
Okitsu, T.; Nagase, K.; Nishio, N.; Wada, A.	論文	Org. Lett. 2012, 14(3), 708-711. "Tandem migration-carboalkoxylation of o-isocyanophenyl acetals leading to benzoxazoles"

Suhara, Y.; Hanada, N.; Okitsu, T.; Sakai, M.; Watanabe, M.; Nakagawa, K.; Wada, A.; Takeda, K.; Takahashi, K.; Tokiwa, H.; Okano, T.	論文	J. Med. Chem. 2012, 55(4), 1553-1558. "Structure-activity relationship of novel menaquinone-4 analogues: Modification of the side chain affects their biological activities"
Yamano, Y.; Tsuboi, K.; Hozaki, Y.; Takahashi, K.; Jin, X.-H.; Ueda, N.; Wada, A.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2012, 20(11), 3658-3665. "Lipophilic amines as potent inhibitors of N-acyl ethanolamine-hydrolyzing acid amidase"
Yamano, Y.; Chary, M. V.; Wada, A.	論文	Org. Biomol. Chem. 2012, 10(20), 4103-4108. "Stereoselective total synthesis of the acetylenic carotenoids alloxanthin and triophaxanthin"
Miyagi, R.; Terai, Y.; Aibara, M.; Sugawara, T.; Imai, H.; Tachida, H.; Mzighani, S. I.; Okitsu, T.; Wada, A. Okada, N.	論文	Mol. Biol. Evol. 2012, 29(11), 3281-3296. "Correlation between nuptial colors and visual sensitivities tuned by opsins leads to species richness in sympatric Lake Victoria cichlid fishes"
Okitsu, T.; Yumitate, S.; Sato, K.; In, Y.; Wada, A.	論文	Chem. Eur. J. 2013, 19(16), 4992-4996. "Substituent Effect of Bis(pyridines)iodonium Complexes as Iodinating Reagents: Control of the Iodocyclization-Oxidation Process"
Furutani, Y.; Okitsu, T.; Reissig, L.; Mizuno, M.; Homma, M.; Wada, A.; Mizutani, Y.; Sudo, Y.	論文	J. Phys. Chem. B 2013, 117(13), 3449-3458. "Large Spectral Change due to Amide Modes of a β -Sheet upon the Formation of an Early Photointermediate of Middle Rhodopsin"
Wang, S.; Shi, L.; Okitsu, T.; Wada, A.; Brown, L. S.; Ladizhansky, V.	論文	Biomol. NMR Assign. 2013, 7(2), 253-265. "Solid-state NMR 13C and 15N resonance assignments of a seven-transmembrane helical protein Anabaena Sensory Rhodopsin"
Wang, S.; Munro, R. A.; Shi, L.; Kawamura, I.; Okitsu, T.; Wada, A.; Kim, S.-Y.; Jung, K.-H.; Brown, L. S.; Ladizhansky, V.	論文	Nature Methods 2013, 10(10), 1007-1012. "Solid-state NMR spectroscopy structure determination of a lipid-embedded heptahelical membrane protein"
Yamano, Y.; Chary, M. V.; Wada, A.	論文	Org. Lett. 2013, 10(20), 4103-4108. "Stereocontrolled first total syntheses of Amarouciaxanthin A and B"
Hirota, Y.; Tsugawa, N.; Nakagawa, K.; Suhara, Y.; Tanaka, K.; Uchino, Y.; Takeuchi, A.; Sawada, N.; Kamao, M.; Wada, A.; Okitsu, T.; Okano, T.	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288(46), 33071-33080. "Menadione (Vitamin K3) Is a Catabolic Product of Oral Phylloquinone (Vitamin K1) in the Intestine and a Circulating Precursor of Tissue Menaquinone-4 (Vitamin K2) in Rats"

Sato, S.; Fukagawa, T.; Tachibanaki, S.; Yamano, Y.; Akimori Wada, A.; Kawamura, S.	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288(51), 36589-36597. "Substrate Specificity and Subcellular Localization of the Aldehyde-Alcohol Redox-coupling Reaction in Carp Cones"
その他		
氏名	種別	内容
和田 昭盛	トピックス	ビタミン、2010, 84 (7), 328-330." 錐体細胞における11-シス-レチナールの再生機構"
和田 昭盛	トピックス	ビタミン、2013, 87(9), 530-532." オレフィンメタセシスを用いたカロテノイド合成"
III 学会等および社会における主な活動		
1997年4月～現在	日本ビタミン学会トピックス担当委員	
2000年4月～2013年5月	日本ビタミン学会ビタミン誌編集委員	
2000年4月～2009年6月	日本ビタミン学会評議委員	
2009年6月～2013年5月	日本ビタミン学会幹事	
1991年4月～現在	日本ビタミン学会会員	
1978年4月～現在	日本薬学会会員	
1982年4月～現在	有機合成化学協会会員	
1991年4月～現在	日本カロテノイド学会会員	
1999年4月～現在	日本レチノイド学会会員	
2009年11月～現在	日本レチノイド学会幹事	
2013年6月～現在	日本ビタミン学会理事、ビタミン誌編集委員長	

専任教員の教育・研究業績

所属 機能性分子化学研究室	職名 教授	氏名 中山 尋量	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1. 薬学部学生への教育		2007年1月～現在	神戸薬科大学の6年制への学生には、基礎化学、無機錯体化学、物理化学 I、物理化学 III、総合薬学講座の講義、薬学基礎演習の講義、基礎化学実習の指導を行っている。また、5年次生からは卒業研究の指導を行っている。
2 薬学研究科院生への教育		2007年1月～2012年3月	物理化学 I (旧カリ)
		2007年～現在	神戸薬科大学薬学研究科院生に薬学演習、課題研究の指導を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬学用語辞典		2012年3月	東京化学同人
物理系薬学 I. 物質の物理的性質 (第2版)		2011年3月29日	東京化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
学生部長		2008年4月～2010年3月	
学生就職部長		2010年4月～2012年3月	
教務部長		2013年4月～現在	
II 研究活動			
氏名		種別	内容
中山 尋量		著書	『粘土ハンドブック』 (技報堂出版, 2009) .656-657.

中山 尋量	著書	『医薬品への応用』（シーエムシー出版, 2010）.250-255.
Hayashi A., Yoshikawa Y., Ryu N., Nakayama H., Tsuchiko M. and Eguchi T.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2008, 22, 48-53. "Intercalation of Biogenic Amines into Layered Zirconium Phosphates"
Nakayama H., Kuwano K., and Tsuchiko M.	論文	J. Phys. Chem. Solids 2008, 69(5-6), 1552-1555. "Controlled Release of Drug from Cyclodextrin Intercalated Layered Double Hydroxide"
Maeda H., Chiba T., Tsuchiko M., and Nakayama H.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2008, 56(12), 1698-1703. "Phosphorylation of Nucleosides and Nucleotides with Inorganic Monoimido-cyclo-Triphosphate"
Takei T., Kumada N., Kinomura N., Nakayama H., and Tsuchiko M.	論文	Mater. Res. Bull. 2008, 43(1), 111-119. "Preparation of Silylated α -Zirconium Phosphate and its Thermal Behavior"
Nakayama H., Akasaka H., and Tsuchiko M.	論文	J. Pharm. Sci. 2009, 98(1), 46-49. "Complete Protection of Sodium Valproate from Humidity by Using a Hydrotalcite Composite"
Maeda H., Matsushita M., Tsuchiko M., Nariyai H., and Nakayama H.	論文	Phosphorus. Res. Bull. 2009, 23, 52-56. "Phosphorylation of Polyamidoamine Dendrimers with cyclo-Triphosphate in Aqueous Solution"
Hayashi A., Nakayama H., and Tsuchiko M.	論文	Solid State Sciences 2009, 11(5), 1007-1015. "Intercalation of Melamine into Layered Zirconium Phosphates and Their Adsorption Properties of Formaldehyde in Gas and Solution Phase"
Nakayama H.	論文	Phosphorus. Res. Bull. 2009, 23, 1-9. "Intercalation of Organic Molecules into Layered Phosphates - Correlation between Structure and Function -"

中山 尋量	論文	Phosphorus Lett. 2009, 63, 9-14. 「機能性材料－その構造と機能の相関を探る－」
Nakayama H., Hatakeyama A., Tsuchiko M.	論文	Int. J. Pharm. 2010, 393(1-2), 105-112. "Encapsulation of Nucleotides and DNA into Mg-Al Layered Double Hydroxide"
Hayashi A., Nakayama H.	論文	Chem. Lett. 2010, 30(10), 1060-1062. "The Simple Intercalation Reaction of Layered Double Hydroxide with Sodium Valproate under Solids"
Kusuhara T., Maeda H., Tsuchiko M., Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2010, 24, 22-25. "Phosphorylation of Cytarabine with cyclo-Triphosphate in Aqueous Solution"
Maeda H., Onodera T., Nakayama H.	論文	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. 2010, 68, 201-206. "Inclusion complex of alpha-lipoic acid and modified cyclodextrins"
Hayashi A., Nakayama H.	論文	Chem. Lett. 2011, 40(3), 276-278. "Intercalation Reaction of Carbonate MgAl-Layered Double Hydroxide Using Alcohol as Solvent"
Maeda H., Kusuhara T., Tsuchiko M., Nakayama H.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59(12), 1447-1451. "Phosphorylation of 5'-Deoxy-5-fluorouridine with Inorganic Phosphorylating Agents"
Maeda H., Ippyo K., Odo Y., Namba Y., Noto K., Tsuchiko M., Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2011, 25, 56-60. "Phosphorylation of L-Dopa with Sodium Diphosphonate in Aqueous Solution"
中山 尋量	論文	粘土科学, 2011, 50(3), 93-98. 「ハイドロタルサイトへのインターカレーションに伴う特異な挙動とその応用の可能性」

Maeda H., Terashita Y., Matsushima T., Nagai T., Tshako M., Nariai H., and Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2012, 27, 6-10. "Phosphorylation of Catechin with Sodium Diphosphonate in Aqueous Solution"
Ishida T., Miki I., Tanahashi T., Yagi S., Kondo K., Inoue J., Kawauchi S., Nishiumi S., Yoshida M., Maeda H., Takeuchi A., Nakayama H., Azuma T., and Mizuno S.	論文	European J. Pharmacology, 2013, 714(3), 125-131. "Effect of 18 β -glycyrrhetic Acid and Hydropropyl γ -Cyclodextrin on Indo-methacin-induced Small Intestinal Injury in Mice"
Hayashi A., Yoshida K., and Nakayama H.	論文	Bull. Chem. Soc. Jpn., 2013, 86(11), 1256-1260. "Complex Formation of Etodolac with Hydrotalcite in Methano"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2001年6月～現在	日本無機リン化学学会理事	
2005年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員	
2007年4月～2008年3月	日本化学会代議員	
2007年4月～2009年3月	近畿化学協会代議員	
2011年4月～現在	近畿化学協会代議員	
2012年9月～現在	薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員	
2008年7月～現在	薬学共用試験センターCBT実施委員会委員	

専任教員の教育・研究業績

所属 生化学研究室	職名 教授	氏名 北川 裕之	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 本学薬学部学生への教育	1997年4月-現在に至る	<p>学部学生に生化学と分子生物学の講義を行っている。</p> <p>1) 担当している分野の進歩は著しいので、下記の分担執筆した教科書を用いながら、講義に関連する内容における最近の発見や注目されている事項 (新しい遺伝子医薬品の開発例や病因の解明など) についてプリントを作成し、適宜配付している。</p> <p>2) できるかぎり医療に関連する事項を重点的に解説している。</p> <p>3) 薬剤師国家試験の難易度を学生に意識させるために、過去に出題された国家試験の問題を5問程度選び、講義終了10分前より配付し、数回確認テストとして実施している。また、更に知識を定着させるために、この問題の一部を定期試験に出題している。</p> <p>4) 学生による授業評価は、本学では2004年度より2年に一度行われているが、生化学、分子生物学ともに平均以上の評価を得ている。特に、最近8年間で行われた4回の授業評価では、いずれもベストティーチャー賞を受賞した (下記の4を参照)。</p> <p>学部学生に生物学系の実習指導を行っている。</p> <p>1) 組換え医薬品に関する理解を深めさせるために、最新の遺伝子工学に関する動向を反映するような実習内容に随時変更を行い、実習テキストも改訂している。</p> <p>2) 実習時間の最後に学生個々と教員が実習内容について質疑応答を行い、その日に行った実習を理解できるようにしている。</p> <p>3) 学生による実習評価も本学では2年に一度行われているが、平均以上の評価を得ておりおおむね好評である。</p>	
(2) 本学薬学研究科大学院生の教育研究指導	1994年4月-現在に至る	<p>学部学生に卒業研究の指導を行っている。</p> <p>1) 学生個々に実験に対する目的意識を持たせるよう、随時質疑応答を行っている。</p>	

		<p>2) 論理的な考え方や表現力が身に付くように、定期的に研究内容を学生にまとめさせ、発表する機会を与えている。</p> <p>3) できるかぎり英文で書かれた論文を読むように奨励し、少なくとも年に一度はその内容をまとめて発表する機会を与えている。</p> <p>大学院薬学研究科院生への生化学（生命科学）特論講義と演習及び研究指導を行っている。</p> <p>1) 講義は、最新のデータを分かりやすく解説するために、動画を用いたパワーポイントを使用している。</p> <p>2) 演習時には、研究分野の最近の動向を学生に把握させるため、学生が主体的に国際的な雑誌に発表された論文を論理的に説明でき、活発に討論に参加できるように演習日の少なくとも2日前までにはレジュメを全員に配付することを義務づけている。</p> <p>3) 学生に論理的な思考力と表現力が身に付くように、定期的に自分の研究内容を発表させ、研究室での討論を行い、そのことを通じて現在の自分の研究内容の進展状況や問題点も把握出来るように指導している。</p> <p>4) 学生には、少なくとも毎年一回は学会発表できるように指導している。</p>
(3) 医学部学生への教育	2008年4月-現在に至る	神戸大学医学部2年生に生化学（糖質の構造と機能）の講義を行っている。
(4) 医学研究科大学院生への教育	2007年4月-現在に至る	神戸大学大学院医学研究科院生に薬物治療学の講義を行っている。
(5) 他の研究科の大学院生への教育	2006年11月 2007年6月 2008年5月 2010年2月	北海道大学大学院先端生命科学院の院生に糖鎖生物学の講義を行った。 北陸大学大学院薬学研究科院生に糖鎖生物学の講義を行った。 京都大学大学院生命科学研究科院生に糖鎖生物学の講義を行った。 九州大学大学院システム生命科学府で糖鎖生物学の集中講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		
NEW生化学第2版（廣川書店、編集：堅田利明、菅原一幸、富田基郎）	2006（平成18）年3月31日	「IV.4 組換えDNA技術と薬学への応用」を記述した（pp. 481-517）。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		

4 その他教育活動上特記すべき事項		
ベストティーチャー賞	2006年度、2008年度、2010年度、2012年度	生化学III(2006年度)、分子生物学I(2008年度)、分子生物学I(2010年度)、分子生物学I(2012年度)
入試部長	2007年4月1日-2008年3月31日	高大連携プログラムの構築に携わった。
大学院主幹	2008年4月1日-2010年3月31日	大学院薬学研究科薬科学専攻設置申請に携わった。
教務部長	2010年4月1日-2012年3月31日	薬学6年制におけるカリキュラムの改正に携わった。
入試部長	2012年4月1日-2014年3月31日	高大連携プログラムの拡充、ネット出願の設置、入試制度の改革に携わった。
学生就職部長	2014年4月1日-現在に至る	就職支援プログラムの改革に携わっている。
II 研究活動		
氏名	種別	内容
北川 裕之	著書	生物薬科学実験講座 2009, 4巻-I, 61-73. 「高速液体クロマトグラフィー {(3)アミン結合型シリカゲルカラムによる分離}」
北川 裕之	著書	生物薬科学実験講座 2009, 4巻-I, 94-115. 「抗体カラム」
Izumikawa T., Kitagawa H.	著書	in Prog. Mol. Biol. Transl. Sci. (Lijuan Zhang, ed.) 2010, 93, 19-34. "Mice deficient in glucuronyltransferase-I"
泉川 友美, 北川 裕之	著書	『〈series モデル動物利用マニュアル〉生物機能モデルと新しいリソース・リサーチツール』(2011) 375-383, 「グリコサミノグリカングルクロン酸転移酵素-I」
北川 裕之	著書	生物薬科学実験講座 2011 (廣川書店) 4巻-II, pp.82-101 「 ¹ H-NMR {(2)オリゴ糖}」
Koike, T., Nadanaka, S., Kitagawa, H.	著書	GlycoPOD: GlycoScience Protocol Online Database http://jcgdb.jp/GlycoPOD/protocolShow.action?nodeId=t84 "Enzyme assay of xylosyltransferase."

Nadanaka, S., Kitagawa, H.	著書	GlycoPOD: GlycoScience Protocol Online Database http://jcgdb.jp/GlycoPOD/protocolShow.action?nodeId=t83 "Enzyme assay of GAG glycosyltransferases for heparan sulfate."
Nadanaka, S. Kitagawa, H.	著書	GlycoPOD: GlycoScience Protocol Online Database http://jcgdb.jp/GlycoPOD/protocolShow.action?nodeId=t82 "Enzyme assay of GAG glycosyltransferases for chondroitin sulfate."
Mikami T., Yasunaga D., Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2009, 284(7), 4494-4499. "Contactin-1 Is a Functional Receptor for Neuroregulatory Chondroitin Sulfate-E "
Mizumoto S., Mikami T., Yasunaga D., Kobayashi N., Yamauchi H., Miyake A., Itoh N., Kitagawa H., Sugahara K.	論文	Biochem. J. 2009, 419(2), 387-399. "Chondroitin 4-O-sulfotransferase-1 is required for somitic muscle development and motor axon guidance in zebrafish"
Koike T., Izumikawa T., Tamura J., Kitagawa H.	論文	Biochem. J. 2009, 421(2), 157-162. "FAM20B is a kinase that phosphorylates xylose in the glycosaminoglycan-protein linkage region"
Okada M., Nadanaka S., Shoji N., Tamura J., Kitagawa H.	論文	Biochem. J. 2010, 428 (3) , 463-471. "Biosynthesis of heparan sulfate in EXT1-deficient cells. "
Izumikawa T., Kanagawa N., Watamoto Y., Okada M., Saeki M., Sakano M., Sugahara K., Sugihara K., Asano M., Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2010, 285(16) , 12190-12196. "Impairment of embryonic cell division and glycosaminoglycan biosynthesis in glucuronyltransferase-I-deficient mice."
Watanabe Y., Saeki M., Izumikawa T., Kitagawa H., et al.	論文	Biochem. J. 2010, 432 (1) , 47-55. "Chondroitin sulfate N-acetylgalactosaminyltransferase-1 is required for normal cartilage development. "
Dejima K., Murata D., Mizuguchi S., Nomura K. H., Izumikawa T., Kitagawa H., Gengyo-Ando K., Yoshina S., Ichimiya T., Nishihara S., Mitani S., Nomura K.	論文	J. Biol. Chem. 2010, 285(32), 24717-24728. "Two Golgi-resident 3'-phosphoadenosine 5'-phosphosulfate transporters play distinct roles in heparan sulfate modifications and embryonic and larval development in Caenorhabditis elegans. "
Nadanaka, S., Kinouchi, H., Taniguchi-Morita, K., Tamura, J., Kitagawa, H.	論文	J. Biol. Chem. 2011, 286(6), 4199-4208. "Down-regulation of chondroitin 4-O-sulfotransferase-1 by Wnt signaling triggers diffusion of Wnt-3a."

Izumikawa, T., Okuura, Y., Koike, T., Sakoda, N., Kitagawa, H.	論文	Biochem. J. 2011, 434(2), 321-331. "Chondroitin 4-O-sulfotransferase-1 regulates the chain length of chondroitin sulfate in cooperation with chondroitin N-acetylgalactosaminyltransferase-2."
Saigoh, K., Izumikawa, T., Koike, T., Shimizu, J., Kitagawa, H., Kusunoki, S.	論文	J. Hum. Genet. 2011, 56(2), 143-146. "Chondroitin beta-1, 4-N-acetylgalactosaminyltransferase-1 missense mutations are associated with neuropathies."
Anggraeni, V. Y., Emoto, N., Yagi, K., Mayasari, D. S., Nakayama, K., Izumikawa, T., Kitagawa, H., Hirata, K.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2011, 406(1), 36-41. "Correlation of C4ST-1 and CnGn-2 expression with chondroitin sulfate chain elongation in atherosclerosis."
Nakagawa, N., Izumikawa, T., Kitagawa, H., Oka, S.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2011, 415(1), 109-113. "Sulfation of glucuronic acid in the linkage tetrasaccharide by HNK-1 sulfotransferase is an inhibitory signal for the expression of a chondroitin sulfate chain on thrombomodulin."
Izumikawa, T., Koike, T., and Kitagawa, H.	論文	Biochem. J. 2012, 441(2), 697-705. "Chondroitin 4-O-sulfotransferase-2 regulates the number of chondroitin sulfate chains initiated by chondroitin N-acetylgalactosaminyltransferase-1."
Tamura, J., Tsutsumishita, N., Nakao, Y., Kawano, M., Kato, S., Takeda, N., Nadanaka, S., and Kitagawa, H.	論文	Bioorg. Med. Chem. Lett. 2012, 22(3), 1371-1374. "Synthesis and interaction with midkine of biotinylated chondroitin sulfate tetrasaccharides."
Miyata, S., Komatsu, Y., Yoshimura, Y., Taya, C., and Kitagawa, H.	論文	Nature Neurosci. 2012, 15(3), 414-422. "Persistent cortical plasticity by upregulation of chondroitin 6-sulfation."
Koike, T., Izumikawa, T., Tamura, J., and Kitagawa, H.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2012, 420(3), 523-529. "Chondroitin sulfate-E fine-tunes osteoblast differentiation via ERK1/2, Smad3 and Smad1/5/8 signaling by binding to N-cadherin and cadherin-11."
Mikami, T., Koyama, S., Yabuta, Y., and Kitagawa, H.	論文	J. Biol. Chem. 2012, 287(46), 38531-38542. "Chondroitin sulfate is a crucial determinant for skeletal muscle development/regeneration and improvement of muscular dystrophies."
Jaureguiberry, G., Kitagawa, H., et al.	論文	Nephron Physiol. 2012, 122, 1-6. "Nephrocalcinosis (Enamel Renal Syndrome) caused by autosomal recessive FAM20A mutations."

Nadanaka, S., Zhou, S., Kagiya, S., Shoji, N., Sugahara, K., Sugihara, K., Asano, M., and Kitagawa, H.	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288(13), 9321-9333. "EXTL2, a member of EXT family of tumor suppressors, controls glycosaminoglycan biosynthesis in a xylose kinase-dependent manner."
Izumikawa, T., Saigoh, K., Shimizu, J., Tsuji, S., Kusunoki, S., and Kitagawa, H.	論文	Biochim. Biophys. Acta 2013, 1830(10), 4806-4812. "A chondroitin synthase-1 (ChSy-1) missense mutation in a patient with neuropathy impairs the elongation of chondroitin sulfate chains initiated by chondroitin N-acetylgalactosaminyltransferase-1."
Nadanaka, S., Kagiya, S., and Kitagawa, H.	論文	Biochem. J. 2013, 454(1), 133-145. "Roles of EXTL2, a member of EXT family of tumor suppressors, in liver injury and regeneration processes."
Purunomo, E., Emoto, N., Nugrahaningsih, D., Nakayama, K., Yagi, K., Heiden, S., Nadanaka, S., Kitagawa, H., and Hirata, K.	論文	J. Am. Heart Assoc. 2013, 2(5), e000405. "Glycosaminoglycan overproduction in the aorta increases aortic calcification in murine chronic kidney disease."
Miyoshi, T., Aoki, Y., Uno, Y., Araki, M., Kamatani, T., Fujii, D., Fujita, Y., Takeda, N., Ueda, M., Kitagawa, H., Emoto, N., Mukai, T., Tanaka, M., and Miyata, O.	論文	J. Org. Chem. 2013, 78(22), 11433-11443. "Michael Addition-Aromatization Reaction of Dienylimines Bearing a Leaving Group and its Application to the Preparation of Thiol Selective Labeling Reagents Capable of Forming Strong Carbon-Sulfur Bonds."
Takeuchi, K., Yoshioka, N., Higa Onaga, S., Watanabe, Y., Miyata, S., Wada, Y., Kudo, C., Okada, M., Ohko, K., Oda, K., Sato, T., Yokoyama, M., Matsushita, N., Nakamura, M., Okano, H., Sakimura, K., Kawano, H., Kitagawa, H., and Igarashi, M.	論文	Nature Commun. 2013, 4, 2740. "Chondroitin sulphate N-acetylgalactosaminyl-transferase-1 inhibits recovery from neural injury."
Miyata, S., Kitagawa, H.	総説	Trends Glycosci. Glycotechnol. 2011, 23(133), 239-247. "Chondroitin sulfate proteoglycans regulate experience-dependent neuronal plasticity."
灘中 里美, 北川 裕之	総説	生化学, 2011, 第83巻, 第11号, 1027-1031. 「硫酸化糖鎖による形態形成因子Wntのシグナル伝達と拡散の調節機構」
三上 雅久, 北川 裕之	総説	生化学, 2011, 第83巻 第3号 231-239. 「神経系におけるコンドロイチン硫酸鎖の糖鎖暗号」

宮田 真路, 北川 裕之	総説	脳21, 2011, Vol. 14, No. 1, 16-21. 特集 糖鎖と神経疾患 グリコサミノグリカン 「コンドロイチン硫酸と神経可塑性」
宮田 真路, 北川 裕之	総説	ライフサイエンス新着論文レビュー (2011. 02. 07) 「6-硫酸化コンドロイチンの過剰発現により大脳皮質の神経可塑性が維持される」
三上 雅久, 北川 裕之	総説	実験医学, 2013, Vol. 31, No. 10 (増刊) 羊土社 52-57 「コンドロイチン硫酸による骨格筋分化・再生過程の制御」
Mikami, T., and Kitagawa, H.	総説	Biochim. Biophys. Acta 2013, 1830(10), 4719-4733. "Biosynthesis and function of chondroitin sulfate."
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2006年4月～現在に至る	日本生化学会近畿支部 幹事	
2006年4月～現在に至る	プロテオグリカンフォーラム 世話人	
2007年4月～2013年12月	FCCA:Forum Carbohydrate Coming of Age 幹事	
2007年4月～2013年12月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology 編集委員	
2007年8月～現在に至る	日本糖質学会 評議員	
2008年1月～2011年12月	Journal of Biochemistry Advisory Board	
2008年7月～2013年3月	神戸大学グローバル COEプログラム「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」事業推進担当者	
2009年1月～現在に至る	Glycoconjugate Journal 編集委員	
2009年4月～現在に至る	神戸がん研究会 世話人	
2009年4月～現在に至る	日本結合組織学会 評議員	
2009年10月～2011年9月	日本生化学会 代議員	
2010年9月～2010年11月	日本薬学会学会賞第1次選考委員	
2012年4月～現在に至る	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発」研究代表者	
2012年6月～2013年11月	科学研究費委員会専門委員	
2012年11月～現在に至る	日本糖鎖コンソーシアム(JCGG) 幹事	
2013年9月～2013年11月	日本薬学会学会賞第1次選考委員	
2014年1月～現在に至る	日本生化学会 「生化学」誌企画委員	

専任教員の教育・研究業績

所属 医療薬学研究室	職名 教授	氏名 水野 成人	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
(1) 本学薬学部学生への教育	2009年4月1日	「薬物治療学Ⅱ」6年制課程4年次 薬学生に病態を理解してもらうため、最新の臨床画像・データを利用し、パワーポイントによる授業を行うように工夫した。	
	2009年4月1日	「実務実習事前教育」6年制課程4年次	
	2010年10月1日	「臨床検査医学」6年制課程5年次 実際に腹部の画像診断に利用される検査機器を教室に持ち込んで授業を行った。	
	2011年4月1日	「処方解析学」「処方解析演習」6年制課程6年次 症例や事例をもとにした実践的な医療薬学教育を企画し、授業を行った。	
	2011年10月1日	「総合薬学講座」6年制課程6年次	
(2) 薬学研究科大学院生への教育研究指導	2008年1月	「処方解析特論演習」大学院修士課程 (2010年まで)	
	2008年4月1日	「病態生理学特論演習」大学院修士課程 (2009年まで)	
	2009年4月1日	「抗加齢医学特論」大学院修士課程 (2010年まで)	
	2011年5月20日	「論文作成特論」大学院修士課程 (2011年まで)	
	2012年5月18日	「疾患解析治療学特論」大学院博士課程	
2 作成した教科書、教材、参考書			
	2009年4月1日	「薬物治療学Ⅱ」 最新の臨床資料を利用して教材を作成	
	2009年4月1日	「実務実習事前教育」 最新の臨床資料を利用して教材を作成	
	2010年10月1日	「臨床検査医学」 最新の臨床資料を利用して教材を作成	
	2011年4月1日	「処方解析学」 最新の臨床資料を利用して教材を作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

4 その他教育活動上特記すべき事項	2010年12月5日	薬学生を含む医療系学生を対象としたEBMの学習会であるStudent CASP Workshop in Kobeを、年2回のペースで開催（主催）している。
II 研究活動		
氏名	種別	内容
Ando T, Ishikawa T, Kato H, Yoshida N, Naito Y, Kokura S, Kitawaki J, Nakamura N, Hasegawa G, Fukui M, Matsumoto N, Ohta M, Mizuno S, Ogata M, Obayashi H, Park H, Kitagawa Y, Nakano K, Yoshikawa T.	論文	Int J Cancer 2009, 125(11), 2595-2602. "Synergistic effect of HLA class II loci and cytokine gene polymorphisms on the risk of gastric cancer in Japanese patients with Helicobacter pylori infection."
Mizuno S, Kobayashi M, Tomita S, Miki I, Masuda A, Onoyama M, Habu Y, Inokuchi H, Watanabe Y.	論文	Gastric Cancer 2009, 12(3):158-63. "Validation of the pepsinogen test method for gastric cancer screening using a follow-up study"
Masuda Y, Inoue M, Miyata A, Mizuno S, Nanba H.	論文	Int. Immunopharmacol. 2009, 9(5), 620-626. "Maitake β -glucan enhances therapeutic effect and reduces myelosuppression and nephrotoxicity of Cisplatin in mice."
Masuda A, Yoshida M, Shiomi H, Morita Y, Kutsumi H, Inokuchi H, Mizuno S, Nakamura A, Takai T, Blumberg RS, Azuma T.	論文	Inflamm Allergy Drug Targets 2009, 8(1): 80-6. "Role of Fc Receptors as a therapeutic target"
Ishida T, Yoshida M, Arita M, Nishitani Y, Nishiumi S, Masuda A, Mizuno S, Takagawa T, Morita Y, Kutsumi H, Inokuchi H, Serhan CN, Blumberg RS, Azuma T.	論文	Inflamm Bowel Dis 2010, 16(1), 87-95. "Resolvin E1, an endogenous lipid mediator derived from eicosapentaenoic acid, prevents dextran sulfate sodium-induced colitis."
Kodama N, Mizuno S, Nanba H, Saito N.	論文	J Med Food 2010, 13(1): 20-30. "Potential antitumor activity of a low-molecular-weight protein fraction from Grifola frondosa through enhancement of cytokine production"
Mizuno S, Miki I, Ishida T, Yoshida M, Onoyama M, Azuma T, Habu Y, Inokuchi H, Ozasa K, Miki K, Watanabe Y.	論文	Dig Dis Sci 2010, 55(11), 3132-3137. "Prescreening of a High-Risk Group for Gastric Cancer by Serologically Determined Helicobacter pylori Infection and Atrophic Gastritis."
Tanaka S, Nishiumi S, Nishida M, Mizushina Y, Kobayashi K, Masuda A, Fujita T, Morita Y, Mizuno S, Kutsumi H, Azuma T, Yoshida M.	論文	Clin Exp Immunol 2010, 160(2), 283-292. "Vitamin K(3) attenuates lipopolysaccharide-induced acute lung injury through inhibition of nuclear factor-kappaB activation."

Nishida M, Nishiumi S, Mizushina Y, Fujishima Y, Yamamoto K, Masuda A, Mizuno S, Fujita T, Morita Y, Kutsumi H, Yoshida H, Azuma T, Yoshida M.	論文	Int J Mol Med 2010, 25(5), 761-767. "Monoacetylcurcumin strongly regulates inflammatory responses through inhibition of NF-kappaB activation."
Nishiumi S, Shinohara M, Ikeda A, Yoshie T, Hatano N, Kakuyama S, Mizuno S, Sanuki T, Kutsumi H, Fukusaki E, Azuma T, Takenawa T, Yoshida M.	論文	Metabolomics 2010, 6(4), 518-528. "Serum metabolomics as a novel diagnostic approach for pancreatic cancer."
Kodama N, Mizuno S, Asakawa A, Inui A, Nanba H.	論文	Mycoscience 2010, 51: 134-8. "Effect of a hot water-soluble extraction from Grifola frondosa on the viability of a human monocyte cell line exposed to mitomycin C"
福田亘, 森敬弘, 光本保英, 廣瀬亮平, 内藤達志, 南竜城, 森本泰隆, 清水香代子, 伊藤正, 清水誠治, 本庶元, 水野成人.	論文	日本門脈圧亢進症学会雑誌 2010, 16(4), 193-198. 「ダナパロイドナトリウムにより門脈血栓の改善を認めた1例」
Chinzei R, Masuda A, Nishiumi S, Nishida M, Onoyama M, Sanuki T, Fujita T, Moritoh S, Itoh T, Kutsumi H, Mizuno S, Azuma T, Yoshida M.	論文	Pancreas 2011, 40(1), 84-94. "Vitamin K3 Attenuates Cerulein-Induced Acute Pancreatitis Through Inhibition of the Autophagic Pathway."
Yamamoto K, Tanaka H, Nishitani Y, Nishiumi S, Miki I, Takenaka M, Nobutani K, Mimura T, Ben Suleiman Y, Mizuno S, Kawai M, Uchiyama I, Yoshida M, Azuma T.	論文	Microbes Infect 2011, 13(7), 697-708. "Helicobacter suis KB1 derived from pig gastric lymphoid follicles induces the formation of gastric lymphoid follicles in mice through the activation of B cells and CD4 positive cells."
吉田弥生, 岡橋孝侍, 野田能成, 三上正, 柿原浩明, 石田司, 近藤靖之, 三木生也, 水野成人.	論文	医療薬学 2011, 37 (10) , 591-598. 「薬剤師の病棟薬剤関連業務に関する医療従事者への意識調査」
Mimura M, Masuda A, Nishiumi S, Kawakami K, Fujishima Y, Yoshie T, Mizuno S, Miki I, Ohno H, Hase K, Minamoto T, Azuma T, Yoshida M.	論文	Int J Cancer 2012, 130(5), 1011-1020. "AP1B plays an important role in intestinal tumorigenesis with the truncating mutation of an APC gene."
Masuda Y, Togo T, Mizuno S, Konishi M, Nanba H.	論文	J Leukoc Biol 2012, 91(4), 547-556. "Soluble β -glucan from Grifola frondosa induces proliferation and Dectin-1/Syk signaling in resident macrophages via the GM-CSF autocrine pathway."
Ando T, Mizuno S, Ishida T, Kondo Y, Miki I, Yoshida M, Azuma T, Ishikawa T, Takagi T, Yagi N, Kokura S, Naito Y, Yoshikawa T, Asakawa A, Inui A.	論文	Nutrition 2012, 28(10), 967-972. "Plasma ghrelin isoforms and gastric ghrelin O-acyltransferase expression are influenced by Helicobacter pylori status."

Miki I, Nakamura T, Kuwahara A, Yamamori M, Nishiguchi K, Tamura T, Okuno T, Omatsu H, Mizuno S, Hirai M, Azuma T, Sakaeda T.	論文	Int J Med Sci 2012, 9(9), 748-756. "THRB genetic polymorphisms can predict severe myelotoxicity after definitive chemoradiotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma."
小宮山恭弘, 森敬弘, 伊藤正, 清水誠治, 水野成人, 羽生大記.	論文	日本消化器がん検診学会雑誌 2012, 50 (6) , 707-715. 「腹部超音波における脂肪肝分類のための新たな指標（肝臓径計測と脂肪厚測定）」
Ando T, Ishikawa T, Takagi T, Imamoto E, Kishimoto E, Okajima A, Uchiyama K, Handa O, Yagi N, Kokura S, Naito Y, Mizuno S, Asakawa A, Inui A, Yoshikawa T.	論文	Helicobacter 2013, 18(2), 158-164. "Impact of Helicobacter pylori Eradication on Circulating Adiponectin in Humans."
Ishida T, Nishiumi S, Tanahashi T, Yamasaki A, Yamazaki A, Akashi T, Miki I, Kondo Y, Inoue J, Kawauchi S, Azuma T, Yoshida M, Mizuno S.	論文	Eur J Pharmacol 2013, 699(1-3), 6-13. "Linoleoyl ethanolamide reduces lipopolysaccharide-induced inflammation in macrophages and ameliorates 2,4-dinitrofluorobenzene-induced contact dermatitis in mice."
Ishida T, Miki I, Tanahashi T, Yagi S, Kondo Y, Inoue J, Kawauchi S, Nishiumi S, Yoshida M, Maeda H, Tode C, Takeuchi A, Nakayama H, Azuma T, Mizuno S.	論文	Eur J Pharmacol 2013, 714(1-3), 125-131. "Effect of 18 β -glycyrrhetic acid and hydroxypropyl γ cyclodextrin complex on indomethacin-induced small intestinal injury in mice."
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
～現在	日本消化器病学会 学術評議員	
～現在	日本消化器内視鏡学会 学術評議員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 杉山 正敏	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2007年9月～現在	1年次の早期体験学習、初期体験臨床実習などを中心に、実務家教員として薬剤師の養成教育に携わっている。病院での実務経験を活かし、医療の向上、とくに医療チームの一員として医薬品の適正使用の推進に貢献できる薬剤師の養成を目指している。	
	2007年度～2008年度	調剤実習ならびに大学院臨床薬学実習に携わった。	
	2008年度～現在	大学院薬物動態学特論では抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態について講義を行っている。	
	2009年4月～現在	実務実習事前学習では実務実習に対応するための知識・技能・態度の養成を中心に講義、演習、実習を行っている。	
	2011年4月～現在	処方解析学・演習では、医療の最前線における処方を中心に、病態と薬物治療に関する講義、演習を行っている。	
	2013年3月～現在	大学院医療薬科学研修特論ではがん化学療法への薬剤師のかかわりについて、実際の症例を示しながら講義を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年	『2008年版 薬剤師のための常用医薬品情報集』 (廣川書店, 2008) ..	
	2008年3月～現在	実務実習事前教育用テキストの作成	
	2009年3月10日	『医療薬学第5版』 (廣川書店, 2009) ..	
	2009年3月20日	『2009年版薬剤師のため常用医薬品情報集』 (廣川書店, 2009) ..	
	2009年8月30日	『グラフィックガイド 薬剤師の技能 理論まると実践へ』 (京都廣川書店, 2009) ..	
	2010年3月20日	『わかりやすい調剤学第6版第2章2.6注射剤調剤の基礎』 (廣川書店, 2010) ..	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			

II 研究活動		
氏名	種別	内容
高田充隆, 荒川行生, 飯原なおみ, 石渡俊二, 小川雅史, 恩田光子, 北小路学, 木村健, 小竹武, 杉山正敏, 竹下治範, 中妻章, 二宮昌樹, 八野芳巳, 廣谷芳彦	著書	『グラフィックガイド 薬剤師の技能 理論まるごと実践へ』(京都廣川書店, 2009) ..
石塚良子, 乾賢一, 岩川精吾, 奥村勝彦, 尾崎淳子, 桂敏也, 木下淳, 駒田富佐夫, 杉山正敏, 高山明, 谷川原祐介, 寺田智祐, 西口工司, 橋口正行, 望月眞弓, 安原真人, 矢野育子, 矢野義孝, 若杉博子	著書	『医療薬学第5版』(廣川書店, 2009) ..
青木正忠, 石橋弘行, 井出速雄, 岩川精吾, 金尾義治, 河島進, 小平いく子, 坂本正徳, 佐藤光利, 重信弘毅, 菅原和信, 杉本功, 杉山正敏, 田代真一, 玉利一也, 辻彰, 長友孝文, 長嶺幸子, 堀坂和敬, 他	著書	『2009年版薬剤師のため常用医薬品情報集』(廣川書店, 2009) ..
杉山正敏	著書	『わかりやすい調剤学第6版第2章2.6注射剤調剤の基礎』(廣川書店, 2010) ..
富田 尚子, 杉山 正敏, 杉本 功	論文	臨床リウマチ 2009, 21(1), 38-45. 「抗リウマチ剤・ブシラミン市販製剤の安定性」
Tatsumi A., Ikegami Y., Morii R., Sugiyama M., Kadobayashi M., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2009, 32(3), 517-519. "Effect of ethanol on S-warfarin and diclofenac metabolism by recombinant human CYP2C9.1"
波多江崇, 池浦奈穂, 河原宏之, 河内正二, 長谷川豊, 杉山正敏, 沼田千賀子, 國正淳一, 濱口常男	論文	医薬品相互作用研究 2013, 21(3), 194-198. 「腎機能に着目した入院時持参薬チェックの重要性」
III 学会等および社会における主な活動		
1974年4月～現在	日本病院薬剤師会会員	
1979年1月～現在	日本薬学会会員	
1990年7月～現在	日本病院薬学会(現日本医療薬学会)会員	

杉山

1992年4月～2007年8月	日赤薬剤師会専門委員会委員
1999年1月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師
1999年1月～現在	日本医療薬学会指導薬剤師
1999年4月～2007年8月	厚生労働省薬剤師実務研修指導薬剤師
2000年4月～2007年8月	大阪府病院薬剤師代議員
2003年2月～2007年8月	大阪府天王寺区薬剤師会かかりつけ薬局育成強化委員会委員
2008年1月～2009年12月	日本医療薬学会評議員
2008年4月～2010年3月	兵庫県病院薬剤師会理事
2012年4月～現在	兵庫県登録販売者試験委員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬品化学研究室	職名 教授	氏名 宮田 興子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2006年～	医薬品の化学的性質を理解するための講義である有機化学, 医薬品化学, 医薬品合成化学, 医薬品開発を担当. 更に, 医薬品合成, 医薬品化学の分野に相当する有機化学系 II実習を担当. いずれの場合もオフィスアワーを設けて質問に対応. 講義は, 板書することを心がけている. さらに, 有機化学が苦手な学生には, 土曜日を使用して, 積極的に補講を行っている. 卒業研究の学生には, 実験と共に学术论文の読み方, 問題解決能力の養成を心がけて指導. 更に論文作成の指導.	
2 作成した教科書、教材、参考書			
(1) パートナー医薬品化学 (改訂第2版)	2013年4月	官能基別にまとめた医薬品の化学的性質と生物活性との関連を記載した教科書	
(2) 化学構造と薬理作用	2010年10月	6年制薬学教育に必須である医薬品を化学で理解するために作成された教科書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項		現在, 博士課程に5人の学生が在籍している. 6年制の上の博士課程であるため, 従来の博士後期課程の院生とは異なり, ある程度の医療全般を熟知した学生へ創薬, 育薬の専門性を養う教育を行っている.	
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
宮田 興子	著書	パートナー医薬品化学 (2013, 南江堂) 71-7頁; 132-142頁	

宮田 興子	著書	化学構造と薬理作用 (2010, 廣川書店) 112-121頁; 133-142頁
宮田 興子	著書	化学系薬学 I 化学物質の性質と反応 第2版 (2010, 東京化学同人) 174-183頁
Ueda M., Miyabe H., Nonoguchi N., Miyata O., Tamura O., Naito T.	論文	Heterocycles 2009, 79(1), 739-751. "Intermolecular Carbon Radical Addition to Cyclic Nitrone"
Ueda M., Miyabe H., Miyata O., Naito T.	論文	Tetrahedron 2009, 65(7), 1321-1326. "Carbon Radical Addition to N-Sulfonylimines Mediated by Triethylborane or Zinc"
Rahaman H., Ueda M., Miyata O., Naito T.	論文	Org. Lett. 2009, 11(12), 2651-2654. "Two Novel Domino Reactions Triggered by Thiyl-Radical Addition to Vinylcyclopropyl Oxime Ether"
Ueda M., Miyabe H., Kimura T., Kondoh E., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2009, 11(20), 4632-4635. "Aerobic Hydroxylation of N-Borylenamine: Triethylborane-mediated Hydroxyalkylation of a,b-Unsaturated Oxime Ether."
Ueda M., Kawai S., Hayashi M., Naito T., Miyata O.	論文	J. Org. Chem. 2010, 75(3), 914-921. "Efficient Entry into 2-Substituted Tetrahydroquinoline Systems through Alkylative Ring Expansion: Stereoselective Formal Synthesis of (+/-)-Martinelllic Acid"
Ueda M., Sato A., Ikeda Y., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2010, 12(11), 2594-2597. "Direct synthesis of trisubstituted isoxazoles through gold-catalyzed domino reaction of alkynyl oxime ethers"
Ueda M., Miyabe H., Torii M., Kimura T., Miyata O., Naito T.	論文	Synlett 2010, (9), 1341-1344. "Indium(I)-Mediated Radical Carbon-Carbon Bond-Forming Reaction in Aqueous Media"
Ueda M., Iwasada E., Miyabe H., Miyata O., Naito T.	論文	Synthesis 2010, (12), 1999-2004. "Synthesis of Fluorinated Imines by Addition of Fluoroalkyl Radicals to Conjugated Imines"

Miyoshi T., Miyakawa T., Ueda M., Miyata O.	論文	Angew. Chem. Int. Ed., 50, 928-931 (2011). "Nucleophilic alpha-Arylation and alpha-Alkylation of Ketones by Polarity Inversion of N-Alkoxyenamines: A New Entry to the Umpolung Reaction at the beta-Carbon of Carbonyl Compounds"
Ueda M., Matsubara H., Yoshida K., Sato A., Naito T., Miyata O.	論文	Chem. Eur. J., 17, 1789-1792 (2011). "Regiodivergent Addition of Carbon Unit to Dual Activated Alkyne for Stereoselective Construction of Tetrasubstituted Alkenes."
Jithunsa M., Ueda M., Miyata O.	論文	Org. Lett., 13, 518-521 (2011). Copper(II)Chloride-Mediated Cyclization Reaction of N-Alkoxy-ortho-alkynyl- benzamides.
Ueda M., Kondoh E., Ito Y., Shono H., Kakiuchi M., Ichii Y., Kimura T., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Biomol. Chem., 9, 2062-2064 (2011). Benzyl Radical Addition Reaction through the Homolytic Cleavage of a Benzylic C-H Bond
Ueda M., Ikeda Y., Sato A., Ito Y., Kakiuchi M., Shono H., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Tetrahedron, 67, 4612-4615 (2011). Silver-Catalyzed Synthesis of Disubstituted Isoxazoles by Cyclization of Alkynyl Oxime Ethers.
Ueda M., Sugita S., Aoi N., Sato A., Ikeda Y., Ito Y., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Chem. Pharm. Bull., 59, 1206-1208 (2011). Palladium-catalyzed Cross Coupling Reaction of N-Alkoxyimidoyl Bromides and Its Application to One-pot Synthesis of N-Arylamines.
Tetsuya Miyoshi, Shohei Sato, Hiroya Tanaka, Chihiro Hasegawa, Masafumi Ueda, and Okiko Miyata	論文	Tetrahedron Lett. 2012, 53, 4188-4191. One-pot method for α -phenylation of ketones using isoxazolidine and triphenylaluminum.
Masahumi Ueda, Shoichi Sugita, Aoi Sato, Tetsuya Miyoshi, and Okiko Miyata	論文	J. Org. Chem. 2012, 77, 9344-9351. Copper-Catalyzed Synthesis of Trisubstituted Isoxazoles via a Cascade Cyclization.
上田昌史、内藤猛章、宮田興子	総説	有機合成化学協会誌 2012, 70, 331-342. 「共役オキシムエーテル類へのラジカル付加反応を基盤としたドミノ型反応の開発」
D. Kiyonaga, N. Tagawa, Y. Yamaguchi, M. Wakabatashi, T. Kogure, M. Ueda, O. Miyata, Y. Kobayashi.	論文	Biol. Pharm. Bull., 35, 1275-1280 (2012). Benzofuran Derivatives Inhibit 11 β -Hydroxysteroid Dehydrogenase Type 1 Activity in Rat Adipose Tissue.

Manita Jithunsa, Masafumi Ueda, Naoki Aoi, Shoichi Sugita, Tetsuya Miyoshi, and Okiko Miyata	論文	Synlett 2013, 475-478. "Palladium-Catalyzed Synthesis of Isoquinolinones via Sequential Cyclization and N-O Bond Cleavage of N-Methoxy-o-alkynylbenzamides"
Dyah Samti Mayasari, Noriaki Emoto, Keiko Yagi, NicolasVignon-Zellweger, Kazuhiko Nakayama, Tetsuya Miyoshi, Okiko Miyata, and Ken-ichi Hirata	論文	Kobe J. Med. Sci. 2013, 59, E54-E63. "Rhodamine-Labeled LDL as a Tool to Monitor the Lipoprotein Traffic in Experimental Model of Early Atherosclerosis in Mice"
Masafumi Ueda, Ayako Ono, Dai Nakao, Kenji Matsuno, Takeaki Naito, and Okiko Miyata	論文	Tetrahedron 2013, 69, 6866-6874. "Total Synthesis of Penmacric Acids via an Intermolecular Radical Addition Reaction"
Tetsuya Miyoshi, Syota Matsuya, Mikako Tsugawa, Shohei Sato, Masafumi Ueda, and Okiko Miyata	論文	Org. Lett. 2013, 15, 3374-3377. "Sequential Retro-Ene Arylation Reaction of N-Alkoxyenamides for the Synthesis of tert-Alkylamines"
Norihiko Takeda, Masafumi Ueda, Syunsuke Kagehira, Hiroyuki Komei, Norimitsu Tohnai, Mikiuji Miyata, Takeaki Naito, and Okiko Miyata	論文	Org. Lett. 2013, 15, 4382-4385. "Synthesis of Dihydrobenzofurans with Quaternary Carbon Center under Mild and Neutral Conditions"
Tetsuya Miyoshi, Yuka Aoki, Yumina Uno, Mina Araki, Takahiro Kamatani, Daichi Fujii, Yoshinori Fujita, Norihiko Takeda, Masafumi Ueda, Hiroshi Kitagawa, Noriaki Emoto, Takahiro Mukai, Masafumi Tanaka, and Okiko Miyata	論文	J. Org. Chem. 2013, 78, 11433-11443. "Michael Addition-Aromatization Reaction of Dienylimines Bearing a Leaving Group and Its Application to the Preparation of Thiol-Selective Labeling Reagents Capable of Forming Strong Carbon-Sulfur Bonds"
Okiko Miyata, Tetsuya Miyoshi, Masafumi Ueda	総説	ARKIVOC, 2013, 60-8. Umpolung reaction at the alpha-position of carbonyl compounds
III 学会等および社会における主な活動		
2006年～	神戸薬科大学評議員	
2010年4月～	日本薬学会化学系薬学部会役員	
2009年4月～	薬剤師国家試験出題基準改定部会委員	
2010年4月～	有機合成化学協会評議委員	

宮田

2011年4月～2012年3月	近畿化学協会事業企画委員
2012年1月～2013年12月	有機合成化学協会関西支部副支部長

専任教員の教育・研究業績

所属	臨床薬学研究室	職名	教授	氏名	江本 憲昭	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年4月1日 2009年4月1日 2009年4月1日 2011年4月1日 2013年4月1日		「生理学」6年制課程3年次 「薬物治療学Ⅲ」6年制課程4年次 「実務実習事前教育」6年制課程4年次 「処方解析」6年制課程6年次 「機能形態生理学」6年制課程2年次		
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年4月1日 2009年4月1日 2010年4月1日 2011年4月1日		最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製 最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製 最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製 最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作製		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
氏名		種別		内容		
Hartopo AB, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Suzuki Y, Yagi K, Nakayama K, Hirata KI.		論文		Endothelin-converting enzyme-1 gene ablation attenuates pulmonary fibrosis via CGRP-cAMP/EPAC1 pathway. Am. J. Respir. Cell Mol. Biol. (2013) 48, 465-476.		

Taniguchi Y, Emoto N, Miyagawa K, Nakayama K, Kinutani H, Tanaka H, Shinke T, Hirata, K.	論文	Non-invasive and Simple Assessment of Cardiac Output and Pulmonary Vascular Resistance with Whole-body Impedance Cardiography is Useful for Monitoring Patients with Pulmonary Hypertension. <i>Circ J.</i> (2013) 77, 2382-2389
Taniguchi Y, Emoto N, Miyagawa K, Nakayama K, Kinutani H, Tanaka H, Shinke T, Okada K, Okita Y, Hirata, K.	論文	Subsequent Shunt Closure after Targeted Medical Therapy can be an Effective Strategy for Secundum Atrial Septal Defect with Severe Pulmonary Arterial Hypertension. <i>Heart Vessels.</i> (2013) 29, 282-285
Mayasari DM, Emoto N, Yagi K, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Miyoshi T, Miyata O, Hirata KI.	論文	Rhodamine-Labeled LDL as a Tool to Monitor the Lipoprotein Traffic in Experimental Model of Early Atherosclerosis in Mice. <i>Kobe J. Med. Sci.</i> (2013) 59, E54-63
Li X, Yamagata K, Nishita M, Endo M, Arfian N, Rikitake Y, Emoto N, Hirata K, Tanaka Y, Minami Y.	論文	Activation of Wnt5a-Ror2 signaling associated with epithelial-to-mesenchymal transition of tubular epithelial cells during renal fibrosis. <i>Genes Cells</i> (2013) 18, 698-619.
Ali H, Emoto N, Yagi K, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Hatakeyama K, Asada Y, Rikitake Y, Hirata KI.	論文	Localization and characterization of a novel secreted protein, SCUBE2, in the development and progression of atherosclerosis. <i>Kobe J. Med. Sci.</i> (2013) 59, E122-131
Nugrahaningsih DAA, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Purnomo E, Yagi K, Nakayama K, Doi M, Okamura H, Hirata KI.	論文	Chronic hyperaldosteronism in Cryptochrome null mice induces high-salt- and blood pressure-independent kidney damage in mice. <i>Hypertens Res.</i> (2013) 37, 202-209
Purnomo E, Emoto N, Nugrahaningsih DAA, Nakayama K, Yagi K, Heiden S, Nadanaka S, Kitagawa H, Hirata KI.	論文	Glycosaminoglycan Overproduction in the Aorta Increases Aortic Calcification in Murine Chronic Kidney Disease. <i>JAHA</i> (2013) 2, e000405
Miyoshi M, Aoki Y, Uno Y, Araki M, Kamatani T, Fujii D, Fujita Y, Takeda N, Ueda M, Kitagawa H, Emoto N, Mukai T, Tanaka M, Miyata O.	論文	Michael addition-aromatization reaction of dienylimines bearing a leaving group and its application to the preparation of thiol-selective labeling reagents capable of forming strong carbon-sulfur bonds. <i>J Org Chem.</i> (2013) 78, 11433-11443.
Motoji Y, Tanaka H, Fukuda Y, Ryo K, Emoto N, Kawai H, Hirata KI.	論文	Efficacy of Right Ventricular Free Wall Longitudinal Speckle-Tracking Strain for Predicting Long-Term Outcome for Patients with Pulmonary Hypertension. <i>Circ J.</i> (2012) 77, 756-763

Nishio R, Tanaka H, Tsuboi Y, Kinutani H, Taniguchi Y, Shigeru M, Toh R, Miura Y, Sakai Y, Emoto N, Kawai H, Hirata K.	論文	Differences in hemodynamic parameters and exercise capacity between patients with pulmonary arterial hypertension and chronic heart failure. J Cardiopulm Rehabil Prev. (2012) 32, 379-385
Arfian N, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Yagi K, Hirata KI.	論文	ET-1 deletion from endothelial cells protects the kidney during the extension phase of ischemia/reperfusion injury. Biochem Biophys Res Commun. (2012) 425, 443-449
Toh R, Ishida T, Nishimura K, Nonaka H, Inoue Y, Kitagawa Y, Suematsu M, Miki T, Emoto N, Hirata KI.	論文	Comparison of medium-dose losartan/hydrochlorothiazide and maximal-dose angiotensin II receptor blockers in the treatment of Japanese patients with uncontrolled hypertension: the Kobe-CONNECT Study. Hypertens Res. (2012) 35, 1080-1086
Satomi-Kobayashi S, Kinugasa M, Kobayashi R, Hatakeyama K, Kurogane Y, Ishida T, Emoto N, Asada Y, Takai Y, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	Osteoblast-like differentiation of cultured human coronary artery smooth muscle Cells by bone morphogenetic protein endothelial cell precursor-derived regulator (BMPER). J Biol Chem. (2012) 287, 30336-30345
Vignon-Zellweger N, Heiden S, Miyauchi T, Emoto N.	論文	Molecular Biology of Endothelin-1 in the Renal and Cardiovascular Systems. (2012) Life Sci. 91, 490-500
Adiarto S, Heiden S, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Yagi K, Yanagisawa M, Emoto N.	論文	ET-1 from endothelial cells is required for complete angiotensin II-induced cardiac fibrosis and hypertrophy. (2012) Life Sci. 91, 651-657
Nakayama K, Emoto E, Suzuki Y, Vignon-Zellweger N, Yagi K, Hirata KI.	論文	Physiological relevance of hydrolysis of atrial natriuretic peptide by endothelin-converting enzyme-1. (2012) Kobe J. Med. Sci.
Tawaramoto K, Kotani K, Hashiramoto M, Kanda Y, Nagare T, Sakaue H, Ogawa W, Emoto N, Yanagisawa M, Noda T, Kasuga M, Kaku K.	論文	Ablation of 3-Phosphoinositide-Dependent Protein Kinase 1 (PDK1) in Vascular Endothelial Cells Enhances Insulin Sensitivity by Reducing Visceral Fat and Suppressing Angiogenesis. Mol Endocrinol. (2011) 26, 95-109.
Fukuda Y, Tanaka H, Sugiyama D, Norisada K, Tatsumi K, Onishi T, Fukuya H, Nogami M, Ohno Y, Emoto N, Kawai H, Hirata KI.	論文	Utility of Right Ventricular Free Wall Speckle Tracking Strain for Evaluation of Right Ventricular Performance in Patients with Pulmonary Hypertension. J Am Soc Echocardiogr. (2011) 24, 1101-1108.

Vignon-Zellweger N, Heiden S, Emoto N.	論文	Renal Function and Blood Pressure: Molecular Insights into the Biology of Endothelin-1. Contributions to Nephrology (2011) 172, 18-34.
Anggraeni VY, Emoto N, Yagi K, Mayasari DS, Nakayama K, Izumikawa T, Kitagawa H, Hirata KI.	論文	Correlation of C4ST-1 and ChGn-2 expression with chondroitin sulfate chain elongation in atherosclerosis. Biochem Biophys Res Commun. (2011) 406, 36-41.
Widyantoro B, Emoto N, Nakayama K, Anggrahini DW, Adiarso S, Iwasa N, Yagi K, Miyagawa K, Rikitake Y, Suzuki T, Kisanuki YY, Yanagisawa M, Hirata KI.	論文	Endothelial Cell-Derived Endothelin-1 Promotes Cardiac Fibrosis in Diabetic Hearts through Stimulation of Endothelial-to-Mesenchymal Transition. (2010) Circulation 121, 2407-2418.
Kisanuki YY, Emoto N, Ohuchi T, Widyantoro B, Yagi K, Nakayama K, Kedzierski RM, Hammer RE, Yanagisawa H, Williams SC, Richardson JA, Suzuki T, Yanagisawa M.	論文	Low blood pressure in endothelial cell-specific endothelin-1 knockout mice. (2010) Hypertension 56, 121-128.
Miyagawa K, Emoto N, Widyantoro B, Nakayama K, Yagi K, Rikitake Y, Suzuki T, Hirata KI.	論文	Attenuation of Doxorubicin-Induced Cardiomyopathy by ECE-1 ablation through Prevention of Mitochondrial Biogenesis Impairment. (2010) Hypertension 55, 738-746.
Yagita K, Yamanaka I, Emoto N, Kawakami K, Shimada S.	論文	Real-time monitoring of circadian clock oscillations in primary cultures of mammalian cells using Tol2 transposon-mediated gene transfer strategy. (2010) BMC Biotechnology 10, 3
Doi M, Takahashi Y, Komatsu R, Yamazaki F, Yamada H, Haraguchi S, Emoto N, Okuno Y, Tsujimoto G, van der Horst GTJ, Okamura H.	論文	Salt-sensitive hypertension in circadian clock-deficient Cry-null mice involves dysregulated adrenal Hsd3b6. (2010) Nature Med. 16, 67-74.
Iwasa N, Emoto N, Widyantoro B, Miyagawa K, Hirata KI.	論文	Knockout of Endothelin-1 in Vascular Endothelial Cells Protects Against Insulin Resistance Induced by High-Salt Diet in Mice. (2010) Kobe J. Med. Sci. 56, E85-91.
Nishinaga H, Komatsu R, Doi M, Fustin JM, Yamada H, Okura R, Yamaguchi Y, Matsuo M, Emoto N, Okamura H.	論文	Circadian expression of the Na ⁺ /H ⁺ exchanger NHE3 in the mouse renal medulla. (2009) Biomed Res. 30, 87-93.

Anggrahini DW, Emoto N, Nakayama K, Widyantoro B, Adiarto S, Iwasa N, Nonaka H, Rikitake Y, Kisanuki YY, Yanagisawa M, Hirata KI.	論文	Vascular endothelial cell-derived endothelin-1 mediates vascular inflammation and neointima formation following blood flow cessation. (2009) Cardiovasc Res. 82, 143-151.
Masuda Y, Emoto N, Nonaka H, Yagita K, Todo T, Okamura H, Yokoyama M, Hirata KI.	論文	Role of angiotensin and the clock system in the circadian regulation of plasminogen activator inhibitor-1. (2009) Kobe J. Med. Sci. 6, 264-271.
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1987年6月～現在	日本内科学会	(2002年9月～現在：日本内科学会認定内科医)
1987年4月～現在	日本循環器学会	(2004年3月～現在：日本循環器学会認定循環器専門医)
2000年10月～現在	日本高血圧学会	(2009年10月～現在：日本高血圧学会評議員、2010年10月～現在：日本高血圧学会専門医)
2004年4月～現在	日本医学教育学会	
2012年4月～現在	日本肺循環学会	理事
2013年4月～現在	日本肺高血圧学会	理事

内田

専任教員の教育・研究業績

所属 数学研究室	職名 教授	氏名 内田 吉昭	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
数学 I と数学IIにおいて, 習熟度別クラスの導入		2008年4月～現在に至る	入学してきた学生の数学における学力(高等学校での数学IIIおよびCの履修の有無など)に差があるので, 習熟度別の授業を行っている.
統計学 I とIIにおいて, サブノートの作成		2009年4月～現在に至る	統計学をなるべく視覚を使って理解してもらうために, グラフ等を多く使用したサブノートを作成して, 授業の補助として使っている.
山形大学理学部数理科学科で集中講義		2012年 6月	
2 作成した教科書、教材、参考書 『あっ』と驚く統計学I・IIサブノート		2009年4月・10月 2010年4月・10月 2011年4月・10月 2012年4月・10月 2013年4月・10月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2010年12月	第33回日本分子生物学会・第83回日本生化学会大会 合同大会 発表
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
内田吉昭		著書	基礎からの微分積分 ムイスリ出版 2011
III 学会等および社会における主な活動			
1988年4月～現在に至る		日本数学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 人文科学研究室	職名 教授	氏名 畑 公也	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
ドイツ語	1981年～現在に至る	「読む」「書く」「聞く」「話す」の総合的なドイツ語運用能力の養成を目指す。授業中にできるだけ多くの口頭、筆記による練習を行うことによって技能の定着を図っている。	
教養リテラシー	2006年～現在に至る	総合文化演習のプレトレーニングとして、日本語の読み書き能力の涵養とスモールグループによるディスカッションとプレゼンテーションの訓練を行っている。	
総合文化演習	1995年～現在に至る	「現代の音楽」と「ドイツの歴史と文化」をテーマに小グループによる演習を行っている。テーマ設定や発表、レポート作成に際し、学生の自発性を尊重し、積極性を引き出すことを目指している。	
講義「現代の音楽」	2006年～現在に至る	アンケートやインタビューによって学生の意見を聞き、その結果を授業に反映させることにより、双方向的な教育を行っている。	
早期体験学習	2008年～現在に至る	新入生の薬学学習に対するモチベーションを高めるための実習を指導している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2012年～現在に至る	図書館長の業務に従事。
II 研究活動		
氏名	種別	内容
畑 公也	なし	
III 学会等および社会における主な活動		
1978年～現在に至る	日本独文学会会員	
1978年～現在に至る	阪神ドイツ文学会会員	
1978年～現在に至る	大阪大学ドイツ文学会会員	
1978年～現在に至る	オーストリア文学会会員	
2007年～現在に至る	日本ポピュラー音楽学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 濱口 常男	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年4月～現在に至る	4年次生の薬事関係法規・薬事制度の講義を担当している。毎回配布するプリント並びに適時パワーポイントを利用している。	
	2010年4月～現在に至る	4年次生の実務実習事前教育実習を担当している。実習開始時での講義では、実習テキスト及びパワーポイントを利用し、医療人として醸成すべき態度、実習の目的及びその内容を説明している。SDGを組み入れた実習では、病院・薬局の指導薬剤師をタスクとして参加させて、医療における薬剤師業務の重要性の理解を深めさせるようにしている。また、調剤実習では、調剤技能の習得の徹底を図るため、病院・薬局の指導薬剤師に参加してもらい、医療現場の臨場感と緊張性のある実習を目指している。また、各調剤台を頻繁に見回り、調剤の手技が正しく適正に行われるように点検している。調剤技能の評価については、実習生2人ずつのグループで実習を行い、互いに相手の調剤技能を評価させることにより、調剤技能の確実な習得を目指している。	
	2010年4月～現在に至る	5年次生の病院実務実習、薬局実務実習を担当している。実習前の学生説明会では、医療人の心構え、諸注意を講義している。実習受入施設には実習前、実習中および実習終了時に施設訪問を行い、大学と施設の連携を図ると共に実習生の実習状況を確認している。実習終了後、実務実習報告会・意見交換会を開催し、全学生にポスター発表を行わせて、プレゼンテーション技能の醸成を図っている。	
	2010年10月～現在に至る	4年次生の安全管理医療の講義を担当している。プリントを配布し、適時パワーポイント及びDVDを利用している。	
	2011年1月～現在に至る	5年次の卒業研究Ⅰ並びに6年次の卒業研究Ⅱを担当している。現場の病院(7施設)あるいは薬局(4施設)において臨床研究を実施している。臨床研究施設での実際の課題を研究することにより、問題発見能力及びその解決能力の醸成を図っている。加えて、社会人としてのコミュニケーション能力の養成も併せて育成できる。	
	2011年4月～現在に至る	4年次生の機能性製剤学における実際の調剤学の講義を担当している。毎回配布するプリント並びにパワーポイントを利用している。	
	2011年4月～現在に至る	6年次生の処方解析学、処方解析演習を担当している。処方解析学では配布するプリント並びに適時パワーポイントを利用している。処方解析演習では演習問題を配布し、その解説はパワーポイントを利用している。	

	2011年10月～現在に至る 2012年4月～現在に至る	6年次生の薬学総合講座を担当している。薬学総合講座では法規・制度の講義を担当し、教科書および薬剤師国家試験過去問題のプリントを利用している。 6年次生の薬学総合講座（再履修生）を担当している。薬学総合講座では法規・制度の講義を担当し、教科書および薬剤師国家試験過去問題のプリントを利用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 病院・薬局実務実習Ⅰ 病院・薬局に共通な薬剤師業務 計算実践トレーニング帳	2007年4月 2009年1月	医薬品情報の収集、分析、評価、加工及び提供について解説した。 （東京化学同人、日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会・日本医療薬学会 編） OSCEおよび臨床実習に対応した計算能力の向上について解説書した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 一般市民講座 一般市民講座	2010年4月24日 2012年3月6日	神戸薬科大学市民公開講座 神戸市老眼大学
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし		
II 研究活動		
氏名	種別	内容
濱口常男	著書	化学同人、2009、15-28、57-69。「薬学生のための計算実践トレーニング帳、（前田初男 編）」
濱口常男	著書	廣川書店、2012、1-5。「わかりやすい薬事関係法規・制度第2版（木方正、安田一郎、佐藤拓夫、神村英利 編）」、
土井啓至、上紺屋憲彦、高田康弘、富士原将之、井上裕之、田ノ岡征雄、坪井慶太、志方敏幸、濱口常男、門林宗男、廣田省三	論文	日本放射線腫瘍学会誌、2009、21、149-154。「ラット放射線性直腸粘膜障害モデルを用いた亜鉛製剤の有効性の評価」
中村豪志、多田雅美、合田昌子、木村知行、濱口常男、門林宗男	論文	医療薬学、2009、35、856-865。「血液腫瘍科病棟薬局における臨床薬剤業務の評価－薬剤師による注射薬無菌混合調製業務が医療安全にもたらす有用性の検討－」

山下典子, 柳井美奈, 合田昌子, 三上ひとみ, 前村知見, 新藤三枝, 濱口常男, 門林宗男, 角谷智子, 山本新吾	論文	日本病院薬剤師会雑誌, 2010, 46, 103-108. 「泌尿器科におけるがん化学療法に伴う悪心評価へのVASの応用」
志方敏幸, 中村豪志, 日笠真一, 濱口常男, 土井啓至, 上紺屋憲彦, 門林宗男, 木村 健	論文	医療薬学, 2010, 36, 549-556. 「ポラプレジンク坐剤の品質試験と放射線性直腸炎に対する臨床評価」
波多江崇, 池浦奈穂, 河原宏, 河内正二, 長谷川豊, 杉山正敏, 沼田千賀子, 國正淳一, 濱口常男	論文	医薬品相互作用研究, 2013, 36, 194-198. 「腎機能に着目した入院時持参薬チェックの重要性」
波多江崇, 志方敏幸, 長谷川豊, 佐藤健之介, 西濱輝美, 金啓二, 福井利文, 西田英之, 但馬重俊, 濱口常男	論文	医薬品相互作用研究, 2013, 37, 27-35. 「近畿地区における病棟薬剤業務実施加算導入前後の薬剤師の意識の変化に対する施設背景の影響」
III 学会等および社会における主な活動		
2002年4月～2004年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2004年4月～2010年3月	兵庫県病院薬剤師会常任理事	
2006年4月～2012年3月	兵庫県薬剤師会理事	
2006年4月～2010年1月	日本病院薬剤師会代議員	
2008年4月～2010年1月	日本病院薬剤師会代議員会議事運営委員	
2008年4月～2010年3月	日本病院薬剤師会近畿ブロック薬剤業務委員会委員	
2008年4月～2012年6月	日本病院薬剤師会近畿ブロック事務局庶務	
2010年3月～現在に至る	薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会委員	
2010年4月～2012年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2012年4月～現在に至る	兵庫県病院薬剤師会監事	
2012年4月～現在に至る	兵庫県薬剤師会薬学教育部委員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 沼田 千賀子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2009年10月～現在	大学院修士課程ファーマシューティカル特論においては、緩和医療を中心に薬物療法と患者心理についての講義、ワークを行っている。ワークでは「死生観」について2～3人でのディスカッションを行い、「死」から見えてくる患者心理を感じられるように工夫している。	
	2010年4月～現在	実務実習事前教育においては、5年次に行われる長期実務実習 (病院・薬局) にスムーズに取り組めるよう、臨床現場で求められる知識・技能・態度の指導を行っている。	
	2011年4月～現在	薬害に関する講義および薬害被害者の体験談を聞く授業を実施し、学生が薬害について深く考え討議する機会となっている。	
	2013年4月～現在	大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成」において、がん医療に従事する薬剤師の養成を行っている。「がん医療薬学特別論」の講義・演習で模擬患者を使った服薬指導や海外から多職種連携の研究を行っている専門の先生を招聘し、ワークショップ形式での症例検討を行うなど、実践的な教育に取り組んでいる。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年3月15日	薬学生のための基礎シリーズ1 ヒューマニズム薬学入門 (共著)	
	2011年3月～現在	実務実習事前教育用テキストの作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年9月25日	第5回日本緩和医療薬学会年会シンポジウムで「薬学6年制教育における緩和医療教育のさらなる充実を目指して～現状と将来展望～」の講演を行った。	
	2012年6月2日	「女性医療従事者のキャリアアップ教育」神戸市医師会女性医師シンポジウム (神戸)	
	2012年10月3日	「医療現場における補完代替医療の現状」自然治癒学校 (神戸)	
	2013年10月25日	2013年がんプロ連携7大学市民公開シンポジウム (大阪)	

4 その他教育活動上特記すべき事項	2010年4月～現在	OSCE実施委員長
	2010年1月～現在	薬学教育者・薬剤師へのFD活動として、タスクフォースとして、薬剤師のためのワークショップin近畿に協力
	2012年4月～現在	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成」 担当
II 研究活動		
氏名	種別	内容
Numata C., Teraoka R., Matsuda Y., Yagi K., Hirai M., Kitagawa S.	論文	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. 2008, 34(1), 26-31. "Dose control study on fentanyl patch using two types of covering material"
1. 松田裕子、沼田千賀子、中尾幸代、道上敬、長野恭久、山中智香、明田健史、谷口美保子、水谷宏恵、木口敏子、八木敬子、江本憲昭、平井みどり	論文	医療薬学 2009, 35(12), 846-855. "現役薬剤師参加の服薬指導実習の実践とその教育効果に関する調査"
沼田千賀子、寺岡麗子、八木敬子、江本憲昭、平井みどり、北河修治	論文	日緩和医療誌 2011, 4(4), 117-124. "フェンタニル経皮吸収型製剤による皮膚症状に対するテガダーム®の軽減効果に関する調査"
沼田千賀子	著書	薬学生のための基礎シリーズ1 ヒューマニズム薬学入門 (共著)
III 学会等および社会における主な活動		
2002年5月～現在	日本医療薬学会会員	
2005年8月～現在	(社)兵庫県薬剤師会認定 禁煙指導認定薬剤師	
2006年4月～現在	兵庫県病院薬剤師会 理事	
2006年4月～現在	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会員	
2007年3月～現在	日本緩和医療薬学会会員	

沼田

2007年4月～現在	日本ホリスティック医学協会会員
2007年11月～現在	日本メンタルヘルス協会公認 心理カウンセラー
2009年4月～現在	6年制認定実務実習指導薬剤師
2009年8月～現在	日病薬認定指導薬剤師
2009年10月～現在	がん薬物療法認定薬剤師
2011年4月～現在	ブザン教育協会マインドマップ®アドバイザー

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 田内 義彦	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 薬学部学生への教育		2010年8月～現在	実務実習事前教育実習にて、実務家教員として調剤薬局における接遇や患者対応を中心に、臨床現場に対応できる学生の育成に従事するとともに、指導薬剤師の確保やスケジュール作成に努めている。
		2011年4月～現在	社会薬学 I 及び II の講義において、薬剤師の歴史、社会的役割、医薬分業について講義を行い、薬剤師の義務と責任について学部1年生に認識してもらえよう、臨床経験を活かした解説を行っている。
		2011年2月～現在	「海外薬学研修」担当者として、ボストンで研修を行う学生に、より理解力を高めるために事前講義を行う。研修に同行し、アメリカにおける薬学教育と薬剤師業務を深く理解させるための補足説明や質疑応答を行い研修の成果向上に努めている。また研修終了後の報告会を催し、参加者への意識付けと後進の参加意欲の向上に努めている。
		2012年4月～現在	漢方医学の講義において、漢方薬の臨床で用いる上で注意すべき点や調剤方法をビデオ等を活用し、理解してもらい、臨床上での漢方薬の活用に関し、臨床経験に基づいた指導をしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年3月～現在	実務実習事前教育用テキストの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項		2009年1月～現在	東灘区薬剤師会理事として、学生教育部門を担当。実務実習及び早期体験実習の受入や指導薬剤師の教育に従事。

II 研究活動		
氏名	種別	内容
III 学会等および社会における主な活動		
1988年4月～現在	日本薬学会 会員	
1998年4月～現在	日本医療薬学会 会員	
2003年1月～現在	日本医療薬学会 認定薬剤師	
2008年1月～現在	日本医療薬学会 指導薬剤師	
2003年4月～現在	日本薬剤師会 会員	
2013年6月～現在	日本地域薬局薬学会 会員	
2013年6月～現在	日本地域薬局薬学会 編集委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬品物理化学研究室	職名	教授	氏名	向 高弘	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 物理化学II 放射化学 物理化学系実習 創薬物理化学特論	2011年4月-		物理化学IIの授業についてデジタル教材化し、DVDラーニング、e-ラーニングを実施できるようにしている。 物理化学系実習では視聴覚教材を使用している。		
2	作成した教科書、教材、参考書 放射化学・放射薬品学 (第2版)	2011年12月30日		廣川書店 (佐治英郎編集) の第2版の「第5章原子核反応と放射性同位元素の製造」を執筆した。		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし					
4	その他教育活動上特記すべき事項 核医学専門医教育セミナー 核医学専門医教育セミナー 核医学専門医教育セミナー	2011年5月8日 2012年4月28日 2013年4月28日		第11回日本核医学会春季大会にて講義「放射性医薬品の基礎知識」を行った。 第12回日本核医学会春季大会にて講義「放射性医薬品の基礎知識」を行った。 第13回日本核医学会春季大会にて講義「放射性医薬品の基礎知識」を行った。		
II 研究活動						
氏名		種別		内容		
Kazuma Ogawa, Takahiro Mukai, Keiichi Kawai, Norito Takamura, Hirofumi Hanaoka, Kazuyuki Hashimoto, Kazuhiro Shiba, Hirofumi Mori and Hideo Saji		論文		<i>European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging</i> , 36 (1), 115-121 (2009) "Usefulness of competitive inhibitors of protein binding for improving the pharmacokinetics of ^{186}Re -MAG3-conjugated bisphosphonate (^{186}Re -MAG3-HBP), an agent for treatment of painful bone metastases"		

Jintaek Kim, Fumihiko Yamamoto, Yasuo Kuwabara, Hiroshi Honda, Takahiro Mukai, and Minoru Maeda	論文	<i>Radioisotopes</i> , 58 (2), 47-55 (2009) “6- ^[18F] Fluoro-dehydroascorbic acid: synthesis and tissue distribution in mice”
Takahiro Mukai, Masato Taketomi, Masaaki Tashiro, Fumihiko Yamamoto, and Minoru Maeda	論文	<i>Journal of Labelled Compounds and Radiopharmaceuticals</i> , 52 (5), 146-150 (2009) “6-[(2-Iminopyrrolidinyl)methyl]-5- ^[125I] iodouracil as a potential thymidine phosphorylase-targeted radiopharmaceutical: synthesis and preliminary biological evaluation”
Takashi Kudo, Masashi Ueda, Yuji Kuge, Takahiro Mukai, Shotaro Tanaka, Maki Masutani, Yasushi Kiyono, Shinae Kizaka-Kondoh, Masahiro Hiraoka, and Hideo Saji	論文	<i>The Journal of Nuclear Medicine</i> , 50 (6), 930-937 (2009) “Imaging of HIF-1-active tumor hypoxia using a protein effectively delivered to and specifically stabilized in HIF-1-active tumor cells”
Takahiro Mukai, Jun Suwada, Kohei Sano, Mayumi Okada, Fumihiko Yamamoto, and Minoru Maeda	論文	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> , 17 (13), 4285-4289 (2009) “Design of Ga-DOTA-based bifunctional radiopharmaceuticals: Two functional moieties can be conjugated to radiogallium-DOTA without reducing the complex stability”
Jintaek Kim, Fumihiko Yamamoto, Satoru Karasawa, Takahiro Mukai, and Minoru Maeda	論文	<i>Journal of Labelled Compounds and Radiopharmaceuticals</i> , 52 (9), 366-371 (2009) “Radiosynthesis and preliminary biodistribution in mice of 6-deoxy-6- ^[131I] iodo-L-ascorbic acid”
Takeshi Fuchigami, Terushi Haradahira, Noriko Fujimoto, Yumiko Nojiri, Takahiro Mukai, Fumihiko Yamamoto, Takashi Okauchi, Jun Maeda, Kazutoshi Suzuki, Tetsuya Suhara, Hiroshi Yamaguchi, Mikako Ogawa, Yasuhiro Magata, and Minoru Maeda	論文	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> , 17 (15), 5665-5675 (2009) “Development of N- ^[11C] methylamino 4-hydroxy-2(1H)-quinolone derivatives as PET radioligands for the glycine-binding site of NMDA receptors”
Jintaek Kim, Fumihiko Yamamoto, Shigeki Gondo, Toshihiko Yanase, Takahiro Mukai, and Minoru Maeda	論文	<i>Biological & Pharmaceutical Bulletin</i> , 32 (11), 1906-1911 (2009) “6-Deoxy-6- ^[131I] iodo-L-ascorbic acid for the <i>in vivo</i> study of ascorbate: autoradiography, biodistribution in normal and hypolipidemic rats, and in tumor-bearing nude mice”
Masashi Ueda, Takashi Kudo, Yuji Kuge, Takahiro Mukai, Shotaro Tanaka, Hiroaki Konishi, Azusa Miyano, Masahiro Ono, Shinae Kizaka-Kondoh, Masahiro Hiraoka, and Hideo Saji	論文	<i>European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging</i> , 37 (8), 1566-1574 (2010) “Rapid detection of hypoxia-inducible factor-1-active tumors: Pretargeted imaging with a protein degrading in a mechanism similar to hypoxia-inducible factor-1 α ”
Yuuhei Sano, Tomokazu Motomura, Fumihiko Yamamoto, Miki Fukuda, Takahiro Mukai and Minoru Maeda	論文	<i>Chemical & Pharmaceutical Bulletin</i> , 58 (8), 1020-1025 (2010) “1-(3'- ^[125I] Iodophenyl)-3-methy-2-pyrazolin-5-one: preparation, solution stability, and biodistribution in normal mice”

Takahiro Mukai, Masayori Hagimori, Kenji Arimitsu, Takahiro Katoh, Misa Ukon, Tetsuya Kajimoto, Hiroyuki Kimura, Yasuhiro Magata, Eiji Miyoshi, Naoyuki Taniguchi, Manabu Node and Hideo Saji	論文	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> , 19 (14), 4312-4321 (2011) "Synthesis and evaluation of a radioiodinated trisaccharide derivative as a synthetic substrate for a sensitive N-acetylglucosaminyltransferase V radioassay"
Yumi Yamamoto, Jun Toyohara, Kiichi Ishiwata, Kohei Sano, Fumihiko Yamamoto, Takahiro Mukai and Minoru Maeda	論文	<i>Chemical & Pharmaceutical Bulletin</i> , 59 (8), 938-946 (2011) " ¹¹ C-Labeled analogs of indomethacin esters and amides for brain cyclooxygenase-2 imaging: radiosynthesis, <i>in vitro</i> evaluation and <i>in vivo</i> characteristics in mice"
Takashi Kudo, Masashi Ueda, Hiroaki Konishi, Hidekazu Kawashima, Yuji Kuge, Takahiro Mukai, Azusa Miyano, Shotaro Tanaka, Shinae Kizaka-Kondoh, Masahiro Hiraoka and Hideo Saji	論文	<i>Molecular Imaging & Biology</i> , 13 (5), 1003-1010 (2011) "PET imaging of hypoxia-inducible factor-1-active tumor cells with pretargeted oxygen-dependent degradable streptavidin and a novel ¹⁸ F-labeled-biotin derivative"
Jintaek Kim, Tomohiro Kino, Hiroharu Kato, Fumihiko Yamamoto, Kohei Sano, Takahiro Mukai and Minoru Maeda	論文	<i>Chemical & Pharmaceutical Bulletin</i> , 60 (2), 235-240 (2012) "5-O-(4-[¹²⁵ I]Iodobenzyl)-l-ascorbic acid: electrophilic radioiodination and biodistribution in mice"
Yukari Tajika, Yumi Yasuoka, Hiroyuki Nagahama, Toshiyuki Suzuki, Yoshimi Homma, Tetsuo Ishikawa, Shinji Tokonami, Takahiro Mukai, Miroslaw Janik, Atsuyuki Sorimachi and Masahiro Hosoda	論文	<i>Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry</i> , 295 (3), 1709-1714 (2013) "Radon concentration of outdoor air: measured by an ionization chamber for radioisotope monitoring system at radioisotope institute"
Masafumi Tanaka, Yuki Takamura, Toru Kawakami, Saburo Aimoto, Hiroyuki Saito and Takahiro Mukai	論文	<i>FEBS Letters</i> , 587 (5), 510-515 (2013) "Effect of amino acid distribution of amphipathic helical peptide derived from human apolipoprotein A-I on membrane curvature sensing"
Kohei Sano, Mayumi Okada, Hayato Hisada, Kenta Shimokawa, Hideo Saji, Minoru Maeda and Takahiro Mukai	論文	<i>Biological & Pharmaceutical Bulletin</i> , 36 (4), 602-608 (2013) " <i>In vivo</i> evaluation of a radiogallium-labeled bifunctional radiopharmaceutical, Ga-DOTA-MN2, for hypoxic tumor imaging"
Risa Tanaka, Saori Araki, Yumi Yasuoka, Takahiro Mukai, Shoko Ohnuma, Tetsuo Ishikawa, Nobutoshi Fukuhori and Tetsuya Sanada	論文	<i>Radioisotopes</i> , 62 (7), 423-438 (2013) "A simplified method for improved determination of radon concentration in environmental water sample"
Tetsuya Miyoshi, Yuka Aoki, Yumina Uno, Mina Araki, Takahiro Kamatani, Daichi Fujii, Yoshinori Fujita, Norihiko Takeda, Masafumi Ueda, Hiroshi Kitagawa, Noriaki Emoto, Takahiro Mukai, Masafumi Tanaka and Okiko Miyata	論文	<i>The Journal of Organic Chemistry</i> , 78 (22), 11433-11443 (2013) "Michael addition-aromatization reaction of dienylimines bearing a leaving group and its application to the preparation of thiol-selective labeling reagents capable of forming strong carbon-sulfur bonds"

Kazuma Ogawa and Takahiro Mukai	総説	<i>Journal of Drug Delivery Science and Technology</i> , 19 (3), 171-176 (2009) “Targeted imaging and therapy for bone metastases: Control of pharmacokinetics of bone-targeted radiopharmaceuticals”
向高弘	総説	分子心血管病, 10 (2), 147-153 (2009) 「動脈硬化プラークを検出するための核医学イメージング薬剤の開発」
秋澤宏行, 向高弘, 荒野泰	総説	ファルマシア, 49 (4), 315-319 (2013) 「放射性医薬品取り扱いガイドライン」
III 学会等および社会における主な活動		
1992年～現在	日本薬学会会員	
1997年～現在	日本薬物動態学会会員	
1997年～現在	日本核医学会会員	
2000年～現在	Society of Nuclear Medicine会員	
2005年4月～2010年3月	薬学教育協議会放射薬学教科担当教員会議 薬剤師国家試験における放射薬学関連問題に対する検討WG九州・中国・四国支部担当委員	
2006年～現在	日本分子イメージング学会会員	
2007年～現在	日本癌学会会員	
2008年10月～2009年9月	日本核医学会 専門医・教育審査委員会 専門医試験小委員会委員	
2009年～現在	Society of Radiopharmaceutical Sciences会員	
2009年10月～2013年9月	日本核医学会 専門医・教育審査委員会委員	
2011年～現在	日本アイソトープ協会会員	
2011年5月～現在	日本薬学会近畿支部委員	
2012年～現在	日本DDS学会会員	
2013年1月～現在	日本薬学会物理系薬学部世話人	

専任教員の教育・研究業績

所属 病態生化学研究室	職名 教授	氏名 加藤 郁夫	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
(1) 薬学部学生に対する教育		2013年4月～現在	神戸薬科大学3年次生の「内分泌学」、「薬物治療学 II」および4年次生の「臨床検査実習」を担当。
(2) 大学院修士課程学生に対する教育		2013年4月～現在	神戸薬科大学大学院薬学研究科修士課程学生 (社会人、聴講生を含む) に対して、「病態解析治療学特論」を担当：プリントを配布しパワーポイントを用いて解説を行っている。また、最終時間には、共通のテーマを与えて各学生に考察・発表を行わせ討論を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			「内分泌学」、「薬物治療学 II」では、独自のプリントを作成、学生に配布して講義した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
(1) CBT対策委員会委員		2013年4月～2014年3月	CBT対策の実施。
(2) 実務実習運営委員会委員		2013年4月～現在	実務実習の円滑なる実施。
(3) 学生就職委員会委員		2014年4月～現在	学生生活や就職活動の支援。
(4) 国家試験対策委員会委員		2014年4月～現在	国家試験対策の実施。
II 研究活動			
氏名		種別	内容
H. Shimizu, S. Oh-I, K Hashimoto, M. Nakata, S. Yamamoto, N. Yoshida, H. Eguchi, I. Kato, K. Inoue, T. Satoh, S. Okada, M. Yamada, T. Yada and M. Mori.		論文	Endocrinology 150, 662-671 (2009); Peripheral administration of nesfatin-1 reduces food intake in mice: the leptin-independent mechanism.

P.Ceranowicz, Z.Warzecha, A.Dembinski, R.Sendur, J.Cieszkowski, D.Ceranowicz, W.W.Pawlik, A.Kuwahara, I.Kato, P.C.Konturek.	論文	J. Physiol. Pharmacol. 60, 87-98 (2009) ; Treatment with ghrelin accelerates the healing of acetic acid-induced gastric and duodenal ulcers in rats.
H.Tazoe, Y.Otomo, S.Karaki, I.Kato, Y.Fukami, M.Terasaki, and A.Kuwahara.	論文	Biomed. Res. 30, 149-156 (2009) ; Expression of short-chain fatty acid receptor GPR41 in the human colon.
M.Mizutani, K.Atsuchi, A.Asakawa, N.Matsuda, M.Fujimura, A.Inui, I.Kato, and Fujimiya M.	論文	Am. J. Physiol. Gastrointest. Liver Physiol. 297, G974-980, (2009) ; Localization of acyl ghrelin- and des-acyl ghrelin-immunoreactive cells in the rat stomach and their responses to intragastric pH.
T.Sakoguchi, M.Horiuchi, A.Asakawa, M.Ushikai, G.Yoshida, M.Fujimiya, I.Kato, M.Nakazato, T.Takeuchi, T.Saheki, Inui A.	論文	Biochim. Biophys. Acta. 1792, 1087-1093 (2009) ; Failure of the feeding response to fasting in carnitine-deficient juvenile visceral steatosis (JVS) mice: involvement of defective acyl-ghrelin secretion and enhanced corticotropin-releasing factor signaling in the hypothalamus.
P.Ceranowicz, Z.Warzecha, A.Dembinski, J.Cieszkowski, M.Dembinski, R.Sendur, B.Kusnierz-Cabala, R.Tomaszewska, A.Kuwahara, I.Kato.	論文	J. Physiol. Pharmacol.60, 95-101 (2009) ; Pretreatment with obestatin inhibits the development of cerulein-induced pancreatitis.
A.Asakawa, M.Fujimiya, A.Niijima, K.Fujino, N.Kodama, Y.Sato, I.Kato, H.Nanba, A.Laviano, M.M.Meguid, A.Inui.	論文	Psychoneuroendocrinology 35, 1178-86 (2010) ; Parathyroid hormone-related protein has an anorexigenic activity via activation of hypothalamic urocortins 2 and 3.
K.Atsuchi, A.Asakawa, M.Ushikai, K.Ataka, R.Tanaka, I.Kato, M.Fujimiya, A.Inui.	論文	Horm. Metab. Res. 42, 1-4 (2010) ; Centrally administered neuromedin S inhibits feeding behavior and gastroduodenal motility in mice.
S.Sugiura, M.Fujimiya, H.Ebise, Y.Miyahira, I.Kato, Y.Sugiura, T.Kimura, M.Uehara, H.Sato, and Sugiura H.	論文	Br. J. Dermatol. 162. 1286-1293 (2010) ; Immunosuppressive effect of prolactin-induced protein: a new insight into its local and systemic role in chronic allergic contact dermatitis.
Z.Warzecha, P.Ceranowicz, A.Dembinski, J.Cieszkowski, B.Kusnierz-Cabala, R.Tomaszewska, A.Kuwahara, I.Kato.	論文	J. Physiol. Pharmacol. 61, 419-427 (2010) ; Therapeutic effect of ghrelin in the course of cerulein-induced acute pancreatitis in rats.
K.Atsuchi, A.Asakawa, M.Ushikai, K.Ataka, M.Tsai, K.Koyama, Y.Sato, I.Kato, M.Fujimiya, A.Inui.	論文	Neuroreport 21, 1008-1011 (2010) ; Centrally administered nesfatin-1 inhibits feeding behaviour and gastroduodenal motility in mice.

D.Ceranowicz, Z.Warzecha, A.Dembiński, P.Ceranowicz, J.Cieszkowski, B.Kusnierz-Cabala, R.Tomaszewska, A.Kuwahara, I.Kato.	論文	J. Physiol. Pharmacol. 61, 599-606 (2010) ; Role of hormonal axis, growth hormone - IGF-1, in the therapeutic effect of ghrelin in the course of cerulein-induced acute pancreatitis.
M.Fujimiya, A.Asakawa, K.Ataka, C.Y.Chen, I.Kato, and A.Inui.	論文	Int. J. Pept. 2010, 1-8 (2010) ; Ghrelin, des-acyl ghrelin, and obestatin: regulatory roles on the gastrointestinal motility.
A.Asakawa, K.Ataka, K.Fujino, C.Y.Chen, I.Kato, M.Fujimiya, and A.Inui.	論文	J. Gastroenterol. Hepatol. 26, Suppl.3, 73-74 (2011) ; Ghrelin family of peptides and gut motility.
Y.Sato, M.Shindo, N.Sakura, Y.Uchida, and I.Kato.	論文	Chem. Pharm. Bull. 59, 597-602 (2011) ; Novel des-fatty acyl-polymyxin B derivatives with Pseudomonas aeruginosa-specific antimicrobial activity.
A.Dembiński, Z.Warzecha, P.Ceranowicz, J.Cieszkowski, M.Dembiński, A. Ptak-Belowska, A.Kuwahara, I.Kato.	論文	Med. Sci. Monit. 17, BR196-200 (2011) ; Administration of obestatin accelerates the healing of chronic gastric ulcers in rats.
M.Fujimiya, K.Ataka, A.Asakawa, C.Y.Chen, I.Kato, A.Inui.	論文	Peptides 32, 2348-2351 (2011) ; Ghrelin, des-acyl ghrelin and obestatin on the gastrointestinal motility.
J.B.Furness, B.Hunne, N.Matsuda, L.Yin, D.Russo, I.Kato, M.Fujimiya, M.Patterson, J.McLeod, Z.B.Andrews, and R.Bron.	論文	Neuroscience 193, 1-9 (2012) ; Investigation of the presence of ghrelin in the central nervous system of the rat and mouse.
S.Sugiura, M.Fujimiya, H.Ebise, Y.Miyahira, I.Kato, Y.Sugiura, K.Kimura, M.Uehara, H.Sato, H.Sugiura.	論文	Chem. Immunol. Allergy. 96, 100-107 (2012) ; Immunosuppressive effect of prolactin-induced protein.
Z.Warzecha, D.Ceranowicz, A.Dembiński, P.Ceranowicz, J.Cieszkowski, A.Kuwahara, I.Kato, M.Dembiński, P.C.Konturek.	論文	Med. Sci. Monit. 18, BR181-187 (2012) ; Ghrelin accelerates the healing of cysteamine-induced duodenal ulcers in rats.
A.Stengel, M.Goebel-Stengel, L.Wang, I.Kato, M.Mori, Y.Taché.	論文	Peptides 35, 143-148 (2012) ; Nesfatin-1(30-59) but not the N- and C-terminal fragments, nesfatin-1(1-29) and nesfatin-1(60-82) injected intracerebro-ventricularly decreases dark phase food intake by increasing inter-meal intervals in mice.
K.-C.Cheng, Y.-X.Li, A.Asakawa, M.Ushikai, I.Kato, Y.Sato, J.-T.Cheng, and A.Inui.	論文	J. Endocrinol. 215, 43-49 (2012) ; Characterization of preptin-induced insulin secretion in pancreatic β -cells.

M. Fujimiya, K. Ataka, A. Asakawa, C. Y. Chen, I. Kato, A. Inui.	論文	Digestion 85, 90-94 (2012); Regulation of gastroduodenal motility: acyl ghrelin, des-acyl ghrelin and obestatin and hypothalamic peptides.
Asakawa A, Kato I, Inui A.	論文	Obes. Surg. 22, 1788-1789 (2012); Comment on Short-term effects of sleeve gastrectomy and caloric restriction on blood pressure in diet-induced obese rats.
Ishida E, Hashimoto K, Shimizu H, Okada S, Satoh T, Kato I, Yamada M, Mori M.	論文	PLoS One. 7, e50918 (2012); Nesfatin-1 induces the phosphorylation levels of cAMP response element-binding protein for intracellular signaling in a neural cell line.
Tagawa N, Kubota S, Kato I, Kobayashi Y.	論文	J. Endocrinol. 218, 311-320 (2013); Resveratrol inhibits 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 1 activity in rat adipose microsomes.
Li YX, Cheng KC, Asakawa A, Kato I, Sato Y, Amitani H, Kawamura N, Cheng JT, Inui A.	論文	PLoS One. 8, e72004 (2013); Role of musclin in the pathogenesis of hypertension in rat.
Antushevich H, Pawlina B, Kapica M, Krawczynska A, Herman AP, Kuwahara A, Kato I, Zabielski R.	論文	J. Physiol. Pharmacol. 64, 423-428 (2013); Influence of fundectomy and intraperitoneal or intragastric administration of apelin on apoptosis, mitosis, and DNA repair enzyme OGG1,2 expression in adult rats gastrointestinal tract and pancreas.
Kimura M, Shindo M, Moriizumi T, Tagawa N, Fujinami A, Kato I, Uchida Y.	論文	Chem. Pharm. Bull. 62, 586-590 (2014); Salusin- β , an Antimicrobially Active Peptide against Gram-Positive Bacteria.
III 学会等および社会における主な活動		
1984年1月～現在	日本薬学会会員	
1986年8月～現在	日本ペプチド学会会員	
2006年5月～現在	日本内分泌学会会員	
2014年5月～現在	日本肥満学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 微生物化学研究室	職名 教授	氏名 小西 守周	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概	要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	微生物学 I II 2009年より 現在に至る 免疫学 I II 2012年より 現在に至る	学生アンケートによる授業評価は主旨良好であるが、使用教科書に工夫が求められた。教科書の内容は高度であるため、授業では、その中で薬学生として最低限必要とされる部分を抽出して、主に板書を組み合わせて説明している。復習がしやすいように板書のみでも講義内容が理解できるように、板書の書き方にも注意を払っている。また平易な表現ができる場合は、できるだけ平易な表現を用いることで、理解しやすい授業を心がけた。さらに生物系の他講義との関わりがある内容に関しては、復習を兼ねて質問を行い、学生の集中力を維持できるようにした。講義内容に関しては、限られた講義時間の中に多くの内容を含むように無駄の無い授業を心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Hotta Y., Nakamura H., Konishi M., Murata Y., Takagi H., Matsumura S., Inoue K., Fushiki T., Itoh N.	論文	Endocrinology 2009, 150(10), 4625-4633. "Fibroblast growth factor 21 regulates lipolysis in white adipose tissue but is not required for ketogenesis and triglyceride clearance in liver."	

Miwa H., Miyake A., Kouta Y., Shimada A., Yamashita Y., Nakayama Y., Yamauchi H., Konishi M., and Itoh N.	論文	FEBS Lett. 2009, 583(22), 3643-3648. "A novel neural-specific BMP antagonist, Brorin-like, of the Chordin family."
Miyake A., Takahashi Y., Miwa H., Shimada A., Konishi M., Itoh N.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2009, 390(3), 1051-1055. "Neucrin is a novel neural-specific secreted antagonist to canonical Wnt signaling."
Kimura I., Konishi M., Asaki T., Furukawa N., Ukai K., Mori M., Hirasawa A., Tsujimoto G., Ohta M., Itoh N., Fujimoto M.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2009, 381(1) 75-80. "Neudesin, an extracellular heme-binding protein, suppresses adipogenesis in 3T3-L1 cells via the MAPK cascade."
Kimura I., Nakayama Y., Konishi M., Kobayashi T., Mori M., Ito M., Hirasawa A., Tsujimoto G., Ohta M., Itoh N., Fujimoto M.	論文	J. Neurochem. 2010, 112(5), 1156-1167. "Neuferricin, a novel extracellular heme-binding protein, promotes neurogenesis."
Masuda Y., Ito K., Konishi M., Nanba H.	論文	Cancer Immunol. Immunother. 2010, 59(10), 1531-1541. "A polysaccharide extracted from Grifola frondosa enhances the anti-tumor activity of bone marrow-derived dendritic cell-based immunotherapy against murine colon cancer."
Oishi K., Sakamoto K., Konishi M., Murata Y., Itoh N., Sei H.	論文	Neuro. Endocrinol. Lett. 2010, 31(2), 198-202. "FGF21 is dispensable for hypothermia induced by fasting in mice."
Murata Y., Konishi M., Itoh N.	総説	J. Nutr. Metab. 2011, (98) 1315. "FGF21 as an endocrine regulator in lipid metabolism: from molecular evolution to physiology and pathophysiology."
Sasaki S., Ohta H., Nakayama N., Konishi M., Miyake A., Itoh N.	著書	Human Genetic Disease 2011, 37-56. "The FGF Family in Humans, Mice, and Zebrafish: Development, Physiology, and Pathophysiology."
Ohta H., Konishi M., Itoh N.	総説	Endocr. Metab. Immune Disord. Drug Targets 2011, (11) 302-309. "FGF10 and FGF21 as regulators in adipocytes development and metabolism."

Oishi K., Konishi M., Murata Y., Itoh N.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2011, 412 (10) 396-400. "Time-imposed daily restricted feeding induces rhythmic expression of Fgf21 in white adipose tissue."
Chen W., Hoo R.L., Konishi M., Itoh N., Lee P., Ye H., Lam K.S.L., Xu A.	論文	J. Biol. Chem. 2011, 286 (40) 34559-34566. "Growth hormone induces hepatic production of fibroblast growth factor 21 through a mechanism dependent on lipolysis in adipocytes."
Kimura I., Nakayama Y., Konishi M., Terasawa K., Ohta M., Itoh N., Fujimoto M.	総説	Curr. Protein Pept. Sci. 2012, 13 (7) 687-96. "Functions of MAPR (membrane-associated progesterone receptor) family members as heme/steroid-binding proteins."
Masuda Y., Togo T., Mizuno S., Konishi M., Nanba H.	論文	J. Leukoc. Biol. 2012, 91 (4) 547-56. "Soluble β -glucan from <i>Grifola frondosa</i> induces proliferation and Dectin-1/Syk signaling in resident macrophages via the GM-CSF autocrine pathway."
小西守周, 太田紘也, 伊藤信行	著書	細胞工学 2012, 31 (4) 409-413 「FGFおよびFGF受容体とその機能の多様性について。」
Kimura I., Nakayama Y., Zhao Y., Konishi M., Itoh N.	総説	Front. Neurosci. 2013, 7 111. "Neurotrophic effects of neudesin in the central nervous system."
Masuda Y., Inoue H., Ohta H., Miyake A., Konishi M., Nanba H.	論文	Int. J. Cancer 2013, 133 (1) 108-119. "Oral administration of soluble β -glucans extracted from <i>Grifola frondosa</i> induces systemic antitumor immune response and decreases immunosuppression in tumor-bearing mice."
Kim K.H., Jeong Y.T., Oh H., Kim S.H., Cho J.M, Kim Y., Kim S.S., Kim D.H., Hur K.Y., Kim H.K., Ko T, Han J., Kim H.L., Kim J., Back S.H., Komatsu M., Chen H., Chan D.C., Konishi M., Itoh N., Choi C.S., Lee M..	論文	Nat. Med. 2013, 19 (1) 83-92. "Autophagy deficiency leads to protection from obesity and insulin resistance by inducing Fgf21 as a mitokine."

Habegger K.M., Stemmer K., Cheng C., Müller T.D., Heppner K.M., Ottaway N., Holland J., Hembree J.L., Smiley D., Gelfanov V., Krishna R., Arafat A.M., Konkar A., Belli S., Kapps M., Woods S.C., Hofmann S.M., Alessio D., Pfluger P.T., Perez-Tilve D., Seeley R.J., Konishi M., Itoh N., Kharitonov A., Spranger J., DiMarchi R.D., Tschöp M.H.	論文	Diabetes 2013, 62 (5) 1453-1463. "Fibroblast growth factor 21 mediates specific glucagon actions."
Matsumoto E., Sasaki S., Kinoshita H, Kito T., Ohta H., Konishi M., Kuwahara K., Nakao K., Itoh N.	論文	Genes Cells 2013, 18 (7) 544-553. "Angiotensin II-induced cardiac hypertrophy and fibrosis are promoted in mice lacking Fgf16."
Lin Z., Tian H., Lam K.S.L., Lin S., Hoo R.C.L., Konishi M., Itoh N., Wang Y., Bornstein S.R., Xu A., Li X.	論文	Cell Metab. 2013, 17 (5) 779-789. "Adiponectin mediates the metabolic effects of FGF21 on glucose homeostasis and insulin sensitivity in mice."
Murata Y., Nishio K., Mochiyama T., Konishi M., Shimada M., Ohta H., Itoh N.	論文	PLoS One 2013, 8 (7) e69330. "Fgf21 impairs adipocyte insulin sensitivity in mice fed a low-carbohydrate, high-fat ketogenic diet."
III 学会等および社会における主な活動		
1999年4月～現在に至る	日本分子生物学会会員	
2006年4月～現在に至る	日本肥満学会会員	
2006年4月～現在に至る	日本薬学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学基礎教育センター	職名 教授	氏名 小山 淳子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 薬学部学生への教育	2006年4月～現在に至る 2006年～2011年後期 2002年～2009年後期 2010年後期 2013年4月～現在に至る 2010年4月～現在に至る	分析Ⅲを複数で担当しているがプリントやパワーポイントを使い、講義を行う。 総合文化演習Ⅰ 或いはⅡはSGD方式で、基礎教科の大切さや薬学への個々の興味を持たせるように指導している。 化学系基礎演習では分析化学の中和の基礎を再確認するよう問題プリントを配布、解説する。局方医薬品の分析に必要な基礎知識の習得を身につけるよう指導する。 物理学実習の粘度測定による分子量の測定を指導する。 1年前期の基礎化学により、高校化学の復習と大学化学への橋渡的な学習を行う。一部TBLを取り入れ、グループ学習による知識の均等化を図る。 薬学基礎教育センターにおいて、分析化学、有機化学などの基礎をしっかりと身につけるための講義を希望学生に行う。また、留年生の学習、生活指導を行う。 薬学基礎教育センターにおいて、WebやDVDを用いたデジタルラーニング制度を企画し、実施する。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2010年8月 2010年12月 2011年3月 2011年9月 2011年9月 2012年3月 2012年8月 2012年12月 2013年3月 2013年5月 2013年9月	日本リメディアル教育学会第6回全国大会 発表 第33回日本分子生物学会・第83回日本生化学会大会 合同大会 発表 日本薬学会第131年会 発表 日本生化学会内84回大会 発表 日本リメディアル教育学会第7回全国大会 発表 日本薬学会第132年会 発表 日本リメディアル教育学会第8回全国大会 発表 日本生化学会内85回大会 発表 日本薬学会第133年会 発表 関西地区FD連絡協議会第6回総会, FD活動報告会2013 発表 日本生化学会内86回大会 発表	

4 その他教育活動上特記すべき事項	2011年3月	メンタルケアカウンセラー®修了資格認定
II 研究活動		
氏名	種別	内容
Koyama J., Takeuchi A., Tode C., Shimizu M., Morita I., Nobukawa M., Nobukawa M., Kobayashi N.	論文	J. Chromatogr. B 2009, 877, 207-212. "Development of an LC-ESI-MS/MS method for the determination of histamine: Application to the quantitative measurement of histamine degranulation by KU812 cells "
Koyama J., Takeuchi A., Morita I., Nishino Y., Shimizu M., Inoue M., Kobayashi N.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2009, 17, 7493-7499. "Characterization of emodin metabolites in Raji cells by LC-APCI-MS/MS"
Koyama J., Morita I., Yamori T.	論文	Molecules 2010, 15, 6559-6569. "Correlation between Cytotoxic Activities and Reduction Potentials of Heterocyclic Quinones"
Iwasa K., Cui W., Takahashi T., Nishiyama Y., Kamigauchi M., Koyama J., Takeuchi A., Moriyasu M., Takeda K.	論文	J. Nat. Prod. 2010, 73, 115-122. "Biotransformation of Phenolic Tetrahydroprotoberberines in Plant Cell Cultres Followed by LC-NMR, LC-MS, and LC-CD"
Nishiyama Y., Iwasa K., Okada S., Takeuchi S., Moriyasu M., Kamigauchi M., Koyama J., Takeuchi A., Tokuda H., Kim H.-S., Wataya Y., Takeda K., Liu Y.-N., Wu P.-C., Bastow K. F., Akiyama T., Lee K.-H.	論文	Heterocycles 2010, 81(5), 1193-1229. "GERANYL DERIVATIVES OF ISOQUINOLINE ALKALOIDS SHOW INCREASED BIOLOGICAL ACTIVITIES"
Koyama J., Taga S., Shimizu K., Shimizu M., Morita I., Takeuchi A.	論文	Anal. Bioanal. Chem. 2011, 401, 1385-1392. "Simultaneous determination of histamine and prostaglandin D2 using an LC-ESI-MS/MS method with positive/negative ion-switching ionization modes: Application to the study of anti-allergic flavonoids on the degranulation of KU812 cells
Koyama J., Moriyasu M., Kodama N.	研究ノート	Libra 2012, 12, 21-41. "神戸薬科大学新入生におけるキャリア・マップのアンケート調査と考察"
Kodama N., Shinoki M., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2012, 12, 43-54. "Open Office Hour Educational Assistance Program in Department of Basic Education Center for Pharmacy, Kobe Pharmaceutical University"

Kodama N., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2012, 12, 55-76. "Pharmaceutical Educational Tutoring System for Academic Improvement in Kobe Pharmaceutical University"
Koyama J., Sinoki M., Moriyasu M., Kamigauchi M., Kodama N.	研究ノート	Libra 2013, 13, 27-46. "Recent Trial of Learning Ability Improvement in the Basic Education Center for Pharmacy at Kobe Pharmaceutical University"
Kodama N., Adachi A., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2013, 13, 47-63. "The Relationship of Academic Learning Activity and Motivation in Retrieve Hour Educational Assistance Program in the basic Education Center for Pharmacy, Kobe Pharmaceutical University"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2006年1月～現在に至る	Editorial Advisory Board of "Recent Patents on Anti-Infective Drug Discovery"	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 田中 研治	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年4月～2013年12月	[英語]「読解力」、「語彙力」、「文法力」を養成するため、総合教材を使用し、英文読解のスキルだけでなく、発信 (表現) 用スキルにも重点を置いた授業を行っている。薬学英語への橋渡しの授業を常に心がけ、理系英語の教材を使用し、特に語彙力をつけるための小テストなどを併用している。一部の授業では、習熟度別クラスを設け、特に英文法力の強化を行っている (1年生のクラス)。 [総合文化演習]現代社会における日本人の非言語コミュニケーション行動とその諸問題を扱う演習を行っている。学生中心の文献調査、要約、発表、及びレポート作成を指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項		2009年4月～2012年12月 2009年4月～2012年3月	クラス担任及び学年主任として、種々の関係業務に従事。 図書館長の業務に従事。
II 研究活動			
氏名		種別	内容
田中 研治		注解	Libra 2010, 10, 75-91. 「ラトヴィア語童話注解: <i>Balta Pasaka</i> ～イマンツ・ジェドアニスの作品 <i>Visadas Pasakas</i> より抜粋～」

田中研治

田中 研治	翻訳	関西学院史紀要2011, 17, 7-50. 「ヤーニス・オアゾアリンシュ〜日本（神戸、1920〜21年）でラトヴィアの外交官と領事を務めた人物（シルヴィア・クリジェヴィツァ著）」
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1989年7月～現在に至る	バルト学研究促進学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 中江 裕子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2010年4月～2013年7月 2010年4月～2013年12月 2011年4月～2013年7月 2012年4月 2012年7月，2013年6月 2013年4月～2013年12月	4年次の「治験」の講義を担当 1年次の「社会薬学Ⅰ」、「社会薬学Ⅱ」の講義を分担 6年次の「医薬品開発Ⅰ」の講義を分担 大学院修士課程「医薬品研究開発特論」の講義を分担 大学院博士課程「薬学研究基盤形成教育」の講義を分担 3年次の「総合文化演習」を担当
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
中江裕子 他		著書	今日のOTC薬（南江堂 2009）
III 学会等および社会における主な活動			
1971年～	日本薬学会員		
1985年～	日本薬剤学会員		

中江

1985年～	日本薬物動態学会員
1998年～	日本臨床薬理学会員
2000年～	日本毒性学会員
2003年～	日本医療薬学会員
2007年～	日本医薬品情報学会員
2008年～	日本薬剤疫学会員
2009年～	日本アプライド・セラピューティクス学会員
2011年～	レギュラトリーサイエンス学会員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 太田 光照	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
(1) 薬学部学生への教育		2000年～現在に至る	神戸薬科大学薬学部3年生に臨床化学Ⅱ、4年生に臨床検査総論、薬学総合講座(病態治療関連領域)の講義を行っている。2003年に臨床検査学の教科書を作成し、これを用いている。教科書を内容的に補充するため、適宜プリントを配布している。また、薬剤師国家試験問題を参考資料として授業に利用している。
(2) 大学院学生への教育		2000年～2013年	神戸薬科大学薬学部大学院学生(社会人含む)に対し、臨床検査特論の講義を行っている。プリントを配布して解説するとともに液晶プロジェクターを用いて講義を行っている。最終時間には症例を提示し、それに関するレポートを提出させ、理解度を判定している。
(3) 他大学、薬学部学生への教育		2000年～2005年	大阪薬科大学にて臨床生化学を4年生前期に講義を行った(非常勤講師)。
(4) 薬学部学生への実習教育		2000年～2013年	神戸薬科大学薬学部3年生に後期医療薬学系Ⅰ実習(臨床化学, 2010年より臨床検査実習に名称変更)の実習を行っている。毎年、本実習に使用する実習書の改定をするとともに、その解説プリントの改定も行っている。実習日ごとに予習レポートを提出させるとともに、実習結果を教員とディスカッションした後、実習レポートを提出させている。
(5) 薬学部学生への教育		2000年～2013年	神戸薬科大学薬学部3年生12月より4年生10月まで研究室所属特論生への文献を利用した演習教育と、病態に関してテーマをひとつ選び、冊子体にまとめさせるとともに発表させている。研究室所属ゼミ生へは、病態に関してテーマをひとつ選び、冊子体にまとめさせるとともにそれを発表させている。また、ゼミ生へはひとつの研究課題を与え、卒業研究をおこない、8月に発表会を行っている。この間、課題に関する目的や意義について理解を深めさせている。
(6) 大阪薬科大学大学院学生への教育		2003年～2004年	大阪薬科大学大学院にて生化学特論の講義を行った。
(7) 神戸大学大学院医学研究科への教育		2007年～現在に至る	神戸大学大学院医学研究科にて薬物治療学の講義を行っている。
(8) 京都大学大学院薬学研究科への教育		2006年	京都大学大学院薬学研究科にて病態学特論の講義を行った。
(9) 薬学研究科大学院への教育環境の整備		2005年～2008年	神戸薬科大学大学院薬学研究科大学院主幹として大学院のカリキュラムの整備を行った。

(10) 薬学研究科大学院が特色GPに選定	2006年～2008年	文部科学省より修士課程での「実践的薬学教育による臨床指導薬剤師養成」に関する取り組みが特色GPに選定され、取組みの責任者としてプログラムを遂行した。
(11) 高大連携プログラムの実施	2008年～2009年	入試部長として高大連携プログラムを実施した。
(12) 学生支援センター長	2010年～2012年	教務課・学生就職課の運営を支援。
(13) エクステンションセンター事業委員長	2012年～現在に至る	本学が実施する生涯教育プログラム事業の企画・運営を行っている。
(14) 大学教育充実のための戦略的大学支援プログラム 医薬共同による創薬・育薬を担う医療人の育成を通じた 私立・国立大学間の連携	2009年～2011年	本事業のうち、医療障害研修支援プログラムワーキンググループの責任者として、関連事情を共催支援した。
(15) 薬学研究科大学院生への教育研究指導	2000年～2012年	神戸薬科大学薬学研究科医療薬科学専攻学生への研究指導（演習および特別実験）を行っている。ひとつの研究課題を与え、この課題に関する目的や意義について理解を深めさせながら研究を遂行させている。また、関連する研究論文について発表させ、研究の進め方や実験結果について討論し、研究に対する理解や進め方などを習得させ、発表方法についても学ばせている。得られた研究成果について学会に年数回発表できるように指導している。
(16) 神戸大学医学部の人材再生創出プログラムへの連携	2009年～現在に至る	神戸大学医学部附属病院での「医師・コメディカル統合的人材育成拠点形成」プログラムの実施に協力している。
2 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 疾患・病態モニタリングに必要な臨床検査知識	2002年	薬学部および看護学部、臨床検査・衛生検査学部の学部学生を対象とした臨床化学を中心とした教科書の分担執筆をした。 (p 89_143) 第2部 疾患の概要と臨床検査値および薬物治療 廣川書店 分担執筆：篠原力男、太田光熙、松葉和久
(2) タンパク質化学第1巻 毒素タンパク質 動物由来毒素 タンパク質	2003年	医学部、薬学部、理学部、農学部大学院生の参考書を作成し（編集者）、ヘビ毒素たんぱく質の章を分担執筆した。 (p 115_121) 細胞毒タンパク質（サイトトキシン、カルジオトキシン） 廣川書店 (編者：林 恭三、池田 潔、太田光熙) 分担執筆：太田光熙、林 恭三
(3) タンパク質化学第1巻 毒素タンパク質 植物・微生物 由来毒素タンパク質	2003年	医学部、薬学部、理学部、農学部大学院生の参考書を作成した（編集者）。廣川書店（編者：林 恭三、池田 潔、太田光熙）分担執筆：太田光熙、林 恭三
(4) 臨床検査項辞典：ミエリン塩基性蛋白	2003年	医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 839) 医歯薬出版株式会社（編者 櫻林郁之輔、熊坂一成）分担執筆：太田光熙、太田潔江

(5) 臨床検査項辞典：抗ミエリン塩基性蛋白抗体	2003年	医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 838) 医歯薬出版株式会社（編者 櫻林郁之輔、熊坂一成）分担執筆：太田光熙、太田潔江
(6) 臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレセプター結合型抗体	2003年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 835) 医歯薬出版株式会社（編者 櫻林郁之輔、熊坂一成）分担執筆：太田光熙、太田潔江
(7) 臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレセプター阻害型抗体	2003年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p 836) 医歯薬出版株式会社（編者 櫻林郁之輔、熊坂一成） 分担執筆：太田光熙、太田潔江
(8) SCAS NEWS 2003-II	2003年	医師、医学系研究者、医学部・薬学部学生用にヘビ毒中に含まれるたんぱく質の臨床応用例を解説した。 (p 3-6) 生理活性物質を利用した臨床検査分析-重症筋無力症関連自己抗体の測定法-
(9) 薬学領域における臨床医学	2004年	薬学部および看護学部、臨床検査・衛生検査学部の学部学生を対象とした臨床化学を中心とした教科書の分担執筆をした。 (p 89-143) 廣川書店 分担執筆：篠原力男、太田光熙、松葉和久
(10) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査（第6版） -その数値をどう読むか- 抗MuSK抗体	2005年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法のうち抗 MuSK 抗体の測定法を分担執筆した。 63巻(7) (p589-591) 日本臨牀 MuSK 抗体 分担執筆：太田光熙、太田潔江、重本和宏
(11) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査（第6版） -その数値をどう読むか- 抗AChR抗体	2005年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法のうち抗 AChR 抗体の測定法を分担執筆した。(p585-588) 日本臨牀 抗アセチルコリンレセプター抗体(非阻害型及び阻害型) 分担執筆：太田光熙、太田潔江
(12) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査（第6版） -その数値をどう読むか- 第6版	2005年	医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。63巻(7) (p596-598) 日本臨牀 ミエリン塩基性蛋白(MBP)と抗 MBP 抗体 分担執筆：太田光熙、太田潔江
(13) 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査（第6版） -その数値をどう読むか- 抗紡錘抗体	2005年	医師、医学系研究者、医学部学生用に膠原病の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 63巻(7) (p608-610) 日本臨牀 抗紡錘体関連抗体 分担執筆：尾林 博、和田 孝、太田光熙
(14) MuSK (Muscle-specific receptor tyrosine kinase) とは	2006年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の病態理解に必要な抗 MuSK 抗体に関する項目を解説した。 65巻(4) (p325-332) 神経内科 分担執筆：重本和宏、太田光熙
(15) レニンジャーの新生化学 上巻 第4版	2006年	薬学部、医学部向けの学部学生用として国際的に定評のある生化学の教科書のアミノ酸、ペプチド、蛋白の章を分担翻訳した。(p103-158) Chap. 3アミノ酸、ペプチドおよびタンパク質 廣川書店（編者：川崎敏祐、中山和久、監修：山科郁夫）分担執筆：太田光熙

(16) 薬学領域における臨床医学	2006年	薬学部および看護学部、臨床検査・衛生検査学部の学部学生を対象とした臨床化学を中心とした教科書の改訂版を分担執筆した。 (p89-143) 廣川書店 分担執筆: 篠原力男、太田光照、松葉和久
(17) 最新臨床検査項辞典：ミエリン塩基性蛋白	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p573-574) 医歯薬出版株式会社(編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆: 太田光照、太田潔江
(18) 最新臨床検査項辞典：抗ミエリン塩基性蛋白抗体	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に多発性硬化症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p574-575) 医歯薬出版株式会社(編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆: 太田光照、太田潔江
(19) 最新臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレセプター結合型抗体	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p571-572) 医歯薬出版株式会社(編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆: 太田光照、太田潔江
(20) 最新臨床検査項辞典：抗アセチルコリンレセプター阻害型抗体	2008年	医師、医学系研究者、医学部学生用に重症筋無力症の臨床診断に役立つ検査法を分担執筆した。 (p572-573) 医歯薬出版株式会社(編者 櫻林郁之輔、熊坂一成) 分担執筆: 太田光照、太田潔江
4 その他教育活動上特記すべき事項		
(1) FDへの参加	2002年8月10日～11日	第4回全国薬学教育者ワークショップ近畿(摂南大学)に参加した。
(2) 大学院主幹	2004年～2006年	大学院主幹として、大学院研究科の教育研究の運営に携わった。
(3) 入試部長	2008年～2010年	入試部長として、入試制度の改革に携わった。
(4) 副学長	2008年4月～2013年3月	副学長として学長を補佐し、大学の運営に協力。
II 研究活動		
氏名	種別	内容
太田 光照, 太田 潔江, 重本 和宏, 下駄 祐子	著書	『広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査(第7版) 3 -その数値をどう読むか-抗MuSK抗体』(日本臨床社, 2010) 68, 633-636.

太田 光熙, 太田 潔江	著書	『広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版) 3 ーその数値をどう読むかーミエリン塩基性蛋白 (MBP), 抗SGPG抗体, 抗ミエリンP0抗体 』 (日本臨床社, 2010) 68. 641-644.
尾林 博, 藤波 綾, 太田 光熙	著書	『広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版) 3 ーその数値をどう読むかー抗GMIおよびGQ1bガングリオシド抗体 』 (日本臨床社, 2010) 68. 645-647.
太田 光熙, 太田 潔江, 下駄 祐子	著書	『広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版) 3 ーその数値をどう読むかー抗アセチルコリン受容体 (AChR) 抗体ー結合型および阻害型抗体ー』 (日本臨床社, 2010) 68. 625-628.
尾林 博, 藤波 綾, 太田 光熙	著書	『広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版) 3 ーその数値をどう読むかー抗紡錘体関連抗体』 (日本臨床社, 2010) 68. 670-672.
太田 光熙, 太田 潔江	著書	『臨床検査基準値 EXPRESS 抗アセチルコリン受容体抗体』 (中外医学社, 2011) .284.
太田 光熙, 太田 潔江	著書	『臨床検査基準値 EXPRESS 抗MuSK抗体』 (中外医学社, 2011) .285.
Hasegawa G, Fukui M, Hosoda H, Asano M, Harusato I, Tanaka M, Shiraishi E, Senmaru T, Sakabe K, Yamasaki M, Kitawaki J, Fujinami A, Ohta M, Obayashi H, Nakamura N.	論文	Eur J Pharmacol 2009, 605(1-3), 164-169. "Telmisartan, an angiotensin II type 1 receptor blocker, prevents the development of diabetes in male Spontaneously Diabetic Torii rats."
Kimura I., Konishi M., Asaki T., Furukawa N., Ukai K., Mori M., Hirasawa A., Tsujimoto G., Ohta M., Itoh N., and Fujimoto M.	論文	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2009, 381(1), 75-80. "Neudesin, an extracellular heme-binding protein, suppresses adipogenesis in 3T3-L1 cells via the MAPK cascade."
Ando T, Ishikawa T, Kato H, Yoshida N, Naito Y, Kokura S, Kitawaki J, Nakamura N, Hasegawa G, Fukui M, Matsumoto N, Ohta M, Mizuno S, Ogata M, Obayashi H, Park H, Kitagawa Y, Nakano K, Yoshikawa T.	論文	Int J Cancer 2009, 125(11), 2595-2602. "Synergistic effect of HLA class II loci and cytokine gene polymorphisms on the risk of gastric cancer in Japanese patients with Helicobacter pylori infection."
藤本さおり, 今井佐恵子, 香西はな, 西山紋恵, 福村圭史, 高橋陽子, 金子真理子, 高村一成, 藤波綾, 太田光熙, 中埜幸治, 朴孝憲, 福井道明, 長谷川剛二, 中村直登, 緒方正和, 尾林博, 梶山静夫	論文	日本病態栄養学会誌 2009, 11(12), 149-155. 「境界型及び軽症2型糖尿病患者における各種種類摂取後血糖反応曲線」

大西克典, 太田光熙	論文	Food Style 2009, 21, 48-49. 「あした葉カルコンの抗メタボリックシンドローム作用」
Nakano K, Hasegawa G, Fukui M, Yamasaki M, Ishihara K, Takashima T, Kitagawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hara H, Adachi T, Ogata M, Obayashi H, Nakamura N.	論文	Endocr J. 2010, 57(5), 423-430. "Effect of pioglitazone on various parameters of insulin resistance including lipoprotein subclass according to particle size by a gel-permeation high-performance liquid chromatography in newly diagnosed patients with type
Takaoka Y., Ohta M., Takeuchi A., Miura K., Matsuo M., Sakaeda T., Sugano A., Nishio H.	論文	J Biochem. 2010, 148(1), 25-28. "Ligand orientation governs conjugation capacity of UDP-glucuronosyltransferase 1A1"
Park H, Ishigami A, Shima T, Mizuno M, Maruyama N, Yamaguchi K, Mitsuyoshi H, Minami M, Yasui K, Itoh Y, Yoshikawa T, Fukui M, Hasegawa G, Nakamura N, Ohta M, Obayashi H, Okanou T.	論文	J Gastroenterol. 2010, 45(4), 426-434. "Hepatic senescence marker protein-30 is involved in the progression of nonalcoholic fatty liver disease."
Park H, Hasegawa G, Shima T, Fukui M, Nakamura N, Yamaguchi K, Mitsuyoshi H, Minami M, Yasui K, Itoh Y, Yoshikawa T, Kitawaki J, Ohta M, Obayashi H, Okanou T.	論文	Clin Chem Acta 2010, 411(21-22), 1735-1740.. "The fatty acid composition of plasma cholesterol esters and estimated desaturase activities in patients with nonalcoholic fatty liver disease and the effect of long-term ezetimibe therapy on these levels."
Kimura I., Nakayama Y., Konishi M., Kobayashi T., Mori M., Ito M., Hirasawa A., Tsujimoto G., Ohta M., Itoh N., Fujimoto M.	論文	J. Neurochem. 2010, 112(5), 1156-1167. "Neuferricin, a novel extracellular heme-binding protein, promotes neurogenesis."
Ohta K, Kuno S, Inoue S, Ikeda E, Fujinami A, Ohta M.	論文	J Neurol Sci. 2010, 291(1-2), 12-16. "The effect of dopamine agonists: The expression of GDNF, NGF, and BDNF in cultured mouse astrocytes."
Matsumoto A, Ino T, Ohta M, Otani T, Hanada S, Sakuraoka A, Masumoto A, Ichiba M, Hara M	論文	Environ Health Prev Med. 2010, 15(4), 211-216. "Enzyme-linked immunosorbent assay of nicotine metabolites."
出崎美穂子, 藤波 綾, 長谷川浩司, 道下さおり, 向誠一郎, 奥川 斉, 早川みち子, 石原健造, 太田光熙	論文	医療薬学 2010, 35(10), 755-762. 「2型糖尿病関連薬剤費に関する調査研究-兵庫県立リハビリテーション中央病院での実態調査」
Kim SR, Saito J, Imoto S, Komaki T, Nagata Y, Nakajima T, Ando K, Fukuda K, Otono Y, Kim KI, Ohtani A, Sugimoto K, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hotta H, Maenaka Y, Hayashi Y, Kudo M.	論文	Digestion 2011, 84, 5-9. "Correlation between insulin resistance and outcome of pegylated interferon and ribavirin therapy, hepatic steatosis, hepatic fibrosis in chronic hepatitis C-1b and high viral load."

Park H, Shima T, Yamaguchi K, Mitsuyoshi H, Minami M, Yasui K, Itoh Y, Yosikawa T, Fukui M, Hasegawa G, Nakamura N, Nakamura N, Ohta M, Obayashi H, Okanoue T.	論文	J Gastroenterol 2011, 46, 101-107. "Efficacy of long-term ezetimibe therapy in patients with nonalcoholic fatty liver disease."
Fukui M, Senmaru T, Hasegawa G, Yamazaki M, Asano M, Kagami Y, Ishigami A, Maruyama N, Iwasa K, Kitawaki J, Itoh Y, Okanoue T, Ohta M, Nakamura N.	論文	Biochem Biophys Res Commun 2011, 415, 252-257. "17beta-Estradiol attenuates saturated fatty acid diet-induced liver injury in ovariectomized mice by up-regulating hepatic senescence marker protein-30."
Kobayashi N., Banzono E., Shimoda Y., Oyama H., Kunihiro T., Morita I., Ohta M.	論文	Anal. Methods 2011, 3(9), 1995-2002. "A monoclonal antibody-based enzyme-linked immunosorbent assay for human urinary cotinine to monitor tobacco smoke exposure."
Yamamoto A, Ashihara E, Nakagawa Y, Obayashi H, Ohta M, Hara H, Adachi T, Seno T, Kadoya M Hamaguchi M, Ishino H, Kohno M, Maekawa T, Kawahito Y.	論文	Immunol Lett 2011, 135, 144-150. "Allograft inflammatory factor-1 is overexpressed and induces fibroblast chemotaxis in the skin of sclerodermatous GVHD in a murine model."
Fukui M, Tanaka M, Toda H, Asano M, Yamazaki M, Hasegawa G, Imai S, Fujinami A, Ohta M, Nakamura N.	論文	Metabolism. 2012, 61(7):1021-5. "The serum concentration of allograft inflammatory factor-1 is correlated with metabolic parameters in healthy subjects"
Fukui M, Tanaka M, Asano M, Yamazaki M, Hasegawa G, Imai S, Fujinami A, Ohta M, Obayashi H, Nakamura N.	論文	Diabetes Res Clin Pract. 2012, 97(1):146-50. "Serum allograft inflammatory factor-1 is a novel marker for diabetic nephropathy"
Kim S R, EI-Shamy A, Imoto S, Kim K I, Ide Y, Deng L, Shoji I, Tanaka Y, Hasegawa Y, Ohta M, Hotta H.	論文	J Gastroenterol 2012, 47:1143-1151. "Prediction of response to pegylated interferon/ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C genotype 1b and high viral load"
Kimura I, Nakayama Y, Konishi M, Terasawa K, Ohta M, Itoh, N, Fujimoto M.	論文	Curr Protein Pep Sci. 2012, 13: 687-696. "Function of MAPR (membrane-associated progesterone receptor) family members as heme/steroid-binding proteins"
大西克典、藤波 綾、太田光熙	論文	FOOD Style 21, 2013, 17, 98-100. "あした葉カルコンがもつTNF- α およびMCP-1抑制作用"

Sugimoto K, Kim SR, EI-Shamy A, Imoto S, Ando K, Kim KI, Tanaka Y, Kim SK, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Takashi H, Hotta H, Hayashi Y, Kudo M.	論文	Dig Dis. 2013, 31: 421-425. "Factors of response to pegylated interferon/ribavirin combination therapy and mechanism of viral clearance."
Kim SR, EI-Shamy A, Imoto S, Kim KI, Sugimoto K, Kim SK, Tanaka Y, Hatae T, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hotta H, Kudo M.	論文	Dig Dis. 2013, 31: 426-433. "Prediction of response to pegylated interferon/ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C genotype 2a and 2b and high viral load."
Sugimoto K, Kim SR, EI-Shamy A, Imoto S, Fujioka H, Kim KI, Tanaka Y, Yano Y, Kim SK, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hatae T, Hotta H, Hayashi Y, Kudo M.	論文	Dig Dis. 2013, 31: 434-439. "Outcome of double-filtration plasmapheresis plus interferon treatment in nonresponders to pegylated interferon plus ribavirin combination therapy."
III 学会等および社会における主な活動		
2000年8月～現在に至る	日本生化学会評議員	
2000年8月～現在に至る	日本薬学会近畿支部役員	
2005年4月～2007年3月	日本薬学会近畿支部幹事	
2002年8月～現在に至る	日本臨床化学会評議員	
2009年4月～現在に至る	日本禁煙科学会学術委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	教授	氏名	韓 秀 妃	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		学外臨床教育・研究にかかわっている。			
2	作成した教科書、教材、参考書					
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年10月2日 2012年2月19日 2012年9月30日 2013年7月28日 2013年9月22日-23日	最新の関節リウマチ治療薬 (神戸薬科大学同窓会生涯教育企画委員会研修-香川) 関節リウマチの薬物治療 (神戸薬科大学同窓会生涯教育企画委員会研修-徳島) 関節リウマチの治療薬 (神戸薬科大学同窓会生涯教育企画委員会研修-北陸) 1. let's try! 簡易懸濁法、2. 添付文書・IF 活用していますか? (神戸薬科大学同窓会生涯教育企画委員会研修-南九州) Facebookを利用した健康食品指導薬剤師のスキルアップ研修 (第46回日本薬剤師会学術大会)			
4	その他教育活動上特記すべき事項 エクステンションセンター生涯教育企画委員	2007年～現在	リカレントセミナー、卒後研修講座の企画、運営にかかわっている。			
II 研究活動						
氏名		種別	内容			
川崙 英二、森本 由美、鎌倉 彩、國広 俊臣、韓 秀妃、弘岡 貴子、岩川 精吾		論文	日本病院薬剤師会雑誌 2009, 45(12), 1595-1598. 「外来化学療法実施乳がん患者における悪心・嘔吐対策変更による有害事象発現への影響」			

韓 秀妃	著書	学生のための病院・薬局実習テキスト2008-'09年版, (病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会編) 71-90, じほう, 2008
韓 秀妃	著書	薬剤業務安全児童のポイント 外観類似対策について, HANDS ON, 4(2), 48-53, じほう, 2009
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1999年4月～2006年3月	和歌山県病院薬剤師会理事	
2001年～2003年	和歌山労災病院看護専門学校非常勤講師	
2004年4月～2006年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2006年～2010年	関西労災病院看護専門学校非常勤講師	
2006年4月～2010年3月	兵庫県病院薬剤師会常任理事	
2010年4月～2011年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2000年1月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師・指導薬剤師	
2007年4月～2010年9月	阪神がん治療専門薬剤研究会幹事	
2008年4月～現在	認定実務実習指導薬剤師	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 教授	氏名 渡 雅克	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年4月～現在	4年次の実務実習事前学習及び5年次の学外実務実習
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
森本典子, 吉岡睦展, 小川佳美, 中川史絵, 近藤万友美, 牧 亜由美, 竹本聖, 正置耕一, 辻隆志, 渡雅克		学会報告	電子カルテ対応持参薬管理システムの構築(II): 健康食品・市販薬を 含めた術前評価, 第19回日本医療薬学会年会, 長崎, (2009) .
新 康憲, 吉岡 睦展, 石村 さおり, 折田 環, 萩原 裕子 , 春藤 和代, 児島 正道, 森 亜子, 渡 雅克, 竹中 雅彦		学会報告	緑膿菌の多剤耐性化防止に対する薬学的インターベーションとその効 果, 第19回日本医療薬学会年会, 長崎, (2009) .
中川 史絵, 吉岡 睦展, 小川 佳美, 森本 典子, 新 康憲 , 橋本 百世, 西山 祐美, 梶 佐知子, 辻 隆志, 渡 雅克		学会報告	電子カルテ対応持参薬管理システムの構築(I): 入院前からの薬剤管 理, 第19回日本医療薬学会年会, 長崎, (2009) .
北田徳昭, 西野雅行, 安田潤, 森田聡子, 藤井千賀, 峯垣哲 也, 近藤万友美, 阿南節子, 高良恒史, 渡雅克		論文	一般病院における乳がん化学療法の均てん化をめざして(第2報)—FEC およびTC療法における安全性の検討—, 癌と化学療法, 36(10): 1671-1675, 2009.

近藤万友美, 北田徳昭, 小林睦, 森田聡子, 吉岡睦展, 辻隆志, 森亜子, 岡本隆弘, 渡雅克	論文	R-CHOP療法施行中のB型肝炎の再燃に対するEntecavir投与により薬物性肝障害を発症した非ホジキンリンパ腫の1例, 癌と化学療法, 36(7): 1199-1201, 2009.
吉岡睦展, 森亜子, 近藤万友美, 岡本隆弘, 山下邦洋, 折田環, 児島正道, 春藤和代, 新康憲, 渡雅克, 竹中雅彦	学会報告	リネズリドの長期投与が奏効した急性骨髄性白血病に併発した多発性MRSA膿瘍の1症例, 第58回日本化学療法学会総会, 長崎, (2010).
正置耕一, 吉岡睦展, 近藤万友美, 石津智司, 梶佐知子, 森本典子, 小川佳美, 渡雅克	学会報告	経口抗癌剤におけるプロトコール登録制導入について, 第20回日本医療薬学会年会, 千葉, (2010).
中川史絵, 吉岡睦展, 渡雅克	雑誌・総説	電子カルテを利用した入院前からの薬剤管理, 薬局, 61(9): 2951-2956, 2010.
森本典子, 吉岡睦展, 渡雅克	雑誌・総説	健康食品・市販薬を含めた持参薬の術前評価, 薬局, 61(9): 2958-2964, 2010.
正置耕一, 吉岡睦展, 近藤万友美, 石津智司, 梶佐知子, 森本典子, 小川佳美, 渡雅克	学会報告	外来患者の持参薬確認業務の現状と課題, 第32回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, (2011).
杉生雅和, 正置耕一, 吉岡睦展, 古出直子, 岩野千洋, 近藤万友美, 渡 雅克	学会報告	側管投与における注射薬配合変化情報の提供, 第32回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, (2011).
渋谷奈穂, 近藤万友美, 中川史絵, 安田 優, 西野雅行, 吉岡睦展, 渡 雅克	学会報告	宝塚市立病院ブレストケアチームでの化学療法における副作用マネジメントについて, 第32回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, (2011).
小川佳美, 吉岡睦展, 石津智司, 近藤万友美, 長尾彰太, 杉生雅和, 牧 亜由美, 岩野千洋, 恩田誠二, 平野泰健, 大道真由美, 内海美穂, 白川晶一, 渡 雅克	学会報告	フィジカルアセスメント研修の実施 -兵庫県病院薬剤師会西宮支部会の試み-, 第32回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, (2011).
石津智司, 吉岡睦展, 新康憲, 杉生雅和, 春藤和代, 折田環, 渡雅克, 小林敦子, 竹中雅彦	学会報告	腹腔鏡下胆嚢摘出術における予防抗菌薬の実態調査, 第21回日本医療薬学会年会, 神戸, (2011).
近藤 万友美, 正置 耕一, 古出 直子, 渋谷 菜穂, 中川史絵, 吉岡 睦展, 坂口 亜衣子, 新本 利恵, 山本 哲久, 吉崎 仁胤, 渡 雅克	学会報告	抗EGFR抗体療法に対する皮膚障害予防療法とスキンケア指導の有用性に関する検討, 第21回日本医療薬学会年会, 神戸, (2011).
杉生雅和, 吉岡睦展, 新康憲, 石津智司, 折田環, 渡雅克, 小林敦子, 竹中雅彦	学会報告	Clostridium difficile関連下痢症を併発した腸腰筋膿瘍に対しLZDが著効した一例, 第59回日本化学療法学会西日本支部会, 奈良, (2011).

新 康憲, 吉岡睦展, 小林敦子, 石津智司, 杉生雅和, 折田環, 春藤和代, 渡 雅克, 飯田健二郎, 竹中雅彦	学会報告	リネゾリドを投与した一症例, 第28回TDM学会, 広島, (2011) .
新康憲, 吉岡睦展, 石津智司, 杉生雅和, 春藤和代, 折田環, 小林敦子, 渡雅克, 竹中雅彦	論文	トラフ値 $15\mu\text{g/mL}$ 以上を目標としたテイコプラニン負荷投与量設計に関する検討, TDM研究, 29(3): 192-192, 2012.
吉岡睦展, 山本哲久, 新康憲, 山田美和, 石津智司, 杉生雅和, 折田環, 小林敦子, 春藤和代, 渡雅克, 竹中雅彦	論文	Tsukamurella手指骨髄炎にバンコマイシンおよびリネゾリドを使用した一症例, TDM研究, 29(3): 185-185, 2012.
新康憲, 吉岡睦展, 小林敦子, 石津智司, 杉生雅和, 折田環, 春藤和代, 渡雅克, 飯田健二郎, 竹中雅彦	論文	一側腎摘後のMRSAカテーテル関連血流感染に対しバンコマイシンおよびリネゾリドを投与した一症例, TDM研究, 29(1): 21-24, 2012.
III 学会等および社会における主な活動		
1976年4月～現在に至る	日本病院薬剤師会会員	
1990年4月～現在に至る	日本医療薬学会会員	
2004年4月～2008年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2008年4月～2012年3月	兵庫県病院薬剤師会常任理事	
2008年4月～2010年3月	日本病院薬剤師会 編集委員会 地域編集委員	
2008年4月～2012年3月	日本病院薬剤師会 予備代議員	
2008年4月～2010年3月	兵庫県病院薬剤師会西宮支部長	

専任教員の教育・研究業績

所属 社会科学研究室	職名 准教授	氏名 松家 次朗	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2002年1月～2006年3月	「社会薬学」において薬学及び薬剤師の仕事を社会学及び倫理学の視点から講義を行う。	
	2002年1月～2006年3月	「社会学」Ⅰ・Ⅱにおいて現代社会の問題とその倫理的側面を論じる。「総合講座」ⅠB・ⅡBでは、生命倫理学とその実践的側面を突き合わせた講義を行う。	
	2002年1月～2008年3月	「倫理学」Ⅰ・Ⅱにおいて医療倫理と生命倫理を講義する。総合講座A・Bでは主に現代社会の問題と医療及び生命倫理学の問題を取り上げ、学生の資料調査、発表、及びレポート指導を行う。	
	2002年4月～	大学院の前期課程において「医療倫理学特論」を担当し、生命倫理学の成立背景と考え方を論ずるとともに医療専門職の倫理についても講義を行う。(ただし開講年度は隔年である)	
	2002年4月～	神戸大学医学系大学院において「保健倫理学特論」を担当し、主に医療専門職の倫理学を講義する。(オムニバス形式)	
	2006年4月～	「社会薬学」Ⅰ・Ⅱでは、生命倫理学の成立背景と基本的な事例を参考に、生命倫理学の基本的な考え方を論じ、さらに、医療専門職としての薬剤師の倫理について講義を行う。(ただし、2013年4月より「社会薬学」Ⅱのみの講義)「現代社会論」では、民主主義社会における行動規範の基本的構造を具体的問題を取り上げながら講義する。「医療と人間」では、終末期をめぐる種々の倫理的・社会的問題を取り上げながら講義を行う。「総合文化演習」Ⅰ(平成25年度より「総合文化演習」に名称変更)では、現代医療の問題をテーマとし、学生の資料調査、発表、及びレポート作成の指導を行う。	
	2008年4月～	「生命倫理学」と「医療倫理学」において各倫理における主要問題と課題をとりあげ、ケーススタディーも援用しながら講義を行う。「総合文化演習」Ⅱ(平成26年度より廃止)では、医療における倫理的問題をテーマとして、学生の資料調査、発表、レポート作成の指導を行う。	
	2012年4月～ 2013年4月～	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程において「薬学研究基盤形成」(オムニバス形式)で生命倫理について講義を行う。 「教養リテラシー」において発表、調査、レポートの書き方指導を行う。	

2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2005年4月～2007年4月 2013年4月～	早期体験学習の担当委員の一人となり新入生全員を対象とした早期体験学習を指導する。 (同上)
II 研究活動		
氏名	種別	内容
松家次朗	翻訳	ジョン・グレゴリー(1724-1773)の業績紹介(神戸薬科大学研究論集Libra第12号, 2012年3月)
松家次朗	翻訳	ジョン・グレゴリー「医師の義務と資格に関する講義(承前)」(神戸薬科大学研究論集Libra第13号, 2013年3月)
松家次朗	翻訳	ジョン・グレゴリー「医師の義務と資格に関する講義(承前)」(神戸薬科大学研究論集Libra第14号, 2014年3月)
III 学会等および社会における主な活動		

専任教員の教育・研究業績

所属	生命有機化学研究室	職名	准教授	氏名	山野 由美子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1985年4月～現在に至る		「有機化学系Ⅲ実習」(以前は有機化学系Ⅱ実習あるいは機器分析学実習と称した：現在は3年次生に配当)を指導している。学生がより理解を深められるよう討議を活発に行い、また、関連した国家試験問題も紹介して解説している。		
		1985年4月～現在に至る		研究室に配属された学部学生および大学院生の研究指導を行っている。実験操作法、実験ノート作成の仕方、研究の進め方、文献の読み方など、基本からの指導を行っている。また、定期的に報告書を作成させ、卒業前にはパワーポイントを用いて口頭発表を行わせている。 大学院生に対しては、学会での発表指導や論文作成の指導も行っている。		
		2004年4月～現在に至る		「有機化学演習」を受け持ち、有機化学の演習を行っている。電子の動きにより化学反応が説明できることを理解させるために、電子の動きを中心に冊子にまとめて教材とした。小テストを随時行い、理解度を確認すると共に、指導方法の参考とした。		
		2007年10月～現在に至る		2年次生に対する授業科目として、「有機化学Ⅳ」の講義を行っている。教科書の重要な説明文には赤線を引かせ、また、黒板にできるだけ反応機構をカーブした矢印で書き、復習がしやすくなるように努めている。また、授業時間内に練習問題をいくつか解かせ、本人が理解度をチェックできるよう工夫している。		
		2009年10月～現在に至る		4年次生に対する授業科目として、「有機化学Ⅶ」の講義を行っている。医薬品合成を例として、これまでに習った有機化学がどのように応用されているか解説している。CBT受験前であることを意識し、基本的な反応を復習できるよう努めている。また、教材冊子の中には問題を掲載し、自主学习がしやすいよう工夫している。		
		2009年10月～現在に至る		2年次生に対する授業科目として、「生物有機化学」の講義を行っている。生体成分の性質と反応を有機化学的に理解できるよう、黒板にできるだけ構造式を書き、どの官能基がどのように反応するのか解説している。また、要点をまとめた冊子を作成し、教科書のページ数も記載して、自主学习しやすいよう工夫している。		

<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>	<p>2004年～現在 2009年～現在 2009年～現在 ～現在</p>	<p>「化学系基礎演習Ⅰ」の教材作成：電子の動きにより化学反応が説明できることを理解させるために、電子の動きを中心に冊子にまとめた。また、練習問題を多く掲載した。 「生物有機化学」の教材作成：生体成分の性質と反応を有機化学的に理解できるよう要点にまとめた。 「有機化学Ⅶ」の教材作成：これまでに習った有機化学の知識で理解できる医薬品合成例と、スペクトルを冊子にまとめた。 「有機化学系Ⅲ実習書」の作成</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 なし</p>		
<p>Ⅱ 研究活動</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>山野 由美子, 都出 千里, 和田 昭盛</p>	<p>著書</p>	<p>『カロテノイドの科学と最新応用技術』（シーエムシー出版, 2009） pp. 38-48.</p>
<p>Yamano Y., Chary M. V., Wada A.</p>	<p>論文</p>	<p>Chem. Pharm. Bull. 2010, 58(10), 1362-1365. "Carotenoid and related polyenes, Part 12 First total synthesis and absolute of 3'-deoxycapsanthin and 3,4-didehydroxy-3'-deoxycapsanthin"</p>
<p>Wada A., Wang F., Suhara Y., Yamano Y., Okitsu T., Nakagawa K., Okano T.</p>	<p>論文</p>	<p>Bioorg. Med. Chem. 2010, 18(16), 5795-5806. "Efficient synthesis and biological evaluation of demethyl geranylgeranoic acid derivatives"</p>
<p>Yamano Y., Tsuboi K., Hozaki Y., Takahashi K., Jin X.-H., Ueda N., Wada A.</p>	<p>論文</p>	<p>Bioorg. Med. Chem. 2012, 20, 3658-3665. "Lipophilic amines as potent inhibitors of N-acylethanolamine-hydrolyzing acid amidase"</p>

Yamano Y., Chary M. V., Wada A.	論文	Org. Bioorg. Chem. 2012, 10, 4103-4108. "Stereoselective total synthesis of the acetylenic carotenoids alloxanthin and triophaxanthin"
Yamano Y., Chary M. V., Wada A.	論文	Org. Lett. 2013, 15, 5310-5313. "Stereocontrolled First Total Syntheses of Amarouciaxanthin A and B"
Sato S., Fukagawa T., Tachibanaki S., Yamano Y., Wada A., Kawamura S.	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288, 36589-36597. "Substrate Specificity and Subcellular Localization of the Aldehyde-Alcohol Redox-coupling Reaction in Carp Cones"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1983年1月～現在に至る	日本薬学会会員	
1986年1月～現在に至る	日本ビタミン学会会員	
1995年1月～現在に至る	日本カロテノイド研究会会員	
2002年4月～現在に至る	有機合成化学協会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 中央分析室	職名 准教授	氏名 竹内 敦子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年4月～2013年12月 2002年4月～2010年12月 1981年4月～2013年12月	<p>分析化学III(分担)、薬学英語入門I、薬学英語入門IIの講義を担当した。3年次前期で担当する分析化学IIIでは、生体分子を解析する方法としての質量分析法を習熟させることを目的として講義を行った。3年次前・後期で担当する薬学英語入門I・IIでは、医療や薬学などを中心とする自然科学の分野で必要とされる英語の基礎的な知識を修得し、同時に理系英語の初歩的な技能と運用能力を養成することを目的として講義を行った。</p> <p>実習としては、2002年から2007年度まで有機化学系実習II、2008年度から現在まで有機化学系III実習を担当した。質量分析計の前での測定を実演したり、自ら作成したポスターを使って質量分析に対する理解を深めるための努力をするとともに、国家試験を意識した解説も行った。</p> <p>毎年数名のゼミ生ならびに大学院生の指導を行った。質量分析を通して、研究の目的、実験結果の考え方を把握し、さらなる研究意欲を培わせることを心がけて指導を行った。また、プレゼンテーションについても、わかりやすく聞き手に伝えるかをポイントにおいて指導した。大学院講義では、学生が研究に活用できるような質量分析に関する最近の話題について講義した。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書			質量分析法の原理や基礎的内容を学習するための図式化などを取り入れたプリント教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			

II 研究活動		
氏名	種別	内容
Tode C., Takeuchi A., Iwakawa S., Tatsumi A., Sugiura M.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57, 653-656. "Hydrogen-Deuterium (H-D) Exchange Reaction of Warfarin in D2O Solution"
Iwasa K., Okada S., Nishiyama Y., Takeuchi S., Moriyasu M., Tode M., Sugiura M., Takeuchi A., Tokuda H., Takeda K., Liu Y.-N., Wu P.-C., Bastow K. F., Akiyama T., Li K.-H.	論文	Heterocycles 2009, 77, 1355-1369. "Geranyl Derivatives of Salisolinol Show increased Biological Activities"
Shibata A, Morioka I, Ashi C, Nagasaki S, Tode C, Morikawa S, Miwa A, Enomoto M, Saiki K, Yokoyama N, Takeuchi A, Matsuo M	論文	Clin Chim Acta. 2009, 402(1-2), 124-128. "Identification of N-acetyl Proline-Glycine-Proline (acPGP) in human serum of adults and newborns by liquid chromatography-tandem mass spectrometry."
Koyama J., Takeuchi A., Tode C., Shimizu M., Morita I., Nobukawa M., Kobayashi N.	論文	J. Chromatogr. B 2009, 877, 207-212. "Development of an LC-ESI-MS/MS method for the determination of histamine: Application to the quantitative measurement of histamine degranulation by KU812 cells. "
Koyama J., Takeuchi A., Morita I., Nishino Y., Shimizu M., Inoue M., Kobayashi N.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2009, 17, 7493-7499. "Characterization of emodin metabolites in Raji cells by LC-APCI-MS/MS."
Morita S., Takeuchi A., Kitagawa S.	論文	Biochem. J. 2010, 432(2), 387-398. "Functional analysis of two isoforms of phosphatidylethanolamine N-methyltransferase"
Maekawa Y., Sugiura M., Takeuchi A., Tomoo K., Ishida T., Kamigauchi M.	論文	Helv. Chim. Acta 2010, 93(5), 991-998. "Study of Lysozyme Glycation Reaction by MS and NMR Spectroscopy"
Nishiyama Y., Iwasa K., Okada S., Takeuchi S., Moriyasu M., Kamigauchi M., Koyama J., Takeuchi A., Tokuda H., Kim H.-S., Wataya Y., Takeda K., Liu Y.-N., Wu P.-C., Bastow K. F., Akiyama T., Lee K.-H.	論文	Heterocycles 2010, 81(5), 1193-1229. "GERANYL DERIVATIVES OF ISOQUINOLINE ALKALOIDS SHOW INCREASED BIOLOGICAL ACTIVITIES"

Iwasa K., Cui W., Takahashi T., Nishiyama Y., Kamigauchi M., Koyama J., Takeuchi A., Moriyasu M., Takeda K.	論文	J. Nat. Prod. 2010, 73, 115-122. "Biotransformation of Phenolic Tetrahydroprotoberberines in Plant Cell Cultures Followed by LC-NMR, LC-MS, and LC-CD"
Takaoka Y., Ohta M., Takeuchi A., Miura K., Matsuo M., Sakaeda T., Sugano A., Nishio H.	論文	J Biochem. 2010, 148(1), 25-28. "Ligand orientation governs conjugation capacity of UDP-glucuronosyltransferase 1A1"
Yusoff S, Takeuchi A, Ashi C, Tsukada M, et al.	論文	Pediatr. Res. 2010, 67(4), 401-496. "A polymorphic mutation, c.-3279T>G, in the UGT1A1 promoter is a risk factor for neonatal jaundice in the Malay population."
Nakagawa T., Takeuchi A., Kakiuchi R., Lee T., Yagi M., Awano H., Iijima K., Takeshima Y., Urade Y., Matsuo M.	論文	Clin. Chim. Acta. 2013, 423(1), 10-14. "A prostaglandin D2 metabolite is elevated in the urine of Duchenne muscular dystrophy patients and increases further from 8 years old."
Yamamoto T., Sato H., Lai P.S., Nurputra D.K., Harahap N.I., Morikawa S., Takeuchi A., Takeshima Y., Matsuo M., Nishio H., et al.	論文	Brain Dev. 2013, , . "Intragenic mutations in SMN1 may contribute more significantly to clinical severity than SMN2 copy numbers in some spinal muscular atrophy (SMA) patients."
Nurputra, D.K., Lai, P.S., Harahap, N.I., Morikawa, S., Yamamoto, T., Nishimura, N., Kubo, Y., Takeuchi, A., Saito, T., Takeshima, Y., Tohyama, Y., Tay, S.K., Low, P.S., Saito, K., Nishio, H.	総説	Ann. Hum. Genet. 2013, 77(5), 435-463. "Spinal Muscular Atrophy: From Gene Discovery to Clinical Trials."
III 学会等および社会における主な活動		
1981年～2009年	日本ビタミン学会会員	
1981年～	日本薬学会会員	
2001年～	日本質量分析学会会員	
2004年～	日本医用マススペクトル学会会員	
2005年～	American Society for Mass Spectrometry会員	
2006年7月	第33回BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンス実行委員	
2010年7月	第37回BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンス実行委員	
2013年7月	第回BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンス実行委員長	

専任教員の教育・研究業績

所属 英語第一研究室	職名 准教授	氏名 赤井 朋子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
英語		1992年～現在に至る	1年生、2年生を対象に英語の総合的な運用能力(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の養成を目的とした授業を行う。具体的な授業の内容は科目や年度によって異なり、教科書も様々なものを使用してきたが、例えば、自然科学に関連した語彙力を強化するもの、評論文の読解力をのばすもの、速読に重点を置いたもの、英文法の復習に重点を置くもの、音声教材を用いたリスニング力強化を目指すもの、英作文の力を養成するもの等がある。2013年度から導入された選択必修制の英語の授業(2年生)においては、病院での簡単な英会話や、医療に関する英文の講読を行っている。
総合文化演習		1995年～現在に至る	2年生を対象に演習形式の授業を行う。映画や演劇に関するゼミとイギリス文化に関するゼミを担当。作品鑑賞とディスカッション、あるいは、文献購読とその要約といった演習を行い、その上で、学生の研究発表とレポート作成を指導する。小グループに分かれて特定の課題についてのディスカッションを行うなど、学生自らが考え発信できるように工夫している。また、演劇や映画を通して人間や文化に対する理解を深めることを目指しており、学生の発言をポジティブに評価しながら演習を行うように心がけている。
早期体験学習		2005年～現在に至る	新入生の早期体験学習が円滑に行われるように様々な形で学生のサポートを行っている。特に、2005年、2009年、2013年には新入生の担任としてクラス授業を行い、体験学習後のプレゼンテーションの指導や、報告書原稿の添削等を行った。また、学生の学習先である病院や薬局を訪問したり、学生の引率を行ったりもしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
授業のプリントを作成			例えば、2014年度の英語V、VIにおいては、学生が予習しやすいように、各章毎に予習プリントを作成し配布している。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「総合文化演習」の報告集を作成	2002年～2011年	各年度末に、その年度の「総合文化演習」の授業内容報告を執筆。また、受講した学生のレポートも合わせて掲載。
4 その他教育活動上特記すべき事項 入学予定者のための英語教育 クラス担任 他大学の学部生への教育	2003年～現在に至る 2005年～現在に至る 2009年	推薦入試による入学予定者に、あらかじめ問題集を配布しておき、3月にそれに関する解説の授業を行っている。 クラス担任として、種々の関係業務に従事。 三重大学において「ことばと文化」（オムニバス講義）の講義を行った。
II 研究活動		
氏名	種別	内容
赤井 朋子	研究ノート	Libra 2010, 10, 51-73. 「アンドレ・シャルロの『こちらロンドン！』ーイギリス1920年代のレビューに関する覚え書きー」
赤井 朋子	研究ノート	Libra 2011, 11, 75-99. 「チャールズ・コ克蘭の『ダンスを続けて』ーイギリス1920年代のレビューに関する覚え書きー」
赤井 朋子	研究ノート	Libra 2013, 13, 1-26. 「チャールズ・コ克蘭の『この恵みの年！』ーイギリス1920年代のレビューに関する覚え書きー」
赤井 朋子	エッセイ	近現代演劇研究 2009, 2, 32. 「俳優としてのハロルド・ピンター」
赤井 朋子	エッセイ	劇Drama 2010, 46, 8-9. 「『寄席』のレビューから『劇場』のレビューへー1910年代イギリス演劇の一側面」

赤井 朋子	口頭発表	IFTR Annual Conference (2009.07.15 Lisbon). "The Lord Chamberlain and the Popular Playwright of the West End Theatre: How Noël Coward Reacted to Theatre Censorship"
赤井 朋子	口頭発表	近現代演劇研究会 (2009.10.17 豊中). 「都市と演劇—ロンドンの場合」
赤井 朋子	口頭発表	日本英文学会関西支部大会 (2011.12.18 吹田). 「両大戦間期のウェストエンドにおけるイギリスのレビューの成立」
赤井 朋子	口頭発表	日本演劇学会全国大会 (2013.6.22 東京). 「1910年代のヴァラエティ劇場—坪内士行の見たレビュー」
赤井 朋子	口頭発表	英米文化学会分科会 (2013.7.13 東京). 「ロンドン・コリシアム—ヴァラエティ劇場時代」
赤井 朋子	口頭発表	英米文化学会第142回例会 (2013.11.9 東京). 「ヴァラエティ劇場時代のロンドン・コリシアム—寄席と劇場の関係」

III 学会等および社会における主な活動

1992年4月～現在	日本英文学会、日本シェイクスピア協会会員
2000年4月～現在	日本演劇学会会員
2004年4月～現在	日本比較文化学会会員
2004年6月～2008年6月	日本演劇学会幹事
2006年8月～現在	国際演劇学会会員
2010年4月～2011年8月	IFTR Osaka実行委員 (working group coordinator)
2011年8月～現在	英米文化学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属 製剤学研究室	職名 准教授	氏名 寺岡 麗子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		1979年－2009年3月	神戸薬科大学学生に特別実習指導を行っている。製剤学研究室に分属された3年次～4年次の特別実験コース学生に教員又は大学院生の指導のもと一つのテーマに関して卒業実験を行わせている。実験終了時に最終報告会を開き、各自の成果をOHPとプリントによって口述発表の後、質疑応答を通じて自らの研究テーマと実験内容の位置づけを確認させている。学生全員の成果をその年度の報告書として製本し、ファイルするとともに学生にも配布している。
		1995年-現在に至る	神戸薬科大学大学院薬学研究科学生への研究指導を行っている。研究室で行う論文抄読会において各自の研究分野又はその周辺の学術論文の内容について報告・紹介させ、自分の研究での活用、プレゼンテーション能力の向上及び客観的な論文評価能力を培わせている。また、定期的に研究テーマについて報告させ、現在の自分の研究内容について進展状況や問題点を多面的に把握できるよう指導を行っている。学会にも積極的に参加し、プレゼンテーション及びディスカッションの能力が向上するよう努めている。
		2006年4月-現在に至る	神戸薬科大学薬学部6年制の1年次に情報リテラシーの講義・演習を行っている。ネットワーク使用上のマナーやソフトウェア使用上のルールやマナーを守ることに重点を置きながら、情報の授受に必要なコンピュータの利用法やインターネットを利用した情報の収集、開示、データベースの使用法、プレゼンテーションやレポート作成に必要なword、excel、powerpointの使用法などに関する基礎的知識や技能について講義し、演習を行った。
		2008年4月～現在に至る	神戸薬科大学薬学部6年制の4年次の実務実習事前教育の指導を前後期に行っている。前期では製剤関連実習（製剤の調製や物性測定及び製剤試験法について）を実際の製剤機械や製剤試験機を用いて行っている。後期では無菌操作及び抗悪性腫瘍剤の取扱いについて、講義を行い、基本的な手技が実践できるよう指導している。

	2008年9月～現在に至る	神戸薬科大学薬学部6年制の3年次に薬剤設計学の講義を行っている。実際に市販されている製剤の写真を多く用いたpowerpoint資料を用いて講義を行い、剤形についての理解を高めるようにしている。この講義資料は、印刷物として講義前に配付している。また、講義内容の小テストを5回程度行い、講義内容が把握できるようにしている。
	2011年4月～現在に至る	神戸薬科大学薬学部6年制の6年次に医薬品開発Ⅰの講義を分担して行っている。薬価、ジェネリック医薬品、オーファンドラッグについて講義を行っている。
	2009年12月～現在に至る	神戸薬科大学薬学部6年制の4～6年次の学生に卒業研究Ⅰ、Ⅱの指導を行っている。製剤学研究室に所属された4年次～6年次の学生に一つのテーマに関して卒業実験又は文献調査を行わせている。また、英語論文を読み、まとめて発表させている。終了時には各自の成果をまとめて報告書として提出させ、製本し、学生にも配布しており、研究室及び学内報告会で成果を口述発表させている。
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年9月～現在に至る	実務実習事前教育実習テキスト 前期
	2008年9月～現在に至る	実務実習事前教育実習テキスト 後期
	2012年11月～現在に至る	ベーシック薬学教科書シリーズ20 薬剤学（第2版）（化学同人）を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2007年7月～現在に至る	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 近畿にタスクフォースとして参加し、認定実務実習指導薬剤師養成に関わっている。
II 研究活動		
氏名	種別	内容
寺岡 麗子, 横山 郁子, 杉本 功, 牛尾 真奈美, 北河 修治	論文	医療薬学 2009, 35(6), 395-402. "フロセミド錠の光安定性に及ぼす着色 P T P 包装材料の影響"

Teraoka R., Matsushima Y., Sugimoto I., Inoue K., Morita S., Kitagawa S.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(12), 1343-1347. "Effect of pharmaceutical excipients on the stability of trichlormethiazide tablets under humid conditions"
Kitagawa S., Inoue K., Teraoka R., Morita S.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2010, 58(3), 398-401. "Enhanced Skin Delivery of Genistein and Other Two Isoflavones by Microemulsion and Prevention against UV"
Shuji Kitagawa, Kenta Yoshii, Shin-ya Morita, Reiko Teraoka	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59, 793-796. "Efficient Topical Delivery of Chlorogenic Acid by an Oil-in-Water Microemulsion to Protect Skin against UV-Induced Damage"
Shin-ya Morita, Noriaki Ikeda, Manami Horikami, Kuriko Soda, Kosuke Ishihara, Reiko Teraoka, Tomohiro Terada, Shuji Kitagawa	論文	FEBS Journal 2011, 278, 4768-4781. "Effects of phosphatidylethanolamine N-methyltransferase on phospholipid composition, microvillus formation and bile salt resistance in LLC-PK1 cells"
沼田 千賀子, 寺岡 麗子, 八木 敬子, 江本 憲昭, 平井 みどり, 北河 修治	論文	日本緩和医療薬学雑誌 2011, 4(4), 117-124. "フェンタニル経皮吸収型製剤による皮膚症状に対するテガダーム®の軽減効果に関する調査"
Shin-ya Morita, Sachimi Shirakawa, Yukiko Kobayashi, Keiko Nakamura, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa, Tomohiro Terada	論文	J. Lipid Res. 2012, 53, 325-330. "Enzymatic measurement of phosphatidylserine in cultured cells"
Shin-ya Morita, Kuriko Soda, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa, Tomohiro Terada	論文	Chem. Phys. Lipids 2012, 165, 571-576. "Specific and sensitive enzymatic measurement of sphingomyelin in cultured cells"
Reiko Yutani, Shin-ya Morita, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa	論文	Chem. Pharm. Bull. 2012, 60, 989-994. "Distribution of Polyphenols and a Surfactant Component in Skin during Aerosol OT Microemulsion-Enhanced Intradermal Delivery"
矢倉裕輝, 柴田麻由, 赤崎晶子, 金子恵子, 吉野宗宏, 櫛田宏幸, 山内一恭, 本田芳久, 小森勝也, 上平朝子, 白阪琢磨, 寺岡麗子, 栗原健, 北河修治	論文	医療薬学 2012, 38, 634-641. "抗HIV薬の懸濁時における安定性に関する検討"

寺岡 麗子	総説	PHARM TECH JAPAN 2111, 27(10), 175-181. "数種の市販製剤の安定性評価－PTP包装材の物理化学的特性と処方成分（添加剤）の観点から－"
Shin-ya Morita, Tadanori Tsuda, Manami Horikami, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa, Tomohiro Terada	論文	J. Lipid Res. 2013, 54, 1221-1230. "Bile salt-stimulated phospholipid efflux mediated by ABCB4 localized in nonraft membranes"
駒橋美妃, 大野靖子, 湯谷玲子, 森田真也, 寺岡麗子, 北河修治	論文	医療薬学 2013, 39(2), 98-103. "ドライシロップ剤を添加したシロップ剤の秤取精度の評価"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
昭和51年 5月	日本薬学会会員 (現在に至る)	
平成 2年 7月	日本薬剤学会会員 (現在に至る)	
平成 5年12月	シクロデキストリン学会会員 (現在に至る)	
平成 8年 1月	日本医療薬学会 (現在に至る)	
平成12年 9月	粉体工学会会員 (現在に至る)	
平成23年 6月	緩和医療薬学会会員 (現時に至る)	
平成13年1月－現在に至る	日本医療薬学会認定薬剤師	
平成13年1月－現在に至る	日本医療薬学会の指導薬剤師として委嘱された	
平成25年4月－現在に至る	日本医療薬学会代議員	
平成13年4月－現在に至る	シクロデキストリン学会評議員	
平成16年4月－現在に至る	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員	

専任教員の教育・研究業績

所属 衛生化学研究室	職名 准教授	氏名 津川 尚子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 本学薬学部学生への教育		2001年-現在に至る	【衛生薬学 II】3年次前期配当の必修科目。栄養と健康の分野についての講義を行っている。栄養素の代謝と利用、エネルギー代謝、ビタミン・ミネラルの生理作用、食品の品質と管理、食中毒について講義を行い、身近に経験することを例に挙げながら学生の理解が深まるよう努力している。また、別途講義プリントを作成し、知識の整理が容易になるように努力している。2010年度、2012年度の講義評価では、全ての項目において平均を上回った。2013年度よりカリキュラム変更により講義名「衛生薬学 I」として講義している。
		2007年-現在に至る	【衛生薬学 I】2年次後期配当の必修科目。保健統計、疫学に関する講義のうち、特に疫学分野を担当している。疫学の歴史的背景や過去の事象を例示し、疫学研究の重要性を説明するとともに、研究手法や目的に応じた疫学統計解析手法についてその活用と意義を解説している。2010年度、2012年度の講義評価では、全ての項目において平均的な評価を得た。
		2011年-現在に至る	【総合薬学講座】薬剤師国家試験出題内容のうち、「衛生薬学：栄養と健康」の分野を講義。国家試験受験において最重要項目を網羅的に解説し、学生が国家試験受験においてのポイントを掴めるように努力した。
		1986年-現在に至る	【衛生薬学系I・II実習】3年次前期・後期配当の実習で、食品衛生、保健衛生、環境衛生に関する実習指導を行っている。実習においては教員編集の実習テキストを作成し、衛生試験法の改訂や国家試験出題頻度に応じて随時追加・削除・改訂を行っている。実習内容をよりよく理解させるための工夫として、できるだけ身近なものを試料として用い、学生の興味を引きだすよう心掛けている。実習は小グループで実施させ、グループ内で結果に十分な考察を行わせ、職員とのディスカッションでは結果に関する問題点の提起、解決方法などを討議させることで内容が深く理解できるよう工夫している。講義評価では、おおむね平均を上回る評価を得ている。
(2) 本学薬学研究科大学院生の教育研究指導		2003年-現在に至る	【衛生薬学講座】隔年に配当された大学院講義を担当。講義では、脂溶性ビタミン、特にビタミンDとビタミンKの骨代謝への影響について、栄養学、疫学研究を中心にした最近の話題を講義した。

	1994年－現在に至る	【大学院研究指導】 大学院研究科学生への研究指導において、研究分野の最新動向を把握させるため、学生が主体的に国際的な雑誌に発表された論文を説明でき、活発に討論できるよう指導を行っている。また、国内での主要な関連学会に参加させ、報告会を通じて最新の研究内容を充分理解させるよう指導している。各自の研究内容は毎週行われる研究室の討論会で報告させ、現在の進展状況や問題点を多面的に把握できるよう指導を行っている。修士課程学生には、少なくとも修士課程修了時まで1回以上学会発表できるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書	1986年-現在に至る 2009年 2009年	衛生薬学系実習書 『New衛生薬学』（廣川書店、2009）.251-273. 『衛生薬学サブノート』（廣川書店、2009）.63-74.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 ベストティーチャー賞	2010年度	衛生薬学II(2010年度)
II 研究活動		
氏名	種別	内容
津川尚子	著書	『骨の健康と栄養科学大辞典』（西村書店、2009）.213-218.
津川尚子	著書	『New衛生薬学』（廣川書店、2009）.251-273.
津川尚子	著書	『衛生薬学サブノート』（廣川書店、2009）.63-74.

津川 尚子	著書	『ビタミンDと骨』（医薬ジャーナル, 2010).14-25.
岡野 登志夫、津川 尚子	著書	『骨代謝マーカー』（医薬ジャーナル社, 2010).215-219.
津川尚子	著書	『機能的食品素材の骨と軟骨への応用』（シーエムシー出版, 2011）.74-81.
津川尚子	著書	『ロコモティブシンドロームと栄養』（建帛社, 2012).65-83.
津川尚子、岡野登志夫	著書	『ビタミンの新栄養学』（講談社サイエンティフィック, 2012） 第II編, 31; 第III編, 50 - 51, 67 - 69; 第VI編, 149 - 150, 162 - 163; 第VII編, 212 - 217.
津川尚子、岡野登志夫	著書	『ビタミンDと疾患 改訂版:基礎の理解と臨床への応用』（医薬ジャーナル社, 2013).48-59.
Himeno M., Tsugawa N., Kuwabara A., Fujii M., Kawai N., Kato Y., Kihara N., Toyoda T., Kishimoto M., Ogawa Y., Kido S., Noike T., Okano T., Tanaka K.	論文	J. Bone. Miner. Metab. 2009, 27(6), 733-737. "Effect of Vitamin D Supplementation in The Institutionalized Elderly. "
Kuwabara A., Tanaka K., Tsugawa N., Nakase H., Tsuji H., Shide K., Kamao M., Chiba T., Inagaki N., Okano T., Kido S.	論文	Osteoporos. Int. 2009, 20(6), 935-942. "High prevalence of vitamin K and D deficiency and decreased BMD in inflammatory bowel disease. "
Kuwabara A., Tsugawa N., Tanaka K., Fujii M., Kawai N., Mukae S., Kato Y., Kojima Y., Takahashi K., Omura K., Kagawa R., Inoue A., Noike T., Kido S., Okano T.	論文	J. Nutr. Sci. Vitaminol. 2009, 55(6), 453-458. "Improvement of Vitamin D Status in Japanese Institutionalized Elderly by Supplementation with 800 IU of Vitamin D ₃ . "
Nakamura K., Saito T., Yoshihara A., Ishikawa M., Tsuchiya Y., Oshiki R., Kobayashi R., Maruyama K., Hyodo K., Nashimoto M., Tsugawa N., Okano T., Oyama M., Yamamoto M.	論文	Public Health Nutr. 2009, 12(12), 2366-2370. "Low Calcium Intake Is Associated with Increased Bone Resorption in Postmenopausal Japanese Women: Yokogoshi Study. "

Ohta H., Kuroda T., Onoe Y., Orito S., Ohara M., Kume M., Harada A., Tsugawa N., Okano T., Sasaki S.	論文	J. Bone. Miner. Metab. 2009, 27(6), 682-688. "The Impact of Lifestyle Factors on Serum 25-Hydroxyvitamin D Levels: A Cross-sectional Study in Japanese Women Aged 19-25 Years."
Kawaura A., Tanida N., Kamitani M., Akiyama J., Mizutani M., Tsugawa N., Okano T., Takeda E.	論文	Acta. Med. Okayama 2010, 64, 143-147. "The Effect of Leg Hyperthermia Using Far Infrared Rays in Bedridden Subjects with Type 2 Diabetes Mellitus."
Kuwabara A., Himeno M., Tsugawa N., Kamao M., Fujii M., Kawai N., Fukuda M., Ogawa Y., Kido S., Okano T., Tanaka K.	論文	Asia Pac. J. Clin. Nutr. 2010, 19, 49-56. "Hypovitaminosis D and K are Highly Prevalent and Independent of Overall Malnutrition in The Institutionalized Elderly."
Shiraki M, Yamazaki Y., Shiraki Y., Hosoi T., Tsugawa N., Okano T.	論文	J. Bone Miner. Metab. 2010, 28, 578-584. "High Level of Serum Undercarboxylated Osteocalcin in Patients with Incident Fractures During Bisphosphonate Treatment."
Komaba H., Goto S., Fujii H., Hamada Y., Kobayashi A., Shibuya K., Tominaga Y., Otsuki N., Nibu K., Nakagawa K., Tsugawa N., Okano T., Kitazawa R., Fukagawa M.	論文	Kidney Int. 2010, 77, 232-238. "Depressed Expression of Klotho and FGF Receptor 1 in Hyperplastic Parathyroid Glands From Uremic Patients."
Nakano T, Tsugawa N, Kuwabara A, Kamao M, Tanaka K, Okano T.	論文	Asia Pac J Clin Nutr. 2011, 20, 56-61. "High prevalence of hypovitaminosis D and K in patients with hip fracture."
Tsugawa N, Uenishi K, Ishida H, Minekami T, Doi A, Koike S, Takase T, Kamao M, Mimura Y, Okano T.	論文	Clin Nutr. 2012, 31, 255-260. "A novel method based on curvature analysis for estimating the dietary vitamin K requirement in adolescents."
Haraikawa M, Tsugawa N, Sogabe N, Tanabe R, Kawamura Y, Okano T, Hosoi T, Goseki-Sone M	論文	Asia Pac. J. Clin. Nutr. 2013, 22, 646-654. "Effects of gamma-glutamyl carboxylase gene polymorphism (R325Q) on the association between dietary vitamin K intake and gamma-carboxylation of osteocalcin in young adults."
Hirota Y, Tsugawa N, Nakagawa K, Suhara Y, Tanaka K, Uchino Y, Takeuchi A, Sawada N, Kamao M, Wada A, Okitsu T, Okano T	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288, 33071-33080. "Menadiione (vitamin K3) is a catabolic product of oral phylloquinone (vitamin K1) in the intestine and a circulating precursor of tissue menaquinone-4 (vitamin K2) in rats."

岡野登志夫、津川尚子	総説	治療学, 2008, 42, 873-876. 「日常診療に潜む骨折危険性～ビタミンD-カルシウム摂取不足の現状～」
岡野登志夫、津川尚子	総説	骨粗鬆症治療, 2009, 8, 282-290. 「日本人における血中ビタミンD濃度とその臨床的意義」
津川尚子、岡野登志夫	総説	Vitamins, 2009, 83, 651-658. 「ビタミンDと骨粗鬆症」
津川尚子	総説	臨床病理, 2010, 58, 244-253 「よりよい臨床検査医学を求めて～骨粗鬆症に関する疫学研究を中心としたビタミンD研究の最近の話題」
津川尚子、岡野登志夫	総説	CLINICAL CALCIUM, 2010, 20, 1334-1335. 「ビタミンKと骨折」
津川尚子	総説	THE BONE, 2011, 25, 211-219 「ビタミンD-基礎と臨床-VI: 1. 25-ヒドロキシビタミンD3はビタミンD代謝の単なる中間代謝物か」
津川尚子	総説	腎と骨代謝, 2011, 24, 195-202 「腎機能と骨代謝におけるビタミンK栄養の役割」
津川尚子	総説	Functional Food, 2012, 5, 252-257 「最新ビタミン学講話: ビタミンD」
津川尚子	総説	腎と骨代謝, 2012, 26, 39-47 「ビタミンDとリン」
津川尚子	総説	ビタミン, 2013, 87, 435-439 「ビタミンKと γ -Gultamylcarboxylase遺伝子多型」

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
1986年12月-現在に至る	日本薬学会会員
1986年 5月-現在に至る	日本ビタミン学会会員
1986年12月-現在に至る	日本栄養・食糧学会会員
1987年 8月-現在に至る	日本骨代謝学会会員
1988年 6月-2012年3月	日本生化学会会員
2004年 4月-現在に至る	日本骨粗鬆症学会会員
2009年 8月-現在に至る	米国骨代謝学会
2010年4月-現在に至る	日本ビタミン学会会員、2010年より評議員、2013年より代議員
2011年4月-現在に至る	日本ビタミン学会誌編集委員

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 准教授	氏名 波多江 崇	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月～現在 2012年4月～現在 2013年4月～現在 2013年4月～現在 2013年9月～現在	4年生を対象に「実務実習事前教育」を担当し、実技指導を行っている。 6年生を対象に「処方解析学・演習」で、症例を含む医療統計学を担当している。 2年生を対象に「機能形態生理学」を担当している。 6年生を対象に「医薬品開発Ⅰ」を担当している。 4年生を対象に「社会保障と薬剤経済」を担当している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 奥羽大学事前実習テキスト 神戸薬科大学実務実習事前教育テキスト	2010年、2011年 2012年～現在	奥羽大学薬学部の事前実習で使用するテキストを作成した。 実務実習事前教育テキストの執筆分担を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学教育協議会フォーラム2010 薬学教育協議会フォーラム2011	2010年2月 2011年2月	奥羽大学における事前学習の取り組み 奥羽大学 ～ 事前学習内容の見直しに現場の声を活かす ～	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2011年～現在	生涯教育企画委員	

II 研究活動		
氏名	種別	内容
波多江 崇, 井上 哲宏, 江島 瑞恵, 久保 康典, 後藤 浩, 中原 奈緒子, 夏木 博美, 夏木 峰治, 藤原 久美子, 松藤 恵, 水口 恵子, 水口 忠宣, 三根 健夫, 吉田 逸子, 坂本 由香里, 橋本 高吉	論文	医学と薬学 2010. 63(4), 617-621. 高齢者における湿布の使用に関する実態調査
波多江 崇, 倉本 敬二, 渡辺 由香 鈴木 孝司, 深谷 朋美, 多田 均 東海林 徹	論文	日本病院薬剤師会雑誌 2010. 46(8), 1118-1121. 学生アンケートによる事前学習の改善に向けた取り組み
波多江 崇, 大石 幸恵, 高木 佳織 釣寄 文子, 浪口 有希子, 水口 忠宣 坂本 由香里, 橋本 高吉	論文	Clinical Pharmacist 2010. 2(6), 604-607. 地域薬局において排泄ケア用品のコンサルテーションは顧客満足度を向上させる
細谷 順, 波多江 崇, 渡辺 由香 深谷 朋美, 倉本 敬二, 東海林 徹 白石 正	論文	日本病院薬剤師会雑誌 2010. 46(11), 1496-1500. 薬学生を対象とした手指衛生実習の有効性
橋本 昌子, 山口 弘美, 湊谷 舞, 釜田 真沙美, 安田 圭子, 高寺 史子, 和田 成之, 橋場 万理美, 波多江 崇, 東海林 徹	論文	医学と薬学 2011. 65(2), 183-190. 調剤薬局におけるアンケートを用いた患者満足度の改善に向けた取り組み
波多江 崇, 押尾 茂, 阿部 崇, 田中 智明, 田中 康博, 橋本 智恵子, 橋本 直也, 橋本 ひとみ, 鳩山 栄志, 星 守, 山田 善之進, 横田 高太郎, 若松 勝, 東海林 徹	論文	Clinical Pharmacist 2011. 3(2), 191-193. 郡山薬剤師会における「薬と健康の週間」の取り組み — 「第3回まるごとけんこうフェア」での相談事例 —
波多江 崇, 倉本 敬二, 渡辺 由香, 深谷 朋美, 金子 俊幸, 早坂 正孝, 多田 均, 東海林 徹	論文	日本病院薬剤師会雑誌 2011. 47(8), 1033-1037. 実務実習事前学習におけるロールプレイ実習に対する薬学生の満足度とその要因
波多江 崇, 倉本 敬二, 渡辺 由香, 深谷 朋美, 金子 俊幸, 早坂 正孝, 多田 均, 東海林 徹	論文	日本病院薬剤師会雑誌 2011. 47(9), 1189-1193. 実務実習事前学習における改善策の導入と顧客満足度分析を用いた評価

深谷 朋美, 倉本 敬二, 鈴木 孝司, 波多江 崇, 渡辺 由香, 東海林 徹	論文	医薬品相互作用研究 2011. 35(1), 17-22. クロッドバッグTPN製剤適用時のリスクマネジメント
倉本 敬二, 鈴木 貴子, 波多江 崇, 東海林 徹	論文	医薬品相互作用研究 Vol.36, No. 3 (2013) 13-17. 輸液製剤の後発品切替時のリスクマネジメント (Fischer液を例に)
波多江 崇, 池浦 奈穂, 河原 宏之, 河内 正二, 長谷川 豊, 杉山 正敏, 沼田 千賀子, 國正 淳一, 濱口 常男	論文	医薬品相互作用研究 Vol.36, No. 3 (2013) 33-37. 腎機能に着目した入院時持参薬チェックの重要性
吉田 都, 栗原 晶子, 豊原 朋子, 片岡 和三四郎, 岡村 昇, 三木 知博, 笠井 眞二, 政田 啓子, 木下 健司, 村田 成範, 中林 利克, 篠塚 和正, 高橋 幸一, 市川 厚, 上村 直樹, 後藤 恵子, 宮崎 智, 波多江 崇, 東海林 徹, 内田 享弘	論文	医薬品相互作用研究会誌 Vol.37, No. 1 (2013) 27-35. 女性医療専門職(薬剤師)を対象とした再就職支援のためのニーズ調査
波多江 崇, 志方 敏幸, 長谷川 豊, 依藤 健之介, 西濱 輝美, 金 啓二, 福井利文, 西田 英之, 但馬 重俊, 濱口 常男	論文	医薬品相互作用研究会誌 Vol.37, No. 1 (2013) 9-16. 近畿地区における病棟薬剤業務実施工算導入前後の薬剤師の意識の変化に対する施設背景の影響
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2010年4月～2012年1月	郡山薬剤師会理事	
2010年4月～2012年1月	福島県薬剤師会地域医療・分業対策委員会委員	
1995年～現在に至る	日本薬学会 会員	
1995年～現在に至る	日本薬理学会 会員	
1997年～現在に至る	日本解剖学会 会員	
2003年～現在に至る	日本薬剤師会 会員	
2006年～現在に至る	日本社会薬学会 会員	
2009年～現在に至る	日本医療薬学会 会員	
2009年～現在に至る	日本病院薬剤師会 会員	
2009年～現在に至る	日本薬局学会 会員	
2010年～現在に至る	日本注射薬臨床情報学会 会員	
2010年～現在に至る	相互作用研究会 会員	
2013年～現在に至る	日本地域薬局薬学会 会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 衛生化学研究室	職名 准教授	氏名 中川 公恵	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概	要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 本学薬学部学生への教育	1997年4月-現在に至る	学部学生に衛生薬学系実習の指導を行っている。 1) 実習開始時に実習内容の詳細な説明を行い、器具の取り扱いを含めて実習内容を周知させてから実習を行わせている。事前に実習内容の予習をさせておき、予習ノート (プリント) を確認している。 2) 実習結果をまとめて班ごとに討議させた後、実験結果についての質疑応答を行い、結果や問題点などについて考えさせ、その日の実習内容を理解させている。 3) 本学で2年に一度行われている学生による実習評価では、平均以上の評価を得ておりわかりやすく十分に学習できていると好評である。	
	1997年4月-現在に至る	学部学生の卒業研究の指導を行っている。 1) 学生に実験に対する目的意識を持たせるため、研究内容の説明を行うとともに関連する論文を読ませてまとめさせている。 2) 定期的に研究内容をまとめさせ、発表させることで論理的な考え方や表現力を訓練させている。 3) 卒業発表に向けて結果をまとめさせ、発表スライド及び原稿を作製させて発表させるとともに、卒業論文を書かせている。	
	2008年4月-現在に至る	学部学生に衛生薬学IIIの講義を行っている。 教科書の内容に加え、国家試験に重要なポイント等を含めてまとめたプリントを配布し、学生が重要点を理解しやすいように工夫して講義を行っている。	
	2011年4月-現在に至る	学部学生に衛生薬学IVの講義を行っている。 教科書の内容に加え、国家試験に重要なポイント等を含めてまとめたプリントを配布し、学生が重要点を理解しやすいように工夫して講義を行っている。	

(2) 本学薬学研究科大学院生への教育研究指導	2008年4月-現在に至る	大学院薬学研究科院生に衛生化学特論講義および研究指導を行っている。 1) 講義は、最新のデータを交えながら、専門外の学生にも理解しやすいように背景説明も含めて分かりやすく解説している。動画などを用いたパワーポイントを使うことにより理解しやすくなるよう工夫している。 2) 学生に論理的な思考力と表現力が身に付くように、定期的に自分の研究内容をまとめて発表させ、研究室で討論を行い、研究内容の進展状況や問題点を把握し、解決策を自ら提案出来るよう指導している。 3) 学生には、少なくとも年一回は学会発表できるように指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書 『New衛生薬学』（廣川書店、岡野登志夫、山崎裕康 編集、2009）	2009（平成21）年12月10日	第7章疾病の予防とは、第8章感染症の現状とその予防（pp. 289-354）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 共同研究委員会委員 実務実習運営委員会委員 動物実験施設運営委員会委員 ベストティーチャー賞	2009年4月1日-2013年3月31日 2010年4月1日-2012年3月31日 2012年4月1日-現在に至る 2013年	大学内の共同研究に関する申請に携わっている。 5年次生の実務実習の運営に携わっている。 大学内の動物実験の運営や規定作成などに携わっている。 衛生薬学III（前期）
II 研究活動		
氏名	種別	内容
中川公恵	著書	『New衛生薬学』（廣川書店、2009）. 289-354.
岡野 登志夫、中川 公恵	著書	『ビタミンDと腎』（医薬ジャーナル社、2010）. 65-70.

中川 公恵	著書	『ビタミンの科学と最新応用技術』（シーエムシー出版, 2011）. 115-123.
中川公恵	総説	YAKUGAKU ZASSHI 2013, 133(12), 1337-1341. 「ビタミンKの生体内活性化とその意義」
廣田 佳久, 中川 公恵, 須原 義智, 岡野 登志夫	トピックス	ビタミン2013, 87(12), 691-695. 「UBIAD1により合成された menaquinone-4は血管の恒常性維持を担う」
Nakagawa K., Hirota Y., Sawada N., Yuge N., Watanabe M., Uchino Y., Okuda N., Shimomura Y., Suhara Y., Okano T.	論文	Nature 2010, 468, 117-121. "Identification of UBIAD1 as a novel human menaquinone-4 biosynthetic enzyme."
Okitsu T., Nakazawa D., Nakagawa K., Okano T. Wada A.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2010, 58(3), 418-422. "Synthesis and biological evaluation of 9Z-retinoic acid analogs having 2-substituted benzo[b]furan"
Wada A., Wang F., Suhara Y., Yamano Y., Okitsu T., Nakagawa K., Okano T.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2010, 18(16), 5795-5806. "Efficient synthesis and biological evaluation of demethyl geranylgeranoic acid derivatives"
Nakagawa K.	論文	J. Health Sci. 2010, 56, 623-631. "New Developments on the Research of Vitamin K Biosynthesis. "
Komaba H., Goto S., Fujii H., Hamada Y., Kobayashi A., Shibuya K., Tominaga Y., Otsuki N., Nibu K., Nakagawa K., Tsugawa N., Okano T., Kitazawa R., Fukagawa M.	論文	Kidney Int. 2010, 77, 232-238. "Depressed expression of Klotho and FGF receptor 1 in hyperplastic parathyroid glands from uremic patients. "
Suhara Y., Wada A., Tachibana Y., Watanabe M., Nakamura K., Nakagawa K., Okano T.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2010, 18, 3116-3124. "Structure-activity relationships in the conversion of vitamin K analogues into menaquinone-4. Substrates essential to the synthesis of menaquinone-4 in cultured human cell lines. "
Kawamori Y., Katayama Y., Asada N., Minagawa K., Sato M., Okamura A., Shimoyama M., Nakagawa K., Okano T., Tanimoto M., Kato S., Matsui T.	論文	Blood 2010, 116, 5528-5535. "Role for vitamin D receptor in the neuronal control of the hematopoietic stem cell niche. "

Okitsu T, Sato K, Iwatsuka K, Sawada N, Nakagawa K, Okano T, Yamada S, Kakuta H, Wada A.	論文	Bioorg Med Chem. 2011, 19(9), 2939-49 . "Replacement of the hydrophobic part of 9-cis-retinoic acid with cyclic terpenoid moiety results in RXR-selective agonistic activity."
Suhara Y, Watanabe M, Nakagawa K, Wada A, Ito Y, Takeda K, Takahashi K, Okano T.	論文	J Med Chem. 2011, 54(12):4269-73. "Synthesis of novel vitamin K2 analogues with modification at the ω -terminal position and their biological evaluation as potent steroid and xenobiotic receptor (SXR) agonists."
Suhara Y, Watanabe M, Motoyoshi S, Nakagawa K, Wada A, Takeda K, Takahashi K, Tokiwa H, Okano T.	論文	J Med Chem. 2011, 54(13), :4918-22. "Synthesis of new vitamin K analogues as steroid and xenobiotic receptor (SXR) agonists: insights into the biological role of the side chain part of vitamin K."
Kawaura A, Tanida N, Akiyama J, Nonaka K, Mizutani M, Sawada K, Nakagawa K, Tsugawa N, Izumi K, Ii K, Okano T, Takeda E.	論文	Acta Med Okayama. 2011, 65(3):193-7. "Inhibitory effect of 1α -hydroxyvitamin D3 on N-nitrosobis(2-oxopropyl)amine-induced cholangiocarcinogenesis in Syrian hamsters."
Suhara Y, Hanada N, Okitsu T, Sakai M, Watanabe M, Nakagawa K, Wada A, Takeda K, Takahashi K, Tokiwa H, Okano T	論文	J Med Chem. 2012;55(4):1553-8 Structure-activity relationship of novel menaquinone-4 analogues: modification of the side chain affects their biological activities.
Nakagawa K	論文	Journal of Food & Drug Analysis 2012, 20, 371-375 "New Development of Vitamin K Research: Identification of Human Menaquinone-4 Biosynthetic Enzyme"
須原義智, 元吉沙也加, 廣田佳久, 澤田夏美, 中川公恵, 常盤広明, 岡野登志夫	論文	薬学雑誌, 2012;132(8):881-6 「核内受容体SXR(Steroid and Xenobiotic Receptor)のアゴニスト活性を持つ新規ビタミンK誘導体の合成と構造活性相関の検討」
Hirota Y, Tsugawa N, Nakagawa K, Suhara Y, Tanaka K, Uchino Y, Takeuchi A, Sawada N, Kamao M, Wada A, Okitsu T, Okano T	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288(46), 33071-33080. "Menadione (vitamin K3) is a catabolic product of oral phylloquinone (vitamin K1) in the intestine and a circulating precursor of tissue menaquinone-4 (vitamin K2) in rats."
III 学会等および社会における主な活動		
1996年6月-現在に至る	日本薬学会会員	
1997年 3月-現在に至る	日本ビタミン学会会員	
1997年 5月-現在に至る	日本骨代謝学会会員	
2000年 6月-2012年3月	日本生化学会会員	

中川

2003年 6月-現在に至る	日本癌学会会員
2008年 4月-現在に至る	日本骨粗鬆症学会会員
2009年 4月～現在に至る	日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人

専任教員の教育・研究業績

所属 英語第二研究室	職名 准教授	氏名 玉巻 欣子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月～現在に至る	【2年次必修英語】薬学生が最低限知っておくべき医学英語語彙・表現の習得、医療系英文読解・速読力の向上を目指す授業を行っている。2013年度からは、e-ラーニングを取り入れた授業を開始し、教員による対面授業とe-ラーニングを融合した授業を展開している。	
	2013年4月～現在に至る	【2年次選択英語】eラーニングと対面授業によるTOEIC対策に重点を置いた授業を行っている。	
	2012年4月～現在に至る	【4年次選択英語】英語での服薬指導に必要な英語表現を、楽しみながら学べる授業を行っている。学生同士の会話練習、英文での家庭医学書読解、薬剤師会話のリスニングなど、多角的に医療系英語語彙・表現力増強に努めている。2012年度学生評価によるベストティーチャー賞受賞。	
	2013年4月～現在に至る	【海外薬学研修】当該研修の事前講義を担当している。リスニング力、英語での質問力強化に重点を置いている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業申請担当	2012年	「e-ラーニング教材利用による薬学生の総合的英語力向上」というプロジェクトにて文科省への申請を行い、採択された。PC51台が導入され、e-ラーニング教材ソフトであるALC NetAcademy2 医学英語<基礎>コース、スーパースタンダードコース等を導入し、英語授業で活用している。	
平成24年度ベストティーチャー賞受賞	2013年6月	2012年度「実用薬学英語I」学生評価によるベストティーチャー賞受賞。	
神戸大学医学部での医学英語教育	1999年4月～現在に至る	神戸大学医学部5年次「臨床英語」担当 (非常勤講師)	

II 研究活動		
氏名	種別	内容
玉巻 欣子	著書	「近大姫路大学教育学部通信教育課程テキスト 英語コミュニケーション I」(近大姫路大学教育学部通信教育課程、2009)
Masahiro Hitosugi, Masako Shimizu, J. Patrick Barron, Chiharu Ando, Kinko Tamamaki	論文	'Analysis of the Results of the Pilot Examinations for Proficiency in English for Medical Purposes' Journal of Medical English Education. (2009) Vol.8 No.1.p.17
日本医学英語教育学会編	著書	「医学英語検定3・4級教本 改訂2版」(メジカルビュー社、2010)
玉巻 欣子	その他	近大姫路大学看護学部紀要(2010) Vol.2 pp.81-85 「大学看護学部におけるESP教育の現状と実践報告」
玉巻 欣子、安達 和美、宮本 純子	口頭発表	'Let Nursing Students be Prepared: English Textbook Project for Disaster Nursing' 日本医学英語教育学会第13回学術集会(2010.7.東京)
Kinko Tamamaki	その他	'Introducing a medical education institution: University of Kindai-himeji' (2011) Journal of Medical English Education Vol.10 No.3 pp.2-4
Tamamaki, K. & Nishio, H.	論文	'Study Abroad Experience Is Related to Japanese Doctors' Behavior to See Foreign Patients' (2013) Kobe Journal of Medical Sciences. Vol.59, No.1. pp.E10-E16.
金子利雄、西村月満、竹内典子、山田恵、成田早苗、河野 円、堀内正子、Eric M. Skier、玉巻欣子、板垣正、吉澤小百合、小林文、河野享子、齋藤弘明、須川久美子、田沢恭子	著書	日本薬学英语研究会編「薬学英语2(改訂版)」(2013)(成美堂)Unit 7 (pp.42-49)
玉巻欣子、藤枝宏壽、Randolph Mann	著書	「第3版 これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現」(2013)(メジカルビュー社)
Kinko Tamamaki, Hisahide Nishio.	口頭発表	'What Can Japanese Medical Education Offer in Order to Promote Medicine for Foreign Patients?' 日本医学英語教育学会第16回学術集会(2013.7.千葉)

Kinko Tamamaki, Yoshihiko Tauchi.	ポスター発表	'English as a Preparatory Program for the Overseas Pharmaceutical Training' 「海外薬学研修事前教育としての英語教育の取り組み」 The JACET 52nd International Convention. Global Poster Session. (2013. 8. Kyoto)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2007年7月～2009年7月	日本医学英語教育学会評議員、医学英語検定試験制度委員	
2007年4月～2011年3月	日本パブリックサービス通訳翻訳学会理事（2013年10月学会解散）	
2008年4月～2012年3月	大学英語教育学会研究企画委員	
2008年8月～2011年8月	教員免許更新講習講師	
2009年7月～現在	日本医学英語教育学会理事、医学英語検定試験制度委員	
2011年4月～現在	大学英語教育学会社員	

専任教員の教育・研究業績

所属 医療薬学研究室	職名 准教授	氏名 棚橋 俊仁	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
(1) 薬学部学生への教育		2012年4月から	「処方解析学」・「処方解析学演習」6年生課程6年次 「医薬品開発Ⅲ」6年生課程6年次 「疾患解析治療特論」修士課程
		2012年4月から	
(2) 薬学研究科大学院生への教育研究指導		2012年4月から	
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年4月から	最新の知見を含めた独自のプリントとスライドを作成した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Iwamoto A, Tanahashi T*, Okada R, Yoshida Y, Kikuchi K, Keida Y, Murakami Y, Yang L, Yamamoto K, Nishiumi S, Yoshida M, Azuma T.		論文	Whole-genome sequencing of clarithromycin resistant Helicobacter pylori characterizes unidentified variants of multidrug resistant efflux pump genes. Gut Pathog. 2014 Jun 26;6:27.

Kawauchi S, Nakamura T, Miki I, Inoue J, Hamaguchi T, Tanahashi T*, Mizuno S	論文	Downregulation of CYP3A and P-Glycoprotein in the Secondary Inflammatory Response of Mice With Dextran Sulfate Sodium-Induced Colitis and Its Contribution to Cyclosporine A Blood Concentrations. J Pharmacol Sci. 2014;124(2):180-91. Epub 2014 Jan 31.
Kano S, Nishida K, Nishiyama C, Akaike Y, Kajita K, Kurokawa K, Masuda K, Kuwano Y, Tanahashi T, Rokutan K	論文	Truncated serine/arginine-rich splicing factor 3 accelerates cell growth through up-regulating c-Jun expression. J Med Invest. 2013;60(3-4):228-35. 10.1038/onc.2013.86. [Epub ahead of print]
Kano S, Nishida K, Nishiyama C, Akaike Y, Kajita K, Kurokawa K, Masuda K, Kuwano Y, Tanahashi T, Rokutan K	論文	Truncated serine/arginine-rich splicing factor 3 accelerates cell growth through up-regulating c-Jun expression. J Med Invest. 2013;60(3-4):228-35.
5 Ishida T, Miki I, Tanahashi T*, Yagi S, Kondo Y, Inoue J, Kawauchi S, Nishiumi S, Yoshida M, Maeda H, Tode C, Takeuchi A, Nakayama H, Azuma T, Mizuno S	論文	Effect of 18 β -glycyrrhetic acid and hydroxypropyl γ cyclodextrin complex on indomethacin-induced small intestinal injury in mice. Eur J Pharmacol. 2013 Aug 15;714(1-3):125-31.
Kurokawa K, Akaike Y, Masuda K, Kuwano Y, Nishida K, Yamagishi N, Kajita K, Tanahashi T, Rokutan K.	論文	Down-regulation of serine/arginine-rich splicing factor 3 induces G1 cell cycle arrest and apoptosis in colon cancer cells. Oncogene. 2013 Mar 18. doi: 10.1038/onc.2013.86. [Epub ahead of print]
Yoshiki Murakami, Toshihito Tanahashi	英文著書	Analysis of Circulating MicroRNA by Microarray in Liver Disease Springer. Methods in Molecular Biology Volume 1024, 2013, Page173-182.
Murakami Y, Tamori A, Itami S, Tanahashi T, Toyoda H, Tanaka M, Wu W, Brojigin N, Kaneoka Y, Maeda A, Kumada T, Kawada N, Kubo S, Kuroda M.	論文	The expression level of miR-18b in hepatocellular carcinoma is associated with the grade of malignancy and prognosis. BMC Cancer. 2013 Mar 4;13:99.
Watanabe, S.-Y., Iga, J.-I., Numata, S., Nakataki, M., Tanahashi, T., Itakura, M., Ohmori, T.	論文	Association study of fat-mass and obesity-associated gene and body mass index in japanese patients with schizophrenia and healthy subjects. Clinical Psychopharmacology and Neuroscience 2012 10 (3) , pp. 185-189.
Komatsu M, Yoshimaru T, Matsuo T, Kiyotani K, Miyoshi Y, Tanahashi T, Rokutan K, Yamaguchi R, Saito A, Imoto S, Miyano S, Nakamura Y, Sasa M, Shimada M, Katagiri T	論文	Molecular features of triple negative breast cancer cells by genome-wide gene expression profiling analysis. Int J Oncol. 2013 Feb;42(2):478-506.

Murakami Y, Toyoda H, Tanahashi T, Tanaka J, Kumada T, Yoshioka Y, Kosaka N, Ochiya T, Taguchi Y-h.	論文	Comprehensive miRNA expression analysis in peripheral blood can diagnose liver disease. PLoS One. 2012;7(10):e48366.
Ishida T, Nishiumi S, Tanahashi T, Yamasaki A, Yamazaki A, Akashi T, Miki I, Kondo Y, Inoue J, Kawauchi S, Azuma T, Yoshida M, Mizuno S	論文	Linoleoyl ethanolamide reduces lipopolysaccharide-induced inflammation in macrophages and ameliorates 2,4-dinitrofluorobenzene-induced contact dermatitis in mice. Eur J Pharmacol. 2013 Jan 15;699(1-3):6-13. doi: 10.1016/j.ejphar.2012.11.030. Epub 2012 Nov 28.
Ishida T, Miki I, Tanahashi T, Yagi S, Kondo Y, Inoue J, Kawauchi S, Nishiumi S, Yoshida M, Maeda H, Tode C, Takeuchi A, Nakayama H, Azuma T, Mizuno S.	論文	Effect of 18 β -glycyrrhetic acid and hydroxypropyl γ cyclodextrin complex on indomethacin-induced small intestinal injury in mice. Eur J Pharmacol. 2013 Jun 19. doi:pil: S0014-2999(13)00473-1. 10.1016/j.ejphar.2013.06.007. [Epub ahead of print]
Kurokawa K, Tanahashi T, Iima T, Yamamoto Y, Akaike Y, Nishida K, Masuda K, Kuwano Y, Murakami Y, Fukushima M, Rokutan K.	論文	Role of miR-19b and its target mRNAs in 5-fluorouracil resistance in colon cancer cells. J Gastroenterol. 2012 Mar 1. [Epub ahead of print]
Kamezaki Y, Katsuura S, Kuwano Y, Tanahashi T, Rokutan K.	論文	Circulating cytokine signatures in healthy medical students exposed to academic examination stress. Psychophysiology. 2012 Jul;49(7):991-7.
Katsuura S, Kuwano Y, Yamagishi N, Kurokawa K, Kajita K, Akaike Y, Nishida K, Masuda K, Tanahashi T, Rokutan K.	論文	MicroRNAs miR-144/144* and miR-16 in peripheral blood are potential biomarkers for naturalistic stress in healthy Japanese medical students. Neurosci Lett. 2012 May 10;516(1):79-84.
Katsuura S, Kamezaki Y, Yamagishi N, Kuwano Y, Nishida K, Masuda K, Tanahashi T, Kawai T, Arisawa K, Rokutan K	論文	Circulating vascular endothelial growth factor is independently and negatively associated with trait anxiety and depressive mood in healthy Japanese university students. Int J Psychophysiol. 2011 Jul;81(1):38-43.
Akaike Y, Kurokawa K, Kajita K, Kuwano Y, Masuda K, Nishida K, Kang SW, Tanahashi T, Rokutan K.	論文	Skipping of an alternative intron in the srsf1 3' untranslated region increases transcript stability. J Med Invest. 2011 Aug;58(3-4):180-7.
Kurokawa K, Tanahashi T, Murata A, Akaike Y, Katsuura S, Nishida K, Masuda K, Kuwano Y, Kawai T, Rokutan K	論文	Effects of chronic academic stress on mental state and expression of glucocorticoid receptor α and β isoforms in healthy Japanese medical students. Stress. 2011 Jul;14(4):431-8.

Yamamoto Y, Tanahashi T, Katsuura S, Kurokawa K, Nishida K, Kuwano Y, Kawai T, Teshima-Kondo S, Chikahisa S, Tsuruo Y, Sei H, Rokutan K	論文	Interleukin-18 deficiency reduces neuropeptide gene expressions in the mouse amygdala related with behavioral change. J Neuroimmunol. 2010 Dec 15;229(1-2):129-39.
Kurokawa K, Kuwano Y, Tominaga K, Kawai T, Katsuura S, Yamagishi N, Satake Y, Kajita K, Tanahashi T, Rokutan K.	論文	Brief naturalistic stress induces an alternative splice variant of SMG-1 lacking exon 63 in peripheral leukocytes. Neurosci Lett. 2010 Oct 29;484(2):128-32.
Katsuura S, Kamezaki Y, Tominaga K, Masuda K, Nishida K, Yamamoto Y, Takeo K, Yamagishi N, Tanahashi T, Kawai T, Rokutan K	論文	High-throughput screening of acute psychological stress-responsive cytokines in university students taking examinations. Int J Psychophysiol. 2010 Aug;77(2):135-40.
Wang EL, Qian ZR, Nakasono M, Tanahashi T, Yoshimoto K, Bando Y, Kudo E, Shimada M, Sano T.	論文	High expression of Toll-like receptor 4/myeloid differentiation factor 88 signals correlates with poor prognosis in colorectal cancer. Br J Cancer. 2010 Mar 2;102(5):908-15.
Numata S, Nakataki M, Iga JI, Tanahashi T, Nakadoi Y, Ohi K, Hashimoto R, Takeda M, Itakura M, Ueno SI, Ohmori T.	論文	Association Study Between the Pericentrin (PCNT) Gene and Schizophrenia. Neuromolecular Med. 2010 Sep;12(3):243-7.
Kamizato M, Nishida K, Masuda K, Takeo K, Yamamoto Y, Kawai T, Teshima-Kondo S, Tanahashi T, Rokutan K.	論文	Interleukin 10 inhibits interferon gamma- and tumor necrosis factor alpha-stimulated activation of NADPH oxidase 1 in human colonic epithelial cells and the mouse colon. J Gastroenterol. 2009;44(12):1172-84.
Yamamoto Y, Tanahashi T, Kawai T, Chikahisa S, Katsuura S, Nishida K, Teshima-Kondo S, Sei H, Rokutan K.	論文	Changes in behavior and gene expression induced by caloric restriction in C57BL/6 mice. Physiol Genomics. 2009 Nov 6;39(3):227-35.
Takeo K, Kawai T, Nishida K, Masuda K, Teshima-Kondo S, Tanahashi T, Rokutan K.	論文	Oxidative stress-induced alternative splicing of transformer 2beta (SFRS10) and CD44 pre-mRNAs in gastric epithelial cells. Am J Physiol Cell Physiol. 2009 Aug;297(2):C330-8.
Numata S, Iga J, Nakataki M, Tayoshi S, Tanahashi T, Itakura M, Ueno S, Ohmori T.	論文	Positive association of the pericentrin (PCNT) gene with major depressive disorder in the Japanese population. J Psychiatry Neurosci. 2009 May;34(3):195-8.

<p>Nakataki M, Numata S, Iga J, Tayoshi S, Tayoshi-Shibuya S, Song H, Tanahashi T, Itakura M, Ueno S, Ohmori T.</p>	<p>論文</p>	<p>No association between Rho-associated coiled-coil forming protein serine/threonine kinase1 gene and schizophrenia in the Japanese population. <i>Psychiatr Genet.</i> 2009 Jun;19(3):162.</p>
<p>Miyake K, Yang W, Hara K, Yasuda K, Horikawa Y, Osawa H, Furuta H, Ng MC, Hirota Y, Mori H, Ido K, Yamagata K, Hinokio Y, Oka Y, Iwasaki N, Iwamoto Y, Yamada Y, Seino Y, Maegawa H, Kashiwagi A, Wang HY, Tanahashi T, Nakamura N, Takeda J, Maeda E, Yamamoto K, Tokunaga K, Ma RC, So WY, Chan JC, Kamatani N, Makino H, Nanjo K, Kadowaki T, Kasuga M.</p>	<p>論文</p>	<p>Construction of a prediction model for type 2 diabetes mellitus in the Japanese population based on 11 genes with strong evidence of the association. <i>J Hum Genet.</i> 2009;54(4):236-41.</p>
<p>Nishida K, Kamizato M, Kawai T, Masuda K, Takeo K, Teshima-Kondo S, Tanahashi T, Rokutan K</p>	<p>論文</p>	<p>Interleukin-18 is a crucial determinant of vulnerability of the mouse rectum to psychosocial stress. <i>FASEB J.</i> 2009 Jun;23(6):1797-805.</p>
<p>Numata S, Iga JI, Nakataki M, Tayoshi S, Taniguchi K, Sumitani S, Tomotake M, Tanahashi T, Itakura M, Kamegaya Y, Tatsumi M, Sano A, Asada T, Kunugi H, Ueno SI, Ohmori T.</p>	<p>論文</p>	<p>Gene expression and association analyses of the phosphodiesterase 4B (PDE4B) gene in major depressive disorder in the Japanese population. <i>Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet.</i> 2009 Jun 5;150B(4):527-34.</p>
<p>Kunika K, Tanahashi T, Numata S, Ueno S, Ohmori T, Nakamura N, Tsugawa K, Miyawaki K, Moritani M, Inoue H, Itakura M.</p>	<p>論文</p>	<p>Common coding variant in the TCF7L2 gene and study of the association with type 2 diabetes in Japanese subjects. <i>J Hum Genet.</i> 2008;53(11-12):972-82.</p>
<p>Yasuda K, Miyake K, Horikawa Y, Hara K, Osawa H, Furuta H, Hirota Y, Mori H, Jonsson A, Sato Y, Yamagata K, Hinokio Y, Wang HY, Tanahashi T, Nakamura N, Oka Y, Iwasaki N, Iwamoto Y, Yamada Y, Seino Y, Maegawa H, Kashiwagi A, Takeda J, Maeda E, Shin HD, Cho YM, Park KS, Lee HK, Ng MC, Ma RC, So WY, Chan JC, Lyssenko V, Tuomi T, Nilsson P, Groop L, Kamatani N, Sekine A, Nakamura Y, Yamamoto K, Yoshida T, Tokunaga K, Itakura M, Makino H, Nanjo K, Kadowaki T, Kasuga M.</p>	<p>論文</p>	<p>Variants in KCNQ1 are associated with susceptibility to type 2 diabetes mellitus. <i>Nat Genet.</i> 2008 Sep;40(9):1092-7.</p>

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
～現在	日本内科学会（認定内科医）
～現在	日本消化器病学会（認定専門医 近畿支部評議員）
～現在	日本消化器内視鏡学会（認定専門医）

専任教員の教育・研究業績

所属	薬品化学研究室	職名	准教授	氏名	上田 昌史	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 薬学入門、有機化学系の実習、演習および講義を担当した	2001年4月～現在		2009年9月～現在		3年次配当(2013年度から2年次)の有機化学系II実習では、医薬品を実際に合成する実習を実施した。また、未知検体の構造決定を化学反応や確認試験を利用して行った。医薬品の性質を深く理解させるために、スモールグループディスカッションを通して使える有機化学について教育した。
		2010年9月～2012年3月		2010年10月～2013年2月		2年次配当の有機化学演習では、復習を兼ねた小テストを毎回行い、学生の理解度の状況を把握した上で、問題解答解説を行った。
		2012年4月～現在				1年次の有機化学IIの講義を担当した。置換反応と脱離反応について講義した。反応機構を丁寧に何度も繰り返し説明し、学生全体の理解度の向上を目指した。
		2012年9月～現在				神戸大学医学部保健学科の学生に、基礎有機化学の講義を行った。高校で学んだ有機化学の内容を大学レベルの視点から解説し、有機化合物の性質に影響を及ぼす官能基について概説した。さらに、習熟度を考慮しながら、医薬品の開発過程や最新の医薬品事情について説明した。
						1年次の薬学入門の講義を担当した。解熱鎮痛薬を化学系薬学の観点から講義し、有機化学が生命現象の理解に重要であることを概説した。また、スモールグループディスカッションを実施し、薬学関連科目の密なつながりについて説いた。
						3年次配当の有機化学VIの講義では、医薬品構造と薬理作用の関連性について解説し、薬学における有機化学の重要性について説いた。また、高学年になっても忘れない覚える有機化学ではなく考える有機化学を徹底して説いた。なお、2012度の本講義の授業評価アンケートによって、ベストティーチャー賞を受賞した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2001年 (毎年改訂)		2013年		有機化学系II実習書 有機化学演習
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4	その他教育活動上特記すべき事項					2012度 (3年後期、有機化学VI) ベストティーチャー賞受賞

II 研究活動		
氏名	種別	内容
Ueda M., Miyabe H., Nonoguchi N., Miyata O., Tamura O., Naito T.	論文	Heterocycles 2009, 79(1), 739-751. "Intermolecular Carbon Radical Addition to Cyclic Nitron"
Ueda M., Miyabe H., Kimura T., Kondoh E., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2009, 11(20), 4632-4635. "Aerobic Hydroxylation of N-Borylenamine: Triethylborane-mediated Hydroxyalkylation of a,b-Unsaturated Oxime Ether."
Rahaman H., Ueda M., Miyata O., Naito T.	論文	Org. Lett. 2009, 11(12), 2651-2654. "Two Novel Domino Reactions Triggered by Thiyl-Radical Addition to Vinylcyclopropyl Oxime Ether"
Ueda M., Miyabe H., Miyata O., Naito T.	論文	Tetrahedron 2009, 65(7), 1321-1326. "Carbon Radical Addition to N-Sulfonylimines Mediated by Triethylborane or Zinc"
Ueda M., Miyabe H., Torii M., Kimura T., Miyata O., Naito T.	論文	Synlett 2010, (9), 1341-1344. "Indium(I)-Mediated Radical Carbon-Carbon Bond-Forming Reaction in Aqueous Media"
Ueda M., Kawai S., Hayashi M., Naito T., Miyata O.	論文	J. Org. Chem. 2010, 75(3), 914-921. "Efficient Entry into 2-Substituted Tetrahydroquinoline Systems through Alkylative Ring Expansion: Stereoselective Formal Synthesis of (+/-)-Martinelllic Acid"
Ueda M., Iwasada E., Miyabe H., Miyata O., Naito T.	論文	Synthesis 2010, (12), 1999-2004. "Synthesis of Fluorinated Imines by Addition of Fluoroalkyl Radicals to Conjugated Imines"
Ueda M., Sato A., Ikeda Y., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2010, 12(11), 2594-2597. "Direct synthesis of trisubstituted isoxazoles through gold-catalyzed domino reaction of alkynyl oxime ethers"
Miyoshi T., Miyakawa T., Ueda M., Miyata O.	論文	Angew. Chem. Int. Ed. 2011, 50(4), 928-931. "Nucleophilic alpha-Arylation and alpha-Alkylation of Ketones by Polarity Inversion of N-Alkoxyenamines: A New Entry to the Umpolung Reaction at the alpha-Carbon of Carbonyl Compounds"

Ueda M., Matsubara H., Yoshida K., Sato A., Naito T., Miyata O.	論文	Chem. Eur. J., 17(6), 2011, 1789-1792. "Regiodivergent Addition of Carbon Unit to Dual-Activated Alkynes for Stereoselective Construction of Tetrasubstituted Alkenes"
Ueda M., Sugita S., Aoi N., Sato A., Ikeda Y., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Chem. Pharm. Bull., 2011, 59(9), 1206-1208. "Palladium-catalyzed Cross Coupling Reaction of N-Alkoxyimidoyl Bromides and Its Application to One-pot Synthesis of N-Arylamines"
Ueda M., Ikeda Y., Sato A., Ito Y., Kakiuchi M., Shono H., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Tetrahedron, 67(25), 2011, 4612-4615. "Silver-Catalyzed Synthesis of Disubstituted Isoxazoles by Cyclization of Alkynyl Oxime Ethers"
Jithunsa M., Ueda M., Miyata O.	論文	Org. Lett. 2011, 13(3), 518-521. "Copper(II) Chloride-Mediated Cyclization Reaction of N-Alkoxy-ortho-alkynylbenzamides"
Ueda M., Kondoh E., Ito Y., Shono H., Kakiuchi M., Ichii Y., Kimura T., Miyoshi T., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Biomol. Chem., 9(7), 2011, 2062-2064. "Benzyl Radical Addition Reaction through the Homolytic Cleavage of a Benzylic C-H Bond"
Kiyonaga D., Tagawa D., Yamaguchi Y., Wakabayashi M., Kogure T., Ueda M., Miyata O., Kobayashi Y.	論文	Biol. Pharm. Bull., 2012, 35(8), 1275-1280. "Benzofuran Derivatives Inhibit 11 β -Hydroxysteroid Dehydrogenase Type 1 Activity in Rat Adipose Tissue"
Miyoshi T., Sato S., Tanaka H., Hasegawa C., Ueda M., Miyata O.	論文	Tetrahedron Lett., 2012, 53(32), 4188-4191. "One-pot Method for α -Phenylation of Ketones using Isoxazolidine and Triphenylaluminum"
Ueda M., Sugita S., Sato A., Miyoshi T., Miyata O.	論文	J. Org. Chem., 2012, 77(20), 9344-9351. "Copper-Catalyzed Synthesis of Trisubstituted Isoxazoles via a Cascade Cyclization-Migration Process"
上田 昌史、内藤 猛章、宮田 興子	総説	有機合成化学協会誌, 2012, 70(4), 331-342. 「共役オキシムエーテル類へのラジカル付加反応を基盤としたドミノ型反応の開発」
Jithunsa M., Ueda M., Aoi N., Sugita S., Miyoshi T., Miyata O.	論文	Synlett, 2013, (4), 475-478. "Palladium-Catalyzed Synthesis of Isoquinolinones via Sequential Cyclization and N-O Bond Cleavage of N-Methoxy-o-alkynylbenzamides"
Wipf P., Fang Z., Ferrié L., Ueda M., Walczak M. A. A., Yan Y., Yang M.	論文	Pure Appl. Chem., 2013, 85(6), 1079-1087. "Cycloadditions in Heterocycle and Alkaloid Synthesis"

Ueda M., Ono A., Nakao D., Matsuno K., Naito T., Miyata O.	論文	Tetrahedron, 2013, 69(33), 6866-6874. "Total Synthesis of Penmacric Acids via an Intermolecular Radical Addition Reaction"
Miyoshi T., Matsuya S., Tsugawa M., Sato S., Ueda M. Miyata O.	論文	Org. Lett., 2013, 15(13), 3374-3377. "Sequential Retro-Ene Arylation Reaction of N-Alkoxyenamides for the Synthesis of tert-Alkylamines"
Takeda N., Ueda M., Kagehira S., Komei H., Tohnai N., Miyata M., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett., 2013, 15(17), 4382-4385. "Synthesis of Dihydrobenzofurans with Quaternary Carbon under Mild and Neutral Conditions"
Miyoshi T., Aoki Y., Uno Y., Araki M., Kamatani T., Fujii D., Fujita Y., Takeda N., Ueda M., Kitagawa H., Emoto N., Mukai T., Tanaka T., Miyata O.	論文	J. Org. Chem., 2013, 78(22), 11433-11443. "Michael Addition-Aromatization Reaction of Dienylimines Bearing a Leaving Group and Its Application to the Preparation of Thiol-Selective Labeling Reagents Capable of Forming Strong Carbon-Sulfur Bonds"
III 学会等および社会における主な活動		
1999年～現在に至る	日本薬学会会員	
2000年～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2011年～現在に至る	近畿化学協会会員	
2011年2月～現在に至る	有機合成化学協会関西支部幹事	
2009年4月～2011年3月	日本薬学会 フェルマシアトピックス専門小委員	
2011年5月～現在に至る	次世代を担う有機化学シンポジウム世話人	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬理学研究室	職名 准教授	氏名 水谷 暢明	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2008年4月～2013年12月 2009年4月～2013年12月 2007年9月～2013年12月	薬学英語 I I（神戸薬科大学の学部学生に薬学英語IIの講義を行った。） 薬理学 I I（神戸薬科大学の学部学生に薬理学IIの講義を行った。） 薬理学実習（神戸薬科大学の学部学生に薬理学実習の指導を行った。）	
2 作成した教科書、教材、参考書		薬理学 I I（薬理学IIの授業内容をまとめたプリント配布）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年 2011年 2013年	親和女子（環境とアレルギー） 市民公開講座（わかりやすい花粉症の話） 第25回日本アレルギー学会春期臨床大会シンポジウムにて講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Mizutani N, Nabe T, Yoshino S.	論文	Complement C3a regulates late asthmatic response and airway hyperresponsiveness in mice. J Immunol. 183:4039-46 (2009).	

Mizutani N, Fuchikami J, Takahashi M, Nabe T, Yoshino S, Kohno S.	論文	Pulmonary emphysema induced by cigarette smoke solution and lipopolysaccharide in guinea pigs. <i>Biol Pharm Bull.</i> 32(9):1559-64 (2009).
Fujii M, Nakamura T, Fukuno S, Mizutani N, Nabe T, Kohno S.	論文	Ethanol aggravates itch-related scratching in hairless mice developing atopic dermatitis. <i>Eur J Pharmacol.</i> 611(1-3):92-9 (2009).
Hutamekalin P, Saito T, Yamaki K, Mizutani N, Brand DD, Waritani T, Terato K, Yoshino S.	論文	Collagen antibody-induced arthritis in mice: development of a new arthritogenic 5-clone cocktail of monoclonal anti-type II collagen antibodies. <i>J Immunol Methods.</i> 343(1):49-55 (2009).
Ogita-Nakanishi H, Nabe T, Mizutani N, Fujii M, Kohno S.	論文	Absence of nasal blockage in a Japanese cedar pollen-induced allergic rhinitis model mouse. <i>Allergol Int.</i> 58(2):171-8 (2009).
Mizutani N, Aoki Y, Nabe T, Ishiwara M, Yoshino S, Takagaki H, Kohno S.	論文	Effect of TA-270, a novel quinolinone derivative, on antigen-induced nasal blockage in a guinea pig model of allergic rhinitis. <i>Eur J Pharmacol.</i> 602(1):138-42 (2009).
Nabe T, Tsuzuike N, Ohtani Y, Mizutani N, Watanabe S, Fujii M, Yoshimura M, Nagasawa M, Kohno S.	論文	Important roles of tachykinins in the development of allergic nasal hyperresponsiveness in guinea-pigs. <i>Clin Exp Allergy.</i> 39(1):138-46 (2009).
Mizutani N, Inui S, Yoshino S, Nabe T.	論文	Intratracheal sensitization/challenge-induced biphasic asthmatic response and airway hyperresponsiveness in guinea pigs. <i>Biol Pharm Bull.</i> 33; 1949-1952 (2010)
Yoshino S, Sasahara M, Yamaki K, Mizutani N, Kuramoto H, Hutamekalin P.	論文	Suppression of antibody-mediated arthritis in mice by Fab fragments of the mediating antibodies. <i>British J Pharmacol.</i> 161; 1351-1360 (2010)
Hutamekalin P, Takeda K, Tani M, Tsuga Y, Ogawa N, Mizutani N, Yoshino S.	論文	Effect of the C3a-receptor antagonist SB 290157 on anti-OVA polyclonal antibody-induced arthritis. <i>J Pharmacol Sci.</i> 112(1):56-63 (2010).

水谷暢明、湊上淳一、高橋真樹、奈邊 健、吉野 伸、河野茂勝	著書	タバコ煙溶液およびポリポリサッカライドによる肺気腫モデルの作製. 日薬理誌 135;25-29 (2010)
Nabe T, Hosokawa F, Matsuya K, Morishita T, Ikedo A, Fujii M, Mizutani N, Yoshino S, Chaplin DD.	論文	Important role of neutrophils in the late asthmatic response in mice. Life Science. 88, 1127-1135 (2011).
Nabe T, Morishita T, Matsuya K, Ikedo A, Fujii M, Mizutani N, Yoshino S.	論文	Complete dependence on CD4+ cells in late asthmatic response, but limited contribution of the cells to airway remodeling in sensitized mice. J Pharmacol Sci. 116, 373-383 (2011).
Nabe T, Mizutani N.	総説	Aggravation of Allergic Rhinitis by Air Pollution: Demonstration by an Animal Model of Pollenosis. Advanced Topics in Environmental Health and Air Pollution Case Studies, ISBN: 978-953-307-525-9 (2011).
Koobkokkruad T, Kadotani T, Hutamekalin P, Mizutani N, Yoshino S.	論文	Arthrogenicity of type II collagen monoclonal antibodies associated with complement activation and antigen affinity. Inflamm (Lond). 8, 31 (2011).
Mizutani N, Goshima H, Nabe T, Yoshino S.	論文	Establishment and characterization of a murine model for allergic asthma using allergen-specific IgE monoclonal antibody to study pathological roles of IgE. Immunol Lett. 141, 235-245 (2011).
Nabe T, Ikedo A, Hosokawa F, Kishima M, Fujii M, Mizutani N, Yoshino S, Ishihara K, Akiba S, Chaplin DD.	論文	Regulatory role of antigen-induced interleukin-10, produced by CD4(+) T cells, in airway neutrophilia in a murine model for asthma. Eur J Pharmacol. 29, 154-162 (2012).
Mizutani N, Nabe T, Yoshino S.	論文	Exposure to multiwalled carbon nanotubes and allergen promotes early- and late-phase increases in airway resistance in mice. Biol Pharm Bull. 35, 2133-2140 (2012).
Mizutani N, Goshima H, Nabe T, Yoshino S.	論文	Complement C3a-induced IL-17 plays a critical role in an IgE-mediated late-phase asthmatic response and airway hyperresponsiveness via neutrophilic inflammation in mice. J Immunol. 188, 5694-5705 (2012).

Mizutani N, Nabe T, Shimazu M, Yoshino S, Kohno S.	論文	Effect of Ganoderma lucidum on pollen-induced biphasic nasal blockage in a guinea pig model of allergic rhinitis. <i>Phytother Res.</i> 26, 325-332 (2012).
Nabe T, Matsuya K, Akamizu K, Fujita M, Nakagawa T, Shioe M, Kida H, Takiguchi A, Wakamori H, Fujii M, Ishihara K, Akiba S, Mizutani N, Yoshino S, Chaplin DD.	論文	Roles of basophils and mast cells infiltrating the lung by multiple antigen challenges in asthmatic responses of mice. <i>Br J Pharmacol.</i> 169, 462-476 (2013).
Mizutani N, Nabe T, Yoshino S.	論文	Interleukin-33 and alveolar macrophages contribute to the mechanisms underlying the exacerbation of IgE-mediated airway inflammation and remodelling in mice. <i>Immunology.</i> 139, 205-218 (2013).
Koobkokkrud T, Kadotani T, Mizutani N, Yoshino S.	論文	Efficient induction of arthritis in mice by an arthritogenic 4-clone cocktail of anti-type II collagen monoclonal antibodies recognizing different epitopes of the antigen. <i>Biol Pharm Bull.</i> 36, 1299-1304 (2013).
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1996年4月～現在に至る	日本薬学会会員	
1996年4月～現在に至る	日本薬理学会会員	
2010年4月～現在に至る	日本薬理学会評議員	
2007年4月～現在に至る	日本免疫学会会員	
2007年4月～現在に至る	免疫毒性学会会員	
1996年4月～現在に至る	日本アレルギー学会会員	
2009年4月～現在に至る	The American Association of Immunologists (会員)	
2007年4月～現在に至る	日本リウマチ学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 生薬化学研究室	職名 准教授	氏名 士反 伸和	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2009年～現在に至る	2年次生に対し「生薬化学実習」の授業を担当し、天然物の抽出や分析、生薬の確認試験や純度試験など、生薬に関する基礎的な事柄を実際に作業・習得させることを行っている。実習での手技などについてパワーポイントで解説するとともに、実験作業について各学生に細やかに指導している。さらに、得られた結果から考察に至る部分については、教卓で各学生ごとに説明させ、適宜指導を行うことで考察力を高めるよう工夫を行っている。	
	2010年～現在に至る	1年次生に対し「薬用資源学」の授業を担当し、それぞれの植物の器官から得られる医薬品原料についてなど、薬用となる資源の講義を行っている。講義においてはパワーポイントでイラストを使用し視覚的にわかりやすくするとともに、講義中の学生への質問で理解度を把握し、小テストや前回の復習問題で適宜復習を促すなどの工夫を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Shitan N., Yazaki K.	著書	Int. Rev. Cell Mol. Biol. 2013, 305, 383-433 "New insights into the transport mechanisms in plant vacuoles."	

Tsuyama T., Kawai R., Shitan N., Matoh T., Sugiyama J., Yoshinaga A., Takabe K., Fujita M., Yazaki K.	論文	Plant Physiol. 2013, 162(2): 918-26 "Proton-dependent coniferin transport, a common major transport event in differentiating xylem tissue of woody plants."
Shitan N., Sugiyama A., Yazaki K.	論文	Methods in Mol. Biol. 2013, 1011: 241-250 "Functional Analysis of Jasmonic Acid-Responsive Secondary Metabolite Transporters"
Shitan N., Dalmás F., Dan K., Kato N., Ueda K., Sato F., Forestier C., Yazaki K.	論文	Phytochemistry 2013, 91: 109-116 "Characterization of <i>Coptis japonica</i> CjABCB2, an ATP-binding cassette protein involved in alkaloid transport."
Kamimoto Y., Terasaka K., Hamamoto M., Takanashi K., Fukuda S., Shitan N., Sugiyama A., Suzuki H., Shibata D., Wang B., Pollmann S., Geisler M., Yazaki K.	論文	Plant Cell Physiol. 2012, 53(12):2090-100 " <i>Arabidopsis</i> ABCB21 is a facultative auxin im/exporter regulated by cytoplasmic auxin concentration"
Inui T., Kawano N., Shitan N., Yazaki K., Kiuchi F., Kawahara N., Sato F., Yoshimatsu K.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2012, 35, 650-659 "Improvement of benzylisoquinoline alkaloid productivity by overexpression of 3'-hydroxy- <i>N</i> -methylcochlorine 4'- <i>O</i> -methyltransferase in transgenic <i>Coptis japonica</i> plants"
Shitan N., Kamimoto Y., Minami S., Kubo M., Ito K., Moriyasu M., Yazaki K.	論文	Biosci. Biotech. Biochem. 2011 75, 982-984 "A tolerance gene for prenylated flavonoid encodes a 26s proteasome regulatory subunit in <i>Sophora flavescens</i> "
Sugiyama A., Linley P.J., Sasaki K., Kumano T., Yamamoto H., Shitan N., Ohara K., Takanashi K., Harada E., Hasegawa H., Terakawa T., Kuzuyama T., Yazaki K.	論文	Metabolic. Engineer. 2011, 13, 629-637 "Metabolic engineering for the production of prenylated polyphenols in transgenic legume plants using bacterial and plant prenyltransferases"
Koeduka, T., Shitan, N., Kumano, T., Sasaki, K., Sugiyama, A., Linley, P., Kawasaki, T., Ezura, H., Kuzuyama, T., Yazaki, K.	論文	Plant Biol. 2011, 13, 411-415 "Production of prenylated flavonoids in tomato fruits expressing a prenyltransferase gene from <i>Streptomyces coelicolor</i> A3(2)"
Watanabe T., Shitan N., Suzuki S., Umezawa T., Shimada M., Yazaki K., Hattori T.	論文	Appl. Environ. Microbiol. 2010, 76, 7683-7690 "Oxalate efflux transporter from the brown rot fungus <i>Fomitopsis palustris</i> "
Shitan, N., Morita, M., Yazaki, K.	論文	Plant Signal. Behav. 2009, 4, 530-532 "Identification of a nicotine transporter in leaf vacuoles of <i>Nicotiana tabacum</i> "

Morita, M., Shitan, N., Sawada, K., Van Montagu, MC., Inze, D., Rischer, H., Goossens, A, Oksman-Caldentey, K. M., Moriyama, Y., Yazaki, K.	論文	Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 2009, 106, 2447-52 "Vacuolar transport of nicotine is mediated by a multidrug and toxic compound extrusion (MATE) transporter in <i>Nicotiana tabacum</i> "
Shoji T., Inai K., Yazaki Y., Sato Y., Takase H., Shitan N., Yazaki K., Goto Y., Toyooka K., Matsuoka K. Hashimoto T.	論文	Plant Physiol 2009, 149, 708-718 "Multidrug and toxic compound extrusion-type transporters implicated in vacuolar sequestration of nicotine in tobacco roots"
Yazaki K., Shitan N., Sugiyama A., Takanashi K.	著書	Int. Rev. Cell Mol. Biol. 2009, 276, 263-299 "Cell and molecular biology of ATP-binding cassette proteins in plants"
Kamimoto, Y., Hamamoto, M., Shitan N., Yazaki K.	論文	Plant Biotech. 2009, 26, 261-265 "Unusual expression of an Arabidopsis ATP-binding cassette transporter ABCC11"
III 学会等および社会における主な活動		
1999年4月～現在に至る	日本農芸化学会会員	
2000年4月～現在に至る	日本分子生物学会会員	
2000年4月～現在に至る	日本植物細胞生物学会会員	
2003年4月～現在に至る	日本植物生理学会会員	
2007年4月～現在に至る	トランスポーター研究会会員	
2011年4月～現在に至る	トランスポーター研究会世話人	
2009年4月～現在に至る	日本生薬学会会員	
2009年4月～現在に至る	日本薬学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 臨床薬学研究室	職名 准教授	氏名 池田 宏二	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 薬学総合講座 薬物治療学III 実務実習事前教育 処方解析学	2014年～ 2014年～ 2014年～ 2014年～		
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Shimoda Y, Matsuo K, Ono K, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Ikeda K (corresponding author)	原著論文	Biochem Biophys Res Commun. 2014;446(4):1243-9	

Ogata T, Naito D, Nakanishi N, Hayashi YK, Taniguchi T, Miyagawa K, Hamaoka T, Maruyama N, Matoba S, Ikeda K, Yamada H, Oh H, Ueyama T	原著論文	Proc Natl Acad Sci U S A. 2014;111(10):3811-6
Hoshino A, Ariyoshi M, Okawa Y, Kaimoto S, Fukai K, Iwai-Kanai E, Ikeda K, Ueyama T, Ogata T, Matoba S	原著論文	Proc Natl Acad Sci U S A. 2014;111(8):3116-21
Kitamura Y, Koide M, Akakabe Y, Matsuo K, Shimoda Y, Soma Y, Ogata T, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Ikeda K (corresponding author)	原著論文	J Biol Chem. 2014;289(5):2788-800
Akakabe Y, Koide M, Kitamura Y, Matsuo K, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Miyata K, Oike Y, Ikeda K (corresponding author)	原著論文	Nat Commun. , 2013;4:2389
Hoshino A, Mita Y, Okawa Y, Ariyoshi M, Iwai-Kanai E, Ueyama T, Ikeda K, Ogata T, Matoba S	原著論文	Nat Commun. 2013;4:2308
Kawahito H, Yamada H, Irie D, Kato T, Akakabe Y, Kishida S, Takata H, Wakana N, Ogata T, Ikeda K, Ueyama T, Matoba S, Mori Y, Matsubara H	原著論文	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2013;305(5):H667-75
Ikeda K (corresponding author), Souma Y, Akakabe Y, Kitamura Y, Matsuo K, Shimoda Y, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Okigaki M, Matsubara H	原著論文	Biochem Biophys Res Commun. 425(1):39-44, 2012
Ikeda K (first and corresponding author), Takahashi T, Yamada H, Matsui K, Sawada T, Nakamura T, Matsubara H	原著論文	Eur J Prev Cardiol. 2013;20(6):1069-79
Nakamura H, Matoba S, Iwai-Kanai E, Kimata M, Hoshino A, Nakaoka M, Katamura M, Okawa Y, Ariyoshi M, Mita Y, Ikeda K, Okigaki M, Adachi S, Tanaka H, Takamatsu T, Matsubara H	原著論文	Circ Heart Fail. 2012;5(1):106-15

Hoshiono A, Matoba S, Iwai-Kanai E, Nakamura H, Kimata M, Nakaoka M, Katamura M, Okawa Y, Ariyoshi M, Mita Y, Ikeda K, Ueyama T, Okigaki M, Matsubara H	原著論文	J Mol Cell Cardiol. 2012;52(1):175-84
Koide M, Ikeda K (corresponding author), Akakabe Y, Kitamura Y, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Okigaki M, Matsubara H	原著論文	Proc Natl Acad Sci U S A. 2011;108(23):9472-7
Uraoka M, Ikeda K (corresponding author), Kurimoto-Nakano R, Nakagawa Y, Koide M, Akakabe Y, Kitamura Y, Ueyama T, Matoba S, Yamada H, Okigaki M, Matsubara H	原著論文	Hypertension. 2011;58(2):254-63
Kimata M, Matoba S, Iwai-Kanai E, Nakamura H, Hoshino A, Nakaoka M, Katamura M, Okawa Y, Mita Y, Okigaki M, Ikeda K, Tasumi T, Matsubara H	原著論文	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2011;299(6):H1908-1916
Nakagawa Y, Ikeda K (corresponding author), Akakabe Y, Koide M, Uraoka M, Yutaka KT, Kurimoto-Nakano R, Takahashi T, Matoba S, Yamada H, Okigaki M, Matsubara H	原著論文	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2010;30(10):1908-1915
Burton DG, Matsubara H, Ikeda K	原著論文	Exp Gerontol. 2010;45(11):819-824
III 学会等および社会における主な活動		
1994年6月～現在に至る	日本内科学会会員	
1994年6月～現在に至る	日本循環器学会会員	
2006年4月～現在に至る	日本腎臓学会会員	
2009年4月～現在に至る	日本高血圧学会会員	
2008年4月～現在に至る	日本血管生物医学会会員	
2013年4月～現在に至る	日本医学教育学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学基礎教育センター	職名	講師	氏名	児玉 典子	大学院における研究指導担当 資格の有無	(有)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		1999年～2011年		3年次学生対象の生物系（微生物）実習でマウス大腸からの大腸菌の検索・同定や抗菌力測定などの指導を行う。			
		2008年～現在に至る		3年次学生対象の薬学英语入門Ⅰ・Ⅱや抗生物質学（微生物学・生化学含）をプリントやスライドを用いて講義と確認問題などを行う。			
		1999年～2010年		4年次学生対象の微生物学、免疫学、抗生物質学（微生物学・生化学含）の国家試験対策としてCBT演習や薬学総合講座の講義をスライド及び要約プリントを配布して行う。			
		2011年～現在に至る		6年次学生対象の微生物学、免疫学、抗生物質学（微生物学・生化学含）の国家試験対策としてCBT演習や薬学総合講座の講義をスライド及び要約プリントを配布して行う。			
		2008年		3年次学生対象の総合文化演習において微生物（悪玉・善玉）についてのテーマをもとに、調査、要約、プレゼンテーションなどについて指導を行う。			
		2008年		1年次学生対象の早期体験学習において、施設見学や薬剤師としての役割についてのテーマのもとに調査、要約、プレゼンテーションなどについて指導を行う。			
		2008年～現在に至る		薬学基礎教育センターにて微生物学、免疫学、抗生物質学（微生物学・生化学含）についてオフィスアワーを行うとともに、基礎を固める講義形式のリトリーブアワーを開催して希望学生に練習問題と解説を行う。			
		2008年～現在に至る		薬学基礎教育センターにて留年生の学習及び生活指導を行う。			
		2008年～現在に至る		薬学基礎教育センターにてPESS（学生の学生による薬学学習支援活動）制度の企画・実施を行う。			
		2009年～2010年		薬学基礎教育センターにてTOEIC初級勉強会（500～600点目標）や英語でニュースを読むなどの勉強会を開催する。			
		2009年～現在に至る		薬学基礎教育センターにて、学習カウンセリングを行う。			

2 作成した教科書、教材、参考書	2012年3月	HUMAN READER 生命科学英語 -life and disease-
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年9月 2010年3月 2010年8月 2010年12月 2011年3月 2012年12月 2012年12月 2012年3月 2013年9月	日本リメディアル教育学会（第5回全国大会） 発表 日本薬学会（第130年会） 発表 日本リメディアル教育学会（第6回全国大会） 発表 第33回日本分子生物学会・第83回日本生化学会大会 合同大会 発表 日本薬学会（第131年会） 発表 第85回日本生化学会大会 発表-1 第85回日本生化学会大会 発表-2 日本薬学会（第132年会） 発表 第86回日本生化学会大会
4 その他教育活動上特記すべき事項	2009年10月～現在 2010年10月～現在 2010年12月～現在 2012年 4月～現在 2013年9月～現在	キャリアカウンセラー資格取得（CCE, Inc. 認定 GCDF-Japan） ゲシュタルト療法研修修了資格（日本心理療法士協会） TA心理カウンセラー2級資格取得（日本心理療法協会） 認定心理士資格取得（日本心理学会） 睡眠健康指導士上級（日本睡眠教育機構認定）
II 研究活動		
氏名	種別	内容
Kodama N., Mizuno S., Asakawa A., Inui A., Nanba H.	論文	Mycoscience 2010, 51 (2), 134-138. "Effect of a hot water-soluble extraction from Grifola frondosa on the viability of a human monocyte cell line exposed to mitomycin C"
Kodama N., Mizuno S., Nanba H., Saito N.	論文	J Med. Food 2010, 13 (1), 20-30. "Potential Anti-Tumor Activity of a Low Molecular Protein Fraction (MLP-Fraction) from Grifola frondosa through the Enhancement of Cytokine Production"
Asakawa A., Fujimiya M., Niijima A., Fujino K., Kodama N., Sato Y., Kato I., Nanba H., Alessandro Laviano, Michael M. Meguid8, Inui A.	論文	Psychoneuroendocrinology 2010, 35 (8), 1178-1186. "Parathyroid hormone-related protein has an anorexigenic activity via activation of hypothalamic urocortins 2 and 3"

Koyama J., Moriyasu M., Kodama N.	研究ノート	Libra 2011, 12, 21-41. "神戸薬科大学新入生におけるキャリア・マップのアンケート調査と考察"
Kodama N., Shinoki M., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2011, 12, 43-54. "Open Office Hour Educational Assistance Program in Department of Basic Education Center for Pharmacy, Kobe Pharmaceutical University"
Kodama N., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2011, 12, 55-76. "Pharmaceutical Educational Tutoring System for Academic Improvement in Kobe Pharmaceutical University"
Koyama J., Sinoki M., Moriyasu M., Kamigauchi M., Kodama N.	研究ノート	Libra 2012, 13, 27-46. "Recent Trial of Learning Ability Improvement in the Basic Education Center for Pharmacy at Kobe Pharmaceutical University"
Kodama N., Adachi A., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2012, 13, 47-63. "The Relationship of Academic Learning Activity and Motivation in Retrieve Hour Educational Assistance Program in the basic Education Center for Pharmacy, Kobe Pharmaceutical University"
Koyama J., Moriyasu M., Kodama N.	研究ノート	Libra 2013, 14, 1-27. "Examining the Evaluation and the Effeitiveness of Placement Test at Kobe Pharmaceutical University"
Kodama N., Adachi A., Moriyasu M., Koyama J.	研究ノート	Libra 2013, 14, 29-61. "Constructivism-content and Language Integrated Learning (CLIL) Method to Protocol Understanding of Pharmaceutical Integrated Curriculum"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		

専任教員の教育・研究業績

所属 病態生化学研究室	職名 講師	氏名 多河 典子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1)学部学生への教育		2006年10月～現在に至る 2009年10月～現在に至る 2009年10月～現在に至る 2009年12月～現在に至る	学部1年生に生化学の講義を行っている。理解度の確認のための小テストを行い、講義の内容をまとめてプリントとして配布している。 学部3年生に臨床検査学の講義を行っている。講義の内容をまとめてプリントとして配布している。 毎年、生化学と臨床検査学のオフィスアワーを行って、講義内容の確認をしている。 学部4年生～6年生に卒業研究I・IIの指導を行っている。
(2)薬学研究科大学院生への講義 (3)その他教育活動上特記すべき事項		2008年から2013年 2009年～2011年 2010. 11. 10, 2011. 11. 11	病態生化学特論を2コマ担当した。 推薦入学者の宿題作成、質問会で解説を行った。 高校での出張講義
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Tagawa N., Yuda R., Kubota S., Wakabayashi M., Yamaguchi Y., Kiyonaga D., Mori N., Minamitani E., Masuzaki H., Kobayashi Y.		論文	J. Endocrinol. 2009, 202(1), 131-139. "17Beta-estradiol inhibits 11beta-hydroxysteroid dehydrogenase type 1 activity in rodent adipocytes"
Sugimoto Y, Furutani S, Kajiwara Y, Hirano K, Yamada S, Tagawa N, Kobayashi Y, Hotta Y, Yamada J.		論文	Eur J Pharmacol 2010, 629(1-3), 53-57. "Involvement of the 5-HT(1A) receptor in the anti-immobility effects of fluvoxamine in the forced swimming test and mouse strain differences in 5-HT(1A) receptor binding. Sugimoto Y, Furutani S, Kajiwara Y, Hirano K

Sugimoto Y, Furutani S, Kajiwara Y, Hirano K, Yamada S, Tagawa N, Kobayashi Y, Hotta Y, Yamada J.	論文	Eur J Pharmacol 2010, 629(1-3), 53-57. "Involvement of the 5-HT(1A) receptor in the anti-immobility effects of fluvoxamine in the forced swimming test and mouse strain differences in 5-HT(1A) receptor binding."
Tagawa N, Minamitani E, Yamaguchi Y, Kobayashi Y.	論文	Steroids 2011, 76(14), 1546-53. "Alternative mechanism for anti-obesity effect of dehydroepiandrosterone: Possible contribution of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 1 inhibition in rodent adipose tissue."
Sugimoto Y, Yamamoto M, Tagawa N, Kobayashi Y, Mitsui-Saitoh K, Hotta Y, Yamada J.	論文	Eur J Pharmacol. 2011, 672(1-3), 121-5. "Differences between mice strains in response to paroxetine in the forced swimming test: involvement of serotonergic or noradrenergic systems."
Kiyonaga D, Tagawa N, Yamaguchi Y, Wakabayashi M, Kogure T, Ueda M, Miyata O, Kobayashi Y.	論文	Biol Pharm Bull. 2012;35(8):1275-80. "Benzofuran derivatives inhibit 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 1 activity in rat adipose tissue."
Sugimoto Y, Tagawa N, Kobayashi Y, Mitsui-Saito K, Hotta Y, Yamada J.	論文	Eur J Pharmacol. 2012;696(1-3):96-100. "Involvement of the signal receptor in the antidepressant-like effects of fluvoxamine in the forced swimming test in comparison with the effects elicited by paroxetine."
I. Kimura M, Shindo M, Moriizumi T, Tagawa N, Fujinami A, Kato I, Uchida Y.	論文	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2014;62(6):586-90. "Salusin- β , an antimicrobially active peptide against Gram-positive bacteria."
III 学会等および社会における主な活動		
2006年4月～現在に至る	日本内分泌学会代議員	
2013年6月～現在に至る	日本臨床化学会評議員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬化学研究室	職名 講師	氏名 竹仲 由希子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 学部学生に対する講義	2002年1月～ 2006年4月～ 2008年10月～	学生実習：基礎的な実験操作をパワーポイントを用いた事前の講義で詳しく説明し、イメージしやすくしている。 演習：毎回小テストをおこない、学生の理解度を確認しながら進めている。 有機化学：適宜、まとめおよび練習問題のプリントを配布し、学生が学習内容を整理しやすくしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 チューター学生に対する指導	2005年4月～2008年3月		
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Tanahashi T., Takenaka Y., Okazaki N., Koge M., Nagakura N., Nishi T.	論文	Phytochemistry 2009, 70(17-18), 2072-2077. "Iridoid glucosides and unusual recyclized secoiridoid aglycones Ligstrum vulgare."	
Nishimura K., Takenaka Y., Kishi M., Tanahashi T., Yoshida H., Okuda C., Mizushima Y.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(5), 476-480. "Synthesis and DNA Polymerase α and β Inhibitory Activity of Alkyl p-coumarates and Related Compounds"	

Mizushina Y., Nishimura K., Takenaka Y., Takeuchi T., Sugawara F., Yoshida H., Tanahashi T.	論文	Int. J. Oncol. 2010, 37, 993-1000. "Inhibitory effects of docosyl p-coumarate on DNA topoisomerase activity and human cancer cell growth"
Takenaka Y., Hamada N., Tanahashi T.	論文	Z. Naturforsch. 2010, 65c, 637-641. "Structure and biosynthesis of lecanopyrone, a naphtho[1,8-cd]pyran-3-one derivative from cultured lichen mycobionts of <i>Lecanora leprosa</i> "
Takenaka Y., Nagakura N., Hamada N., Tanahashi T.	論文	Heterocycles 2010, 81(8), 1931-1935. "Naphthopyrones from cultured lichen mycobionts of <i>Pyrenula</i> sp. "
Takenaka Y., Morimoto N., Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Phytochemistry</i> 2011, 72(11-12), 1431-1435. "Phenolic compounds from the cultured mycobionts of <i>Graphis proserpens</i> "
Takenaka Y., Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Heterocycles</i> 2011, 83(9), 2157-2164. "Aromatic compounds from cultured lichen mycobionts of three <i>Graphis</i> species "
Le Hoang Duy, Takenaka Y., Hamada N., Miyayaki H., Tanahashi T.	論文	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 61(3), 358-362 (2013). "A 14-Membered Macrolide and Isocoumarin Derivatives from Cultured Lichen Mycobionts of <i>Graphis vestitoides</i> "
Takenaka Y., Naito Y., Le Hoang Duy, Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Heterocycles</i> , 87(9), 1897-1902 (2013). "Naphthoquinones and phenalenone derivatives from the cultured lichen mycobionts of <i>Trypethelium</i> sp. "
Le Hoang Duy, Takenaka Y., Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Phytochemistry</i> , 91, 242-248 (2013). "Ermophilane-type sesquiterpenes from cultured lichen mycobionts of <i>Sarcographa tricosia</i> "
Takenaka Y., Taguchi S., Le Hoang Duy, Hamada N., Tanahashi T.	論文	<i>Heterocycles</i> , 87(12), 2651-2657 (2013). "3,4-Dihydro-2 <i>H</i> ,5 <i>H</i> -pyrano[3,2- <i>c</i>]chromene and benzophenone derivatives from cultured lichen mycobionts of Vietnamese <i>Graphis</i> sp. "
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2010年1月～2011年12月	日本地衣学会評議員	

専任教員の教育・研究業績

所属 臨床薬学研究室	職名 講師	氏名 八木 敬子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
薬学総合講座	2006年～現在に至る	学生が内容を理解しやすいように、教科書を基にした独自のプリントを作成。	
薬物治療学III	2009年～現在に至る	学生が内容を理解しやすいように、教科書を基にした独自のプリントを作成。	
実務実習事前教育	2009年～現在に至る	学生が内容を理解しやすいように、丁寧な指導を行った。	
処方解析学	2011年～現在に至る	学生が内容を理解しやすいように、教科書を基にした独自のプリントを作成。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
特になし			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Kisanuki YY, Emoto N, Ohuchi T, Widyantoro B, Yagi K, Nakayama K, Kedzierski RM, Hammer RE, Yanagisawa H, Williams SC, Richardson JA, Suzuki T, Yanagisawa M.	論文	Hypertension 2010, 56(1), 121-128. "Low blood pressure in endothelial cell-specific endothelin 1 knockout mice."	

Miyagawa K, Emoto N, Widyantoro B, Nakayama K, Yagi K, Rikitake Y, Suzuki T, Hirata K.	論文	Attenuation of Doxorubicin-induced cardiomyopathy by endothelin-converting enzyme-1 ablation through prevention of mitochondrial biogenesis impairment. (Hypertension, 2010) 55(3).738-746.
Widyantoro B, Emoto N, Nakayama K, Anggrahini DW, Adiarto S, Iwasa N, Yagi K, Miyagawa K, Rikitake Y, Suzuki T, Kisanuki YY, Yanagisawa M, Hirata K.	論文	Circulation 2010, 121(22), 2407-2418. "Endothelial cell-derived endothelin-1 promotes cardiac fibrosis in diabetic hearts through stimulation of endothelial-to-mesenchymal transition."
Anggraeni VY, Emoto N, Yagi K, Mayasari DS, Nakayama K, Izumikawa T, Kitagawa H, Hirata K.	論文	Biochem Biophys Res Commun. 2011, 406(1), 36-41. "Correlation of C4ST-1 and ChGn-2 expression with chondroitin sulfate chain elongation in atherosclerosis."
Nakayama K, Emoto N, Suzuki Y, Vignon-Zellweger N, Yagi K, Hirata K.	論文	Physiological relevance of hydrolysis of atrial natriuretic peptide by endothelin-converting enzyme-1. Kobe J Med Sci. 2012 Jun 21;58(1):E12-8.
Arfian N, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Yagi K, Hirata K.	論文	ET-1 deletion from endothelial cells protects the kidney during the extension phase of ischemia/reperfusion injury. Biochem Biophys Res Commun. 2012 Aug 24;425(2):443-9.
Adiarto S, Heiden S, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Yagi K, Yanagisawa M, Emoto N.	論文	ET-1 from endothelial cells is required for complete angiotensin II-induced cardiac fibrosis and hypertrophy. Life Sci. 2012 Oct 15;91(13-14):651-7.
Ali H, Emoto N, Yagi K, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Hatakeyama K, Asada Y, Rikitake Y, Hirata K.	論文	Localization and characterization of a novel secreted protein, SCUBE2, in the development and progression of atherosclerosis. Kobe J Med Sci. 2013 Nov 9;59(4):E122-31.
Hartopo AB, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Suzuki Y, Yagi K, Nakayama K, Hirata K.	論文	Endothelin-converting enzyme-1 gene ablation attenuates pulmonary fibrosis via CGRP-cAMP/EPAC1 pathway. Am J Respir Cell Mol Biol. 2013 Apr;48(4):465-76.
Mayasari DS, Emoto N, Yagi K, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Miyoshi T, Miyata O, Hirata K.	論文	Rhodamine-labeled LDL as a tool to monitor the lipoprotein traffic in experimental model of early atherosclerosis in mice. Kobe J Med Sci. 2013 Apr 18;59(2):E54-63.

Purnomo E, Emoto N, Nugrahaningsih DA, Nakayama K, Yagi K, Heiden S, Nadanaka S, Kitagawa H, Hirata K.	論文	Glycosaminoglycan overproduction in the aorta increases aortic calcification in murine chronic kidney disease. J Am Heart Assoc. 2013 Aug 28;2(5):e000405.
Nugrahaningsih DA, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Purnomo E, Yagi K, Nakayama K, Doi M, Okamura H, Hirata K.	論文	Chronic hyperaldosteronism in cryptochrome-null mice induces high-salt- and blood pressure-independent kidney damage in mice. Hypertens Res. 2014 Mar;37(3):202-9.
Van Hung T, Emoto N, Vignon-Zellweger N, Nakayama K, Yagi K, Suzuki Y, Hirata KI.	論文	Inhibition of vascular endothelial growth factor receptor under hypoxia causes severe, human-like pulmonary arterial hypertension in mice: Potential roles of interleukin-6 and endothelin. Life Sci. 2014 Jan 8. pii: S0024-3205(14)00010-1.
Heiden S, Vignon-Zellweger N, Masuda S, Yagi K, Nakayama K, Yanagisawa M, Emoto N.	論文	Vascular endothelium derived endothelin-1 is required for normal heart function after chronic pressure overload in mice. PLoS One. 2014 Feb 11;9(2):e88730
III 学会等および社会における主な活動		
1991年6月～現在に至る	日本小児科学会会員	
1998年4月～現在に至る	日本薬理学会会員	
2009年4月～現在に至る	日本薬学会会員	
2010年4月～現在に至る	日本高血圧学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬剤学研究室	職名 講師	氏名 上田 久美子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 特になし			
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Ikehata M, Ogawa M, Yamada Y, Tanaka S, Ueda K, Iwakawa S.		論文	Biol. Pharm. Bull. 2014, 37(1), 67-73. "Different effects of epigenetic modifiers on the cytotoxicity induced by 5-fluorouracil, irinotecan or oxaliplatin in colon cancer cells."
Ikehata M., Ueda K., Iwakawa S.		論文	Biol Pharm Bull. 2012, 35(3), 301-307. "Different involvement of DNA methylation and histone deacetylation in the expression of solute-carrier transporters in 4 colon cancer cell lines."
III 学会等および社会における主な活動			
2006年 4月～	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 委員		
2009年 4月～2011年 3月	日本薬学会 ファルマシア トピックス専門小委員		

専任教員の教育・研究業績

所属 生化学研究室	職名 講師	氏名 三上 雅久	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 学部学生への教育		2007年4月～現在に至る	学部2年次生に対して、「生化学II」および「生化学III」の講義を行っている。「生化学II」では、タンパク質・酵素について、できるだけ日常の話題や疾患との関連性を織り交ぜながら解説している。「生化学III」では、エネルギー代謝と恒常性の維持について、補助プリント等を用意して、体系的に理解してもらえるよう努めている。また、学生からの質問に対して個別対応にとどまらず、後の講義やオフィスアワーなどで学生全体にフィードバックしている。CBTや国家試験への対策として、関連する過去問の解説を実施し、その一部を定期試験に出題することで、学生の理解度の把握に努めている。学生評価アンケート(2年に一度)では、平均以上の評価を得ている。
		2008年9月～2011年3月	学部3年次生(約70名の少人数クラス)に対して、「薬学英语入門II」の講義を行った。既存の薬学英语のテキストや学術論文から抜粋した資料を用い、英文内容の背景ならびに概要の理解に重点をおいた。講義毎に、前回の講義で取り扱った頻出専門用語や注意すべき発音などについて確認テストを実施した。担当期間中に実施された2回の学生評価アンケートにおいて、いずれもベストティーチャー賞を受賞した。
		2000年4月～現在に至る	学部3年次生に対して、生物学系II実習(生化学実習)の実施を担当している。限られた時間の中で、当該分野の必須項目を満たし、自ら考えながら実習を行えるような実習プログラムを組み立てている。実習項目についても、最新の医療や遺伝子操作技術の進展と同調したものにするために、随時改訂している。実習時間の最後に、少人数のグループごとに質疑応答を行い、実習内容と講義や国家試験との関連性を意識させる指導を心がけている。
		2000年4月～現在に至る	学部学生の卒業研究に対する指導を行っている。与えられたテーマに対して、自ら積極的に取り組む姿勢を身につけさせることに重点を置いている。定期的に開催される研究室のセミナーでの文献紹介や研究報告などを通じて、携わっている研究分野に対する深い理解と、プレゼンテーション能力や問題解決力の向上を目標に指導している。

(2) 大学院生への研究指導	2000年4月～現在に至る	生化学講座所属の大学院生に対する研究指導ならびに大学院特論(生化学特論)の講義を担当している。大学院特論では、糖鎖の生理機能の重要性と正常な機能に異常を来たした代謝異常症について発生的視点から講義をしている。大学院生に対しては、研究テーマを理解し、主体的に実験計画と組み立てながら課題解決に取り組めるようになることを目標に指導をしている。また、修了までの間に少なくとも1回の学会発表ができるよう、日々の研究指導にあたっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし。		
4 その他教育活動上特記すべき事項 ベストティーチャー賞受賞	2008年度、2010年度	薬学英語入門II (2008年度および2010年度)
II 研究活動		
氏名	種別	内容
三上 雅久, 北川 裕之	著書	実験医学, 2013, 第31巻 第10号(増刊)『第三の生命鎖研究の最前線 糖鎖の機能と疾患』1520-1525. 「コンドロイチン硫酸による骨格筋分化・再生過程の制御」
Mikami T., Yasunaga D., Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2009, 284(7), 4494-4499. "Contactin-1 Is a Functional Receptor for Neuroregulatory Chondroitin Sulfate-E"
Mizumoto S., Mikami T., Yasunaga D., Kobayashi N., Yamauchi H., Miyake A., Itoh N., Kitagawa H., Sugahara K.	論文	Biochem. J. 2009, 419(2), 387-399. "Chondroitin 4-O-sulfotransferase-1 is required for somitic muscle development and motor axon guidance in zebrafish"

Mikami T., Koyama S., Yabuta Y., Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2012, 287(46), 38531-38542. "Chondroitin sulfate is a crucial determinant for skeletal muscle development/regeneration and improvement of muscular dystrophies"
三上 雅久, 北川 裕之	総説	生化学, 2011, 第83巻 第3号 231-239. 「神経系におけるコンドロイチン硫酸鎖の糖鎖暗号」
Mikami T., Kitagawa H.	総説	Biochim. Biophys. Acta 2013, 1830(10), 4719-4733. "Biosynthesis and function of chondroitin sulfate"
III 学会等および社会における主な活動		
1997年2月～現在に至る	日本薬学会会員	
1996年4月～現在に至る	日本生化学会会員	
2000年4月～現在に至る	日本糖質学会会員	
1998年4月～現在に至る	日本分子生物学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬理学研究室	職名 講師	氏名 八巻 耕也	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概	要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2002.4.1 - 2003.4.1 - 2006.3.31 2006.4.1 - 2009.3.31 2006.4.1 - 2011.3.31 2007.4.1 - 2007.4.1 - 2009.4.1 - 2013.4.1 - 2014.3.31 2014.4.1 -	薬理学実習 (兼担) 情報リテラシー助手 薬理学Ⅱ (兼担) 臨床薬理学特論 (兼担) 薬理学Ⅰ 薬学総合講座 (兼担) C B T 演習 (兼担) 薬学入門 (兼担) 医薬品毒性学 (兼担)	講義においては自作のプリントやプレゼンテーションを作成し、学生の理解が深まるように努力した。また、講義中も適宜、学生に反応を確認したり、問いかけを行うことにより、学生が講義を理解しているかを把握するように努めた。2008年度の薬理学Ⅱ、2012年度の薬理学Ⅰの講義では、授業評価を基にした「ベストティーチャー賞 (学内賞)」を受賞した。
2 作成した教科書、教材、参考書		講義を行うにあたり、自作のプリントやプレゼンテーションを作成し利用した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2005.4.1 - 2006.4.1 - 2007.3.31 2007.4.1 -	高校での出張講義 チューター (成績不良な学生への学習支援) 実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのタスクフォース	高校、大学 (正規の講義以外)、卒後の薬剤師のための教育にも可能なかぎり参画している。

II 研究活動		
氏名	種別	内容
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Biometals 2009, 22, 1031-1040. "Comparison of inhibitory activities of zinc oxide ultrafine and fine particulates on IgE-induced mast cell activation"
Yamaki K., Yoshino S.	論文	J Pharm Pharmacol 2009, 61, 1243-1248. "Inhibition of IgE-induced mast cell activation by ethyl tertiary-butyl ether, a bioethanol-derived fuel oxygenate"
Hutamekalin P., Saito T., Yamaki K., Mizutani N., Brand D.D., Waritani T., Terato K., Yoshino S.	論文	J Immunol Methods 2009, 343, 49-55. "Collagen antibody-induced arthritis in mice: development of a new arthritogenic 5-clone cocktail of monoclonal anti-type II collagen antibodies"
Matsumura M, Nagata M, Nakamura K, Kawai M, Baba T, Yamaki K, Yoshino S.	論文	Immunopharmacol Immunotoxicol. 2010, 32, 56-62. "Adjuvant effect of zinc oxide on Th2 but not Th1 immune responses in mice."
Yoshino S, Sasahara M, Hutamekalin P, Yamaki K, Mizutani N, Kuramoto H.	論文	Br J Pharmacol. 2010, 161, 1351-1360. "Suppression of antibody-mediated arthritis in mice by Fab fragments of the mediating antibodies."
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Environ Toxicol Pharmacol. 2010, 29, 183-9. "Enhancement of FcεRI-mediated degranulation response in the rat basophilic leukemia cell line RBL2H3 by the fluorosurfactants perfluorooctanoic acid and perfluorooctane sulfonate."
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Scand. J. Immunol. 2011, 74, 445-53. "Aspergillus oryzae lectin induces anaphylactoid oedema and mast cell activation through its interaction with fucose of mast cell-bound non-specific IgE."
Yamaki K., Yoshino S.	論文	Allergy. 2012, 67, 114-22. "Tyrosine kinase inhibitor sunitinib relieves systemic and oral antigen-induced anaphylaxes in mice."

Yamaki K., Yoshino S.	論文	Allergy. 2012, 67, 1259-70. "Preventive and therapeutic effects of rapamycin, a mammalian target of rapamycin inhibitor, on food allergy in mice."
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
特になし		

専任教員の教育・研究業績

所属 薬化学研究室	職名 講師	氏名 西村 克己	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2006年4月から	教科書と演習問題を連動させて解説し、理解に役立てるよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2006年4月から	講義内容のレジュメを作成し、適宜配付している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Yamashita M., Kaneko M., Tokuda H., Nishimura K., Kumeda Y., Iida A.		論文	Bioorg. Med. Chem. 2009, 17(17), 6286-6291. "Synthesis and evaluation of bioactive naphthoquinones from the Brazilian medicinal plant, <i>Tabebuia avellanedae</i> "
Yamada K., Yamashita M., Sumiyoshi T., Nishimura K., Tomioka K.		論文	Org. Lett. 2009, 11(7), 1631-1633. "Total Synthesis of (-)-Lycorine and (-)-2-epi-Lycorine by Asymmetric Conjugate Addition Cascade"

Nishimura K., Takenaka Y., Kishi M., Tanahashi T., Yoshida H., Okuda C., Mizushina Y.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(5), 476-480. "Synthesis and DNA Polymerase α and β Inhibitory Activity of Alkyl p-coumarates and Related Compounds"
Mizushina Y., Nishimura K., Takenaka Y., Takeuchi T., Sugawara F., Yoshida H., Tanahashi T.	論文	Int. J. Oncol. 2010, 37, 993-1000. "Inhibitory effects of docosyl p-coumarate on DNA topoisomerase activity and human cancer cell growth"
Sugimoto Y., Furutani S., Nishimura K., Itoh A., Tanahashi T., Nakajima H., Ohshiro H., Sun S., Yamada J.	論文	Eur. J. Pharmacol. 2010, 634, 62-67. "Antidepressant-like effects of neferine in the forced swimming test involve the serotonin1A (5-HT1A) receptor in mice"
Nishimura K., Horii S., Tanahashi T., Sugimoto Y., Yamada J.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2013, 61 (1), 59-68. 23. "Synthesis and Pharmacological Activity of Alkaloids from Embryo of Lotus, Nelumbo nucifera"
III 学会等および社会における主な活動		

灘中
専任教員の教育・研究業績

所属 生化学研究室	職名 講師	氏名 灘中 里美	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 本学薬学部学生への教育	2008年4月-現在に至る	<p>学部学生に分子生物学の講義を行っている。</p> <p>1) 担当している分野の進歩は著しいので、講義担当のコアカリの SBOs を満たすように努めながら、講義に関連する内容における最近の発見や注目されている事項 (新しい遺伝子医薬品の開発例や病因の解明など) についてプリントを作成し、適宜配付している。</p> <p>2) できるかぎり医療に関連する事項を重点的に解説し、高学年で習う臨床系の科目の理解につながる基盤をつくってもらえるように、あるいは病院・薬局実習先で役立つような知識を提供できるように努めている。</p> <p>3) 1回の講義では、なるべくテーマを絞り、1つのテーマに関して単回で終了するように心掛けている</p> <p>4) 講義した内容が薬剤師国家試験にどのように出題されているかを知ってもらうために、過去に出題された国家試験の問題を10~20問選んでプリントで配布して解説を行い、この問題の一部を定期試験に出題している。</p>	
	2007年4月-現在に至る	<p>学部学生に生物学系の実習指導を行っている。</p> <p>1) 実習前の導入講義では、講義で習った基礎知識を復習するとともに、実習内容が医学・薬学の領域で実際に活用されていることが想像できるように努めている。また、コンパクトにまとめて30分以内で説明が終了するように心掛けている。</p> <p>2) 実習時間後に学生個々と教員が実習内容について質疑応答を行い、その日に行った実習を理解できるようにしている。</p>	
	2007年4月-現在に至る	<p>学部学生に卒業研究の指導を行っている。</p> <p>1) 受け身の講義と違い、参加型の実習であるので、学生自身が問題解決していけるようなトレーニングを行えるよう心掛けている。具体的には、学生のレベルに合った課題を与え、実験目的や方法を説明した後は、各自で日常の実験計画を立ててもらい、学生自身の力で課題を解決していくようなスタイルをとっている。学生だけでは目標到達が難しい場合はサポートするが、目標をクリアできない場合においても、答えのない課題に対してアプローチしていくプロセスを経験してもらうように心掛けている。</p>	

		2) 論理的な考え方や表現力が身に付くように、定期的に研究内容を学生にまとめさせ、発表するためのサポートを行っている。 3) 卒業研究I, II で行った研究活動の成果をまとめる卒業論文の作成、および研究成果を発表する際のプレゼンテーションの指導を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年4月-現在に至る 2008年4月-現在に至る	生物学系II実習（生化学実習）テキスト 分子生物学II 補助プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項		1) 平成23～25年度推薦入学者用の演習を行った。
II 研究活動		
氏名	種別	内容
Okada M., Nadanaka S., Shoji N., Tamura J., Kitagawa H.	論文	Biochem. J. 2010, 428, 463-471. "Biosynthesis of heparan sulfate in EXT1-deficient cells."
Nadanaka S, Kinouchi H, Taniguchi-Morita K, Tamura J, Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2011, 286, 4199-208. "Down-regulation of chondroitin 4-O-sulfotransferase-1 by Wnt signaling triggers diffusion of Wnt-3a."
Sato Y, Nadanaka S, Okada T, Okawa K, Mori K.	論文	Cell Struct Funct 2011. 36, 35-47. "Luminal domain of ATF6 alone is sufficient for sensing endoplasmic reticulum stress and subsequent transport to the Golgi apparatus."
Tamura J, Tsutsumishita-Nakai N, Nakao Y, Kawano M, Kato S, Takeda N, Nadanaka S, Kitagawa H.	論文	Bioorg Med Chem Lett. 2012, 22(3), 1371-1374. "Synthesis and interaction with midkine of biotinylated chondroitin sulfate tetrasaccharides."
Nadanaka S, Zhou S, Kagiya S, Shoji N, Sugahara K, Sugihara K, Asano M, Kitagawa H.	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288, 9321-9333. "EXTL2, a member of the EXT family of tumor suppressors, controls glycosaminoglycan biosynthesis in a xylose kinase-dependent manner."
Nadanaka S, Kagiya S, Kitagawa H.	論文	Biochem. J. 2013, 454, 133-145. "Roles of EXTL2, a member of the EXT family of tumour suppressors, in liver injury and regeneration processes."

Ozasa R, Okada T, Nadanaka S, Nagamine T, Zyryanova A, Harding H, Ron D, Mori K.	論文	Cell Struct. Funct. 2013, 38, 183-194. "The Antipsychotic Olanzapine Induces Apoptosis in Insulin-secreting Pancreatic β Cells by Blocking PERK-mediated Translational Attenuation."
Purnomo E, Emoto N, Nugrahaningsih DA, Nakayama K, Yagi K, Heiden S, Nadanaka S, Kitagawa H, Hirata K.	論文	J. Am. Heart Assoc. 2013, 2(5), e000405. "Glycosaminoglycan overproduction in the aorta increases aortic calcification in murine chronic kidney disease."
灘中 里美, 北川 裕之	総説	生化学 2011, 83 (11), 1027-1031. 「硫酸化糖鎖による Wnt シグナルの調節機構」
Nadanaka S., Kitagawa H.	総説	GlycoPOD (GlycoScience Protocol Online Database) http://jcgdb.jp/GlycoPOD/aboutDatabase "Enzyme assay of GAG glycosyltransferases for chondroitin sulfate" "Enzyme assay of GAG glycosyltransferases for heparan sulfate"
Koike, T., Nadanaka S., Kitagawa H.	総説	GlycoPOD (GlycoScience Protocol Online Database) http://jcgdb.jp/GlycoPOD/aboutDatabase "Enzyme assay of xylosyltransferase"
Nadanaka S., Kitagawa H.	総説	Handbook of Glycosyltransferases and Related Genes(eds. Naoyuki Taniguchi, Koichi Honke, Minoru Fukuda, Hisashi Narimatsu, Yoshiki Yamaguchi, Takashi Angata)2nd ed. 2014, ISBN 978-4-431-54239-1 22. Chondroitin polymerizing factor, chondroitin polymerizing factor 2, chondroitin sulfate synthase 1,3 (CHPF, CHPF2, CHSY1, CHSY3) 34. Beta-1,3-glucuronyltransferase 3 (glucuronosyltransferase 1) 37. Exostosin 1,2 (EXT1,2) 45. Exostoses(multiple)-like 1-3 (EXTL1-3)
Nadanaka, S., Kitagawa, H.	招待講演	BMB2012 (Fukuoka, 2012) "Regulation of Wnt-3a signaling and diffusion by sulfated glycosaminoglycans."
灘中 里美	招待講演	第59回 日本薬学会近畿支部総会・大会 支部会奨励賞受賞者講演 "コンドロイチン-4-O-硫酸基転移酵素-1 によるWnt-3a シグナリングの微細調節"

灘中

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
入会している学会	日本分子生物学会 結合組織学会
	日本生化学会
	細胞生物学会
	糖質学会

専任教員の教育・研究業績

所属 放射線管理室	職名 講師	氏名 安岡 由美	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年～現在に至る 2009年～現在に至る 2010年, 2014年 1990年～現在に至る 1991年～現在に至る 1991年～現在に至る 2010年～現在に至る	放射化学：放射線に関する基礎知識 放射線管理学：放射線に関する総合的理解 早期体験学習：問題意識を持ち早期体験学習への積極性の育成 物理化学系実習(放射線実習)：放射性物質の安全取扱い (2012年より見学実習担当) ゼミ生の教育：環境放射能・公衆衛生 放射線業務従事者教育訓練：法令を順守と放射性物質の取り扱い法 実務実習事前教育:放射性医薬品の取り扱いについて	
2 作成した教科書、教材、参考書	2007年～現在に至る 2009年～現在に至る	物理化学系実習(放射線実習) テキスト 放射線管理学 テキスト	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2010年3月	Isotope News 2010, 671. 「神戸市消防局と神戸薬科大学との放射性物質に関する特殊災害連携訓練」	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2007年～2009年 2010年12月 2008年～現在に至る 2011年1月	第2種放射線取扱主任者試験問題解答例作成 UNSCEAR (国連科学委員会報告書) 翻訳 神戸市消防局員への放射線実習と講習 (2008年より連携有) 平成22年度宮崎大学地域貢献推進事業 における講演	

II 研究活動		
氏名	種別	内容
Yasuoka, Y., Kawada, Y., Nagahama, H., Omori, Y., Ishikawa, T., Tokonami, S., Shinogi M.	論文	Phys. Chem. Earth 2009, 34(6-7), 431-434. "Preseismic changes in atmospheric radon concentration and crustal strain."
Omori, Y., Nagahama, H., Kawada, Y., Yasuoka, Y., Ishikawa, T., Tokonami, S., Shinogi M.,	論文	Phys. Chem. Earth 2009, 34(6-7), 435-440. "Preseismic alteration of atmospheric electric conditions due to anomalous radon emanation."
Yasuoka, Y., Ishikawa, T., Tokonami, S., Takahashi, H., Sorimachi, A., Shinogi M.	論文	J. Radioanal. Nucl. Chem. 2009, 279(3), 885-891. "Radon mitigation using an air cleaner."
Yasuoka, Y., Ishikawa, T., Fukuhori, N., Tokonami, S	論文	J. Hot Spring Sci. 2009, 59(1), 11-21. "Comparison of simplified liquid scintillation counter (Triathler) with conventional liquid scintillation counter in the measurement of radon concentration in water."
Hosoda, M., Sorimachi, A., Yasuoka, Y., Ishikawa, T., Sahoo, S. K., Furukawa, M., Hassan, N. M., Tokonami, S., Uchida, S.	論文	J. Radiat. Res. 2009, 50(4), 333-343. "Simultaneous measurements of radon and thoron exhalation rates and comparison with values calculated by UNSCEAR equation."
Ishikawa, T., Yasuoka, Y., Tokonami, S., Takahashi, H., Suda, H.	論文	J. Radioanal. Nucl. Chem. 2009, 279(3), 719-724. "Characterization of airborne radon released by domestic showering and the use of a washing machine"
Hosoda, M., Tokonami, S., Sorimachi, A., Ishikawa, T., Sahoo, S. K., Furukawa, M., Shiroma, Y., Yasuoka, Y., Janik, M., Kavasi, N., Uchida, S., Shimo, M.	論文	Radiation Protection Dosimetry 2010, 141(4), 420-423. "Influence of soil environmental parameters on thoron exhalation rate"
Yasuoka, Y., Sorimachi, A., Ishikawa, T., Hosoda, M., Tokonami, S., Fukuhori, N., Janik, M.	論文	Radiation Protection Dosimetry 2010, 141(4), 412-415. "Separately measuring radon and thoron concentrations exhaled from soil using AlphaGUARD and liquid scintillation counter methods"

Yasuoka, Y., Kawada, Y., Omori, Y., Nagahama, H., Ishikawa, T., Tokonami S., Hosoda, M., Hashimoto, T., Shinogi M.	論文	Applied Geochemistry 2012, 27(4), 825-830. "Anomalous change in atmospheric radon concentration sourced from broad crustal deformation: A case study of the 1995 Kobe earthquake."
Tajika, Y., Yasuoka, Y., Nagahama, H., Suzuki, T., Homma, Y., Ishikawa, T., Tokonami, S., Mukai, T., Janik, M., Sorimachi, A., Hosoda M.,	論文	Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 2013, 295(3), 1709-1714. "Radon concentration of outdoor air: measured by an ionization chamber for radioisotope monitoring system at radioisotope institute".
Mori, Y., Murata, S., Yoshimura, H., Maeda, A., Sawada, Y., Shimura, K., Yamaguchi, T., Tajika, Y., Ishikawa, T., Yasuoka, Y.,	論文	Journal of Hot Spring Sciences 2013, 62, 306-317. "Determination of radon concentration in air using a liquid scintillation counter and an activated charcoal detector".
Tanaka R., Araki, S., Yasuoka, Y., Mukai, T., Ohnuma, S., Ishikawa, T., Fukuhori, N., Sanada, T.	論文	Radioisotopes 2013, 62, 423-438. "A simplified method for improved determination of radon concentration in environmental water samples"
安岡由美, 石川徹夫, 長濱裕幸, 川田祐介, 大森康孝, 床次眞司, 志野木正樹	著書	地震予知研究の最前線 (早川正士編) 日本専門図書出版, 東京, 2012, pp. 410-427. 「地震とラドン濃度異常」
Yasuoka, Y., Ishikawa, T., Omori, Y., Kawada, Y., Nagahama, H., Tokonami, S., Shinogi, M.	著書	Handbook of Radon: Properties, Applications and Health, In: Li, Z. & Feng, C. (eds.), NOVA Sci. Pub., Inc., New York., 2012, pp419-433. "Anomalous atmospheric radon variation before an earthquake: A case study of the 1995 Kobe earthquake, Japan."
安岡由美, 石川徹夫, 長濱裕幸, 川田祐介, 大森康孝, 床次眞司, 志野木正樹	著書	地震予知研究の最前線 (早川正士編) 日本専門図書出版, 東京, 2012, pp. 410-427. 「地震とラドン濃度異常」
Yasuoka, Y., Ishikawa, T., Omori, Y., Kawada, Y., Nagahama, H., Tokonami, S., Shinogi, M.	著書	Handbook of Radon: Properties, Applications and Health, In: Li, Z. & Feng, C. (eds.), NOVA Sci. Pub., Inc., New York., 2012, pp419-433. "Anomalous atmospheric radon variation before an earthquake: A case study of the 1995 Kobe earthquake, Japan."
畠中弘哉, 安岡由美, 武藤潤, 長濱裕幸, 鈴木俊幸, 本間好, 坂下守, 小林由布香, 向高弘	プロシーディング	第14回「環境放射能」研究会プロシーディング, 2013. 高エネルギー研究所, 筑波, 三浦, 木下 (編集) 379-385. 「地震前後の大気中ラドン濃度の異常変動と地殻歪との呼応について」

Nakamura S., Hayashi K., Yasuoka Y., Nagahama H., Muto J., Omori Y., Ishikawa T., Suzuki T., Homma Y., Ihara H., Mukai T.	プロシーディング	2nd G-ever (Asia-Pacific Region Global Earthquake and Volcanic Eruption Risk Management) International Symposium, 2013. Sendai, p165-168. "Sinusoidal model for the annual variation of atmospheric radon concentration in Japan".
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1990年～現在に至る	日本薬学会会員	
1990年～現在に至る	日本アイソトープ協会	
1990年～現在に至る	日本保健物理学会会員	
2001年～現在に至る	日本放射線安全管理学会会員	
2002年11月～現在に至る	放射線医学総合研究所 客員協力研究員	
2006年～現在に至る	日本地球化学会会員	
2006年9月～2010年5月	放射線取扱主任者部会近畿支部委員会 委員	
2007年4月～2011年3月	日本保健物理学会 編集委員	
2008年4月～2010年3月	日本保健物理学会 専門研究会「ラドン標準化専門研究会」	
2009年4月～2011年3月	日本保健物理学会 理事	
2009年～現在に至る	日本温泉科学会	
2009年4月～2011年3月	日本保健物理学会 専門研究会「ラドンの防護規準に関する専門研究会」	
2010年11月～2011年3月31日	平成22年度鉱泉分析法指針改訂検討業務に係る鉱泉分析法指針改訂検討委員	
2011年9月～現在に至る	日本地震学会	
2011年4月～2012年3月	日本放射線安全管理学会 メンタルケア委員会 委員	
2011年9月～2013年3月	日本保健物理学会 専門研究会「暮らしの放射線Q&A対応委員会委員」	
2011年9月11日	神戸市消防局 感謝状	
2011年11月1日	平成23年度主任者部会年次大会ポスター賞	
2011年7月～2013年3月	日本保健物理学会 専門研究会「暮らしの放射線Q&A対応委員会委員」	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬品物理化学研究室	職名 講師	氏名 田中 将史	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2007年～現在 2008年～現在 2008年～2013年 2012年～現在 2014年～現在 2010年、2012年・14年	物理化学系実習 (2年次後期) 薬学英語入門I (3年次前期) 生物物理学 (3年次後期) 薬学入門 (1年次前期、兼担) 物理化学IV (3年次前期) 創薬物理化学特論、物理系基礎創薬学特論 (大学院)
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年 2012年	『薬学生のための生物物理化学入門 (加茂直樹、嶋林三郎 編集)』 (廣川書店) HUMAN READER 生命科学英語 ―life and disease― (編著 児玉典子) (京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2010年、2011年	大学の模擬授業 (甲南女子高校)
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Tanaka M., Tanaka T., Ohta S., Kawakami T., Konno H., Akaji K., Aimoto S., Saito H.		論文	J. Peptide Sci. 2009, 15, 36-42. "Evaluation of Lipid-Binding Properties of the N-Terminal Helical Segments in Human Apolipoprotein A-I Using Fragment Peptides"

Alexander E.T., Tanaka M., Kono M., Saito H., Rader D.J., Phillips M.C.	論文	J. Lipid Res. 2009, 50, 1409-1419. "Structural and Functional Consequences of the Milano Mutation (R173C) in Human Apolipoprotein A-I"
Koyama M., Tanaka M., Dhanasekaran P., Lund-Katz S., Phillips M.C., Saito H.	論文	Biochemistry 2009, 48, 2529-2537. "Interaction between the N- and C-Terminal Domains Modulates the Stability and Lipid Binding of Apolipoprotein A-I"
Tanaka T., Tanaka M., Sugiura M., Kawakami T., Aimoto S., Saito H.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57, 499-503. "Deletion of Single Amino Acid E235 Affects the Structure and Lipid Interaction of Human Apolipoprotein A-I C-Terminal Peptides"
Ohta S., Tanaka M., Sakakura K., Kawakami T., Aimoto S., Saito H.	論文	Chem. Phys. Lipids 2009, 162, 62-68. "Defining Lipid-Binding Regions of Human Serum Amyloid A Using Its Fragment Peptides"
Kono M., Tanaka T., Tanaka M., Vedhachalam C., Chetty P.S., Nguyen D., Dhanasekaran P., Lund-Katz S., Phillips M.C., Saito H.	論文	J. Lipid Res. 2010, 51(4), 809-818. "Disruption of the C-Terminal Helix by Single Amino Acid Deletion Is Directly Responsible for Impaired Cholesterol Efflux Ability of Apolipoprotein A-I Nichinan"
Egashira M., Takase H., Yamamoto I., Tanaka M.*, Saito H.	論文	Arch. Biochem. Biophys. 2011, 511 (1-2): 101-106. "Identification of Regions Responsible for Heparin-Induced Amyloidogenesis of Human Serum Amyloid A Using Its Fragment Peptides"
Takechi Y., Yoshii H., Tanaka M., Kawakami T., Aimoto S., Saito H.	論文	Langmuir 2011, 27 (11): 7099-7107. "Physicochemical Mechanism for the Enhanced Ability of Lipid Membrane Penetration of Polyarginine"
Tanaka M.*, Dhanasekaran P., Nguyen D., Nickel M., Takechi Y., Lund-Katz S., Phillips M.C., Saito H.	論文	Biochim. Biophys. Acta 2011, 1811 (1): 25-30. "Influence of N-Terminal Helix Bundle Stability on the Lipid-Binding Properties of Human Apolipoprotein A-I"
Takechi Y., Tanaka H., Kitayama H., Yoshii H., Tanaka M., Saito H.	論文	Chem. Phys. Lipids 2012, 165 (1): 51-58. "Comparative Study on the Interaction of Cell-Penetrating Polycationic Polymers with Lipid Membranes"

Tanaka M., Takamura Y., Kawakami T., Aimoto S., Saito H., Mukai T.	論文	FEBS Lett. 2013, 587 (5): 510-515. "Effect of Amino Acid Distribution of Amphipathic Helical Peptide Derived from Human Apolipoprotein A-I on Membrane Curvature Sensing"
Miyoshi T., Aoki Y., Uno Y., Araki M., Kamatani T., Fujii D., Fujita Y., Takeda N., Ueda M., Kitagawa H., Emoto N., Mukai T., Tanaka M., Miyata O.	論文	J. Org. Chem. 2013, 78 (22): 11433-11443. "Michael Addition-Aromatization Reaction of Dienylimines Bearing a Leaving Group and Its Application to the Preparation of Thiol-Selective Labeling Reagents Capable of Forming Strong Carbon-Sulfur Bonds"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
	日本薬学会正会員	
	日本生化学会正会員	
	日本膜学会正会員	
	日本ペプチド学会正会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 講師	氏名 辰見 明俊	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 病院・薬局薬剤師業務に関する講義と実習指導	2008年4月～現在に至る	補助プリントの作成や視覚教材の利用により理解を深めるよう工夫している。 また、病院薬剤師としての経験を活かし、教科書では得られない知識の教授に努めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学教育者・薬剤師へのFD活動	2008年11月～現在に至る	タスクフォースとして、薬剤師のためのワークショップin近畿に協力。	
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Tode C., Takeuchi A., Iwakawa S., Tatsumi A., Sugiura M.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57(7), 653-656. "Hydrogen-Deuterium (H-D) Exchange Reaction of Warfarin in D2O Solution"	

辰見

Tatsumi A., Ikegami Y., Morii R., Sugiyama M., Kadobayashi M., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2009, 32(3), 517-519. "Effect of ethanol on S-warfarin and diclofenac metabolism by recombinant human CYP2C9.1"
III 学会等および社会における主な活動		

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 講師	氏名 猪野 彩	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 事前実習教育(4年次生)		2010年4月～現在に至る	4年次生の実務実習事前教育を担当している。5年次生で行われる実務実習に結びつくよう、薬剤師業務に必要な基本的な知識・技能・態度、考え方の習得ができる事を目指している
薬事関係法規・制度(4年次生)		2011年4月～現在に至る	薬事関係法規・制度で、毒物及び劇物取締法、医療保険関係法規を担当している。スライド、プリントを用いて講義をし、法律の条文がわかりやすく学べるように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
III 学会等および社会における主な活動			

専任教員の教育・研究業績

所属 生薬化学研究室	職名 講師	氏名 西山 由美	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	1986年～2008年6月 2010年8月～現在に至る 2011年4月～現在に至る	2年次生の生薬化学実習を担当している。実習開始時の講義ではパワーポイントを使って、実験の目的や実験内容について説明し、実験終了時には、結果について考察するなどのディスカッションを行い理解を深めるようにしている。また、実験中は各実習機を見回り、手技が正しく安全に行われているかチェックし、正しい器具の取り扱いなどを習得してもらうようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2013年8月	生薬学の講義で用いる冊子を作成した。書き込み式なので、生薬について自分でまとめながら、勉強出来るようにしている。余白を使って、教科書に載っていないことなどを書き込み、生薬について自分だけのまとめのノートになるように使ってもらいたいと考えている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Iwasa K., Okada S., Nishiyama Y., Takeuchi S., Moriyasu M., Tode M., Sugiura M., Takeuchi A., Tokuda H., Takeda K., Liu Y.-N., Wu P.-C., Bastow K. F., Akiyama T., Li K.-H.	論文	Heterocycles 2009, 77, 1355-1369. "Geranyl Derivatives of Salisolinol Show increased Biological Activities"	

Iwasa K., Doi Y., Takahashi T., Cui W., Nishiyama Y., Tode C., Moriyasu M., Takeda K., Minami H., Ikezawa N., Sato F.	論文	Phytochemistry 2009, 70, 198-206. "Enantiomeric Separation of Racemic 1-Benzyl-methyltetrahydro-isoquinolines on Chiral Columns and Chiral Purity Determinations of the O-methylated Metabolites in Plant Cell Cultures by HPLC-CD On-line Coupling in Combina
Iwasa K., Cui W., Takahashi T., Nishiyama Y., Kamigauchi M., Koyama J., Takeuchi A., Moriyasu M., Takeda K.	論文	J. Nat. Prod. 2010, 73, 115-122. "Biotransformation of Phenolic Tetrahydroprotoberberines in Plant Cell Cultres Followed by LC-NMR, LC-MS, and LC-CD"
Nishiyama Y., Iwasa K., Okada S., Takeuchi S., Moriyasu M., Kamigauchi M., Koyama J., Takeuchi A., Tokuda H., Kim H.-S., Wataya Y., Takeda K., Liu Y.-N., Wu P.-C., Bastow K. F., Akiyama T., Lee K.-H.	論文	Heterocycles 2010, 81(5), 1193-1229. "GERANYL DERIVATIVES OF ISOQUINOLINE ALKALOIDS SHOW INCREASED BIOLOGICAL ACTIVITIES"
Ichimaru M., Nakatani N., Moriyasu M., Nishiyama Y., Kato A., Mathenge S. G., Juma F. D., ChalMutiso P. B.	論文	J. Nat. Med. 2010, 64, 75-79. "Hydroxyespintanol and Schefflerichalcone: Two New Compounds from Uvaria scheffleri"
Nishiyama Y., Moriyasu M., Ichimaru M., Iwasa K., Kato A., Mathenge S. G., ChalMutiso P. B., Juma F. D.	論文	J. Nat. Med. 2010, 64, 9-15. "Antinociceptive Effects of the Extracts of Xylopa parviflora Bark and Its Alkaloidal Components in Experimental Animals"
Moriyasu M., Nakatani N., Ichimaru M., Nishiyama Y., Kato A., Mathenge S. G., Juma F. D., ChalMutiso P. B.	論文	J. Nat. Med. 2011, 65, 313-21. "Chemical Studies on the Roots of Uvaria welwitschii"
Moriyasu M., Takeuchi S. Ichimaru M., Nakatani N., Nishiyama Y., Kato A., Mathenge S. G., Juma F. D., ChalMutiso P. B.	論文	J. Nat. Med. 2012, 66, 453-8. "Pyrenes and pyrendiones from Uvaria lucida"
III 学会等および社会における主な活動		
1986年17月～現在に至る	日本生薬学会会員	
1986年12月～現在に至る	日本薬学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 中央分析室	職名 講師	氏名 都出 千里	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	1996～2010 2003, 2005, 2006 2010～ 1996～	有機化学系III実習 (旧 機器分析学実習および有機化学系II実習) 学生実習の円滑な進行を促すための準備をおこない、実習講義をおこない実習室で学生の指導に当たる。また、実習内容についての討議を学生と行い理解を深めさせた。 情報リテラシー 講義の円滑な進行のためのサポートを行った。 分析化学III (分担) 担当分野をわかりやすくするためにパワーポイント、補充プリントを用いて講義を行っている。 毎年数名のゼミ生の実験指導を行い、学年末にはプレゼンテーションのためのまとめ方、発表の方法などの指導を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010～2012 2013～	分析化学III(分担) NMRやE S Rの原理を理解しやすくするための補充教材を作成し、簡潔にまとめている。 構造解析学(分担) NMRやE S Rの原理を理解しやすくするための補充教材を作成し、簡潔にまとめている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
都出 千里、沖 和行	翻訳	シーニゲプラッテ高山植物園ガイドブック (Alpengaten Schynige Platte, 2013)	

山野 由美子, 都出 千里, 和田 昭盛	著書	『カロテノイドの科学と最新応用技術』 (シーエムシー出版, 2009) .38-48.
Tode C., Sugiura M.	著書	Food and Nutritional Components in Focus: Vitamin A and Carotenoids (RSC Publishing, 2012) .250-260.
Tode C., Takeuchi A., Iwakawa S., Tatsumi A., Sugiura M.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2009, 57, 653-656. "Hydrogen-Deuterium (H-D) Exchange Reaction of Warfarin in D2O Solution"
Koyama J., Takeuchi A., Tode C., Shimizu M., Morita I., Nobukawa M., Nobukawa M., Kobayashi N.	論文	J. Chromatogr. B 2009, 877, 207-212. "Development of an LC-ESI-MS/MS method for the determination of histamine: Application to the quantitative measurement of histamine degranulation by KU812 cells. "
Iwasa K., Doi Y., Takahashi T., Cui W., Nishiyama Y., Tode C., Moriyasu M., Takeda K., Minami H., Ikezawa N., Sato F.	論文	Phytochemistry 2009, 70, 198-206. "Enantiomeric Separation of Racemic 1-Benzyl-methyltetrahydro-isoquinolines on Chiral Columns and Chiral Purity Determinations of the O-methylated Metabolites in Plant Cell Cultures by HPLC-CD On-line Coupling in Combina
Tode C., Maoka T., Sugiura M.	論文	J. Sep. Sci. 2009, 32, 3659-3663. "Application of LC-NMR to analysis of carotenoids in foods"
Shibata A, Morioka I, Ashi C, Nagasaki S, Tode C, Morikawa S, Miwa A, Enomoto M, Saiki K, Yokoyama N, Takeuchi A, Matsuo M	論文	Clin Chim Acta. 2009, 402(1-2), 124-128. "Identification of N-acetyl Proline-Glycine-Proline (acPGP) in human serum of adults and newborns by liquid chromatography-tandem mass spectrometry."
Kamigauchi M., Maekawa Y., Tode C., In Y., Ishida T.	論文	Helv. Chim. Acta 2010, 93(1), 25-32. "Conformational Studies of (±)-11,12-Didehydro-11-deoxycorynoline and (+)-11,13-Didehydro-11-deoxychelidonine, Hexahydrobenzo[c]phenanthridine- Type Alkaloid Derivatives, by X-Ray Crystal Structure and NMR Analyses"
Tokunaga T., Okamoto M., Tanaka K., Tode C., Sugiura M.	論文	Anal. Chem. 2010, 82, 4293-4297. "Chiral liquid chromatography-circular dichroism NMR for estimating separation conditions of chiralHPLC without authentic samples."

都出

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
1993年12月～	日本薬学会会員
1995年～	日本カロテノイド学会会員
2006年～	日本核磁気共鳴学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属 生命有機化学研究室	職名 講師	氏名 沖津 貴志	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2006年4月～現在に至る	3年次配当の有機化学系Ⅲ実習の指導を行っている。少人数での実習並びにグループディスカッションを行い、またこれまでの講義で学んだことと実習内容をリンクさせることで有機化学の理解度の向上に努めている。
		2009-2010	1年次配当の情報リテラシーの講義において進行度の遅い学生のサポートを行った。
		2011-2012	2年次配当の化学系基礎演習Ⅰの講義を行った。自作の小テストを毎回行い、学生の習熟度に合わせて解説することで理解度の向上に努めた。
		2013年4月～現在に至る	2年次配当の有機化学演習の講義を行っている。これまで受講した講義内容ではあるが、基礎的などころから復習した上で問題を解いてもらい、適宜学生に黒板に答案を書いてもらうことで理解度の確認に繋げ、双方向の講義となるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Fujioka H., Kubo O., Okamoto K., Senami K., Okitsu T., Ohnaka T., Sawama Y., Kita Y.		論文	Heterocycles 2009, 77(2), 1089-1103. "Mild and efficient deprotection of acetal-type protecting groups of hydroxyl functions by triethylsilyl triflate-2,4,6-collidine combination"

Fujioka H., Kubo O., Senami K., Okamoto K., Okitsu T., Kita Y.	論文	Heterocycles 2009, 79(1), 1113-1120. "Organic chemistry using weakly electrophilic salts: the reaction with nitrogen nucleophiles"
Okitsu T., Nakazawa D., Nakagawa K., Okano T. Wada A.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2010, 58(3), 418-422. "Synthesis and biological evaluation of 9Z-retinoic acid analogs having 2-substituted benzo[b]furan"
Okitsu T., Nakazawa D., Kobayashi A., Mizohata M., In Y., Ishida T., Wada A.	論文	Synlett 2010, (2), 203-206. "ipso-Iodocyclization of ethoxyethyl ethers to alkynes at the ortho-position: An efficient synthesis of functionalized spiro compounds"
Okitsu T., Sato K., Wada A.	論文	Org. Lett. 2010, 12(15), 3506-3509. "Reagent-controlled oxidative aromatization in iodocyclization: Switchable access to dihydropyrazoles and pyrazoles"
Wada A., Wang F., Suhara Y., Yamano Y., Okitsu T., Nakagawa K., Okano T.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2010, 18(16), 5795-5806. "Efficient synthesis and biological evaluation of demethyl geranylgeranoic acid derivatives"
Okitsu T.	トピックス	ファルマシア 2010, 46(5), 455-456. "水中での有機亜鉛化合物のカップリング反応"
Okitsu T., Sato K., Iwatsuka K., Sawada N., Nakagawa K., Okano T., Yamada S., Kakuta H., Wada A.	論文	Bioorg. Med. Chem. 2011, 19(9), 2939-2949. "Replacement of the hydrophobic part of 9-cis-retinoic acid with cyclic terpenoid moiety results in RXR-selective agonistic activity"
Okitsu T., Sato K., Potewar T. M., Wada A.	論文	J. Org. Chem. 2011, 76(9), 3438-3449. "Iodocyclization of hydroxylamine derivatives based on the control of oxidative aromatization leading to 2,5-dihydroisoxazoles and isoxazoles"
Okitsu T.	総説	Yakugaku Zasshi. 2011, 131(9), 1323-1327. "Novel iodocyclization method based on the controlling of oxidative aromatization"

Tomonaga Y., Hidaka T., Kawamura I., Nishio T., Ohsawa K., Okitsu T., Wada A., Sudo Y., Kamo N., Ramamoorthy A., Naito A.	論文	Biophys. J. 2011, 101(19), L50-L52. "An active photo-receptor intermediate revealed by in-situ photo-irradiated solid-state NMR spectroscopy"
Okitsu T., Nagase K., Nishio N., Wada A.	論文	Org. Lett. 2012, 14(3), 708-711. "Tandem migration-carboalkoxylation of o-isocyanophenyl acetals leading to benzoxazoles"
Fujioka H., Yahata K., Hamada T., Kubo O., Okitsu T., Sawama Y., Ohnaka T., Maegawa T., Kita Y.	論文	Chem. Asian J. 2012, 7(2), 367-373. "Reaction of acetals with various carbon nucleophiles under non-acidic conditions: C-C bond formation via a pyridinium-type salt"
Suhara Y., Hanada N., Okitsu T., Sakai M., Watanabe M., Nakagawa K., Wada A., Takeda K., Takahashi K., Tokiwa H., Okano T.	論文	J. Med. Chem. 2012, 55(4), 1553-1558. "Structure-activity relationship of novel menaquinone-4 analogues: Modification of the side chain affects their biological activities"
Miyagi R., Terai Y., Aibara M., Sugawara T., Imai, H., Tachida H., Mzighani S. I., Okitsu T., Wada A., Okada N.	論文	Mol. Biol. Evol. 2012, 29(11), 3281-3295. "Correlation between nuptial colors and visual sensitivities tuned by opsins leads to species richness in sympatric Lake Victoria cichlid fishes"
和田 昭盛, 沖津 貴志, 加来田 博貴	特許	特願2012-043411 (2012). 「テルペノイド由来二環性骨格を有するレチノイド化合物」
Okitsu T., Yumitate S., Sato K., In Y. Wada A.	論文	Chem. Eur. J. 2013, 19(16), 4992-4996. "Substituent Effect of Bis(pyridines)iodonium Complexes as Iodinating Reagents: Control of the Iodocyclization-Oxidation Process"
Furutani Y., Okitsu T., Reissig L., Mizuno M., Homma M., Wada A., Mizutani Y., Sudo Y.	論文	J. Phys. Chem. B 2013, 117(13), 3449-3458. "Large Spectral Change due to Amide Modes of a β -Sheet upon the Formation of an Early Photointermediate of Middle Rhodopsin"
Wang S., Shi L., Okitsu T., Wada A., Brown L. S., Ladizhansky V.	論文	Biomol. NMR Assign. 2013, 7(2), 253-265. "Solid-state NMR ^{13}C and ^{15}N resonance assignments of a seven-transmembrane helical protein Anabaena Sensory Rhodopsin"

Wang S., Munro R. A., Shi L., Kawamura I., Okitsu T., Wada A., Kim S.-Y., Jung K.-H., Brown L. S., Ladizhansky V.	論文	Nature Methods 2013, 10(10), 1007-1012. "Solid-state NMR spectroscopy structure determination of a lipid-embedded heptahelical membrane protein"
Hirota Y., Tsugawa N., Nakagawa K., Suhara Y., Tanaka K., Uchino Y., Takeuchi A., Sawada N., Kamao M., Wada A., Okitsu T., Okano T.	論文	J. Biol. Chem. 2013, 288(46), 33071-33080. "Menadione (Vitamin K3) Is a Catabolic Product of Oral Phylloquinone (Vitamin K1) in the Intestine and a Circulating Precursor of Tissue Menaquinone-4 (Vitamin K2) in Rats"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2001年4月～現在に至る	日本薬学会会員	
2006年4月～現在に至る	日本カロテノイド研究会会員	
2007年4月～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2009年4月～現在に至る	日本ビタミン学会会員	
2011年4月～現在に至る	ヨウ素学会会員	
2011年4月～2014年3月	日本薬学会 ファルマシアトピックス専門小委員	

専任教員の教育・研究業績

所属 病態生化学研究室	職名 講師	氏名 藤波 綾	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1995年～現在に至る 2004, 2007～2009年 2011年～現在に至る	臨床検査実習 (旧医療薬学系I実習) 学生実習の円滑な進行を促すための準備を行い、実習中は実習室で指導にあ たっている。また、実験終了時には、結果について考察するなどのディスカッ ションを行い理解を深めるようにしている。 情報リテラシー 講義の円滑な進行のためのサポートを行った。 薬学英语入門II 3年次生に対して、生命科学の分野で必要とされる基礎的な英語の知識を習得 しながら、それまでの専門科目の講義内容をも復習できるように講義を行って いる。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
尾林 博, 藤波 綾, 太田 光熙		著書	『広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版) 3 - その数値をどう読むか - 抗紡錘体関連抗体 』 (日本臨床社, 2010) 68. 670-672.

尾林 博, 藤波 綾, 太田 光熙	著書	『広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版) 3 —その数値をどう読むか—抗GM1およびGQ1bガングリオシド抗体 』 (日本臨床社, 2010) 68. 645-647.
藤本さおり, 今井佐恵子, 香西はな, 西山紋恵, 福村圭史, 高橋陽子, 金子真理子, 高村一成, 藤波綾, 太田光熙, 中埜幸 治, 朴孝憲, 福井道明, 長谷川剛二, 中村直登, 緒方正和, 尾 林博, 梶山静夫	論文	日本病態栄養学会誌 2009, 11(12), 149-155. 「境界型及び軽症2型糖尿 病患者における各種種類摂取後血糖反応曲線」
Hasegawa G, Fukui M, Hosoda H, Asano M, Harusato I, Tanaka M, Shiraishi E, Senmaru T, Sakabe K, Yamasaki M, Kitawaki J, Fujinami A, Ohta M, Obayashi H, Nakamura N.	論文	Eur J Pharmacol 2009, 605(1-3), 164-169. "Telmisartan, an angiotensin II type 1 receptor blocker, prevents the development of diabetes in male Spontaneously Diabetic Torii rats."
Nakano K, Hasegawa G, Fukui M, Yamasaki M, Ishihara K, Takashima T, Kitagawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hara H, Adachi T, Ogata M, Obayashi H, Nakamura N.	論文	Endocr J. 2010, 57(5), 423-430. "Effect of pioglitazone on various parameters of insulin resistance including lipoprotein subclass according to particle size by a gel-permeation high-performance liquid chromatography in newly diagnosed patients with type
出崎美穂子, 藤波 綾, 長谷川浩司, 道下さおり, 向誠 一郎, 奥川 斉, 早川みち子, 石原健造, 太田光熙	論文	医療薬学 2010, 35(10), 755-762. 「2型糖尿病関連薬剤費に関する調査 研究-兵庫県立リハビリテーション中央病院での実態調査」
Ohta K, Kuno S, Inoue S, Ikeda E, Fujinami A, Ohta M.	論文	J Neurol Sci. 2010, 291(1-2), 12-16. "The effect of dopamine agonists: The expression of GDNF, NGF, and BDNF in cultured mouse astrocytes."
Kim SR, Saito J, Imoto S, Komaki T, Nagata Y, Nakajima T, Ando K, Fukuda K, Otono Y, Kim KI, Ohtani A, Sugimoto K, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hotta K, Maenaka Y, Hayashi Y, Kudo M.	論文	Digesion. 2011, 84, 5-9. "Correlation between insulin resistance and outcome of pegylated interferon and ribavirin therapy, hepatic steatosis, hepatic fibrosis in chronic hepatitis C-1b and high viral load."
Kim SR, Saito J, Imoto S, Komaki T, Nagata Y, Kim KI, Sasase N, Kimura N, Sasatani K, Konishi E, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, El-S A, Tanaka Y, Sugano M, Sakashita M, Nakamura A, Tsuchida S, Makino T, Kawada T, Nakajima T, Morikawa T, Muramatsu A, Hotta H, Kudo M.	論文	Digesion. 2011, 84, 10-16. "Double-filtration plasmapheresis plus interferon- β for HCV-1b patients with non-sustained virological response to previous combination therapy."
Fukui M, Tanaka M, Toda H, Asano M, Yamazaki M, Hasegawa G, Imai S, Fujinami A, Ohta M, Nakamura N.	論文	Metabolism. 2012, 61(7), 1021-5. "The serum concentration of allograft inflammatory factor-1 is correlated with metabolic parameters in healthy subjects."

Fukui M, Tanaka M, Asano M, Yamazaki M, Hasegawa G, Imai S, Fujinami A, Ohta M, Obayashi H, Nakamura N.	論文	Diabetes Res Clin Pract. 2012, 97(1),146-50. "Serum allograft inflammatory factor-1 is a novel marker for diabetic nephropathy."
Kim S R, EI-Shamy A, Imoto S, Kim K I, Ide Y, Deng L, Shoji I, Tanaka Y, Hasegawa Y, Ohta M, Hotta H.	論文	J Gastroenterol 2012, 47(10),1143-1151. "Prediction of response to pegylated interferon/ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C genotype 1b and high viral load."
大西克典、藤波 綾、太田光照	論文	FOOD Style 21, 2013, 17, 98-100. "あした薬カルコンがもつTNF- α およびMCP-1抑制作用"
Sugimoto K, Kim SR, EI-Shamy A, Imoto S, Ando K, Kim KI, Tanaka Y, Kim SK, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Takashi H, Hotta H, Hayashi Y, Kudo M.	論文	Dig Dis. 2013, 31: 421-425. "Factors of response to pegylated interferon/ribavirin combination therapy and mechanism of viral clearance."
Kim SR, EI-Shamy A, Imoto S, Kim KI, Sugimoto K, Kim SK, Tanaka Y, Hatae T, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hotta H, Kudo M.	論文	Dig Dis. 2013, 31: 426-433. "Prediction of response to pegylated interferon/ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C genotype 2a and 2b and high viral load."
Sugimoto K, Kim SR, EI-Shamy A, Imoto S, Fujioka H, Kim KI, Tanaka Y, Yano Y, Kim SK, Hasegawa Y, Fujinami A, Ohta M, Hatae T, Hotta H, Hayashi Y, Kudo M.	論文	Dig Dis. 2013, 31: 434-439. "Outcome of double-filtration plasmapheresis plus interferon treatment in nonresponders to pegylated interferon plus ribavirin combination therapy."
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1995年8月～現在に至る	日本臨床化学会会員	
1996年1月～現在に至る	日本薬学会会員	

藤波

2001年1月～現在に至る	日本生化学会会員
2004年4月～現在に至る	日本生薬学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無
薬品物理化学	講師	萩森 政頼	(有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
薬品物理化学Ⅲ		2013年	2年次生の担当分野（物理平衡、溶液の化学）について、理解した上で記憶に残すためにしっかりノートをとれる内容となるよう心掛けるとともに、また適宜演習を行い理解を深めるように工夫して行った。
薬品物理化学Ⅳ		2012年	2年次生の担当分野（物理平衡、溶液の化学）について、理解した上で記憶に残すためにしっかりノートをとれる内容となるよう心掛けて行った。
物理化学実習		2012年～	「旋光度測定によるショ糖加水分解反応の速度定数と活性化エネルギーの決定」と「SDS溶液の表面張力及び伝導度測定」の2項目について、円滑に実習が行えるように準備をし実施した。各班それぞれのデータを一つにまとめて考察することによって、最後まで実習に集中できるように工夫した。
物理系実習		2006年～2011年	薬学部2、3、4年生（長崎国際大学）に対し、分析化学実習、放射線化学実習、製剤学実習を行った。
化学系実習		2006年～2011年	薬学部1年生（長崎国際大学）に対し、有機薬化学実習（アスピリンの合成、アミノアルコールの合成、Diels-Alder反応、機器分析（核磁気共鳴分光法、質量分析法、赤外吸収スペクトル測定法、融点測定、薄層クロマトグラフィ）の実習を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
化学系実習テキスト		2007年～2011年	化学系実習（長崎国際大学）の実習テキストを作成した。
物理化学実習テキスト		2012年～	実習テキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
文部科学省サイエンスパートナーシッププロジェクト		2008年～2010年	長崎県立猶興館高等学校2年生への体験型実験指導を行った。

II 研究活動		
氏名	種別	内容
Hagimori M., Mizuyama N., Shigemitsu Y., Wang B. C., Tominaga Y.	論文	Heterocycles 2009, (78), 555-570. ''Development of fluorescent 2-pyrone derivatives using ketene dithioacetals for organic EL devices''
Hirose M., Hagimori M., Shigemitsu Y., Mizuyama N., Wang B. C., Tominaga Y.	論文	Heterocycles 2009, (78), 899-903. ''One-pot synthesis of 6-substituted amino-2,4-diaminopyrimidine derivatives using ketene dithioacetals with amines and guanidine carbonate''
Yokota K., Hagimori M., Shigemitsu Y., Mizuyama N., Wang B. C., Tominaga Y.	論文	Heterocycles 2009, (78), 1271-1279. ''Synthesis of quinolizino[3,2-a]quinolizine derivatives and their fluorescence''
Shigemitsu Y., Komiya K., Mizuyama N., Hagimori M., Tominaga Y.	論文	Research Letter in Organic Chemistry 2009, (2009), 1-5. ''Synthesis and TD-DFT investigation of new maleimide derivatives bearing pyrrole and indole ring''
Hagimori M., Kamiya S., Yamaguchi Y., Arakawa M.	論文	Pharmacological Research 2009, (60), 320-323. ''Improving frequency of thrombosis by altering blood flow in the carrageenan-induced rat tail thrombosis model''
Hagimori M., Matsui S., Mizuyama N., Yokota K., Nagaoka J., Tominaga Y.	論文	European Journal of Organic Chemistry 2009, (2009), 5847-5853. ''Novel synthesis of 4H-quinolizine derivatives using sulfonyl ketene dithioacetals''
Kamiya S., Hagimori M., Ogasawara M., Arakawa M.	論文	Acta Haematologica 2010, (124), 218-224. ''In vivo evaluation method of the effect of nattokinase on carrageenan-induced tail thrombosis in a rat model''
Tahara Y., Namatsu K., Kamiya N., Hagimori M., Kamiya S., Arakawa M., Goto M.	論文	Chemical Communications 2010, (46), 9200-9202. ''Transcutaneous immunization by a solid-in-oil nanodispersion''

Hagimori M., Mizuyama N., Yamaguchi Y., Saji H., Tominaga Y.	論文	Talanta 2011, (83), 1730-1735. ''A novel small molecule fluorescent sensor for Zn ²⁺ based on Pyridine-Pyridone scaffold''
Hagimori M., Mizuyama N., Yokota K., Morinaga O., Yamaguchi Y., Saji H., Tominaga Y.	論文	Heterocycles 2011, (83), 1983-1988. ''Synthesis of fluorescent Pyrrolo[3,4-b]quinolizine derivatives and evaluation as a protein-labeling probe''
Mukai T, Hagimori M, Arimitsu K, Katoh T, Ukon M, Kajimoto T, Kimura H, Magata Y, Miyoshi E, Taniguchi N, Node M, Saji H.	論文	Bioorganic & Medicinal Chemistry 2011, (19), 4312-4321. ''Synthesis and evaluation of a radioiodinated trisaccharide derivative as a synthetic substrate for a sensitive N-acetylglucosaminyltransferase V radioassay''
Hagimori M., Mizuyama N., Yokota K., Nishimura Y., Suzuta M., Tai C. K., Wang B. C., Wang S. L., Shih T. L., Wu K. D., Huang Z. S., Tseng S. C., Chen C. Y., Lu J. W., Wei H. H, Kawashima K, Kawashima S., Tominaga Y.	論文	Dyes and Pigments 2012, (92), 1069-1074. ''Synthesis of 6-(4-diethylamino)-phenyl-2-oxo-2H-pyran-3-carbonitorile derivatives and their fluorescence in solid state and in solutions''
Yokota K., Hagimori M., Mizuyama N., Nishimura Y., Fujito H., Shigemitsu Y., Tominaga Y.	論文	Beilstein Journal of Organic Chemistry 2012, (8), 266-274. ''Synthesis, solid-state fluorescence properties, and computational analysis of novel 2-aminobenzo[4,5]thieno[3,2-d]pyrimidine 5,5-dioxides''
Hagimori M., Saji H.	総説	Biomedical Research on Trace Elements 2012, 23(4), 221-229, ''イメージングによる生体内微量元素の分析''
Hagimori M., Uto T., Mizuyama N., Temma T., Yamaguchi Y., Tominaga Y., Saji H.	論文	Sensors & Actuators: B. Chemical 2013, 181, 823-828. ''Fluorescence ON/OFF switching Zn ²⁺ sensor based on pyridine-pyridone scaffold''
Shigemitsu Y., Hagimori M., Mizuyama N., Wang B. C., Tominaga Y.	論文	Dyes and Pigments 2013, (99), 940-949. ''Theoretical interpretations of electronic and fluorescence spectra of new 2(1H)-pyridone derivatives in solution and solid state''
Kamiya S., Ogasawara M., Arakawa M., Hagimori M.	論文	Bioscience of Microbiota, Food and Health 2013, (32), 101-105. ''The effect of lactic acid bacteria-fermented soybean milk products on carrageenan-induced tail thrombosis in rats''

萩森 政頼	総説	Yakugaku Zasshi 2013, 23, 221-229. "生体内亜鉛イオンの解析を目的とした蛍光プローブの開発"
萩森 政頼、佐治 英郎	著書	製品中に含まれる(超)微量成分・不純物の同定・定量ノウハウ(技術情報協会、東京、日本)、第一章微量元素の定性、定量分析、第13節 イメージングによる生体内微量元素の分析 -微量元素の体内挙動のin vivo測定法、2014年2月
Hagimori M., Yokota K., Fukuda A., Nishimura Y., Satodani R., Wang B. C., Wei H. H., Wang S. L., Shigemitsu Y., Tominaga Y.	論文	Journal of Heterocyclic Chemistry in press. "Synthesis of indeno[1,2-d]pyrimidin-5-ones and their fluorescence in solid state"
Hagimori M.	その他	ファルマシア 2013, 2, 157. "新たなイメージングプローブの可能性: 蛍光分子のフッ素18標識"
III 学会等および社会における主な活動		
2001年～現在に至る	日本薬学会会員	
2008年～現在に至る	日本薬剤学会会員	
2012年～現在に至る	日本核医学会会員	
2012年～現在に至る	日本分子イメージング学会会員	
2013年～現在に至る	日本DDS学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	情報支援室	職名	講師	氏名	土生 康司	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
		教育実践上の主な業績	年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013. 10～現在	CBT対策委員、実施委員		
			2013. 10～現在	実務実習事前教育委員会委員		
			2014. 4～現在	医薬品情報学 (4年生前期)		
			2014. 4～現在	薬学入門 (1年生前期)		
			2014. 4～現在	情報リテラシー (1年生前期)		
			2014. 6	機能性製剤学 (4年前期、2コマ代講)		
2	作成した教科書、教材、参考書		2010. 3	緩和医療レクチャー—がん患者の症状緩和のために (京都大学がんプロフェッショナル養成プラン緩和医療医コース)		
			2010. 3	感染制御トピックス 感染対策における教育(解説) 薬事(0016-5980)52巻3号 Page387-390		
			2006	第15改正日本薬局方解説書		
			2011	第16改正日本薬局方解説書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2010. 6	がん専門薬剤師研修事業講義研修集中教育講座「緩和医療とがん疼痛治療」		
4	その他教育活動上特記すべき事項					

II 研究活動		
氏名	種別	内容
池見泰明, 尾上雅英, 土生康司, 内堀聡子, 松田裕也, 高橋一栄, 寺田智祐, 荒井俊之, 乾賢一	原著論文	「手術部における薬剤師の常駐体制の整備と経済効果に関する検討」 医療薬学 36(3): 157-162(2010)
細川 実緒, 土生 康司, 矢野 育子, 深津 祥央, 岸本 寛史, 横出 正之, 桂 敏也	原著論文	オキシドロン併用がワルファリン服用がん患者のプロトロンビン時間に及ぼす影響 医療薬学 38(4): 258-264(2012)
III 学会等および社会における主な活動		
2003.4～現在	日本医療薬学会会員	
2013.10～現在	日本医薬品情報学会会員	
2003.4～現在	日本病院薬剤師会会員	
2010.4～現在	日本薬剤師会会員	
2008.7～現在	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定	
2008.10～2013.9	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	
2013.3～2014.3	第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会実行委員	
2007.1～現在	日本医療薬学会認定薬剤師	
2012.4	認定実務実習指導薬剤師	

専任教員の教育・研究業績

所属 機能性分子化学研究室	職名 助教	氏名 前田 秀子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年4月～現在に至る	1年生に「情報リテラシー」(前期)の講義をPower Pointを使用して行った。 ワープロソフトやプレゼンテーションソフトで課題を作成し、ホームページ上に提出した。
		2009年4月～現在に至る	1年生に「基礎化学実習」(後期)を教えた。 毎回、課題の提出をさせ、終了時に実験ノートの提出を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項		2007年10月～2009年1月	神戸大学の非常勤講師として、1年生に化学実験を教えた。
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Maeda H., Matsushita M., Tshako M., Nariai H., and Nakayama H.		論文	Phosphorus. Res. Bull. 2009, 23, 52-56. "Phosphorylation of Polyamidoamine Dendrimers with cyclo-Triphosphate in Aqueous Solution"
Maeda H., Onodera T., Nakayama H.		論文	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. 2010, 68, 201-206. "Inclusion complex of alpha-lipoic acid and modified cyclodextrins"

Kusuhara T., Maeda H., Tsuhako M., Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2010, 24, 22-25. "Phosphorylation of Cytarabine with cyclo-Triphosphate in Aqueous Solution"
Maeda H., Kusuhara T., Tsuhako M., and Nakayama H.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2011, 59(12), 1447-1451. "Phosphorylation of 5'-Deoxy-5-fluorouridine with Inorganic Phosphorylating Agents"
Maeda H., Ippyo K., Odo Y., Namba Y., Noto K., Tsuhako M., and Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2011, 25, 56-60. "Phosphonylation of L-DOPA with Sodium Diphosphonate in Aqueous Solution"
Maeda H., Terashita Y., Matsushima T., Nagai T., Tsuhako M., Nariai H., and Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2012, 27, 6-10. "Phosphonylation of Catechin with Sodium Diphosphonate in Aqueous Solution"
Maeda H., Kita T., Iiduka T., Tsuhako M., Nariai H., and Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2013, 28, 6-9. "Phosphorylation of Citrulline with cyclo-Triphosphate in Aqueous Solution"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2010年10月～現在に至る	日本無機リン化学会学会誌編集委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	医療統計学研究室	職名	講師	氏名	森脇 健介	大学院における研究指導担当 資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
臨床研究分野での教育活動				2008-2010年	神戸大学大学院医学研究科 医療人GP クリニカルリサーチエキスパート特修プログラムのもとでレクチャーやセミナー、研修の企画立案等の教育活動に従事。(統計解析セミナーの実施、事例に基づく臨床研究教育プログラムの開発、教育DVDの開発、米国GCRC研修企画)		
診療情報管理分野での教育活動				2010-2014年	診療情報管理士の資格対策責任者として、通常講義に加え、エクストラの対策講座の企画・実施、Eラーニングシステムの開発・運用、学外実習の取りまとめを行った。(担当科目: 医療情報学、医療統計学、国際疾病分類論、診療情報管理論、診療情報管理論、診療情報管理演習、医療情報演習、医療福祉施設基礎実習)		
医療統計学・医療技術評価分野での教育活動				2014年-	薬剤師に求められるベーシックな統計学の教育(統計学I・II)に加え、CROや製薬企業など臨床開発業界あるいは基礎・臨床研究の分野で活躍できる人材育成を視野に入れたアドバンス教育(医療統計学I・IIB)に従事。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
臨床研究の方法論とマネジメント				2009年10月	3. 臨床研究の実際(統計解析の基礎) 3-1. データマネジメントI (p103-116), 3-2. データマネジメントII (p117-122), 3-3. 基本統計量と仮説検定(p123-140) 統計解析ソフトSTATAの操作方法について解説。データマネジメントや基本的な統計解析の実施方法について解説。		
スタンダード 薬学シリーズ第9巻 薬学と社会(第3版)				2010年9月	第7章薬剤経済SB029代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる(知識・技能)部分を執筆。		
ヘルスケアサイエンスのための医薬経済学用語集 ISPOR BOOK OF TERMS 日本語版				2010年4月	企画・編集: ISPOR用語集翻訳委員会国際医薬経済学・アウトカム研究学会 (ISPOR) により編纂された用語集-原題 "Health Care Cost, Quality, and Outcomes - ISPOR BOOK OF TERMS" の日本語版であり、主に公衆衛生学関連の用語部分の翻訳を担当。		
詳説薬剤経済学-限られる社会資源から最高の医療を-				2011年8月 (初版) 2013年8月 (2版)	第4章4-3, P165-182を執筆。薬学部生を対象とした教科書であり、医療経済評価の分析・シミュレーションの手法について、具体的な事例を用いながら解説した。		

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>Kimura S, Takahashi HE , Yamamoto N, Sakuma M, Aoki K, Tojo T, Ishihara M, Moriwaki K, Endo N</p> <p>Aoki K, Sakuma M, Moriwaki M, Kimura S, Yamamoto N, Kawashima T, Takahashi H.E., Endo N</p>	<p>2012年9月</p> <p>2013年8月</p>	<p>Module-based interprofessional education is useful in learning for prevention of secondary fracture after hip fracture in pre- and post-qualification. FPN Global Congress 2012. 9. 6-8. Berlin, Germany.</p> <p>Workshops for inter-professional collaboration improve the quality of community-based health and social care in preventing secondary fracture after hip fracture.FPN Global Congress 2013. 8. 29-31. Berlin, Germany.</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>II 研究活動</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>駒場大峰, 森脇健介, 鎌江伊三夫, 深川雅史</p>	<p>著書</p>	<p>CKD-MBDハンドブック. 8CKD-MBD診療の医療経済学p161-170 (日本メディカルセンター2009年6月)</p>
<p>森脇健介</p>	<p>著書</p>	<p>(再掲)臨床研究の方法論とマネジメント. 3. 臨床研究の実際(統計解析の基礎) 3-1. データマネジメントI (p103-116), 3-2. データマネジメントII (p117-122), 3-3. 基本統計量と仮説検定 (p123-140) (神戸大学大学院医学研究科CRESP企画運営委員会編集2009年10月)</p>
<p>森脇健介, 鎌江伊三夫</p>	<p>著書</p>	<p>老年医学update2010-11. II. No. 4②骨粗鬆症の医療経済学—骨粗鬆症の疾病負担研究— (メジカルビュー社2010年8月)</p>
<p>森脇健介</p>	<p>著書</p>	<p>(再掲)スタンダード薬学シリーズ第9巻薬学と社会(第3版)第7章薬剤経済SB029代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる (知識・技能) (東京化学同人2010年9月)</p>
<p>森脇健介</p>	<p>著書</p>	<p>(再掲)ヘルスケアサイエンスのための医薬経済学用語集ISPOR BOOK OF TERMS 日本語版 (日本製薬工業協会(製薬協)/医薬出版センター2011年4月) :ISPOR用語集翻訳委員会 “Health Care Cost, Quality, and Outcomes - ISPOR BOOK OF TERMS” 公衆衛生学関連用語の翻訳担当。</p>

森脇健介	著書	(再掲) 詳説薬剤経済学—限られる社会資源から最高の医療を—。第4章4-3, P165-182 (京都廣川書店 2011年8月初版, 2013年8月2版)
森脇健介、鎌江伊三夫	論文	糖尿病治療の費用対効果. THE BONE 23(2):81-84. 2009.
森脇健介、鎌江伊三夫	論文	骨粗鬆症の医療経済学—骨粗鬆症の疾病負担研究—。日本老年医学会雑誌46(4):286-298. 2009.
Komaba H, Moriwaki K, Kamae I, Fukagawa M	論文	Towards cost-effective strategies for treatment of chronic kidney disease-mineral and bone disorder in Japan. Therapeutic Apheresis and Dialysis. 2009;13 Suppl 1; S28-35.
医薬経済学フロンティア研究会 (鎌江伊三夫, 長江俊宏, 青木真, 三ノ宮浩三, 葛西美恵, 小崎昌昭, 西條一, 中原直博, 森富浩, 横山徹志, 松下泰之, 森明日香, 井上彰, 柴原毎久, 津田奈津子, 森脇健介, 小林慎)	論文	ドイツIQWiG医療技術評価ガイドライン—その概要と意義—。社会保険旬報No. 2409 P18-25. 2009.
Nagase H, Moriwaki K, Kamae M, Yanagisawa S, Kamae I	論文	Cost-effectiveness analysis of oseltamivir for influenza treatment considering the virus emerging resistant to the drug in Japan. Value in Health. 2009;12. Suppl 3; S62-65.
Goto S, Komaba H, Moriwaki K, Fujimori A, Shibuya K, Nishioka M, Kim JI, Yoshiya K, Shin J, Hasegawa H, Taniguchi M, Fujii H, Nishi S, Kamae I, Fukagawa M	論文	Clinical efficacy and cost-effectiveness of lanthanum carbonate as second-line therapy in hemodialysis patients in Japan. Clin J Am Soc Nephrol. 2011;6(6):1375-84.
Moriwaki K, Noto S.	論文	Dynamic simulation analysis for optimal sickbed allocation in a hospital. Journal of Niigata Health and Welfare. 2012;11(1):1-11.
Komaba H, Moriwaki K, Goto S, Yamada S, Taniguchi M, Kakuta T, Kamae I, Fukagawa M.	論文	Cost-effectiveness of cinacalcet hydrochloride for hemodialysis patients with severe secondary hyperparathyroidism in Japan. Am J Kidney Dis. 2012;60(2):262-271.
Moriwaki K, Komaba H, Noto S, Yanagisawa S, Takiguchi T, Inoue H, Toujo T, Fukagawa M, Takahashi HE	論文	Cost-effectiveness of alendronate for the treatment of osteopenic postmenopausal women in Japan. Journal of Bone and Mineral Research. 2012; 28(2):395-403.

Matsuzawa T, Takata T, Yokono K, Ueda H, Moriwaki K, Kamae I, Urakami K, Sakurai T	論文	A warning index used in prescreening for Alzheimer' s disease, based on self-reported cognitive deficits and vascular risk Factors for dementia in elderly patients with type 2 diabetes. International Journal of Alzheimer' s Disease. 2012; Article ID 124215, 8 pages.
瀧口徹, 森脇健介, 山本龍生, 本間久文, 東條猛, 福島正巳	論文	関東信越厚生局管内病院の医師事務補助体制の地域集積性 —医療保険「医師事務作業補助体制加算」を指標として—. 新潟医療福祉学会誌 2012; 12(2): 17-27.
福田敬, 白岩健, 池田俊也, 五十嵐中, 赤沢学, 石田博, 能登真一, 齋藤信也, 坂巻弘之, 下妻晃二郎, 田倉智之, 福田治久, 森脇健介, 富田奈穂子, 小林慎	論文	医療経済評価研究における分析手法に関するガイドライン. 保健医療科学 2013 Vol.62 No.6 p.625-640
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
平成17年9月～	臨床経済学会・ISPOR日本部会	
平成18年5月～	International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research	
平成21年7月～	日本老年医学会	
平成22年4月～	日本骨粗鬆症学会	
平成22年4月～	Society for Medical Decision Making	
平成23年5月～	日本公衆衛生学会	
平成24年6月～	日本医療情報学会	

専任教員の教育・研究業績

所属 機能性分子化学研究室	職名 助教	氏名 林 重紀	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2007年9月～現在	「基礎化学実習」では、一つ一つの操作の意味を理解できるよう説明し、学生の安全をサポートする。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Hayashi A., Nakayama H.		論文	Chem. Lett. 2011, 40 (3), 276-278. "Intercalation Reaction of Carbonate MgAl-Layered Double Hydroxide Using Alcohol as Solvent"
Hayashi A., Yoshikawa Y., Ryu N., Nakayama H., Tsuhako M. and Eguchi T.		論文	Phos. Res. Bull. 2008, 22, 48-53. "Intercalation of Biogenic Amines into Layered Zirconium Phosphates"

Hayashi A., Nakayama H., and Tshako M.	論文	Solid State Sciences 2009, 11, 1007-1015. "Intercalation of Melamine into Layered Zirconium Phosphates and Their Adsorption Properties of Formaldehyde in Gas and Solution Phase"
Hayashi A., Nakayama H.	論文	Chem. Lett. 2010, 39 (10), 1060-1062. "Simple Intercalation Reaction of Layered Double Hydroxide with Sodium Valproate under Solid Conditions"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		

専任教員の教育・研究業績

所属 薬剤学研究室	職名 助教	氏名 細川 美香	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
薬学部学生への教育	実習	2009年～現在に至る	神戸薬科大学薬学部4年生に実務実習事前教育 前期(薬剤学関連実習)、実務実習事前教育 後期 (処方せんと調剤・鑑査) の指導を行った。 薬剤学研究室 (卒業研究I, II) に配属された学生に (5, 6年生)、研究の指導を行い、また研究したことをまとめ、発表できるように指導した。
薬学部学生への教育	薬学英語入門	2013年～現在に至る	神戸薬科大学薬学部3年生に薬学英語入門の指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Yumoto R., Hamada S., Okada K., Kato Y., Ikehata M., Nagai J., Takano M.		論文	J. Pharm. Sci. 2009, 98(8), 2822-2831. "Effect of ursodeoxycholic acid treatment on the expression and function of multidrug resistance-associated protein 2 in rat intestine"
Ikehata M., Yumoto R., Kato Y., Nagai J., Takano M.		論文	Biol. Pharm. Bull. 2009, 32(10), 1765-1769. "Mechanism of insulin uptake in rat alveolar type II and type I-like epithelial cells"

Ikehata M., Ueda K., Iwakawa S.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2012, 35(3), 301-307. "Different involvement of DNA methylation and histone deacetylation in the expression of solute-carrier transporters in 4 colon cancer cell lines"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2004年～現在に至る	日本薬学会会員	
2005年～現在に至る	日本医療薬学会会員	
2007年～現在に至る	日本薬剤学会会員	
2008年～現在に至る	日本薬物動態学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 生命分析化学研究室	職名 助教	氏名 大山 浩之	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年4月～現在	担当する分析化学系実習では、講義で学んだ原理・原則などについて実習を通してより理解を深くし、安全かつ円滑に実験を遂行するための手法や技術の指導に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Niwa T., Kobayashi T., Sun P., Goto J., Oyama H., Kobayashi N.		論文	Anal. Chim. Acta 2009, 638(1), 94-100. "An enzyme-linked immunometric assay for cortisol based on idiotype-anti-idiotype reactions "
Kobayashi N., Oyama H., Nakano M., Kanda T., Banzono E., Kato Y., Karibe T., Nishio T., Goto J.		論文	Anal. Biochem. 2009, 387(2), 257-266. "'Cleavable' hapten-biotin conjugates: Preparation and use for the generation of anti-steroid single-domain antibody fragments"
Kobayashi N., Oyama H., Suzuki I., Kato Y., Umemura T., Goto J.		論文	Anal. Chem. 2010, 82(11), 4333-4336. "Oligosaccharide-assisted direct immunosensing of small molecules"

Kobayashi N., Oyama H., Kato Y., Goto J., Söderlind E., Borrebaeck C. A. K.	論文	Anal. Chem. 2010, 82(3), 1027-1038. "Two-step in vitro antibody affinity maturation enables estradiol-17 β assays with more than 10-fold higher sensitivity"
Kobayashi N., Banzono E., Shimoda Y., Oyama H., Kunihiro T., Morita I., Ohta M.	論文	Anal. Methods 2011, 3(9), 1995-2002. "A monoclonal antibody-based enzyme-linked immunosorbent assay for human urinary cotinine to monitor tobacco smoke exposure"
Kobayashi N., Odaka K., Uehara T., Imanaka-Yoshida K., Kato Y., Oyama H., Tadokoro H., Akizawa H., Tanada S., Hiroe M., Fukumura T., Komuro I., Arano Y., Yoshida T., Irie T.	論文	Anal. Chem. 2011, 83(23), 9123-9130. "Toward in vivo imaging of heart disease using a radiolabeled single-chain Fv fragment targeting Tenascin-C"
Kobayashi N. and Oyama H.	論文	Analyst 2011, 136(4), 642-651. "Antibody engineering toward high-sensitivity high-throughput immunosensing of small molecules"
大山浩之	トピックス	ファルマシア 2011, 47(10), 942-943. "体外イメージングを指向したRFPレッドシフト変異体の効率的創製"
Oyama H., Yamaguchi S., Nakata S., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2013, 85(10), 4930-4937. " "Breeding" diagnostic antibodies for higher assay performance: a 250-fold affinity-matured antibody mutant targeting a small biomarker"
Oyama H., Tanaka E., Kawanaka T., Morita I., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. 2013, 85(23), 11553-11559. "Anti-idiotypic scFv-enzyme fusion proteins: A clonable analyte-mimicking probe for standardized immunoassays targeting small biomarkers"
III 学会等および社会における主な活動		
2004年4月～現在	日本薬学会会員	
2006年4月～現在	日本分析化学会会員	
2009年4月～現在	日本臨床化学会会員	
2013年4月～現在	生物化学測定研究会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 微生物化学研究室	職名 助教	氏名 増田 有紀	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年10月～現在	3年次後期の生物学系実習Ⅲでは、学生の理解度を向上させるため、少人数でのディスカッションを実施している。また、操作 (特に無菌操作) の一つ一つの意味について理解を深めるために、実習開始時に説明に加えてデモンストレーションを行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Masuda Y., Matsumoto A., Toida T., Oikawa T., Ito K., Nanba H.		論文	J. Agric. Food Chem. 2009, 57 (21), 10143-10149. "Characterization and antitumor effect of a novel polysaccharide from Grifola frondosa."
Masuda Y., Inoue M., Miyata A., Mizuno S., Nanba H.		論文	Int. Immunopharmacol. 2009, 9(5), 620-626. "Maitake β -glucan enhances therapeutic effect and reduces myelosuppression and nephrotoxicity of Cisplatin in mice."

Ito K., Masuda Y., Yamasaki Y., Yokota Y., Nanba H.	論文	Int. Immunopharmacol. 2009, 9(10), 1189-1196. "Maitake beta-glucan enhances granulopoiesis and mobilization of granulocytes by increasing G-CSF production and modulating CXCR4/SDF-1 expression."
Masuda Y., Ito K., Konishi M., Nanba H.	論文	Cancer Immunol. Immunother. 2010, 59, 1531-1541. "A polysaccharide extracted from Grifola frondosa enhances the anti-tumor activity of bone marrow-derived dendritic cell-based immunotherapy against murine colon cancer."
Masuda Y., Togo T., Mizuno S., Konishi M., Nanba H.	論文	J. Leukoc. Biol. 2012, 91, 547-556 "Soluble β -glucan from Grifola frondosa induces proliferation and Dectin-1/Syk signaling in resident macrophages via the GM-CSF autocrine pathway."
Masuda Y., Inoue H., Ohta H., Miyake A., Konishi M., Nanba H.,	論文	Int. J. Cancer 2013, 133, 108-119 "Oral administration of soluble β -glucans extracted from Grifola frondosa induces systemic antitumor immune response and decreases immunosuppression in tumor-bearing mice."
III 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在に至る	日本薬学会会員	
2009年～現在に至る	日本免疫学会会員	
2010年～現在に至る	日本分子生物学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学臨床教育センター	職名 助教	氏名 河内 正二	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2009年4月～現在	4年次生の実務実習事前教育を担当している。5年次生に行われる実務実習に向け、医療現場で必要となる知識と技能の習得を目標に実習を行っている。具体的には、医療現場で活躍している薬剤師および模擬患者にも参加してもらい、学生が臨床現場を意識できる環境づくりに配慮している。
		2012年4月～現在	6年次生の「処方解析学」および「処方解析学演習」を担当している。疾患の病態および治療法に関して、臨床現場での経験を活かして最新の情報を提供することを心がけている。講義に使用する資料は、図表や写真画像および動画を多く取り入れ、学生が理解し、知識が定着するよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Ishida T, Nishiumi S, Tanahashi T, Yamasaki A, Yamazaki A, Akashi T, Miki I, Kondo Y, Inoue J, Kawauchi S, Azuma T, Yoshida M, Mizuno S.		論文	Linoleoyl ethanolamide reduces lipopolysaccharide-induced inflammation in macrophages and ameliorates 2,4-dinitrofluorobenzene-induced contact dermatitis in mice. Eur J Pharmacol. 2013 Jan 15;699(1-3):6-13.
Ishida T, Miki I, Tanahashi T, Yagi S, Kondo Y, Inoue J, Kawauchi S, Nishiumi S, Yoshida M, Maeda H, Tode C, Takeuchi A, Nakayama H, Azuma T, Mizuno S.		論文	Effect of 18 β -glycyrrhetic acid and hydroxypropyl γ cyclodextrin complex on indomethacin-induced small intestinal injury in mice. Eur J Pharmacol. 2013 Aug 15;714(1-3):125-31.

河内

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2005年4月～現在	日本病院薬剤師会
2005年4月～現在	日本医療薬学会
2009年4月～現在	日本薬学会
2010年4月～現在	日本薬剤師会

専任教員の教育・研究業績

所属 医療薬学研究室	職名 助教	氏名 堀部 紗世	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
4年生に対する実務事前実習		2013年10月1日～	本学4次生を対象に、事前実務実習を指導している。疑義照会では、現場で働いている先生方とロールプレイおよびグループディスカッションを行い、実際に疑義照会する時の注意点や配慮および薬剤師としての倫理について指導している。
卒業研究		2013年10月1日～	本学5年生および6年生を対象に、卒業研究を指導している。卒業研究を通して、問題を提議しその問題を自己解決する力を養いように指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
特になし			
II 研究活動			
氏名		種別	内容
Horibe S, Takara K, Minegaki T, Ohnishi N, Yokoyama T		論文	EXCLI Journal (2009), Vol. 8, pp.12-19 "Distribution of ABCG2 (BCRP) and ABCC2 (MRP2) mRNAs in rat small intestine and liver"
Takara K, Kitada N, Yoshikawa E, Yamamoto K, Horibe S, Sakaeda T, Nishiguchi K, Ohnishi N, Yokoyama T.		論文	Cancer Letters (2009), Vol. 278, p88-96 "Molecular changes to HeLa cells on continuous exposure to SN-38, an active metabolite of irinotecan hydrochloride"

Horibe S, Nagai J, Yumoto R, Tawa R, Takano M.	論文	Journal of Pharmaceutical Sciences (2011), Vol. 100, p3010-3017 "Accumulation and Photodynamic Activity of Chlorin e6 in Cisplatin-Resistant Human Lung Cancer Cells"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2000年4月～現在に至る	日本薬学会会員	
2001年1月～現在に至る	医療薬学会会員	
2008年1月～現在に至る	癌学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	薬学臨床教育センター	職名	助教	氏名	竹下 治範	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年4月から		『処方解析学』の講義において、学生が関節リウマチ、その他の免疫疾患の理解をしやすいように臨床的な写真及び動画をたくさん取り入れる工夫を行った。 『実務実習事前教育』においては、5年次に行われる長期実務実習 (病院・薬局) にスムーズに取り組めるよう、臨床現場で求められる知識・技能・態度の指導を行い特に挨拶や身だしなみ教育についても力をいれている。		
2	作成した教科書、教材、参考書 『グラフィックガイド 薬剤師の技能 -理論まるごと実践へ-』 (京都廣川書店, 2009) 『コンパス 調剤学』 (南江堂, 2010) 実務実習事前学習テキスト (兵庫医療大学, 2010)	2009年8月30日 2010年3月31日 2010.3月		薬剤師技能をいくつかのステップに分け、詳細な写真やイラストを用い、視覚で一目瞭然に理解できるよう工夫した内容である。OSCEの対策に期待できる内容である。 新しい6年制薬学教育に伴い実務実習を意識した実践的に役立つ情報をまとめ、薬剤師の主業務『調剤』を基本から解説している。学生の理解度を向上させるため計算問題・演習問題も充実させた内容である。		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4	その他教育活動上特記すべき事項					

II 研究活動		
氏名	種別	内容
荒川行生, 飯原なおみ, 石渡俊二, 小川雅史, 恩田光子, 北小路 学, 木村 健, 小竹 武, 杉山正敏, 高田充隆, 竹下治範, 中妻 章, 二宮昌樹, 八野芳巳, 廣谷芳彦	著書	グラフィックガイド 薬剤師の技能 -理論まるごと実践へ-, 京都廣川書店, 2009.
八野芳巳, 牧野和隆, 難波弘行, 中村和男, 竹下治範, 大澤友二, 柘淵泰宏, 今給黎 修, 谷口律子, 加地弘明	著書	コンパス 調剤学, 南江堂, 2010.
Tsunemi S., Iwasaki T., Miyazawa K., Kitano S., Kanda C., Takeshita H., Sekiguchi S., Kitano M. and Sano H.	論文	Therapy of autoimmue disease by novel immunosuppressant FTY720, Inflammation and Regeneration, 31,307-315, 2011.
Takeshita H., Kitano M., Iwasaki T., Kitano S., Tsunemi S., Sato C., Sekiguchi M., Azuma N., Miyazawa K., Timothy H1a and Sano H.	論文	Shpingoshine 1-phosphate(S1P)/S1P receptor 1 signaling regulates receptor activator of NF- κ B ligand(RANKL)expression in rheumatoid arthritis, Biochem Biophys Res Commun, 33, 4981-4988, 2012.
III 学会等および社会における主な活動		
2001年から現在	日本薬学会会員	
2003年から現在	日本病院薬剤師会会員	
2005年から現在	日本医療薬学会会員	
2007年から現在	日本薬剤師会会員	
2007年から現在	日本リウマチ学会会員	
2008年から現在	日本薬剤師研修センター認定薬剤師 第08-30718号	
2008年から現在	日本薬剤師研修センター認定 実務実習指導薬剤師 実習指導08102621号	
2008年から現在	日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定 第6504号	
2009年から現在	日本医療薬学会認定薬剤師 第09-0035号	

武田

専任教員の教育・研究業績

所属 薬品化学研究室	職名 助教	氏名 武田 紀彦	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
氏名	種別	内容	
Miyata O., Takeda N., Naito T.	総説	Heterocycles, 2009, 78, 843-871. "Efficient Synthesis of Indoles and Benzo[b]furans via [3,3]-Sigmatropic Rearrangement of N-Trifluoroacetyl Enehydrazines and Enehydroxylamines"	

Takeda N., Ueda M., Kagehira S., Komei H., Tohnai N., Miyata M., Naito T., Miyata O.	論文	Org. Lett., 2013, 15, 4382-4385. "Synthesis of Dihydrobenzofurans with Quaternary Carbon Center under Mild and Neutral Conditions"
Miyoshi T., Aoki Y., Uno Y., Araki M., Kamatani T., Fujii D., Fujita Y., Takeda N., Ueda M., Kitagawa H., Emoto N., Mukai T., Tanaka M., Miyata O.	論文	J. Org. Chem., 2013, 78, 11433-11443. "Michael Addition-Aromatization Reaction of Dienylimines Bearing a Leaving Group and Its Application to the Preparation of Thiol-Selective Labeling Reagents Capable of Forming Strong Carbon-Sulfur Bonds"
Takeda N., Ueda M., Kajisa S., Matsuno K., Naito T., Miyata O.	論文	Heterocycles, 2014, 89, 143-169. "Preparation of Cyclic β -Amino Acid Derivatives with Quaternary Carbon Center via a Radical Addition-Cyclization Sequence"
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在に至る	日本薬学会会員	
2010年～現在に至る	有機合成化学協会会員	